

## 基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	学部/学科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウリツメイカン 学校法人 立命館								
フリガナ大学の名称	リツメイカンダイク 立命館大学 (Ritsumeikan University)								
大学本部の位置	京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町8番地								
大学の目的	立命館大学は、建学の精神と教学理念にもとづき、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努め、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	薬学部は、医薬品等を通じて人の生命や健康にかかわるという使命感や倫理観を持ち、人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材を育成する。特に創薬科学科では、創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	薬学部 (College of Pharmaceutical Sciences) 創薬科学科 (Department of Pharmaceutical Sciences) 計	4年	60人	0年次人	240人	学士(薬科学)	平成27年4月 第1年次	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	立命館大学大学院経営管理研究科経営管理専攻〔定員減〕 (△20) (平成26年5月届出済)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	創薬科学科	講義	演習	実験・実習	計	128単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	薬学部 創薬科学科	教授 4人 (4)	准教授 3人 (3)	講師 0人 (0)	助教 3人 (3)	計 10人 (10)	助手 0人 (0)	1人 (12)
		計	4人 (4)	3人 (3)	0人 (0)	3人 (3)	10人 (10)	0人 (0)	1人 (12)
	既設分	法学部 法学科	50人 (50)	12人 (12)	0人 (0)	0人 (0)	62人 (62)	0人 (0)	128人 (128)
		経済学部 経済学科	36人 (36)	10人 (10)	0人 (0)	0人 (0)	46人 (46)	0人 (0)	105人 (105)
		経済学部 国際経済学科	18人 (18)	4人 (4)	0人 (0)	0人 (0)	22人 (22)	0人 (0)	42人 (42)
		経営学部 経営学科	36人 (36)	12人 (12)	2人 (2)	0人 (0)	50人 (50)	0人 (0)	121人 (121)
		経営学部 国際経営学科	10人 (10)	4人 (4)	0人 (0)	4人 (4)	18人 (18)	0人 (0)	32人 (32)
		産業社会学部 現代社会学科	77人 (77)	24人 (24)	0人 (0)	2人 (2)	103人 (103)	0人 (0)	247人 (247)
		文学部 人文学科	94人 (94)	38人 (38)	2人 (2)	9人 (9)	143人 (143)	1人 (1)	382人 (382)
		理工学部 電気電子工学科	22人 (22)	7人 (7)	1人 (1)	2人 (2)	32人 (32)	0人 (0)	36人 (36)
		理工学部 機械工学科	19人 (19)	4人 (4)	0人 (0)	3人 (3)	26人 (26)	0人 (0)	40人 (40)
		理工学部 都市システム工学科	8人 (8)	3人 (3)	2人 (2)	4人 (4)	17人 (17)	1人 (1)	26人 (26)
要分	理工学部 環境システム工学科	10人 (10)	2人 (2)	3人 (3)	2人 (2)	17人 (17)	0人 (0)	20人 (20)	
	理工学部 ロボティクス学科	7人 (7)	4人 (4)	1人 (1)	5人 (5)	17人 (17)	0人 (0)	25人 (25)	

教 員 組 織 の 概 要	既	理工学部 数理科学科	12 (12)	3 (3)	0 (0)	6 (6)	21 (21)	1 (1)	24 (24)
		理工学部 物理科学科	15 (15)	3 (3)	3 (3)	7 (7)	28 (28)	0 (0)	22 (22)
		理工学部 電子情報工学科	12 (12)	1 (1)	3 (3)	3 (3)	19 (19)	0 (0)	18 (18)
		理工学部 建築都市デザイン学科	5 (5)	4 (4)	2 (2)	2 (2)	13 (13)	1 (1)	22 (22)
		国際関係学部 国際関係学科	39 (39)	23 (23)	1 (1)	0 (0)	63 (63)	0 (0)	103 (103)
		政策科学部 政策科学科	33 (33)	11 (11)	1 (1)	4 (4)	49 (49)	0 (0)	92 (92)
		情報理工学部 情報システム学科	13 (13)	4 (4)	2 (2)	5 (5)	24 (24)	2 (2)	9 (9)
		情報理工学部 情報コミュニケーション学 科	12 (12)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	22 (22)	1 (1)	9 (9)
		情報理工学部 メディア情報学科	13 (13)	3 (3)	1 (1)	7 (7)	24 (24)	0 (0)	10 (10)
		情報理工学部 知能情報学科	12 (12)	2 (2)	0 (0)	6 (6)	20 (20)	0 (0)	10 (10)
		映像学部 映像学科	14 (14)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	32 (32)
		薬学部 薬学科	22 (22)	5 (5)	11 (11)	12 (12)	50 (50)	0 (0)	28 (28)
		生命科学部 応用化学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	14 (14)
		生命科学部 生物工学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	5 (5)	17 (17)	0 (0)	13 (13)
		生命科学部 生命情報学科	6 (6)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	12 (12)	0 (0)	11 (11)
		生命科学部 生命医科学科	6 (6)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	10 (10)	0 (0)	10 (10)
		スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科	15 (15)	8 (8)	1 (1)	5 (5)	29 (29)	1 (1)	34 (34)
		教職教育推進機構	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
		共通教育推進機構	3 (3)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	0 (0)
		教育開発推進機構	9 (9)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
		言語教育推進機構	0 (0)	0 (0)	79 (79)	0 (0)	79 (79)	0 (0)	0 (0)
		国際教育推進機構	1 (1)	5 (5)	9 (9)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		衣笠総合研究機構	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
		BKC社系研究機構	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		総合科学技術研究機構	4 (4)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
		立命館グローバル・イノベーション研究機 構	5 (5)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	11 (11)	0 (0)	0 (0)
		保健センター	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
分	計	665 (665)	229 (229)	144 (144)	109 (109)	1,147 (1,147)	8 (8)	1,665 (1,665)	
要	合 計	669 (669)	232 (232)	144 (144)	112 (112)	1,157 (1,157)	8 (8)	1,666 (1,677)	
教員以外の 職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員	590 (590) 人		360 (360) 人		950 (950) 人			
	技 術 職 員	1 (1)		2 (2)		3 (3)			
	図 書 館 専 門 職 員	5 (5)		9 (9)		14 (14)			
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		154 (154)		154 (154)			
	計	596 (596)		525 (525)		1121 (1121)			

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	820,593.14㎡	0㎡	0㎡	820,593.14㎡					
	運 動 場 用 地	84,238.74㎡	0㎡	0㎡	84,238.74㎡					
	小 計	904,831.88㎡	0㎡	0㎡	904,831.88㎡					
	そ の 他	476,719.26㎡	0㎡	0㎡	476,719.26㎡					
	合 計	1,381,551.14㎡	0㎡	0㎡	1,381,551.14㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		402,184.48㎡ (402,184.48㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	402,184.48㎡ (402,184.48㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	95室	411室	688室	32室 (補助職員30人)	29室 (補助職員48人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		薬学部 創薬科学科			8 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	薬学部創薬科学科	19,467 [2,894] (19,467 [2,894])	6,281 [6,136] (6,281 [6,136])	6,148 [6,026] (6,148 [6,026])	497 (497)	( )	( )			
	計	19,467 [2,894] (19,467 [2,894])	6,281 [6,136] (6,281 [6,136])	6,148 [6,026] (6,148 [6,026])	497 (497)	( )	( )			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		29,616㎡	4,220席		3,186,194冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		15,120.14㎡	終 野 室 内 練 習 場							
経 費 の 積 立 及 び 支 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等は理工学研究所の経費を記載している。 図書購入費には、電子ジャーナル、データベース等を含む。
		教員1人当り研究費等		3,410千円	3,422千円	3,423千円	3,436千円			
		共同研究費等		24,767千円	24,891千円	25,015千円	25,140千円			
		図書購入費	0	1,644千円	3,282千円	4,905千円	6,521千円			
		設備購入費	0	2,574千円	5,161千円	7,721千円	10,280千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,890千円	1,750千円	1,750千円	1,750千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、寄付金収入及び補助金収入等により維持する。							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称 立命館大学									
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地	
	法学部	年	人	年次人	人		倍			
	法学科	4	790	—	3,160	学士 (法学)	1.10	昭和23年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
	経済学部									
	経済学科	4	535	—	2,140	学士 (経済学)	1.07	昭和23年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
	国際経済学科	4	200	—	800	学士 (経済学)	1.05	平成18年度		
	経営学部									
	経営学科	4	610	—	2,440	学士 (経営学)	1.07	昭和37年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
	国際経営学科	4	150	—	600	学士 (経営学)	1.06	平成18年度		
産業社会学部										
現代社会学科	4	900	—	3,600	学士 (社会学)	1.08	平成19年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1		
産業社会学科	4	—	—	—	学士 (社会学)	—	昭和40年度			
人間福祉学科	4	—	—	—	学士 (社会学)	—	平成13年度	平成19年度より学生募集停止(産業社会学部産業社会学科) 平成19年度より学生募集停止(産業社会学部人間福祉学科)		

既設大学等の状況	文学部																		平成24年度より入学定員3人増、3年次編入学定員6人減（文学部人文学科）
	人文学科	4	1,105	—	4,417	学士（文学）	1.06	平成16年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1										
	理工学部						1.09												平成24年度より入学定員48人増 平成26年度より3年次編入学定員10人増（理工学部電気電子工学科）
	電気電子工学科	4	142	3年次12	534	学士（工学）	1.06	昭和24年度											平成24年度より入学定員61人増 平成26年度より3年次編入学定員8人増（理工学部機械工学科）
	機械工学科	4	160	3年次10	591	学士（工学）	1.07	昭和24年度											平成24年度より学生募集停止（理工学部電子光情報工学科）
	都市システム工学科	4	84	3年次2	340	学士（工学）	1.16	平成16年度											
	環境システム工学科	4	69	3年次2	280	学士（工学）	1.12	平成6年度											
	電子光情報工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成8年度											
	ロボティクス学科	4	83	3年次6	336	学士（工学）	1.09	平成8年度											平成24年度より入学定員4人増 平成26年度より3年次編入学定員4人増（理工学部ロボティクス工学科）
	数理科学科	4	90	—	360	学士（理学）	1.04	平成12年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号										
	物理科学科	4	80	—	320	学士（理学）	1.02	平成12年度											
	電子情報デザイン学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成16年度											平成24年度より学科名称変更（電子情報デザイン学科→電子情報工学科）
	電子情報工学科	4	94	3年次8	290	学士（工学）	1.07	平成16年度											平成24年度より入学定員20人増 平成26年度より3年次編入学定員8人増（電子情報工学科）
	マイクロ機械システム工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成16年度											平成24年度より学生募集停止（理工学部マイクロ機械システム工学科）
	建築都市デザイン学科	4	70	3年次16	312	学士（工学）	1.18	平成16年度											平成24年度より3年次編入学定員16人増（理工学部建築都市デザイン学科）
	応用化学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	昭和24年度											平成20年度より学生募集停止（理工学部応用化学科）
	化学生物工学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成6年度											平成20年度より学生募集停止（理工学部化学生物工学科）

既設大学等の状況	国際関係学部											平成25年度より入学定員3人増、3年次編入学定員6人減（国際関係学部国際関係学科）
	国際関係学科	4	305	—	1,214	学士（国際関係学）	1.07	昭和63年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1			
	政策科学部											
	政策科学科	4	360	—	1,440	学士（政策科学）	1.06	平成6年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1			
	情報理工学部											情報理工学部は2回生時に学科を決定することから、入学時は学部単位の設定であるため、学科ごとの定員超過率は学部定員超過率を記載
	情報システム学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.06	平成16年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成20年度より学生募集停止（情報理工学部生命情報学科）		
	情報コミュニケーション学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.06	平成16年度				
	メディア情報学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.06	平成16年度				
	知能情報学科	4	110	—	440	学士（工学）	1.06	平成16年度				
	生命情報学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成16年度				
	映像学部											
	映像学科	4	150	—	600	学士（映像学）	1.07	平成19年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1			
	薬学部											
	薬学科	6	100	—	600	学士（薬学）	1.09	平成20年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号			
	生命科学部											
	応用化学科	4	80	—	320	学士（理学） 学士（工学）	1.10 1.14	平成20年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号			
	生物工学科	4	80	—	320	学士（工学）	1.05	平成20年度				
	生命情報学科	4	60	—	240	学士（理学） 学士（工学）	1.13	平成20年度				
	生命医科学科	4	60	—	240	学士（理学）	1.08	平成20年度				
	スポーツ健康科学部											
スポーツ健康科学科	4	220	—	880	学士（スポーツ健康科学）	1.04	平成22年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号				
法学研究科												
法学専攻												
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士（法学）	0.42	昭和25年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1				
博士課程後期課程	3	10	—	30	博士（法学）	0.20	昭和28年度					
経済学研究科												
経済学専攻												
博士課程前期課程	2	50	—	100	修士（経済学）	0.46	昭和25年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号				
博士課程後期課程	3	5	—	15	博士（経済学）	0.33	昭和39年度					
経営学研究科												
企業経営専攻												
博士課程前期課程	2	60	—	120	修士（経営学）	0.38	昭和41年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号				
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士（経営学）	0.15	昭和41年度					

既設大学等の状況	社会学研究科											
	応用社会学専攻											
	博士課程前期課程	2	60	—	120	修士 (社会学)	0.34	昭和 47年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1			
	博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (社会学)	0.82	昭和 49年度				
	文学研究科											
	人文学専攻											
	博士課程前期課程	2	70	—	175	修士 (文学)	0.46	平成 18年度	京都府京都市北区等 持院北町56番地の1	平成26年度より入学 定員35人減(文学研究 科人文学専攻博士 課程前期課程)		
	博士課程後期課程	3	20	—	90	博士 (文学)	0.41	平成 18年度		平成26年度より入学 定員15人減(文学研究 科人文学専攻博士 課程後期課程)		
	行動文化情報学専攻											
	博士課程前期課程	2	35	—	35	修士 (文学)	0.62	平成 26年度		平成26年度より専攻 の設置(文学研究科 行動文化情報学専攻 博士課程前期課程お よび後期課程)		
	博士課程後期課程	3	15	—	15	博士 (文学)	0.46	平成 26年度				
	理工学研究科											
	基礎理工学専攻											
	博士課程前期課程	2	50	—	100	修士(理学) 修士(工学)	0.55	平成 18年度	滋賀県草津市野路東 1丁目1番1号	平成24年度より専攻 の設置(理工学研究 科基礎理工学専攻博 士課程後期課程)		
	博士課程後期課程	3	6	—	18	博士(理学) 博士(工学)	0.55	平成 24年度				
	電子システム専攻											
	博士課程前期課程	2	180	—	360	修士 (工学)	0.60	平成 24年度				
	博士課程後期課程	3	8	—	24	博士 (工学)	0.49	平成 24年度		平成24年度より専攻 の設置(理工学研究 科電子システム専攻 博士課程後期課程)		
	機械システム専攻											
博士課程前期課程	2	140	—	280	修士 (工学)	0.95	平成 24年度		平成24年度より専攻 の設置(理工学研究 科機械システム専攻 博士課程後期課程)			
博士課程後期課程	3	11	—	33	博士 (工学)	0.69	平成 24年度					
環境都市専攻												
博士課程前期課程	2	80	—	160	修士 (工学)	0.73	平成 24年度		平成24年度より専攻 の設置(理工学研究 科環境都市専攻博士 課程後期課程)			
博士課程後期課程	3	15	—	45	博士 (工学)	0.26	平成 24年度					
創造理工学専攻												
博士課程前期課程	2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学)	—	平成 18年度		平成24年度より学生 募集停止(理工学研究 科創造理工学専攻 博士課程前期課程)			
情報理工学専攻												
博士課程前期課程	2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学)	—	平成 18年度		平成24年度より学生 募集停止(理工学研究 科情報理工学専攻 博士課程前期課程)			

既設大学の状況	総合理工学専攻																				平成24年度より学生募集停止(理工学研究科総合理工学専攻博士課程後期課程)		
	博士課程後期課程	3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学)	—	平成 8年度															
	フロンティア理工学専攻																					平成19年度より募集停止(理工学研究科フロンティア理工学専攻博士課程)	
	一貫制博士課程	5	—	—	—	博士(理学) 博士(工学)	—	平成 13年度															
	国際関係研究科																						
	国際関係学専攻																						
	博士課程前期課程	2	60	—	120	修士(国際関係学)	0.40	平成 4年度														京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
	博士課程後期課程	3	10	—	30	博士(国際関係学)	0.46	平成 6年度															
	政策科学研究科																						
	政策科学専攻																						
	博士課程前期課程	2	40	—	80	修士(政策科学)	0.26	平成 9年度															京都府京都市北区等持院北町56番地の1
	博士課程後期課程	3	15	—	45	博士(政策科学)	0.26	平成 11年度															
	応用人間科学研究科																						
	応用人間科学専攻																						
修士課程	2	60	—	120	修士(人間科学)	0.61	平成 13年度															京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
言語教育情報研究科																							
言語教育情報専攻																							
修士課程	2	60	—	120	修士(言語教育情報学)	0.63	平成 15年度															京都府京都市北区等持院北町56番地の1	
テクノロジー・マネジメント研究科																							
テクノロジー・マネジメント専攻																							
博士課程前期課程	2	70	—	140	修士(技術経営)	0.48	平成 17年度															滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
博士課程後期課程	3	5	—	15	博士(技術経営)	1.26	平成 18年度																
公務研究科																							
公共政策専攻																							
修士課程	2	60	—	120	修士(公共政策)	0.48	平成 19年度															京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町8番地	
スポーツ健康科学研究科																							
スポーツ健康科学専攻																							
博士課程前期課程	2	25	—	50	修士(スポーツ健康科学)	0.80	平成 22年度															平成24年度より研究科の専攻に係る課程の変更(スポーツ健康科学研究科スポーツ健康科学専攻博士課程前期課程および後期課程)	
博士課程後期課程	3	8	—	24	博士(スポーツ健康科学)	1.16	平成 24年度															滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	
映像研究科																							
映像専攻																							
修士課程	2	10	—	20	修士(映像)	0.50	平成 23年度															京都府京都市北区等持院北町56番地の1	

既設大学等の状況	情報理工学研究科										
	情報理工学専攻										
	博士課程前期課程	2	200	—	400	修士(工学)	0.72	平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成24年度より専攻の設置(情報理工学研究科情報理工学専攻博士課程後期課程)	
	博士課程後期課程	3	15	—	45	博士(工学)	0.48	平成24年度			
	生命科学学研究科										
	生命科学専攻										
	博士課程前期課程	2	150	—	300	修士(理学) 修士(工学)	0.65	平成24年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成24年度より専攻の設置(生命科学学研究科生命科学専攻博士課程後期課程)	
	博士課程後期課程	3	15	—	45	博士(理学) 博士(工学)	0.41	平成24年度			
	先端総合学術研究科										
	先端総合学術専攻										
	一貫制博士課程	5	30	—	150	博士(学術)	0.25	平成15年度	京都府京都市北区等持院北町56番地の1		
	薬学研究科										
薬学専攻											
博士課程	4	3	—	3	博士(薬学)	0.66	平成26年度	滋賀県草津市野路東1丁目1番1号	平成26年度より専攻の設置(薬学研究科薬学専攻博士課程)		
法務研究科											
法曹養成専攻											
専門職学位課程	3	100	—	360	法務博士(専門職)	0.50	平成16年度	京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町8番地	平成26年度より入学定員30人減(法務研究科法曹養成専攻専門職学位課程)		
経営管理研究科											
経営管理専攻											
専門職学位課程	2	100	—	200	経営修士(専門職) 会計修士(専門職)	0.35	平成18年度	京都府京都市中京区西ノ京東梅尾町8番地			
大学の名称	立命館アジア太平洋大学										
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
アジア太平洋学部 アジア太平洋学科	年	人	年次人	人		倍					
	4	600	2年次12 3年次18	2,490	学士(アジア太平洋学)	1.00	平成12年度				
国際経営学部 国際経営学科	4	600	2年次22 3年次31	2,543	学士(経営学)	0.92	平成12年度	大分県別府市十文字原1丁目1番	平成26年度秋季入学者数は未定である。		

既設大学等の状況	アジア太平洋研究科 アジア太平洋学専攻 博士課程前期課程	2	15	—	30	修士（アジア太平洋学）	0.29	平成15年度
	博士課程後期課程	3	10	—	30	博士（アジア太平洋学）	0.56	平成15年度
	国際協力政策専攻 博士課程前期課程	2	45	—	90	修士（国際協力政策）	0.42	平成15年度
	経営管理研究科 経営管理専攻 修士課程	2	40	—	80	修士（経営管理）	0.28	平成15年度
附属施設の概要	<p>名称：理工学研究所 目的：自然科学分野の研究 所在地：滋賀県草津市野路東1丁目1番1号 設置年月：昭和30年4月</p> <p>名称：SRセンター 目的：自然科学分野の研究 所在地：滋賀県草津市野路東1丁目1番1号 設置年月：平成8年4月</p>							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校を取容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

### 学校法人立命館 設置認可等に関する組織の移行表

平成26年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員			
<b>立命館大学</b>							
法学部	法学科	790		3,160			
経済学部	経済学科	535		2,140			
	国際経済学科	200		800			
経営学部	経営学科	610		2,440			
	国際経営学科	150		600			
産業社会学部	現代社会学科	900		3,600			
文学部	人文学科	1,105		4,417			
理工学部	電気電子工学科	142	3年次	534			
			12				
	機械工学科	160	3年次	591			
			10				
	都市システム工学科	84	3年次	340			
			2				
	環境システム工学科	69	3年次	280			
			2				
	ロボティクス学科	83	3年次	336			
			6				
		数理科学科	90		360		
		物理科学科	80		320		
	電子情報工学科	94	3年次	290			
			8				
	建築都市デザイン学科	70	3年次	312			
			16				
国際関係学部	国際関係学科	305		1,214			
政策科学部	政策科学科	360		1,440			
情報理工学部	情報システム学科	110		440			
	情報コミュニケーション学科	110		440			
	メディア情報学科	110		440			
	知能情報学科	110		440			
	映像学部	映像学科	150		600		
薬学部	薬学科	100		600			
生命科学部	応用化学科	80		320			
	生物工学科	80		320			
	生命情報学科	60		240			
	生命医科学科	60		240			
	スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	220		880		
計		7,017	56	28,134			
<b>立命館大学大学院</b>							
法学研究科	法学専攻	博士課程前期課程	60	120			
法学研究科	法学専攻	博士課程後期課程	10	30			
経済学研究科	経済学専攻	博士課程前期課程	50	100			
経済学研究科	経済学専攻	博士課程後期課程	5	15			
経営学研究科	企業経営専攻	博士課程前期課程	60	120			
経営学研究科	企業経営専攻	博士課程後期課程	15	45			
社会学研究科	応用社会学専攻	博士課程前期課程	60	120			
社会学研究科	応用社会学専攻	博士課程後期課程	15	45			
文学研究科	人文学専攻	博士課程前期課程	70	175			
文学研究科	人文学専攻	博士課程後期課程	20	90			
文学研究科	行動文化情報学専攻	博士課程前期課程	35	35			
文学研究科	行動文化情報学専攻	博士課程後期課程	15	15			
理工学研究科	基礎理工学専攻	博士課程前期課程	50	100			
理工学研究科	基礎理工学専攻	博士課程後期課程	6	18			
理工学研究科	電子システム専攻	博士課程前期課程	180	360			
理工学研究科	電子システム専攻	博士課程後期課程	8	24			
理工学研究科	機械システム専攻	博士課程前期課程	140	280			
理工学研究科	機械システム専攻	博士課程後期課程	11	33			
理工学研究科	環境都市専攻	博士課程前期課程	80	160			
理工学研究科	環境都市専攻	博士課程後期課程	15	45			
国際関係研究科	国際関係学専攻	博士課程前期課程	60	120			
国際関係研究科	国際関係学専攻	博士課程後期課程	10	30			
政策科学研究科	政策科学専攻	博士課程前期課程	40	80			
政策科学研究科	政策科学専攻	博士課程後期課程	15	45			
応用人間科学研究科	応用人間科学専攻	修士課程	60	120			
言語教育情報研究科	言語教育情報専攻	修士課程	60	120			
テクノロジー・マテリアル研究科	テクノロジー・マテリアル専攻	博士課程前期課程	70	140			
テクノロジー・マテリアル研究科	テクノロジー・マテリアル専攻	博士課程後期課程	5	15			
公務研究科	公共政策専攻	修士課程	60	120			
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士課程前期課程	25	50			
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士課程後期課程	8	24			
映像研究科	映像専攻	修士課程	10	20			
情報理工学研究科	情報理工学専攻	博士課程前期課程	200	400			
情報理工学研究科	情報理工学専攻	博士課程後期課程	15	45			
生命科学研究科	生命科学専攻	博士課程前期課程	150	300			
生命科学研究科	生命科学専攻	博士課程後期課程	15	45			
薬学研究科	薬学専攻	博士課程	3	3			
先端総合学術研究科	先端総合学術専攻	一貫制博士課程	30	150			
法務研究科	法曹養成専攻	専門職学位課程	100	360			
経営管理研究科	経営管理専攻	専門職学位課程	100	200			
計			1,941	4,317			
<b>立命館アジア太平洋大学</b>							
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	600	2年次 12 3年次	2,472			
国際経営学部	国際経営学科	600	2年次 18 3年次	2,528			
計		1,200	83	5,000			
<b>立命館大学アジア太平洋大学大学院</b>							
アジア太平洋研究科	アジア太平洋学専攻	博士課程前期課程	15	30			
アジア太平洋研究科	アジア太平洋学専攻	博士課程後期課程	10	30			
アジア太平洋研究科	国際協力政策専攻	博士課程前期課程	45	90			
経営管理研究科	経営管理専攻	修士課程	40	80			
計			110	230			

平成27年度		入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由		
<b>立命館大学</b>							
法学部	法学科	790		3,160			
経済学部	経済学科	535		2,140			
	国際経済学科	200		800			
経営学部	経営学科	610		2,440			
	国際経営学科	150		600			
産業社会学部	現代社会学科	900		3,600			
文学部	人文学科	1,105		4,420			
理工学部	電気電子工学科	142	3年次	592			
			12				
	機械工学科	160	3年次	660			
			10				
	都市システム工学科	84	3年次	340			
			2				
	環境システム工学科	69	3年次	280			
			2				
	ロボティクス学科	83	3年次	344			
			6				
		数理科学科	90		360		
		物理科学科	80		320		
	電子情報工学科	94	3年次	392			
			8				
	建築都市デザイン学科	70	3年次	312			
			16				
国際関係学部	国際関係学科	305		1,220			
政策科学部	政策科学科	360		1,440			
情報理工学部	情報システム学科	110		440			
	情報コミュニケーション学科	110		440			
	メディア情報学科	110		440			
	知能情報学科	110		440			
	映像学部	映像学科	150		600		
薬学部	薬学科	100		600			
生命科学部	応用化学科	80		320			
	生物工学科	80		320			
	生命情報学科	60		240			
	生命医科学科	60		240			
	スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	220		880		
計		7,077	56	28,620			
<b>立命館大学大学院</b>							
法学研究科	法学専攻	博士課程前期課程	60	120			
法学研究科	法学専攻	博士課程後期課程	10	30			
経済学研究科	経済学専攻	博士課程前期課程	50	100			
経済学研究科	経済学専攻	博士課程後期課程	5	15			
経営学研究科	企業経営専攻	博士課程前期課程	60	120			
経営学研究科	企業経営専攻	博士課程後期課程	15	45			
社会学研究科	応用社会学専攻	博士課程前期課程	60	120			
社会学研究科	応用社会学専攻	博士課程後期課程	15	45			
文学研究科	人文学専攻	博士課程前期課程	70	140			
文学研究科	人文学専攻	博士課程後期課程	20	60			
文学研究科	行動文化情報学専攻	博士課程前期課程	35	70			
文学研究科	行動文化情報学専攻	博士課程後期課程	15	45			
理工学研究科	基礎理工学専攻	博士課程前期課程	50	100			
理工学研究科	基礎理工学専攻	博士課程後期課程	6	18			
理工学研究科	電子システム専攻	博士課程前期課程	180	360			
理工学研究科	電子システム専攻	博士課程後期課程	8	24			
理工学研究科	機械システム専攻	博士課程前期課程	140	280			
理工学研究科	機械システム専攻	博士課程後期課程	11	33			
理工学研究科	環境都市専攻	博士課程前期課程	80	160			
理工学研究科	環境都市専攻	博士課程後期課程	15	45			
国際関係研究科	国際関係学専攻	博士課程前期課程	60	120			
国際関係研究科	国際関係学専攻	博士課程後期課程	10	30			
政策科学研究科	政策科学専攻	博士課程前期課程	40	80			
政策科学研究科	政策科学専攻	博士課程後期課程	15	45			
応用人間科学研究科	応用人間科学専攻	修士課程	60	120			
言語教育情報研究科	言語教育情報専攻	修士課程	60	120			
テクノロジー・マテリアル研究科	テクノロジー・マテリアル専攻	博士課程前期課程	70	140			
テクノロジー・マテリアル研究科	テクノロジー・マテリアル専攻	博士課程後期課程	5	15			
公務研究科	公共政策専攻	修士課程	60	120			
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士課程前期課程	25	50			
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	博士課程後期課程	8	24			
映像研究科	映像専攻	修士課程	10	20			
情報理工学研究科	情報理工学専攻	博士課程前期課程	200	400			
情報理工学研究科	情報理工学専攻	博士課程後期課程	15	45			
生命科学研究科	生命科学専攻	博士課程前期課程	150	300			
生命科学研究科	生命科学専攻	博士課程後期課程	15	45			
薬学研究科	薬学専攻	博士課程	3	12			
先端総合学術研究科	先端総合学術専攻	一貫制博士課程	30	150			
法務研究科	法曹養成専攻	専門職学位課程	100	300			
経営管理研究科	経営管理専攻	専門職学位課程	100	200			
計			1,921	4,226			
<b>立命館アジア太平洋大学</b>							
アジア太平洋学部	アジア太平洋学科	600	2年次 12 3年次	2,472			
国際経営学部	国際経営学科	600	2年次 18 3年次	2,528			
計		1,200	83	5,000			
<b>立命館大学アジア太平洋大学大学院</b>							
アジア太平洋研究科	アジア太平洋学専攻	博士課程前期課程	15	30			
アジア太平洋研究科	アジア太平洋学専攻	博士課程後期課程	10	30			
アジア太平洋研究科	国際協力政策専攻	博士課程前期課程	45	90			
経営管理研究科	経営管理専攻	修士課程	40	80			
計			110	230			

→ 1 → 学科の設置（届出）

教育課程等の概要														
(薬学部創薬科学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
外国語科目	英語P1	1前	1			○								兼1
	英語P2	1後	1			○								兼1
	英語P3	2前	1			○								兼1
	英語P4	2後	1			○								兼1
	英語S1	1前	1			○								兼1
	英語S2	1後	1			○								兼1
	英語S3	2前	1			○								兼1
	英語S4	2後	1			○								兼1
	小計(8科目)			8	0	0	-			0	0	0	0	0
教養科目	哲学と人間	1・2・3・4後		2		○								兼1
	人間性と倫理	1・2・3・4前		2		○								兼1
	心理学入門	1・2・3・4後		2		○								兼1
	論理と思考	1・2・3・4前		2		○								兼1
	社会思想史	1・2・3・4後		2		○								兼1
	科学技術と倫理	1・2・3・4前		2		○								兼1
	ジェンダー論	1・2・3・4前		2		○								兼1
	宗教と社会	3・4後		2		○								兼1
	メンタルヘルス	3・4後		2		○								兼1
	社会学入門	1・2・3・4前		2		○								兼1
	文化人類学入門	1・2・3・4前		2		○								兼1
	文学と社会	1・2・3・4後		2		○								兼1
	現代の教育	1・2・3・4前		2		○								兼1
	世界の言語と文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
	美と芸術の論理	1・2・3・4前		2		○								兼1
	メディアと現代文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
	現代社会と法	1・2・3・4後		2		○								兼1
	市民と政治	1・2・3・4前		2		○								兼1
	経済と社会	1・2・3・4前		2		○								兼1
	企業と社会	1・2・3・4後		2		○								兼1
	日本国憲法	1・2・3・4前		2		○								兼1
	現代日本の政治	1・2・3・4前		2		○								兼1
	現代の国際関係と日本	1・2・3・4後		2		○								兼1
	現代の世界経済	1・2・3・4後		2		○								兼1
	現代の経営	1・2・3・4前		2		○								兼1
	社会と福祉	1・2・3・4後		2		○								兼1
	災害と安全	1・2・3・4後		2		○								兼1
	新しい日本史像	1・2・3・4前		2		○								兼1
	中国の国家と社会	1・2・3・4前		2		○								兼1
	東アジアと朝鮮半島	1・2・3・4後		2		○								兼1
	ヨーロッパの歴史	1・2・3・4後		2		○								兼1
	アメリカの歴史	1・2・3・4前		2		○								兼1
	イスラーム世界の多様性	1・2・3・4後		2		○								兼1
	宇宙科学	1・2・3・4前		2		○								兼1
	地球科学	1・2・3・4後		2		○								兼1
	科学と技術の歴史	1・2・3・4前		2		○								兼1
	科学・技術と社会	1・2・3・4後		2		○								兼1
	情報技術と社会	1・2・3・4後		2		○								兼1
	平和学入門	1・2・3・4後		2		○								兼1
	現代の人権	1・2・3・4前		2		○								兼1
	日本の近現代と立命館	1・2後		2		○								兼1
	戦争の歴史と現在	1・2・3・4前		2		○								兼1
	国際平和交流セミナー	1・2・3・4後		2			○							兼3 集中
	英語とアメリカ文化(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	異文化理解セミナー(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
文化・社会調査(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1	
アメリカ社会(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1	
日豪関係Ⅰ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		5		○								兼1	
日豪関係Ⅱ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1		○								兼1	
日豪関係Ⅲ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1		○								兼1	
日豪関係Ⅳ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1		○								兼1	
平和学Ⅰ(海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1		○								兼1	

教育課程等の概要														
(薬学部創薬科学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	平和学Ⅱ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1		○								兼1
	平和学Ⅲ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1		○								兼1
	平和学Ⅳ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		3		○								兼1
	平和学Ⅴ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		5		○								兼1
	環境と人間Ⅰ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1		○								兼1
	環境と人間Ⅱ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1		○								兼1
	環境と人間Ⅲ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1		○								兼1
	環境と人間Ⅳ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		1		○								兼1
	環境と人間Ⅴ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	環境と人間Ⅵ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		3		○								兼1
	環境と人間Ⅶ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		5		○								兼1
	言語・文化・社会AⅠ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅡ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅢ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅣ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅤ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅥ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅦ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅧ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅨ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅩ (海外留学プログラム)	1・2・3・4後		2		○								兼1
	英語UBC・JP作文	2・3・4前		2		○								兼1
	カナダ研究 (海外留学プログラム)	2・3・4前		4		○								兼1
	異文化間コミュニケーション (海外留学プログラム)	2・3・4前		4		○								兼1
	環太平洋研究 (海外留学プログラム)	2・3・4前		4		○								兼1
	言語・文化・社会BⅠ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅡ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅢ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅣ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅤ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅥ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅦ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅧ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅨ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅠ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅡ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅢ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅣ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅤ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅥ (海外留学プログラム)	2・3・4前		2		○								兼1
	海外スタディ	1・2・3・4後		2		○								兼1
	海外スタディ	1・2・3・4後		4		○								兼1
	日本の社会	1・2・3・4前		2		○								兼1
	日本の文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
	日本の経済	1・2・3・4前		2		○								兼1
	日本の経営	1・2・3・4前		2		○								兼1
	日本の自然	1・2・3・4前		2		○								兼1
	日本の科学技術	1・2・3・4前		2		○								兼1
	日本事情特殊講義	1・2・3・4前		2		○								兼1
	日本事情入門Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1
	日本事情入門Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1
	日本語学Ⅰ	2・3・4前		2		○								兼1
	日本語学Ⅱ	2・3・4後		2		○								兼1
	留学生数学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1
留学生数学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
留学生物理Ⅰ	1・2・3・4前		2		○								兼1	
留学生物理Ⅱ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
地域参加学習入門	1・2・3・4前		2		○								兼1	
シチズンシップ・スタディーズⅠ	1・2・3・4通		2				○						兼1	
シチズンシップ・スタディーズⅡ	2・3・4前		2				○						兼1	

教育課程等の概要															
(薬学部創薬科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	現代社会のフィールドワーク	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	ソーシャル・コラボレーション演習	2・3・4後		2			○							兼1	
	全学インターンシップ	2・3・4後		2				○						兼1	
	学びとキャリア	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	仕事とキャリア	2・3・4前		2		○								兼1	
	社会とキャリア	3・4後		2		○								兼1	
	スポーツの歴史と発展	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	スポーツと現代社会	1・2・3・4前		2		○								兼1	
	スポーツのサイエンス	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	現代人とヘルスケア	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	スポーツ方法実習Ⅰ	1・2・3・4前		1				○						兼1	
	スポーツ方法実習Ⅱ	1・2・3・4後		1				○						兼1	
	教養ゼミナール	1・2・3・4前		2			○							兼1	
	ピア・サポート論	2・3・4後		2		○								兼1	
	海外フィールドスタディ	1・2・3・4後		2		○								兼1	
	海外フィールドスタディ	1・2・3・4後		4		○								兼1	
APU交流科目	2・3・4		2		○								兼1		
APU交流科目	2・3・4		4		○								兼1		
小計(131科目)			0	273	0		-		0	0	0	0	0	兼70	
基礎科目	数学A(微分法)	1前		2		○								兼1	
	数学B(積分法)	1後		2		○								兼1	
	数学C(線形代数)	1前		2		○								兼1	
	数学D(確率・統計)	1後		2		○								兼1	
	数学演習A	1前		1			○							兼1	
	数学演習B	1後		1			○							兼1	
	物理学A	1前		2		○								兼1	
	物理学B	1後		2		○								兼1	
	生物科学	1前		2		○								兼1	
	情報処理演習	1前		1			○			1				兼1	
	日本語表現法	1前		2		○								兼1	
小計(11科目)			0	19	0		-		0	1	0	0	0	兼6	
科 導 薬 目 入 学	創薬科学基礎演習	1前		1			○		1	2		1			
	創薬研究概論	1後		2			○		2	1				オムニバス	
英 専 語 門	英語 J P 1	3前		2		○								兼1	
	英語 J P 2	3後		2		○								兼1	
専 門 科 目	化学系薬学	有機化学A	1前	2		○								兼1	
		有機化学B	1後	2		○								兼1	
		有機化学C	2前	2		○				1					
		有機化学D	2後	2		○									兼1
		物理化学A	1前	2		○									兼1
		物理化学B	1後	2		○				1					
		物理化学C	2前	2	2	○									兼1
		分析化学A	1前	2		○				1					
		機器分析化学	1後	2		○				1					
		分析化学B	2前	2	2	○				1					
		医薬品製造学	3前	2		○					1				
		生体分子解析法	3前	2		○									兼1
		構造生物学	3後	2		○					1				
		生薬学	2前	2		○									兼1
		天然物化学	2後	2		○									兼1
		有機分子解析法	2前	2		○									兼1
		放射化学	2後	2		○					1				兼2
和漢薬論	3後	2		○									兼1		
合成化学	3後	2		○					1						
化粧品学	4前	2		○									兼1		
生 物 系 薬 学	人体の構造と機能A	1後	2		○									兼2	
	人体の構造と機能B	2前	2		○									兼1	
	生化学A	1後	2		○									兼1	
	生化学B	2前	2		○									兼1	
	微生物学	2後	2		○									兼1	
分子生物学	2前	2		○				1							

教育課程等の概要															
(薬学部創薬科学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	生物系薬学	公衆衛生学	2前	2		○			1					兼1	オムニバス
		生物統計学演習	2前	1			○					1		兼3	
		細胞生物学	2前		2		○				1				
		プロテオミクス	3前		2		○							兼1	
		薬理学A	2後	2			○							兼1	
		薬理学B	3前	2			○							兼1	
		薬理学C	3後		2		○			1					
		免疫学	2後		2		○							兼1	
		環境衛生学	3前		2		○			1					
		病態学A	2後	2			○							兼1	
		病態学B	3前		2		○							兼1	
		衛生化学	2後	2			○			1					
		毒性学	3後		2		○							兼1	
		バイオインフォマティクス	3前		2		○							兼1	
		システムバイオロジー	2後		2		○							兼1	
		ゲノム創薬科学	4前		2		○			1					
		ケミカルバイオロジー	2前		2		○							兼1	
	食品工学	4前		2		○							兼1		
	再生医療学	3後		2		○			1						
	分子神経科学	3後		2		○				1					
	免疫医薬品学	4前		2		○							兼1		
	医療系薬学	製剤学・物理製剤学A	2後	2			○							兼1	オムニバス
		製剤学・物理製剤学B	3前		2		○							兼1	
		病原微生物学	3前		2		○							兼1	
		生物製剤学	3前	2			○							兼1	
		日本薬局方概論	3前	2			○							兼1	
		薬物動態学	3後		2		○							兼1	
		薬物治療学A	3前		2		○							兼1	
医薬品情報学		3後		2		○							兼1		
薬物治療学B		3後		2		○							兼1		
臨床製剤学A		3後		2		○							兼1		
薬物治療学C		4前		2		○							兼1		
薬事法規・薬事制度		4前		2		○							兼1		
医療倫理		4前		2		○							兼1		
薬物送達学		3後		2		○							兼1		
薬物治療学D	4前		2		○							兼1			
医療薬学	4前		2		○							兼1			
漢方医療薬学	4前		2		○							兼2			
医薬品開発論	4前		2		○			1							
臨床試験概論	4後		1		○							兼1			
医療統計学	4後		1		○							兼1			
実習	分析化学実習A	1後	1				○		3			1		オムニバス	
	分析化学実習B	1後	1				○		1			1			
	物理化学実習A	2後	1				○			1		1			
	物理化学実習B	2後	1				○			1			兼3		
	有機化学実習A	2前	1				○			1			兼3		
	有機化学実習B	2前	1				○			1			兼3		
	免疫学・組織学実習	3後	1				○						兼4		
	生薬・天然物化学実習	3前	2				○						兼4		
	微生物学実習	3後	1				○						兼5		
	生化学・分子生物学実習	3前	2				○		1		1		兼2		
	衛生化学実習	3後	1				○		1	1			兼2		
	薬理学実習	3前	1				○		1				兼4		
	製剤学実習	3後	1				○				1		兼4		
	医薬品化学実習	3後		1			○			1					
卒業研究	卒業研究A	3後	2				○		4	3					
	卒業研究B	4通	4				○		4	3					
	小計(87科目)	-	71	89	0	-	-	-	4	3	0	3	0	兼42	
自由科目	日本語Ⅷ(アカデミック日本語a)	2・3・4前			1		○							兼1	留学生対象
	日本語Ⅷ(アカデミック日本語b)	2・3・4後			1		○							兼1	留学生対象
	日本語Ⅷ(キャリア日本語a)	2・3・4前			1		○							兼1	留学生対象

教育課程等の概要														
(薬学部創薬科学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
自由科目	日本語Ⅷ (キャリア日本語b)	2・3・4後			1		○							兼1 留学生対象
	日本語Ⅶ (文章表現a)	1・2・3・4前			1		○							兼1 留学生対象
	日本語Ⅶ (文章表現b)	1・2・3・4後			1		○							兼1 留学生対象
	日本語Ⅶ (読解a)	1・2・3・4前			1		○							兼1 留学生対象
	日本語Ⅶ (読解b)	1・2・3・4後			1		○							兼1 留学生対象
	日本語Ⅶ (聴解口頭a)	1・2・3・4前			1		○							兼1 留学生対象
	日本語Ⅶ (聴解口頭b)	1・2・3・4後			1		○							兼1 留学生対象
	科学技術日本語Ⅰ	1・2・3・4前			1		○							兼1 留学生対象
	科学技術日本語Ⅱ	1・2・3・4後			1		○							兼1 留学生対象
	単位互換科目	1・2・3・4			1	○								兼1
	単位互換科目	1・2・3・4			2	○								兼1
	単位互換科目	1・2・3・4			4	○								兼1
小計 (15科目)		-	0	0	19		-		0	0	0	0	0	兼2
合計 (252科目)		-	79	381	19		-		4	3	0	3	0	兼111 -
学位又は称号		学士 (薬科学)			学位又は学科の分野			薬学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
外国語科目を8単位、教養科目16単位以上、基礎科目から9単位以上、専門科目から必修科目71単位と選択必修科目 (「合成化学」「化粧品学」「ゲノム創薬科学」「食品工学」「再生医療学」「分子神経科学」「免疫医薬品学」「医療薬学」「医薬品開発論」) 8単位以上を含む95単位以上、合計で128単位以上の修得とする。 (履修科目の登録の上限: 49単位 (年間))							1学年の学期区分			2期				
							1学期の授業期間			15週				
							1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要														
(薬学部薬学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
外国語科目	英語P1	1前	1			○							兼1	
	英語P2	1後	1			○							兼1	
	英語P3	2前	1			○							兼1	
	英語P4	2後	1			○							兼1	
	英語S1	1前	1			○							兼1	
	英語S2	1後	1			○							兼1	
	英語S3	2前	1			○							兼1	
	英語S4	2後	1			○							兼1	
	小計(8科目)	-	-	8	0	0	-			0	0	0	0	0
教養科目	哲学と人間	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	人間性と倫理	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	心理学入門	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	論理と思考	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	社会思想史	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	科学技術と倫理	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	ジェンダー論	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	宗教と社会	3・4・6後	2			○							兼1	
	メンタルヘルス	3・4・6後	2			○							兼1	
	社会学入門	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	文化人類学入門	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	文学と社会	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	現代の教育	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	世界の言語と文化	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	美と芸術の論理	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	メディアと現代文化	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	現代社会と法	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	市民と政治	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	経済と社会	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	企業と社会	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	日本国憲法	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	現代日本の政治	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	現代の国際関係と日本	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	現代の世界経済	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	現代の経営	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	社会と福祉	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	災害と安全	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	新しい日本史像	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	中国の国家と社会	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	東アジアと朝鮮半島	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	ヨーロッパの歴史	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	アメリカの歴史	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	イスラーム世界の多様性	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	宇宙科学	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	地球科学	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	科学と技術の歴史	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
	科学・技術と社会	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	情報技術と社会	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	平和学入門	1・2・3・4・6後	2			○							兼1	
	現代の人権	1・2・3・4・6前	2			○							兼1	
日本の近現代と立命館	1・2後	2			○							兼1		
戦争の歴史と現在	1・2・3・4・6前	2			○							兼1		
国際平和交流セミナー	1・2・3・4・6後	2				○						兼3 集中		
英語とアメリカ文化(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後	2			○							兼1		
異文化理解セミナー(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後	2			○							兼1		
文化・社会調査(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後	2			○							兼1		
アメリカ社会(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後	2			○							兼1		
日豪関係Ⅰ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後	5			○							兼1		
日豪関係Ⅱ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後	1			○							兼1		
日豪関係Ⅲ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後	1			○							兼1		
日豪関係Ⅳ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後	1			○							兼1		

教育課程等の概要														
(薬学部薬学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養科目	平和学Ⅰ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		1		○								兼1
	平和学Ⅱ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		1		○								兼1
	平和学Ⅲ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		1		○								兼1
	平和学Ⅳ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		3		○								兼1
	平和学Ⅴ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		5		○								兼1
	環境と人間Ⅰ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		1		○								兼1
	環境と人間Ⅱ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		1		○								兼1
	環境と人間Ⅲ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		1		○								兼1
	環境と人間Ⅳ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		1		○								兼1
	環境と人間Ⅴ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	環境と人間Ⅵ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		3		○								兼1
	環境と人間Ⅶ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		5		○								兼1
	言語・文化・社会AⅠ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅡ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅢ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅣ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅤ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅥ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅦ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅧ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅨ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	言語・文化・社会AⅩ(海外留学プログラム)	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	英語UBC・JP作文	2・3・4・6前		2		○								兼1
	カナダ研究(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		4		○								兼1
	異文化間コミュニケーション(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		4		○								兼1
	環太平洋研究(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		4		○								兼1
	言語・文化・社会BⅠ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅡ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅢ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅣ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅤ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅥ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅦ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅧ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅨ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅠ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅡ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅢ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅣ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅤ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	言語・文化・社会BⅩⅥ(海外留学プログラム)	2・3・4・5・6前		2		○								兼1
	海外スタディ	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	海外スタディ	1・2・3・4・6後		4			○							兼1
	地域参加学習入門	1・2・3・4・6前		2		○								兼1
	シチズンシップ・スタディーズⅠ	1・2・3・4・6通年		2			○							兼1
	シチズンシップ・スタディーズⅡ	2・3・4・6前		2			○							兼1
	現代社会のフィールドワーク	1・2・3・4・6後		2		○								兼1
	ソーシャル・コラボレーション演習	2・3・4・6後		2			○							兼1
	全学インターンシップ	2・3・4・6後		2				○						兼1
学びとキャリア	1・2・3・4・6前		2		○								兼1	
仕事とキャリア	2・3・4・6前		2		○								兼1	
社会とキャリア	3・4・6後		2		○								兼1	
スポーツの歴史と発展	1・2・3・4・6前		2		○								兼1	
スポーツと現代社会	1・2・3・4・6前		2		○								兼1	
スポーツのサイエンス	1・2・3・4・6後		2		○								兼1	
現代人とヘルスケア	1・2・3・4・6後		2		○								兼1	
スポーツ方法実習Ⅰ	1・2・3・4・6前		1				○						兼1	
スポーツ方法実習Ⅱ	1・2・3・4・6後		1					○					兼1	
教養ゼミナール	1・2・3・4・6前		2			○							兼1	

教育課程等の概要															
(薬学部薬学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養科目	ピア・サポート論	2・3・4・6後		2		○								兼1	
	海外フィールドスタディ	1・2・3・4・6後		2		○			1						
	海外フィールドスタディ	1・2・3・4・6後		4		○			1						
	APU交流科目	2・3・4・6		2		○			1						
	APU交流科目	2・3・4・6		4		○			1						
小計 (116科目)		-	0	243	0	-			2	0	0	0	0	兼56	
基礎科目	数学A (微分法)	1前		2		○								兼1	
	数学B (積分法)	1後		2		○								兼1	
	数学C (線形代数)	1前		2		○								兼1	
	数学D (確率・統計)	1後		2		○								兼1	
	数学演習A	1前		1			○							兼1	
	数学演習B	1後		1			○							兼1	
	物理学A	1前		2		○								兼1	
	物理学B	1後		2		○								兼1	
	生物科学	1前	2			○			1						
	情報処理演習	1前		1			○								兼2
	日本語表現法	1前		2		○			1						
小計 (11科目)		-	2	17	0	-			2	0	0	0	0	兼5	
専門科目	薬学導入科目	薬学概論	1前	2		○			5	5					
		薬学基礎演習	1前	1			○		2	1					
		薬学応用演習	2後	1			○		3						
		コミュニケーション演習	1後	1			○		3						
		社会薬学	2前	2			○								兼1
	専門英語	英語 J P1	3前	2			○								兼1
		英語 J P2	3後	2			○								兼1
		薬学専門英語演習	4前	1				○		3	1		1		オムニバス
		卒業論文英語	6前	1				○		20	4				
	化学系薬学	有機化学A	1前	2			○			1					
		有機化学B	1後	2			○			1					
		有機化学C	2前	2			○								兼1
		有機化学D	2後	2	2		○			1					
		物理化学A	1前	2			○			1					
		物理化学B	1後	2			○								兼1
		物理化学C	2前	2	2		○			1					
		分析化学A	1前	2			○								兼1
		機器分析化学	1後	2	2		○								兼1
		分析化学B	2前	2	2		○								兼1
		医薬品製造学	3前	2			○								兼1
生体分子解析法		3前	2	2		○			1						
構造生物学		3後	2			○								兼1	
生薬学		2前	2			○			1						
天然物化学		2後	2			○			1						
有機分子解析法	2前	2	2		○			1							
放射化学	2後	2			○								兼3		
和漢薬論	3後	2			○			1					オムニバス		
生物系薬学	人体の構造と機能A	1後	2			○			1	1					
	人体の構造と機能B	2前	2			○			1						
	生化学A	1後	2			○			1						
	生化学B	2前	2			○			1						
	微生物学	2後	2			○			1						
	分子生物学	2前	2			○								兼1	
	公衆衛生学	2前	2			○			1					兼1	
	生物統計学演習	2前	1				○			1		2		兼1	
	細胞生物学	2前	2	2		○								兼1	
	プロテオミクス	3前	2			○								兼1	
	薬理学A	2後	2			○			1						
	薬理学B	3前	2			○			1						
	薬理学C	3後	2			○								兼1	
	免疫学	2後	2			○			1						
	環境衛生学	3前	2			○								兼1	

教育課程等の概要															
(薬学部薬学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
生物系薬学	病態学A	2後	2			○			1						
	病態学B	3前	2			○			1						
	衛生化学	2後	2			○								兼1	
	毒性学	3後	2			○				1					
	再生医療学	3後	2	2		○								兼1	
	バイオインフォマティクス	4前	2	2		○								兼1	
	医療系薬学	製剤学・物理薬剤学A	2後	2			○			1					
		製剤学・物理薬剤学B	3前	2			○			1					
		病原微生物学	3前	2			○			1					
		生物薬剤学	3前	2			○			1					
		日本薬局方概論	3前	2			○								兼1
		薬物動態学	3後	2			○			1					
		薬物治療学A	3前	2			○			1					
		医薬品情報学	3後	2			○			1					
		医療コミュニケーション	3後	2			○								兼1
		薬物治療学B	3後	2			○			1					
		臨床薬剤学A	3後	2			○			1					
		医療社会論	3後	2	2		○								兼1
		調剤学	4前	2			○			1					
		薬物治療学C	4前	2			○			1					
臨床薬剤学B	4前	2			○				1						
薬事法規・薬事制度	4前	2			○								兼1		
医療倫理	4前	2			○								兼1		
薬物送達学	3後	2	2		○			1							
薬物治療学D	4前	2			○				1						
特殊講義	特殊講義(専門)	1前	2			○			1						
専門科目	実習	分析化学実習A	1後	1				○							兼4
		分析化学実習B	1後	1				○		1			1		兼2
		物理化学実習A	2後	1				○		1			1		兼2
		有機化学実習A	2前	1				○		3					兼1
		有機化学実習B	2前	1				○		3					兼1
		免疫学・組織学実習	3後	1				○		2			1		兼1
		生薬・天然物化学実習	3前	2				○		3			1		
		微生物学実習	3後	1				○		2			2		兼1
		生化学・分子生物学実習	3前	2				○		2					兼2
		衛生化学実習	3後	1				○							兼4
		薬理学実習	3前	1				○		2	1		1		兼1
		薬剤学実習	3後	1				○		2	1		1		兼1
		医療薬学実習A	4前	2				○		2	1	11	1		
		医療薬学実習B	4前	2				○		2	1	11	1		
実務前実習	4後	4				○		3	1	11	2		兼4		
病院実務実習	5通	10				○		2	1	5	1				
薬局実務実習	5通	10				○		2	1	6	1				
アドバンスト科目	臨床心理学	4後		1		○								兼1	
	臨床診断学	4後		1		○			1					兼1	
	臨床試験概論	4後		1		○									
	医療安全学	4後		1		○			1						
	医療統計学	4後		1		○			1						
	地域薬局学	4後		1		○								兼1	
	薬学海外フィールドスタディ	5後		1		○				1					
	漢方医療薬学	6前		2		○			1					兼1 オムニバス	
	香粧品学	6前		2		○								兼1	
	ゲノム創薬科学	6前		2		○								兼1	
医療システム論	6前		2		○								兼1		
免疫医薬品学	6前		2		○			1							
症例検討演習	6前		2		○			5	2				オムニバス		
卒業研究	卒業研究A	3後	2					○	20	4					
	卒業研究B	4通	4					○	20	4					
	卒業研究C	5通	2					○	20	4					
	卒業研究D	6前	2					○	20	4					

教 育 課 程 等 の 概 要																
(薬学部薬学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 科 目	演習合	薬学総合演習A	6後	2				○			7	0			兼6 オムニバス オムニバス	
		薬学総合演習B	6後	2				○			9	2				
	小計 (104科目)		—	156	50	0		—			22	4	11	15	0	兼29
自 由 科 目	単位互換科目		1・2・3・4・6			1	○				1					
	単位互換科目		1・2・3・4・6			2	○				1					
	単位互換科目		1・2・3・4・6			4	○				1					
	小計 (3科目)		—	0	0	7		—			1					
合計 (242科目)			—	166	310	7		—			22	4	11	15	0	兼86
学位又は称号		学士 (薬学)			学位又は学科の分野			薬学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
外国語科目8単位、教養科目16単位以上、基礎科目から必修科目を含む12単位以上、専門科目から必修科目156単位・アドバンスト科目6単位以上・アドバンスト科目を除く選択科目8単位以上を含む170単位以上、合計206単位以上修得とする。								1学年の学期区分			2期					
								1学期の授業期間			15週					
								1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語科目	英語P1	学生の関心事に関連したプロジェクトを通して、英語で自分の考えを探求し、その成果を発信する。基礎的なりサーチの方法(文献収集とその要約、インタビュー、アンケート)を学ぶ。また、簡単なプレゼンテーションの方法を学ぶ。	
	英語P2	学生の関心事に関連したプロジェクトを通して、英語で自分の考えを探求し、その成果を発信する。コンテンツ・ディベロップメントにより、フォーカスしたプロジェクトを実施する。プレゼンテーション、ディスカッションの方法を学ぶ。また、マルチメディアテクノロジーの方法を学ぶ。	
	英語P3	学生の関心事に関連したプロジェクトを通して、英語で自分の考えを探求し、その成果を発信する。より一層リサーチにフォーカスしたプロジェクトを実施する。ディスカッションやリサーチの内容について簡単なサマリーを書くことを学ぶ。また、インタビューの方法やエッセイの書き方を学ぶ。	
	英語P4	学生の関心事に関連したプロジェクトを通して、英語で自分の考えを探求し、その成果を発信する。グループプレゼンテーションやシンポジウム、グループワークを取り入れたプロジェクトを実施する。より一層実践的なりサーチ方法論を学ぶ。	
	英語S1	プロジェクトを発信するためのEnglish Skills(Listening, Speaking, Reading, Writing)、English Competence(Syntax, Pronunciation, Vocabulary)を修得するための科目であり、プロジェクトを軸に展開する上記「英語P1～P4」と、有機的に連動する。本科目においては、中でも、Listening, Speakingを重視した授業を行う。	
	英語S2	プロジェクトを発信するためのEnglish Skills(Listening, Speaking, Reading, Writing)、English Competence(Syntax, Pronunciation, Vocabulary)を修得するための科目であり、プロジェクトを軸に展開する上記「英語P1～P4」と、有機的に連動する。本科目においては、Listening, Speakingに加えて、Reading, Writingを取り入れる。中学・高校の理数系教科書レベルの英語をベースに科学的な表現を学ぶ。	
	英語S3	プロジェクトを発信するためのEnglish Skills(Listening, Speaking, Reading, Writing)、English Competence(Syntax, Pronunciation, Vocabulary)を修得するための科目であり、プロジェクトを軸に展開する上記「英語P1～P4」と、有機的に連動する。本科目においては、中でも、Reading, Writingを重視した授業を行なうが、Listening, Speakingも取り入れる。	
	英語S4	プロジェクトを発信するためのEnglish Skills(Listening, Speaking, Reading, Writing)、English Competence(Syntax, Pronunciation, Vocabulary)を修得するための科目であり、プロジェクトを軸に展開する上記「英語P1～P4」と、有機的に連動する。本科目においては、中でも、Reading, Writingを重視した授業を行なうが、コミュニケーション活動を取り入れる。	
教養科目	哲学と人間	哲学の初学者を対象にした入門講座。哲学は2600年以上にわたって展開されてきた人類の知的営為ですが、その中で人類が、存在について、世界について、人間について、社会について、どのように考えてきたか、平明に講義する。	
	人間性と倫理	人間とはいかなる存在か、われわれはいかに行為すべきか、われわれを導く規範はいかなるものであるべきか、その根拠は何か、等々の問題について、一方で古今の倫理思想を手がかりに、他方で現代社会の諸問題を手がかりに検討する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	心理学入門	心の働きを実感することはできても、心とは何かをとらえるのは難しいことである。これまで多くの学問領域がこの難問に挑んできた。心理学は、近接領域の影響を受けながらも、心の機能を科学的にとらえるために、多様ながら独自のアプローチと研究方法を発展させてきた。本講義では、このような心理学の概要を学び、心の重層的な機能について総合的に理解することを目指す。	
	論理と思考	論理とは、ことばや記号を媒介とする思考の根底にある構造である。この構造に支えられて、推理や論証という活動が可能になる。ことばや記号による表現の検討をつうじ、論理のしくみを客観的に考えることによって、推理や論証の実践的技術の基礎作りを試みる。	
	社会思想史	人間社会のそれぞれの時代において、制度や秩序を生み出し、そのシステムを支えてきた思想、政治や政策の正当性を生み出してきた社会条件は何であったのか、その中で、どのようにして正義や公共性という概念が結実してきたかを検討する。	
	科学技術と倫理	現代社会の科学技術の発達と利用にともなう生じてきた倫理的問題、すなわち生命倫理、環境倫理、情報倫理、工学倫理等々の問題について検討し、科学技術はいかにあるべきか、われわれは科学技術とどのようにかかわるべきかについて考える。	
	ジェンダー論	性別役割分業や、男らしさ・女らしさという典型化された性の特性は、歴史的、文化的、人為的に形成されたものであることを明らかにした上で、現状の分析、これを克服するための課題、女性と男性の新しい、関係作りを多面的に検討する。さらに最近のジェンダー研究では、二元論的な異性愛主義者の性規範に基づくジェンダー・アイデンティティが、ゲイ、レズビアン、トランスジェンダーによって問い直されつつあり、人間の多様でより開放的な関係作りのための認識を深める。	
	宗教と社会	本講義では「宗教」を抽象的信念体系として扱うのではなく、むしろ社会システムとの関係において検討し、その歴史的形成と現代社会における文化的意味を考察する。このため、方法論としては社会学・文化人類学の今日的成果を活用すると共に、いくつかの具体的な地域や社会を限定した上で考察を深める。	
	メンタルヘルス	この授業ではメンタルヘルスについて、さまざまな側面からとりあげる。ストレスなどについての基本的知識を身につけることだけでなく、受講者自身の自己理解(心理的特性の理解、自分が抱えている問題に対する心理的構えの理解など)も重要なテーマとなる。また、ストレスへの対処法を実習的に学ぶ。	
	社会学入門	社会学は、知識の形態や手法としては抽象的な理論から社会調査まで、研究分野としては世界社会論から生活世界論そしてアイデンティティ論までと、社会科学の中でも特に多様かつ広範な批判的社会分析に取り組む学問である。しかし、多様な手法や分野はみなく社会学的想像力という根本的な発想を共有し、源泉としている。本科目では、いくつかの具体的なテーマや理論に即して、<社会学的想像力>の意義と面白さを知ることとする。	
	文化人類学入門	文化人類学は、多様な人間集団の文化をフィールドワークによって詳細に研究し、「人間とは何ぞや」という問いに答えようとしてきた。本科目では、文化人類学のこれまでの成果を踏まえ、文化の諸側面についての理解を深め、人類と文化の関係性についてつっこんで考えることができるようになることを目的とする。	
文学と社会	文学(作品)は、人間の内面の葛藤が社会のさまざまな断面・現象を踏まえて描かれている。本科目は、作品鑑賞を中心に、作者が生きた時代社会と、作者と作品という三者の有機な関係を解明することを目指す。		

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	現代の教育	時間軸および空間軸での教育比較や人間観の比較、現代の教育や現代人の生き方に包含される問題点の分析を通して、さらには今後の教育的動向も視野に入れつつ、現代の教育や人間の生き方を俯瞰、あるいは掘り下げ、望ましい教育像、人間像をとともに考える。	
	世界の言語と文化	本科目は、開講される初修外国語圏の各言語や、それらの言語圏における文化・社会・歴史などに触れながら、異文化国際社会そして多文化共生などに対する理解と視野を養うことを目的とする。	
	美と芸術の論理	現代の我々にとって、美や芸術というものは、まず第一に感性的なものとして見なされるけれども、それを学問対象として、論理的に考える／語るには、どんな接近の仕方があるだろう？ この科目では、美学・美術史学の方法論の習得を出発点として、様々な芸術作品をとりあげ、作品の分析方法や、芸術をめぐる社会の問題など、視野を拡大しながら、美と芸術への理解を深める。	
	メディアと現代文化	通信技術の飛躍的発展によって、現代の社会と文化をめぐる環境は大きく変貌しつつある。本科目では、文字や音声、映像といったメディアが、本、新聞、雑誌、映画、テレビ、ラジオ、電話、インターネットなどの形をとって、社会・文化の形成・発展とどのように関係してきたか、またメディアと現代文化との間にどのような問題と課題があるのかについて学ぶ。	
	現代社会と法	現代社会において、日々さまざまな法的問題が発生し、それらはときとして深刻な訴訟になることもある。また、社会の変化の中で、従来の夫婦、男女の役割分担、労働の形態等も大きく変わりつつある。この科目ではこうした現代の市民社会の中で身近に接するさまざまな法的問題を理解し、自分の頭でこれらの問題を考えることができるようになることをめざす。	
	市民と政治	政治や国家は私たち市民から遠い存在のようにも見えるが、政治は市民の日常生活に影響し、逆に市民が政治に参加する制度や機会も増えてきている。この科目は、政治と市民の関係とくに民主主義について考え、政治学の基礎に接近する。身近な素材を用い、具体的な政治問題から出発しながら、政府の機能、民主主義の理念、民主主義の制度としての選挙や政治参加について、現状の理解と問題点の検討をうながす。内容と関連づけて、諸外国の政治状況、近現代の政治史や政治理論について扱うことがある。	
	経済と社会	現代社会をその基礎的な部分で動かしているのは経済活動である。この講義では、まず経済活動を分析するために必要な経済学の基礎理論を学ぶ。その上で、経済社会を歴史的に発展変化するシステムとして捉えていく見方、考え方を素養として身につける。その上で、現代経済において起こっている国内経済問題や国際経済問題を具体的に整理し、学んでいく。	
	企業と社会	資本主義社会においては、企業は自由な経済活動を通じて、利潤を得ることは、非難されるべきことでない。むしろそれによって、経済活動の質をたかめ、多くの付加価値を生み出して、経済社会生活を豊かにすることにつながる。しかし、市場経済の野放しの展開は、競争の結果を重視するあまり社会的な公正、正義を損なうことも少なくない。本講義は企業と社会の関係を焦点をあてて、企業が社会のなかで果たしている役割、社会の中で企業が原因となって引き起こしている課題を考察し、真に豊かな社会を作るために企業とどのようにかかわるのかを考える。	
日本国憲法	できるだけフレッシュな事例を取り上げながら日本の憲法問題を概説する。外国人の選挙権付与問題や、検定教科書問題など現代日本の社会が抱えている問題を深いところで見つかり、憲法の原理や解釈がそれとどのようにかみ合うのか、あるいはかみ合わないのか、法的にはどのような解決策があるのかについて考える。		

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	現代日本の政治	現代の日本政治は、先進国に共通する構造と問題をもちつつ、日本的な特徴も見出される。この科目は、日本の政治について、基礎的な知識と検討のための視点を養う。取り上げるテーマは、日本政治の全体の構造、および選挙、政党、行政官僚制、利益集団、地方自治、市民参加などの制度と活動の実態である。内容と関連づけて、政治学の諸理論、政治文化、国際比較、日本の近現代の政治史などを扱うことがある。	
	現代の国際関係と日本	だれもが平和を願い生活の安定を望んでいるにもかかわらず、世界では紛争や戦争が絶えない。また、グローバリゼーションの深化にともない、飢餓、貧困、環境破壊などの諸問題は、国民国家の枠組みを超えて一層の深刻化を見せている。本講義では、まず、現代の国際関係の構造と動態を分析する。そして、これを通して、現代の国際関係が抱える諸問題の解決に主体的に関わっていくための、想像力・発想力・構想力を養う。	
	現代の世界経済	国際分業の理論として、リカードの比較生産費説は、絶対に生産性水準の低い国でも比較優位部門が存在し輸出可能であると解いた。この、基本的理論ベースの上に、IMF-GATT体制およびその崩壊後のWTOによる戦後の自由貿易推進過程が存在する。しかしながら、この過程は同時に不均衡拡大過程でもあった。それは、貿易摩擦問題、オイル・ショックと債務危機問題、多国籍企業の直接投資と新興工業国の台頭、アメリカの双子の赤字問題と基軸通貨問題、通貨危機の発生、そして国際環境問題などの形態をとって現れている。このように、現在の世界経済を概観するとともに、経済統計や制度・政策等を参照・比較しつつ世界経済の現状を理解する基本的な視点を学ぶ。	
	現代の経営	本講義は、「現代の経営の仕組み」とそれをとりまく「社会・経済」についての基礎的な知識を獲得すること、それを通じて今日、「現代の経営」に社会的に何が求められているのか学ぶことを主たる目的としている。このため、講義では基礎的な知識の内容そのものも、もちろん展開されますが、あわせて「現代の経営を学ぶ上で何を知らなければならないのか」を理解することが重視される。そして、この講義では、単に教科書的な知識をつまみあげるだけではなく、実際の「現代の経営」について具体的なイメージをもてるようにトピックス(企業事例)から理論学習にはいるように工夫されている。	
	社会と福祉	社会福祉の歴史的展開をたどるとともに、人間らしく生活することへの基本的理解を深め、現代における社会福祉の意義や問題について考察するが、その際には国際比較の視点から福祉制度における先進的な取り組みについても認識し、今後の福祉社会を展望できるようにする。	
	災害と安全	災害が人間生活、国土にどのような影響を及ぼすかを事例(自然災害・都市災害など)を通じて論じ、災害の発生原因、メカニズム、被害構造、補償制度について自然科学的・社会的に、総合的に理解する。その際、地域レベル、政府レベル、地球レベルでの防災システムのあり方を、国連・政府・自治体・民間の活動を通じて学ぶ。	
	新しい日本史像	一国史としての日本史は現在大きな転換点を迎えている。自国のための閉じた説明系ではなく、広く世界・アジアの人びとと対話できる日本史像が求められている。授業では、そのような日本史像の一端を紹介し、広く人文科学・社会科学・自然科学の歴史的観点から捉える力を養っていく。また、日常生活には、これまでの歴史が集積しています。それらを解きほぐし、自らの歴史的位相を確認して、現代社会の問題点について考えていく。	
	中国の国家と社会	1912年までの中国は、Imperial China(中華帝国)と呼ばれた。「帝国」には、皇帝・官僚による専制支配及び多民族国家という属性があるが、これは全く過去の遺物の話ではなく、現在に通じる構造であり、俗に「帝国」と称される国家も中国一国ではない。その中でも中国は、過去との連続性において際だった「国」「地域」です。学生諸君はこうしたユニークな隣国を、「帝国」の発生に遡って理解することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	東アジアと朝鮮半島	日本海(朝鮮語では東海)を囲む東アジア地域(朝鮮半島、台湾をふくむ中国、日本、ロシア極東)は、旧時代の遺物ともいえる冷戦的な思考様式や政策がいまなお息づく世界である。朝鮮半島には、なぜ、韓国(大韓民国)と北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)という二つの国家が存在するのだろうか。北朝鮮と日本は、なぜ、いまだに国交しないのか。韓国や中国は、なぜ、ことあるごとに日本の歴史認識を問うのだろうか。東アジアの地域協力や地域統合はなぜすすまないのだろうか。東アジア世界をとりまくこうした問題群は、単にこの地域の“現在”についての平面的な解説ではすまされない論点を含んでいる。それらの点をふまえ、この講義では、朝鮮半島を中心に、今日の東アジア世界がかかえる問題をその起原(日本の植民地支配やアジア侵略、さらには第二次大戦後の朝鮮半島に対する米ソの分割占領)にまでさかのぼって解説し、受講生の皆さんが今後の東アジア世界の平和と繁栄を考え、議論するうえでの素材としていく。	
	ヨーロッパの歴史	今日、EU統合を成し遂げたヨーロッパはグローバル化の中で新たな歴史的局面を迎えている。古代ローマ帝国の解体後、ユーラシア大陸の西の片隅に徐々に形成されたヨーロッパは際立った特徴を持った圏域を形成した。きわめて多様な過去と伝統を持つ諸民族集団が交渉と融合を繰り返しながらいかにして共通の文明を形成したのだろうか。また、世界史上稀に見る拡大のダイナミズムの秘密はどこにあるのか。こうした問いをめぐって主体的に歴史を考える。	
	アメリカの歴史	アメリカ合衆国は、幕末以降、現代に至るまで日本にとって最も重要な「隣国」であり続けた。日米は高度に発達した資本主義社会として多くの共通点を持つが、異質な点も多い。アメリカは、移民や奴隷を導入して発展したので人工的な理念の共和国であり、一貫して拡張主義政策を取ってきた。この科目は、受講生がアメリカ合衆国の現実を理解し、自分の頭でアメリカや日本を考えていくことができるようになること目的とする。	
	イスラーム世界の多様性	「イスラーム」が「悪者」の代名詞のように語られている今日の誤った認識と偏った報道の真相を暴き、本来の「イスラーム」とはどのような教えなのか、その歴史と思想に関する理解を深める。同時に、今日、世界人口の五分の一を占め、なお信徒が増え続けるイスラーム世界の広がり多様性に目を向け、ひとびとが「イスラーム」に何を求めるのかを考え、欧米中心の「近代社会」の問題点を明らかにする。	
	宇宙科学	宇宙的広がり(百数十億光年)、宇宙的歴史(百数十億年)、天文学的な数の星(1千億の銀河xその中の1千億個の恒星)の中で、宇宙がどのように理解されてきたかを知り、また大気・水・生命を持つ地球はこれらの中でどう位置づけられるのかを、ミクロとマクロの現代科学的視点から考える。	
	地球科学	生命・水・大気・大地が相互に影響しあいながら、46億年という長時間をかけて地球は変化してきた。水・大気・大地それぞれのダイナミクスと相互作用を、現代科学的視点から考え、日常経験する複雑な自然現象の根本原理が実は単純なことを学ぶ。	
	科学と技術の歴史	自然科学の成立・発展と、技術の発達の両者を区分し、それらを系統的、通史的に学ぶ。またとくに産業革命以降、科学と技術がどのように相互に影響しあい、歴史的に発展してきたのか、その現代的、社会的展開も明らかにしていく。	
	科学・技術と社会	文・社系の学生の動機付けにもつながるようなトピックスをとりあげながら、科学技術にかかわる現代的な社会問題、あるいは産業経済との関わりやその日本的特質などを通じて、科学技術の果たしている社会的役割、影響、および問題点を明らかにする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	情報技術と社会	社会は急速に情報化社会に移行している。すなわち、大量生産による効率向上を目指した社会から、個性化重視の情報化社会に移りつつある。本科目では、情報化社会を支える情報技術について学ぶとともに、情報技術によって人々の社会生活がどのように変わってきているのかを、具体的な例をあげて考察する。	
	平和学入門	わが大学は、先のアジア太平洋戦争に際して、多数の学生を戦地に送り、数千人の先輩が非業の死をとげたという痛苦の歴史をもっています。この「わだつみ(海神)の悲劇」を繰り返させないためにどうしたらよいかという模索が、戦後のわが大学の歩みのなかに刻印されている。とくに「核と宇宙の時代」にあつて、核兵器などの大量殺戮兵器を使う戦争や原子力発電所を標的にしたテロや紛争が起これば、地球社会の持続的発展は致命的な打撃を受けている。このような脅威をとりのぞき、憎悪と戦争の悪循環に歯止めをかけ、戦争の根を絶やしていくには、どうすればよいのだろうか。この科目では、人類がこれまで蓄積してきた英知と実践の総体をふまえて、これらの問題を考察していく。	
	現代の人権	21世紀を考えるキーワードとして、人権、環境、平和、ジェンダー、宗教、民族などがあり、そのすべてが、「人間が人間らしく生きること」を目指しており、人権はその中心にある。今日、人権ほど広く用いられている言葉は少ないが、明確に説明できる人は少ない。本講義では、人権の基本的な概念と歴史、さらにいくつかのトピックを取り上げて、人権の理論と実際を分かりやすく理解することを目指す。	
	日本の近現代と立命館	本学で学ぶ者にとって共通した「身近な場」である大学の歴史を通して、日本近現代史を学び、今日我々が直面している近代化のひずみ、教育の危機などの問題を身近な視点から再考する。	
	戦争の歴史と現在	20世紀の戦争は、国家資源を総動員した総力戦として戦われ、かつてない大量殺戮の世紀となった。そして新世紀も、テロと報復戦争の応酬に示されるように、暴力と戦争の影をひきずって出発した。戦争という病的な国際関係は、なにゆえ生まれるのだろうか。ここから、どのような教訓をひきだしたらよいかを学際的な手法を用いて考察していく。	
	国際平和交流セミナー	国際平和交流をテーマに国内外でのフィールドワーク、講義、討論などを行う。現地での体験学習を通して相互交流と理解を深め、国際的観点から平和を捉える力を養うとともに、世界平和の構築、国際相互理解と協力の道を探り、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てる。	
	英語とアメリカ文化(海外留学プログラム)	ボストン大学の付属英語教育機関であるCELOP(Center for English Language and Orientation Programs)で集中的に学ぶ国際教育の入門的プログラムである。英語力の総合スキルアップと海外の大学での学修方法を身につけるため、以下の目標のもとに実施する。 1)米国でも有数の高いレベルを誇る大学の英語教育機関で、集中的・専門的に学び、英語によるコミュニケーション能力とアカデミックスキルの向上を目指し、今後の海外留学を視野に入れた英語力を修得。 2)米国でも有数の学園都市ボストンで学習しながら、米国文化・社会への認識を深め、国際的視野を広げる。 3)ボストン大学のキャンパス内に所在するCELOPで集中的に学び、ボストン大学の正規授業も聴講可(英語力によっては代替の授業になる可能性有り)。米国の大学の授業を体験し、今後の海外留学の足がかりとなる学修技法を修得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	異文化理解セミナー(海外留学プログラム)	<p>正課の外国語教育を補充し、国際的視野を養う国際教育の入門的プログラムであり、次に挙げることを目的として実施する。</p> <p>1)海外において外国語を集中的に学び、実践的なコミュニケーション能力の伸長を図り、今後の長期海外留学を含めた更なる学習の足がかりとする。</p> <p>2)講義や各自の興味・関心に応じたレポートの作成等を通じて、その国・地域についての体系的な理解・知識を深め、幅広い視野と国際的感覚を養うとともに、日本の伝統・文化や社会状況を現地で紹介すること。</p> <p>3)時には多くの困難やストレスを伴う異文化環境下での生活体験を通じて、異なる価値観・考え方・生活様式・習慣への適応性を養うこと。</p> <p>4)外から日本を客観的な角度で見つめ直すこと。</p>	
	文化・社会調査(海外留学プログラム)	<p>英語の力量に関わりなく、アメリカのボストンへの社会的・文化的関心を持ち、海外体験を希望する学生を対象とする国際教育の入門プログラムである。</p> <p>英語を通じてアメリカの社会や文化に関して学ぶ海外体験を持ち、国際的視野を広げ、今後の海外留学を含めた更なる学習の足がかりとする。</p> <p>午前中は全員が英語の授業を履修。英語のトレーニングを中心に、それぞれの専門プログラムに必要な専門用語や知識などを学ぶ。午後は2つの選択テーマごとに分かれて学習をする。教室だけの枠にとらわれず、プログラムに関連する現地施設を見学したり、実習を行う。</p> <p>① アメリカ文化：アメリカの歴史が始まったボストンの史跡等を訪れアメリカ文化を肌で感じ、理解を深める。</p> <p>② ビジネス英語：午前中はメール、ビジネスレター、電話などの英語表現を、午後は企業や組織を訪問しアメリカのビジネスについて実践的に学ぶ。</p>	
	アメリカ社会(海外留学プログラム)	<p>ボストンの名門女子大学において、「アメリカ社会とアメリカの国際関係」をテーマに著名な教授が行う講義で、英語による専門科目を学ぶレベルの高いプログラム。</p> <p>アメリカの社会・教育・政治の生い立ちとシステムを学び、それらがアメリカの外交政策にどのような影響を与えているのか、また世界のリーダーといわれるアメリカと諸外国との関係はどこに向かうのかを考える。</p> <p>滞在中は学生寮に滞在し、現地学生と交流する機会があるほか、ボストン近郊およびニューヨークへのフィールドトリップを通して、アメリカ社会や文化への理解を一層深める。</p>	
	日豪関係Ⅰ(海外留学プログラム)	<p>本講義は、Reading, Writing, Listening, Speakingの4技能を総合的に向上させ、自分の意見を論理的に構築し他者とのコミュニケーションを通じ発信できる方法についてTBLを中心に学ぶ。より高度な留学を見据え、現地大学で使用するテキストを読みこなすための英語力、また現地大学での学び方について実践的に学習し、エクスカージョンで訪れる土地への理解、学問への理解を深めるための導入講義の位置づけである。</p>	
	日豪関係Ⅱ(海外留学プログラム)	<p>本講義は、チュートリアル型ディスカッションの講義であり、オーストラリアの文化・歴史・環境・芸術・日豪関係を反映した内容である。授業を通し、他科目の内容を補強し、またディスカッション・理解力・リスニング力等も併せて促進する。</p>	
	日豪関係Ⅲ(海外留学プログラム)	<p>本講義は、フェザーデール・ワイルドライフ・パーク、アボリジニセンター、キャンベラ、シドニー湾等を見学し、異文化理解、「文化」「歴史」「地理」への理解を深める。日豪関係Ⅰ,Ⅱで学んだ内容を踏まえ、訪問先の土地、施設での文化体験を通し、日豪関係への理解を深める。</p>	
	日豪関係Ⅳ(海外留学プログラム)	<p>本講義は、設定したテーマへの調査研究を行い、理解を深め、リサーチスキルを学ぶ。マコーリー大学および大学内関連施設等を利用し、個人研究や、オンライン課題に取り組む。講義に留まらず、講義外での活動や大学内で開催される活動を通して学んだ内容を含めた研究を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	平和学Ⅰ (海外留学プログラム)	本講義は、北米大学での講義に臨む姿勢や授業で提出するレポートの書き方 (Academic Writing) について理解を深め、また、関連する「平和学」の学びを深めるための基礎知識を習得する授業である。 具体的には、読む技能 (課題文書の情報源を評価し、要約・分析)・筆記技能 (note-taking)・語彙力・書く技能 (言い換え、引用方法、アカデミックライティングの技法)・話す技法 (読む技能と調査を基本としたショートプレゼンテーションやディスカッションの技法) について具体的に学ぶ。	
	平和学Ⅱ (海外留学プログラム)	本講義は、レベル分けテストの結果を踏まえ、文法、リスニング、スピーキング、発音、リーディング、ライティングなどテーマごとに分かれたクラスを選択して受講する。 授業の到達点は、英語の特定要素を改善することであり、選択する科目によってそれぞれの技能を深め、特定のゴールに向けて集中的に学び、他の講義科目をサポートするクラスである。	
	平和学Ⅲ (海外留学プログラム)	本講義は、マハトマ・ガンジーの人生を通して、平和と紛争の歴史的な関連について、現代社会における意味や受け継いでいることを考察する。特に、授業内ではマハトマ・ガンジーの非暴力・不服従の哲学、20世紀のインドにおけるガンジーの役割、現代社会におけるガンジーの役割について学ぶ。	
	平和学Ⅳ (海外留学プログラム)	本講義は、アフリカ系アメリカ人の非暴力公民権運動の背景と意義について学び、現社会で受け継いでいるものについて理解を深める。この授業内ではどのようにして非暴力手段を利用することができるのか、このような行動が広範囲に影響を与えることができるのか、理解を促進することができる。 前半での講義では、非暴力公民権運動の北米での公民権運動を学び、人種差別、アフリカ系アメリカ人が様々な社会的・文化的差別に抵抗してきたかについて、授業中盤ではこのような運動を通して台頭してきたリーダーや、非暴力運動に到る方法論について学ぶ。	
	平和学Ⅴ (海外留学プログラム)	本講義は、戦争や紛争などから誰が利益を得ているのか、民族性、人種、宗教などからどのように利用されるのかなどについて、事例に基づき考察し、戦争や紛争の原因を探る。 また、授業内では、「暴力」が持つ2つの側面にフォーカスし、「暴力」はどのようにして引き起こされるのか、また、「暴力」をどのようにして防ぎ、回復出来るかについて学ぶ科目である。この講義は、講義、指定図書、ジャーナル記事、ドキュメンタリー映画を通して学ぶ。また授業最終段階ではレポートを作成する。	
	環境と人間Ⅰ (海外留学プログラム)	本講義は、北米大学での講義に臨む姿勢や授業で提出するレポートの書き方 (Academic Writing) について理解を深め、また関連する「環境と人間」の学びを深めるための基礎知識を習得する授業である。 具体的には、読む技能 (課題文書の情報源を評価し、要約・分析)・筆記技能 (note-taking)・語彙力・書く技能 (言い換え、引用方法、アカデミックライティングの技法)・話す技法 (読む技能と調査を基本としたショートプレゼンテーションやディスカッションの技法) について具体的に学ぶ。	
	環境と人間Ⅱ (海外留学プログラム)	本講義は、レベル分けテストの結果を踏まえ、文法、リスニング、スピーキング、発音、リーディング、ライティングなどテーマごとに分かれたクラスを選択して受講する。 授業の到達点は、英語の特定要素を改善することであり、選択する科目によってそれぞれの技能を深め、特定のゴールに向けて集中的に学び改善し、講義科目の理解をサポートするクラスである。	
	環境と人間Ⅲ (海外留学プログラム)	本講義は、フィールド調査によって、シアトル周辺の自然環境、動植物の生息環境に触れ、「レストレーション・エコロジー (再生生態学)」と環境にかかわる概念、問題について学び、総合的な知見を得る。植物を判別する能力、自然に対する感受性を磨き、ワシントン州内で発見された生態系について学ぶ。そして、環境を考慮した持続可能な実践例について学ぶ。また、講義の総括として学生は自然に関する日誌を作成し、環境、生態、自然に対する総合的理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	環境と人間Ⅳ (海外留学プログラム)	本講義は、人間と環境の関係性にフォーカスし環境調査を進めるにあたり、調査方法や分析手法について学びを深める。特にシアトル市内の都市化された環境やその周りに及ぶ郊外の自然環境がどのように海岸沿いの雨林、生態学、そして地形的な特徴と統合されるかについて、実験、描写や質疑応答、都市の生態系の観察等を通して学ぶ。	
	環境と人間Ⅴ (海外留学プログラム)	本講義は、環境領域に関するテーマを各自設定し、担当教員の指導の下、調査し発表することが到達点である。テーマの内容は、プライマリーリサーチとして、シアトル近隣の4つの訪問先からひとつを選び、グループでリサーチを行う。パワーポイント等を使用しグループ発表を行い、歴史・現代文書、アーカイブ、新聞、近隣コミュニティへのインタビューや施設訪問を通して得た情報を、最終グループ発表をし学びを深める。	
	環境と人間Ⅵ (海外留学プログラム)	本講義は、特定の学問領域に留まらず、経済学、環境学、社会学の視点を用いて持続可能な企業活動、環境事業について考察し、それに伴う企業の社会的責任について学ぶ。授業内では、ビジネスにおける持続可能性と社会貢献との関係性、効果的に持続可能なビジネスの実践を実施し、評価するための手段や方法技能を高めるか、これらの概念を基に自国の社会にどのように導入するかについて考察する。	
	環境と人間Ⅶ (海外留学プログラム)	本講義は、ecosystemとecosystem servicesの主要な問題について理解を深めることである。人間慣習および行動が持続性可能性の概念に精通しているか、なぜ持続可能な慣習や国家・都市・個人にとって重要であるか、ローカルレベルでの課題が地球規模問題に関連しているかについて、批判的思考や、ディスカッション、ライティングに関する理解を深める。	
	言語・文化・社会AⅠ (海外留学プログラム)	アメリカの文化・社会に関するトピックスをとりあげた、アカデミックなテキストやフィクション等の英語文献を読解する。スキムリーディング、スキミング、拾い読み等、多様な読書術を身につけるとともに、正確に読み取ることをも学習する。辞書を多用することで、ことばがもつニュアンスなどより文化的背景についても学習し、と同時に必要な語彙を増やす。そして最終的にアメリカ文化・社会について考察する。	
	言語・文化・社会AⅡ (海外留学プログラム)	アメリカの文化・社会に関するトピックスをとりあげた、アカデミックなテキストやフィクション等の英語文献を読解する。多様な読書術を身につけるとともに、正確に読み取ることをも学習する。辞書を多用することで、ことばがもつニュアンスなどより文化的背景についても学習し、と同時に必要な語彙を増やす。そして最終的にアメリカ文化・社会について考察する。	
	言語・文化・社会AⅢ (海外留学プログラム)	英作文の実践、とくにアカデミック・ライティングを中心に学習する。パラグラフ・ライティングから始め、段階的に授業を展開する。と同時に様々な英文の特定の表現に注目し、それがどのようなコンテキストで用いられているかを学習し、英語文化、とくにアメリカ文化について考察する。	
	言語・文化・社会AⅣ (海外留学プログラム)	英作文の実践、とくにアカデミック・ライティングを中心に学習する。英語でパラグラフから始め、エッセイを書くまでをめざす。と同時に様々な英文の特定の表現に注目し、それがどのようなコンテキストで用いられているかを学習し、英語文化、とくにアメリカ文化について考察する。	
	言語・文化・社会AⅤ (海外留学プログラム)	英文の構造についての知識を向上させるため、主に英文法の重要な観点について学ぶ。次に学習した英文法の知識を、英語の他スキル(リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング等)と結びつける。そしてアメリカでの実生活のなかでのコミュニケーションの取り方について考える。	
	言語・文化・社会AⅥ (海外留学プログラム)	英文の文法的構造について学び、その知識を実際に英語の読解や作文に用いて、実践的な英語能力の育成、英語でのコミュニケーション能力の向上をはかる。と同時に実際にアメリカでコミュニケーションをとる際の文法の果たす役割について考察する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	言語・文化・社会AVII (海外留学プログラム)	アメリカに関するオーディオ教材や視覚教材を聴くことを中心にして、アメリカ英語の理解力を高める。と同時に英語で話す訓練もおこない、そのための語彙を増やすことで、コミュニケーションのスキルを向上させる。	
	言語・文化・社会AVIII (海外留学プログラム)	アメリカに関するオーディオ教材や視覚教材を数多く聴いて、アメリカ英語を聴き取る力を高める。と同時に、語彙も増やし、発表等の訓練もおこない、アカデミックな場での英語でのコミュニケーション能力を高める。	
	言語・文化・社会AIX (海外留学プログラム)	①アメリカのイディオム的な表現や人が日常使用する、辞書に掲載されていない英語の使い方を中心に学習する。それらの表現の意味、ニュアンスについて、議論して、その意味の多様性について探り、言語の変化と文化・社会との関係について考察する。 ②日常生活あるいはアカデミックな環境あるいはビジネスの環境で英語を使用するときに必要な聴き取りのスキルを中心に学習する。実際に教材や講義等で要点と特定の詳細を聴きとってノートをとる練習をおこない、講義の種類、トランジションのための表現、アカデミックな表現を習得する。 ③多様なメディアで取り上げられた、アメリカの国内外のトピックについて議論し、そのトピックについての理解を深め、アメリカの文化・社会について考察する。と同時に有用な表現を学び、自己の意見を英語で効果的に表現することを習得する。 ④TOEFL対策のためのテキスト等を用いて、英語の4つのスキルの力を向上させる。テキスト以外にもオンラインを含めて授業時間外の教材を積極的に用いて語彙を増やし、英語の聴き取り能力を高め、課題のライティングで英作文力を向上させる。 Experimental College (オンライン上のカレッジ) への参加や、コミュニティ活動なども活用可能である。そしてコミュニケーションにおけるアメリカの文化的背景、アメリカ言語文化について考察する。	
	言語・文化・社会AX (海外留学プログラム)	①アメリカの日常生活、それにアメリカの大学でのコミュニケーション・スキルについて学習する。キャンパス内でのインタビュー等を経て、発表をし、コミュニケーション・スキルを実践・向上させる。 ②英語でもっともよく使われるイディオムやスラングについて、読む、聞く、書く、話すという活動を中心に学習する。英語表現の意味のみではなく、ニュアンスをも知ることが必要で、それには各表現に付随する社会的あるいは文化的知識、常識をも習得する。 ③多様なメディアで取り上げられた、アメリカの国内外のトピックについて議論し、そのトピックについての理解を深め、アメリカの文化・社会について考察する。と同時に有用な表現を学び、自己の意見を英語で効果的に表現することを習得する。 ④アメリカ英語の発音を中心に学習する。毎回、特定の発音の課題に焦点をあて、発音の多様な要素について講義をうけ、様々な技術を用いて各自の発音を改善する。 ⑤パブリック・スピーキングの方法を中心に学習する。英語を話す力の向上のみでなく、コミュニケーションに従事するときの話者・聞き手の心理についての知識、系統立てて話す手法や即興の応対の方法、事前準備としてのリサーチスキル、パワーポイント等の視覚的効果をねらった手法の習得も予定されている。そのうえでアメリカ文化におけるコミュニケーションの特性について考える。	
	英語UBC・JP作文	この授業では、UBCジョイントプログラムでの講義を受講するために必要なアカデミックライティングやリーディングスキルを学ぶ。  アカデミックレベルでのエッセイの書き方の基礎として、様々な種類のアカデミックエッセイにおけるトピックの見つけ方や書き方を学び、個々の段落の構成方法、そして、それらの段落を一つのエッセイにまとめる方法を身につける。 更に記事や論文を多く読むことで、エッセイの書き方を習得し、分析力を養い、理解力を向上させ、語彙を広げていきます。 上記以外に、盗用行為の防止やAPAスタイルによるエッセイの書き方、情報の活用方法、参照、解釈、グラフ、チャート、統計データの使い方といったアカデミックスキルも学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	カナダ研究 (海外留学プログラム)	本講義はカナダが抱える重要な社会問題や論争について学ぶ。カナダの多文化社会はどのように成り立ち、人々に理解されてきたのか、またどのような変遷を経て近代化してきたのかを批判的に考察する。この授業では、ライティングやスピーキングの訓練を通じて、学生自身の経験と関連させながら議論をする能力の向上を目指す。なお、本講義は正規科目受講に向けた導入講義として位置づけられている。	
	異文化間コミュニケーション (海外留学プログラム)	本講義は異文化間の理解やコミュニケーションの手段、形態、歴史の変遷に関して、比較文化研究の観点から学ぶ。講義には2つのテーマが設定されている。前半講義では「環境問題のガバナンス」をテーマとし、気候変動の原因や影響、また環境問題に関する政策形成における経済や文化の役割について理解を深める。後半講義では「移民と文化」をテーマとし、各国の移民政策や、異文化環境が人々の生活にもたらす影響について学ぶ。文化の衝突や融和についてさまざまな理由を検討し、異文化間の中での宗教・経済、政治の意義について考える。	
	環太平洋研究 (海外留学プログラム)	本講義は、環太平洋地域における日本とカナダの役割を、この地域の地理的、歴史的、文化的、経済的特徴から考察する。環太平洋地域は世界的に見ても劇的な経済発展を遂げた地域であり、今後ますます技術開発が重要となる。環太平洋地域が形成されてきた軌跡をたどり、現在の経済、政治状況を踏まえて様々な側面から環太平洋地域に対する理解を深める。	
	言語・文化・社会BI (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関する様々なトピックを紹介した英語文献を読み、その事象の文化的背景を考え、それについて英語で話す力の向上をめざす。議論によってそれらについての理解を深める。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BII (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関する様々なトピックを紹介した英語文献を読み、それに関する講義、オーディオ教材、プレゼンテーション、ディスカッションを聴きとる能力の向上をめざす。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BIII (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関する様々なトピックを紹介した英語文献を読み、英語の読解力の向上をめざすとともに、その事象の文化的背景を考える。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BIV (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関する様々なトピックを紹介した英語文献を読み、その事象の文化的背景を考え、それについて英語で書く力を養う。また基本的な文法のみならず、punctuation、比較・対比の書き方、パラグラフ・ライティングの基礎知識について学ぶ。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BVI (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関する様々なトピックについての英語文献を読み、アカデミックな英語力、とくに英語で話す力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析し、とくにカナダについて関連づけて議論することをめざす。難易度は「言語・文化・社会BI」より高い。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BVI (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関する様々なトピックについての英語文献を読み、アカデミックな英語力、とくに聴き取り能力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。難易度は「言語・文化・社会BII」より高い。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	言語・文化・社会BVII (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関する様々なトピックについての英語文献を読み、アカデミックな英語力、とくに英語文献の読解力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。難易度は「言語・文化・社会BIII」より高い。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BVIII (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関する様々なトピックについての英語文献を読み、それについてアカデミックな英語で書く力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。とくに英語でアカデミックな文章を書く力を養成することをめざす。難易度は「言語・文化・社会BIV」より高い。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BIX (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関するトピックについての英語文献を読み、アカデミックな英語力、とくに英語で話す力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。難易度は「言語・文化・社会BV」より高い。英語で発表し、ディスカッションに積極的に参加することとくに焦点をおく。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BX (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関するトピックについての英語文献を読み、アカデミックな英語力、とくに英語で聴き取る力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。難易度は「言語・文化・社会BVI」より高い。そして北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BX I (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関するトピックについての英語文献を読み、アカデミックな英語力、とくに英語の読解力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。難易度は「言語・文化・社会BVII」より高い。最終的に北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BX II (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関するトピックについての英語文献を読み、アカデミックな英語力、とくに英語を書く力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。難易度は「言語・文化・社会BVIII」より高い。とくにアカデミック・ライティングの基礎知識を習得することをめざす。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BX III (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関するトピックについてのアカデミックな英語文献を読み、アカデミックな英語力、とくに英語で発表し、議論する力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。難易度は「言語・文化・社会BIX」より高い。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BX IV (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関するトピックについてのアカデミックな英語文献を読み、アカデミックな英語力、とくにアカデミックな講義、議論を聴き取る力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。難易度は「言語・文化・社会BX」より高い。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	言語・文化・社会BX V (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関するトピックについてのアカデミックな英語文献を読む力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。難易度は「言語・文化・社会BXI」より高い。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	言語・文化・社会BXVI (海外留学プログラム)	本講義では、北米社会に関するトピックについてのアカデミックな英語文献を読み、それについてアカデミックに書く力を向上させるとともに、その事象の文化的様相を分析する。難易度は「言語・文化・社会BXII」より高い。最終的には北米、とくにカナダの社会、文化、アカデミックな環境で、英語で効果的に、自信をもって活動できることをめざす。	
	海外スタディ	海外スタディは、国内での学習との連動を重視しながら、特定のテーマにもとづき海外大学で学ぶアカデミックラーニングタイプと特定のテーマで調査・研究活動を行なうフィールドワークタイプとを用意しています。	
	日本の社会	日本の社会の現状について、その歴史的形成とも関わらせて多目的に考察します。具体的な社会問題を題材にして、留学生の母国の状態と比較しつつ認識を深めます。世界と比較しての日本社会、現状がかかえる社会問題などを通し、自国の状態と比較しつつ日本社会の特徴を理解します。	隔年開講
	日本の文化	日本の文学や歴史書などを通して、多角的視点から日本の文化について知識を身につけます。留学生の円滑な異文化適応を促進し、日本の社会や文化を理解するための積極的な態度や能力を養うことに留意します。日本の文化や歴史を学ぶと同時に、自国の文化に関する認識を再考することを目標とします。	隔年開講
	日本の経済	日本経済を歴史的背景を考慮しながら概観し、現在の日本が抱える経済問題を議論します。日本の経済に関わる歴史的背景を理解すると同時に、日本の経験が途上国をはじめとする他国の政策にどのような含意を持つか検討できるようになることを目標とします。	隔年開講
	日本の経営	日本の企業経営の歴史的展開と問題点をふまえて、現在の企業経営には何が求められているのかを、企業の社会的責任の立場から考察し、留学生の母国との比較をすることで、自国の理解にも役立ちます。日本の企業経営に関する概要や問題点について理解することを目標とします。	隔年開講
	日本の自然	日本列島の四季が織り成す多様な自然環境について紹介し、日本列島に棲息する生物世界を中心に、それらの多様性について解説します。日本の自然への理解を深めるとともに、世界各地の生物の生活の多様性を認識できる眼を養うことを目標とします。	隔年開講
	日本の科学技術	日本の科学技術についての多様な事例を取り上げながら、留学生がそれらの現状を理解し、自らの専門分野とのかかわりの中で考え、理解を深めます。日本の科学技術の現状を理解し、自らの専門分野との関わりについて述べる事が出来ることを目標とします。	隔年開講
	日本事情特殊講義	大学で学ぶ専門領域の背景をなす日本についての基礎的、包括的知識を与えることをめざします。また、各学部での専門分野に関する語彙を体系的・系統的に学べるよう配慮します。単に基礎的な知識を網羅的に提供するのではなく、留学生の円滑な異文化適応を促進し、日本の社会や文化を理解するための積極的な態度や能力を養うことに留意します。自身の専門分野に関する語彙や基礎的知識を修得し、今後の専門科目での学びを円滑に促進することを目標とします。	
	日本事情入門 I	日本の戦後史を特に社会、文化の角度から振り返り、併せて戦後日本とアジア、特に東アジア(中国、台湾、韓国)、東南アジアとの関係にも目配りをして、我々が今暮らしている現在の日本の形成プロセスを明らかにしていきます。現代日本のさまざまな問題を歴史的に見る思考方法を身につけていきます。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	日本事情入門Ⅱ	日本の伝統文化、古代から近世にいたる日本文化を、その歴史的特徴とともに紹介します。 日本と中国・韓国などアジアの国々との文化的交流の視点から授業を進めます。 日本の伝統文化について理解を深めます。日本とアジア諸国(特に中国及び朝鮮半島の歴代王朝)との歴史的な交流について理解を深めます。	
	日本語学Ⅰ	現代日本語を理解するために必要な言語学知識を身につける。言語学の基本的な考え方・分析方法を知るとともに、他言語との比較も行い、現代日本語の特質を把握することを目指します。 現代日本語の音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論などの基礎的手法を習得します。	
	日本語学Ⅱ	現代日本語の文法を言語学的手法を用いて再理解するクラスである。初級から上級に至る日本語文法項目について、言語学的に分析することにより、日本語の特質を把握することを目指します。 現代日本語の統語論、意味論、談話理論等をもとに、日本語文法の特徴を理解します。	
	留学生数学Ⅰ	海外での数学教育と日本での数学教育との差分を補完することを通じて、微分積分学、線形代数学などの数学の基礎に関して、留学生数学Ⅱより基礎的な内容を学習します。 微分積分学、線形代数学などの数学の基礎に関して、留学生数学Ⅱより基礎的な内容を習得します。	
	留学生数学Ⅱ	海外での数学教育と日本での数学教育との差分を補完することを通じて、微分積分学、線形代数学などの数学の基礎に関して、留学生数学Ⅰより応用的な内容を学習します。 微分積分学、線形代数学などの数学の基礎に関して、留学生数学Ⅰより応用的な内容を習得します。	
	留学生物理Ⅰ	海外での物理教育と日本での物理教育との差分を補完することを通じて、力学、電磁気学などの物理の基礎に関して、留学生物理Ⅱより基礎的な内容を学習します。 力学、電磁気学などの物理の基礎に関して、留学生物理Ⅱより基礎的な内容を習得します。	
	留学生物理Ⅱ	海外での物理教育と日本での物理教育との差分を補完することを通じて、力学、電磁気学などの物理の基礎に関して、留学生物理Ⅰより応用的な内容を学習します。 力学、電磁気学などの物理の基礎に関して、留学生物理Ⅰより応用的な内容を習得します。	
	地域参加学習入門	現代社会を生きる上での求められる市民的教養、すなわちシチズンシップを涵養します。学習者と生活者の両側面の視点を統合し、多様な地域活動に参加して他者との相互作用の中で学ぶ「学び方」を習得する。	
	シチズンシップ・スタディーズⅠ	初年次から履修できるサービラーニング手法を用いた演習型科目として、特に地域社会の事業への参加と運営の補助を通じて、問題発見と課題探索の実践に取り組みます。具体的には、事業(講演会をはじめ各種イベント等)の着手から終了までの一連の過程を知り、そこに携わる人々の役割や責務を体験的に学びます。それらによって、他の関連科目(群)への継続学習を促し、倫理観・正義感・責任感の涵養への関心を促す。	
	シチズンシップ・スタディーズⅡ	低回生配当のサービラーニング手法を用いた演習型科目として、各学部における専門学習への導入時に培われた自己と社会への学問的な関心に基づき、グループ単位で事業(講演会をはじめ各種イベント等)の運営を補佐し、問題解決の実践に取り組む。具体的には、各種の実践の到達点と課題から、新たな活動を設計・構想するための集団的な活動の意義と、それらに参加する者に求められる素養を学ぶ。それらによって、自己を省察し他者との互惠を導く経験学習の機会とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	現代社会のフィールドワーク	地域課題のうち、個別具体的な社会問題（イシュー）のテーマを設定し、問題の対処と解決方法を検討する科目である。そのため「多様な地域課題の理解」「他者との相互作用の中での学び方」の習得を前提とした受講生による自主活動（フィールドワーク）を重視する。	
	ソーシャル・コラボレーション演習	サービスマーケティング手法とプロジェクト学習を効果的に組み合わせ、自己と社会の未来を構想・設計する演習型科目である。具体的には、単に事業活動に参加するのではなく、実践家等との協働から組織マネジメント（マーケティング・企画立案・工程管理・予算管理等）に携わる。そのため、各種の企画立案から評価までの一連の過程を経験することで、対人関係への態度や姿勢を身につけるとともに、自己への洞察力と社会への感性を研ぎ澄ます。	
	全学インターンシップ	日ごろ学んでいる「専攻学問（あるいは、興味や関心をもっている学問領域）」が社会でどのように役立っているのか、その社会的な役割や意義を理解するとともに、学ぶ楽しさや面白さの気づきを、「幅広い業種での職場体験」を通じて検証する。	
	学びとキャリア	大学までの学びを俯瞰し、学びとキャリア形成についての考察を深める。その上で、容易に答えの出ない思想、哲学、数学、教学理念などに正面から向き合い深く思考することで、倫理観や正義感、ひいてはシチズンシップをも涵養する。	
	仕事とキャリア	ビジネス界で活躍する人材を招へいし、キャリア形成に必要な学びについて考察する。さらに、キャリア形成に必須の基本的スキルの習得を行う。	
	社会とキャリア	入学以来の学びを振り返り総括した上で、ビジネス社会や地域社会で活躍する卒業生を、周到な準備の下で取材（学生チームによるヒアリング形式）し、報告書をまとめる演習形式の授業である。	
	スポーツの歴史と発展	人間社会が産み出したスポーツは、社会の発展と変容の影響を受けつつ変化したため、スポーツの概念も多岐・多様な定義がなされてきた。本講義では、人類の誕生以来行われてきた身体文化やスポーツの歴史を紐解きつつ、「人間にとってスポーツとは何か」について論じていく。	
	スポーツと現代社会	スポーツは独自の価値をもっているゆえに歴史的に展開されてきた文化である。今日、世界的規模で吹き荒れる市場原理の嵐に巻き込まれながら、スポーツの価値が多様化してきているといわれている。それは独自の価値を現実的価値として享受するための力量形成が阻害されていることに起因している。さまざまなスポーツ事象をとりあげ、価値現実の阻害要因を明らかにしながら、国民のスポーツ権として結実させていく方途を探っていく。	
	スポーツのサイエンス	スポーツおよび身体活動に関する基礎的な知識を運動生理・生化学を中心にして学び、それらをベースにして、スポーツトレーニング、体力・健康の保持の向上、ならびに生活習慣病予防などに関して実践的な視点からの認識を深める。	
	現代人とヘルスケア	現代の健康問題に個々人がどのように取り組めばよいかについて、身近な生活の中の諸問題をとおして具体的に考えていく。「健康の主人公」像の形成を中核に据え、「健康作りの処方箋」だけでなく「健康の科学」の理論を学習する。	
スポーツ方法実習 I	生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体や、スポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらには実践を通してスポーツの科学的な知識・視点を学び、継続的な生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことを目指す。		

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	スポーツ方法実習Ⅱ	生涯を通してスポーツ実践するために必要な身体や、スポーツ技術・集団に関する幅広い知識と分析能力を身につける。さらには実践を通してスポーツの科学的な知識・視点を学び、継続的な生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことを目指す。	
	教養ゼミナール	教養ゼミナールは、担当教員がそれぞれの専門をもとにテーマを設定し、調査・研究・発表・討議など、学生が主体となって行う小集団の教養科目である。教養ゼミナールでは、学部・回生を異にする学生間での意見交換や学びあいにより、異なる専門からの知的刺激を受けて諸問題を複眼的に見る力を涵養し、より広い視野で自らの専門を見ることが出来る人間になることを目指す。	
	ピア・サポート論	本学では、学生同士による学生支援のシステムが様々な分野で展開され、双方の成長を図っていく視点から、ピア・サポートの取り組みが蓄積されてきた。特に、初年次における学生支援の一環として、高校から大学へと学びの転換を図っていくうえで、ピア・サポーターの果たす役割は大きい。ここで活躍するピア・サポーターを育成するに留まらず、相互支援による学びのコミュニティの裾野を広げていくために、ピア・サポートの理念・目的をはじめ、コミュニケーション能力や課題解決能力の習得、自大学の歴史や基本的な青年期発達理論への理解が必要となる。本授業は、グループワークの手法を活用した演習と講義を組み合わせることで、ピア・サポートに求められる知識、技能、実践力の獲得を目指す。	
	海外フィールドスタディ	夏季休暇もしくは春季休暇中を利用し、海外の大学にて教養や専門的分野等に関して英語で学習し、現地の文化・社会に触れる異文化体験、語学力の修得、また専門分野においてグローバルな視野を身につけること目的とする。授業ではグループワークやプレゼンテーションなども取り入れ、発音やプレゼンテーションスキルの向上をめざす。	
	APU交流科目	立命館アジア太平洋大学 (APU) との間で「単位互換協定」を結び、学生交流プログラムを実施している。「交流学生」として1年間APUに在籍した学生が受講し、単位を取得した科目を認定する。基本的には所属する学部において認定され、卒業に必要な単位として算入される。	
基礎科目	数学A(微分法)	本講義では、薬学を含む生命科学分野において必要と思われる微分法の基礎およびその応用について主に解説する。講義の基礎部分においては、導関数の定義など微分に関する基礎部分から入り、全微分、偏微分などについて概観し、応用部分においては、テーラーの定理、関数の展開などについて概説する。最終的には微分法の基本的な理解と計算技術の習熟を目標とする。	
	数学B(積分法)	本講義では、薬学を含む生命科学分野において必要と思われる積分法について基礎的な部分を主として解説する。まず、定積分の数学的定義から始め基本的性質について説明し、具体的な計算法について説明する。続いて不定積分に進み、数学的な手法の解説に加え簡単な常微分方程式についても触れる予定である。さらに、重積分や曲線や線積分などについても解説する。最終的には積分法の基本的な理解と計算技術の習熟を目標とする。	
	数学C(線形代数)	本講義では、薬学を含む生命科学分野において必要と思われる行列と行列式およびその基礎である線形代数について解説する。初めに線形代数の基礎について解説し、続いて行列の演算、固有値、固有ベクトル、ベクトル空間、正則行列などについて説明する。さらに行列式の基礎と応用について説明する。	
	数学D(確率・統計)	薬学を含む生命科学分野において得られた莫大なデータの統計解析を行い意味ある情報を抽出することは極めて重要である。本講義ではそのような統計解析の基礎となる確率論と統計学の初歩を学ぶ。講義の進め方としては、まず確率と統計の簡単な基礎から始める。続いて確率論的な考え方について解説し、確率分布特に2項分布と正規分布について詳細に説明する。	
	数学演習A	「数学A(微分法)」と「数学C(線形代数)」の講義内容について少人数のクラスで演習を行う。「数学A(微分法)」および「数学C(線形代数)」の講義計画、進行状況と連動させて演習を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	数学演習B	「数学B(積分法)」と「数学D(確率・統計)」の講義内容について演習を行う。「数学B(積分法)」および「数学D(確率・統計)」の講義計画、進行状況と連動させて演習を行う。	
	物理学A	物理学の知見は、他の自然科学に対して重要な基礎となり、他の自然科学の分野の問題の解決にも寄与することも多い。生命科学系の分野においても例外でなく、物理学の基礎を学ぶことは大変重要である。本講義では物理学中でも最も基本的な分野の1つである力学と波動の基礎を取り扱う。力学では運動の法則、保存則、振動を、波動では波動方程式を中心に波動の性質と光学の基礎を解説する。	
	物理学B	物理学の知見は、他の自然科学に対して重要な基礎となり、他の自然科学の分野の問題の解決にも寄与することも多い。生命科学系の分野においても例外でなく、物理学の基礎を学ぶことは大変重要である。本講義では物理学中でも最も基本的な分野の1つである電磁気学を中心に扱う。静電磁気学の基礎を解説し、電磁誘導と電磁波も取り扱う。また、古典電磁気学の破綻に始まる量子論の誕生にも触れる。	
	生物科学	生物学は20世紀に大きく発展し、特に分子生物学の成果には目覚ましいものがある。本教科では、その成果を踏まえて、21世紀に展開される生命科学の基盤となる知識ならびにその応用について論考する。生物の階層構造のうち“個体から分子”の領域に光を当て、「細胞の構造と細胞の代謝等の機能」、「遺伝・遺伝子発現制御」、「発生・分化、細胞内情報伝達、細胞間相互作用」等について、解説する。	
	情報処理演習	<p>コンピューターは、社会における様々な機械の制御に用いられるとともに、インターネットに代表される通信、情報技術も、現代社会で欠く事ができない存在となった。本演習は、コンピューターの仕組みやデータ通信に必要なプロトコルの基礎、コンピューターのオペレーティングシステムとしてのUNIXの基礎、プログラミングにおけるアルゴリズムの基礎について、講義に加え実際にコンピューターを用いた演習を行う。またコンピューターを用いた表計算や統計解析、図表作成、分子構造式の作画、分子モデルの3次元表示についての演習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(115 佐藤 哲大/10回)</p> <p>コンピューターの仕組みやデータ通信に必要なプロトコルの基礎、コンピューターのオペレーティングシステムとしてのUNIXの基礎、プログラミングにおけるアルゴリズムの基礎について学ぶ。実際にオペレーティングシステムLinuxを用いて、シェルを用いたコマンド入力、ファイル操作の演習を行う。</p> <p>(5 北原 亮/5回)</p> <p>実験データの誤差の評価、統計的取り扱いについて学び、表計算ソフトを用いて反応速度の解析や測定の実験データの算出及び図表作成を行う。また分子構造式作画ソフトを用いて、簡単な低分子化合物の構造式を作成する。また3次元表示プログラムを用いて、生体分子構造の3次元表示を行う。</p>	オムニバス
	日本語表現法	大学で学んでいく上で必要とされる日本語文章表現力を養成する。具体的には、原稿用紙の使い方といった表記面、文章の構成を理解する能力、文章を理解し要約した形で表現できる能力、与えられたテーマについて自身の意見を文章に纏める能力、またその文章を論理的かつわかりやすく伝えるための工夫といった基礎的な部分について学ぶ。期間中3回の実作課題を通し、大学生として必要となる上記のような「論理的読解力→考える力→記述力」の養成をはかる。	
専門科目	薬学導入科目	創薬科学基礎演習	1回生に対して人間関係や社会におけるコミュニケーションの重要性を認識させることを目的とした授業を行った後に、創薬すなわち薬を作ることの意義や問題になっていること、医療全般に関わる者に求められる倫理観など導入教育を行う。1)薬がこれまでの流れ、2)安全性と倫理、3)薬に関わる社会的問題、に関しての授業を行う。またテーマ毎に小グループに分かれ、調査・討議、発表を行う。

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
薬学 導入科目	創薬研究概論	<p>生理活性物質の探索、分子設計、有機合成、医薬品への製剤設計など医薬品創製の基礎となる知識を習得し、創薬研究活動全般の理解を目的とする。本講義ではまず、医薬品が基礎研究から非臨床研究、臨床研究を経て市販されるまでの過程を詳細に解説する。さらに、注目すべき医薬品の具体例をあげて、創薬研究の実際について解説する。また、生物製剤と、ヒトゲノムや各種疾患の標的分子の情報に基づくゲノム創薬に関する最新の研究についても講義を行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(2 鈴木 健二/7回) 創薬研究のプロセス(シードの探索、リード化合物の最適化、薬効薬理及び臨床試験)をそれぞれの過程でキーとなる研究手法とあわせて概説する。最新の創薬研究の話題についても紹介する。 (7 土肥 寿文/4回) 天然物由来の医薬品、分子設計と有機化学、さらにプロセス化学について解説する。 (3 高田 達之/4回) 生物製剤と分子標的薬、個別化医療とゲノム創薬について解説する。</p>	オムニバス
	専門 英語	英語JP1	専門分野の語彙・表現を覚え、文献やマルチメディア資料から基礎的な専門分野の知識を英語で学習する。また、専門分野の基礎的なテーマをめぐって簡単なAcademic Projectを行ない、その成果をペーパーにまとめて口頭発表を行なう。
英語JP2		より専門性の高い語彙・表現を学び、文献やマルチメディア資料から、高度の情報を得て、それらを基により高度なプロジェクトを行う。ライフサイエンス分野の先端的研究に英語で直に触れる機会を持つ。	
専門 科目	有機化学A	地球上に存在する多様な化合物群は、多くの元素の中でも炭素を中心に構成されている。有機化学は、炭素を中心とする化合物の化学であり、生命の本質を明らかにする上でも欠かすことのできない基礎分野となっている。「有機化学A」は「有機化学B」とあわせて一つの学問体系をつくり、その前半部として、基本的な有機化合物の物性を理解するために、電子配置、電子密度、化学結合の性質、立体異性体などに関する基礎事項や、アルカン・有機ハロゲン化合物の構造・物理的性質・反応性に関する基本的知識の習得をめざす。	
	有機化学B	化学の基礎となる学問の一つである有機化学を系統的に学ぶため、「有機化学B」の講義を「有機化学A」のつづきとして行い、さらに「有機化学C」、「有機化学D」へと展開する。「有機化学B」では、代表的な官能基を有する有機化合物として、アルコール・エーテルや、不飽和脂肪族化合物であるアルケン・アルキン、さらにカルボニル化合物(アルデヒド・ケトン)の構造・物理的性質・反応性・合成の基本的知識を習得する。	
	有機化学C	生命体の産物である天然物の化学から出発した有機化学は、物理有機化学と「生命活動と関連した化学」の両方の側面を持つ学問である。「有機化学C」では、まず環状化合物であるシクロアルカンや芳香族化合物(ベンゼン)の構造・物理的性質・反応性・合成の基本的知識の習得をめざす。さらに、官能基が有機化合物に与える効果を理解するために、カルボン酸誘導体やアミン類について、反応性およびその他の性質に関する基本的知識を習得する。	
	有機化学D	医薬・農薬・化粧品・生体機能材料・有機電子材料などは、綿密に計画された分子設計に基づき、有機合成の手法を駆使して作り出されたものである。「有機化学D」では、すでに開講された有機化学系科目を復習しつつ、反応論と構造論の上に立脚した有機合成の考え方や、機能性有機化合物の合成戦略、現代的実験操作法について論述する。個々の官能基を導入、変換するために、それらに関する基本的知識や、医薬品を含む目的化合物を合成するための代表的な炭素骨格構築法などに関する基本的知識の習得をめざす。	

授 業 科 目 の 概 要				
(薬学部創薬科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	化 学 系 薬 学	物理化学A	化学の基礎のうち、物理化学分野を取り扱う。気体の巨視的性質と分子運動論から分子の挙動について学習し、つづいて分散力や水素結合といった分子間相互作用について、例を挙げながら学ぶ。次に、エネルギー、熱、仕事について学習し、熱力学第一法則の立場から諸現象を取り扱い、化学反応などを熱量やエンタルピーの立場からとらえる考え方に習熟する。さらに時間軸を含む化学反応速度論、拡散などの物質移動について学ぶ。なお、この科目は「物理化学B・C」の基礎をなす。	
		物理化学B	熱力学第二法則をもとに反応の自発的進行を予言するパラメータとして、エントロピー、自由エネルギーを誘導し、化学反応におけるそれらの取り扱い手法を学ぶ。その過程では、熱力学第三法則エントロピー、自由エネルギーの温度・圧力依存性など各種熱力学式の誘導を学ぶ。さらに自由エネルギーの部分モル量としての化学ポテンシャルやその濃度との関係について学び、溶液の熱力学的取り扱いについて理解を深める。	
		物理化学C	前半は、物理化学Bで学んだことをもとに、溶液化学分野での化学ポテンシャルの取り扱い手法を学ぶ。具体的には、束一的性質、化学平衡、相平衡と相律、状態図などである。後半は、化学の微視的現象を取り扱う手法として、量子化学的考え方を学習する。シュレーディンガー方程式をもとに、箱の中の粒子の運動、トンネル効果、分子の振動、回転などを学び、量子論的考え方の理解を深める。	
		分析化学A	化学の基本的な概念、濃度やモルの計算をはじめ各種物理量の取扱い、有効数字の取扱い等の入門的な内容から授業を開始する。酸塩基平衡の概念を解説した後に、溶液内の水素イオン濃度や緩衝作用について学習する。また、分析化学に利用されている酸塩基反応を実例を挙げて紹介する。非水溶媒中での水素イオンの挙動やドナー数、溶媒の分類等も講義では取り扱っている。酸化還元反応については、平衡論の立場から学習することになっている。容量分析法に利用されている酸化還元反応、酸化還元電位とネルンスト式、電位差測定等がこの範囲に含まれている。	
		機器分析化学	本講義では、はじめに分析機器の基本要素と化学計測の基礎を解説する。続いて、代表的な分析法を中心に装置や測定原理を解説する。原子吸光光度法や発光分析法による金属元素の分析、質量分析法による生体成分や医薬品の分析技術について講義し、機器分析の方法と得られる情報の理解を深める。また、クロマトグラフ法や電気泳動法を中心とした分離分析法について測定原理を中心に解説し、臨床分析への応用についても概説する。	
		分析化学B	溶液内でのイオンが関与する反応を扱うので、イオン強度と活量について解説することから始める。そして、本論である錯平衡、沈殿平衡、分配平衡を分析化学的に扱って講義を進める。錯平衡では、金属イオンと種々のリガンドとの平衡反応の理論と分析化学的に応用されている実例について紹介する。沈殿平衡は古くから多くの分野で分離や濃縮の手段として利用されてきたが、それらの反応系を定量的に扱っている。分配平衡では、溶媒抽出や固-液、気-液、固-気の間での物質の分配を学習しクロマトグラフィーとの関連についても解説する。最後に、測定値の統計処理についても学習する。	
		医薬品製造学	医薬原料、リード化合物としての天然物質と関連する医薬品の合成について概説した後、主な医薬品の特色あるコア構造を説明し、含まれる官能基と医薬品の効果について解説する。また、医薬品の多くで重要なコア構造である複素環、芳香族複素環について説明し、これらの求電子、求核試薬に対する反応性について解説する。さらに、カテコールアミン、アセチルコリン、ステロイド、核酸、ペプチドなどの生体分子を模倣した化合物の構造について説明し、医薬品類の化学製造の全体像を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(薬学部創薬科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	化学系薬学	生体分子解析法	生体分子の定量測定、構造解析を行うための実験方法を概説する。はじめに、分光光学に共通する原理を学んだ後、各種実験法の解説を行う。UV法、蛍光法、赤外・ラマン法では、各エネルギー遷移と分子構造との関係と、構造解析への応用を解説する。旋光分光法(CD法、旋光分散法)では分子の不斉性を、光散乱法では、高分子の大きさや形の決定法を解説する。磁気共鳴法(ESR、NMR)では、その原理と構造解析の方法を解説する。質量分析法では、タンパクなどの生体分子の解析への応用を中心に説明し、タンパク質間相互作用法についても触れる。	
		構造生物学	生体分子の構造と機能は密接に結びついており、立体構造から機能を明らかにしようとする構造生物学の重要性が高まっている。講義では、タンパク質を中心にその構造の成り立ちをまず階層的視点から解説する。構造形成に関する物理化学的原理や構造予測にも言及する。代表的なタンパク質を例に構造と機能の関係を解説する。また、各種構造決定法についても解説する。さらに、構造情報データの活用、分子モデリングなどの応用にも触れる。	
		生薬学	生薬の定義・歴史、薬用植物の形態を概説した後、主な生薬について基原植物の学名、産地、使用部位、主要成分、薬効および生薬の用途、品質評価について解説する。また、動物、鉱物、藻類、菌類由来の生薬についても解説する。さらに、医薬品となっている生薬成分、法律によって取り扱いが規制されている植物、副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬、代表的な生薬試験法についても学習する。	
		天然物化学	医薬品として用いられている天然由来の化合物を、生合成経路、薬効と関連付けながら学び、医薬品シーズとしての伝承医薬の役割と天然資源確保の問題点について説明する。また、主な抗生物質を化学構造の特徴から系統的に分類して、薬効と作用機序を解説し、その生合成経路と発酵生産法、さらに微生物による糖質、酵素などの有用物質の生産について説明する。天然由来の化合物を取り扱う上で重要な、抽出分離精製方法と化学構造の決定方法についても解説する。	
		有機分子解析法	有機化合物を取り扱う場合、その化学構造を決定することが基礎となっており、これは近年急速に進歩した各種分光学的手法によって著しく容易になった。「有機分子解析法」では、他の有機化学系科目(「有機化学A~D」、「有機化学実習A・B」)と関連づけながら、核磁気共鳴(NMR)スペクトル、赤外(IR)吸収スペクトル、マススペクトル、紫外可視吸収スペクトルなどの代表的な機器分析法の基本的知識(概要・測定法)と、構造解析のための基本的技能を、演習をまじえて習得する。	
		放射化学	好むと好まざるとにかかわらず、人間は放射性同位元素ならびに放射線に囲まれて生きている(人体にも放射性同位元素が含まれている)。本講義では、「放射性同位元素とは?放射線とは?」から始まり「放射性同位元素ならびに放射線の利用」、放射線の生物効果に至る流れの中で、放射能ならびに放射線についての基礎知識とそれに基づく有効利用法について論考する。さらに、放射線ならびに放射線利用のための安全管理や、放射線の医療分野での利用(放射性医薬品など)についても講義する。 (オムニバス方式/全15回)  (19 稲田 康宏/5回) 放射能壊変や放射線の物理化学的性質について解説する。 (118 角山 雄一/5回) 放射線の生物に及ぼす影響や、放射線障害について解説する。 (6 小池 千恵子/5回) 放射性医薬品について解説する。	オムニバス
和漢薬論	漢方の基幹をなす“陰陽、虚实、寒熱、表裏、気血水、証、漢方の診断法、病態の捉え方”など漢方医学の基礎を学ぶ。漢方処方に配合される代表的な生薬の薬能や性質、次に配合生薬の組み合わせの面からの漢方薬の系統的な分類について学習した後、代表的な漢方処方の適応となる証、症状や疾患について学び現代医療における漢方薬の役割について理解する。また、漢方薬と民間薬、西洋薬、サプリメントとの相違点について学び、漢方薬についての理解を深める。さらに、漢方薬の使用にあたって大切な漢方薬の副作用と使用上の注意点について学ぶ。			

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
化学系薬学	合成化学	医薬品の多くはその開発の過程で合成化学的手法により構造最適化されたものであり、現在の創薬研究に有機合成化学が果たす役割は大きい。医薬品の安定的な供給には有機化合物を効率よく合成する力が必要とされ、その実際の合成は適切な主骨格の構築と官能基変換の絶妙な組み合わせから成る。本講義では、これまで学んだ「有機化学A～D」および「医薬品製造学」の発展型として、精密合成化学で重宝される炭素-炭素結合形成反応や触媒反応等を紹介するとともに、逆合成解析および環境調和型化学などの医薬品合成に重要な概念について講述する。	
	化粧品学	皮膚や毛髪構造および生理機能を理解し、化粧品や医薬部外品に関する基礎知識を身につける。化粧品や医薬部外品の開発では、容器・内容物の安定性、安全性、有用性研究などが行われる。その際、すでに学んだ薬理学、毒性学、生化学、有機化学、分析化学、無機化学などを基礎として、ヒトの皮膚や毛髪に対する研究が行われる。本講義ではまず、薬事法における化粧品の定義を理解し、医薬品、医薬部外品との相違、化粧品と薬用化粧品の相違などについて理解する。ついで、化粧品業界の背景を理解するとともに、その研究開発に必要な知識を総合的に解説する。	
専門科目 生物系薬学	人体の構造と機能A	人体構造の科学である解剖学と人体機能の科学である生理学は、人体の構造と機能を理解するための基本であり、両者は一緒に学ぶ必要がある。本講義では、ある特定の機能を発揮するために人体の各部分がどのような構造をもっているのか、またそれらの機能がどのように調節されるのかを中心に学習する。具体的には、人体の構成、化合物と生命活動の過程、細胞の概観、組織の分類、外皮系、筋・骨格系、骨の連結、神経組織、中枢神経系、自律神経系、体性感覚と特殊感覚、内分泌系などについて学ぶ。 2015年度(浅野 真司) 2016年度(藤田 隆司) 2017年度(浅野 真司) 2018年度(藤田 隆司)	
	人体の構造と機能B	人体構造の科学である解剖学と人体機能の科学である生理学は、人体の構造と機能を理解するための基本であり、両者は一緒に学ぶ必要がある。本講義では、ある特定の機能を発揮するために人体の各部分がどのような構造をもっているのか、またそれらの機能がどのように調節されるのかを中心に学習する。人体の構造と機能Aに引き続いて、心血管系、リンパ系と免疫、呼吸器系、消化器系、栄養と代謝、泌尿器系、生殖器系、体液・電解質と酸塩基平衡、発生と遺伝などについて学ぶ。	
	生化学A	生化学は、生命現象を化学的な視点から研究する生物学の分野といえる。本授業では、生体物質、とりわけ生体の主要な構成成分である糖質、脂質、タンパク質、核酸などの構造をおもに化学的な視点から捉えるとともに、それらの生理的な機能についても解説する。また、さまざまな生体内反応を触媒する酵素反応の基本法則や、反応機構、活性制御のメカニズムや、生体膜の構造的、機能的な特性、生体膜上に存在するさまざまな膜タンパク質の機能等についても解説する。	
	生化学B	生体は「代謝」と呼ばれる酵素によって触媒された一連の化学反応過程を通じて、摂取した物質を燃焼、分解してエネルギーを獲得する(異化)。その一方で、エネルギーを消費して小分子から糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸などの生体成分を合成する(同化)。同化と異化は別々の経路で進行し、それぞれ生体外の刺激を受けて巧みに調節される。本講義では、これらの一連の代謝過程と、代謝過程に共通なエネルギー論について解説する。また、一連の代謝反応に対するさまざまな調節メカニズムについても解説する。	
	微生物学	微生物学に関する変遷や歴史を概説し、微生物の分類や細胞構造(原核細胞と真核細胞)、また増殖や物質代謝に関する微生物共通の項目について解説する。その後、微生物の一般的な取扱い方法や微生物の分離・同定方法、さらには遺伝子工学に関連する基礎的な事項を講義し、微生物に関する理解を深める。また、微生物が関与する食品汚染(食中毒や腐敗)や病気(感染症等)との関わりや、最近のバイオテクノロジーにおける微生物利用・応用についても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(薬学部創薬科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	生 物 系 薬 学	分子生物学	生物の遺伝情報は化学的に安定なDNAの塩基配列として保存されている。生物が生命活動を行う際には、DNAの情報をRNAやタンパク質に変換する過程、すなわち「遺伝子の発現」が必要となる。本講義では、ゲノム、遺伝子構造を理解したうえで、DNAの塩基配列情報がどのようなメカニズムでRNA、タンパク質へと変換されるのか、転写、翻訳の過程を中心に解説する。また、DNA複製、DNA変異と修復、エピジェネシスと転写制御についても解説し、遺伝子発現を分子レベルで理解するための基礎を形成する。	
		公衆衛生学	公衆衛生学は、共同社会の組織的な努力を通じて、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康と能率の増進を図る学問である。本講義では、集団の健康を理解するための方法論として保健統計、疫学について解説し、あわせて日本における健康問題の現状と予防（感染症、生活習慣病、がんなど）を理解する。行政の関わりとして母子保健、学校保健、産業保健、国際保健医療などの保健活動と社会保障制度についても概説する。また、5年ごとに改定される「日本人の食事摂取基準」を理解するため、三大栄養素の栄養的価値や基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量などについて解説する。 (オムニバス方式/全15回)  (20 稲津 哲也/10回) 保健統計、疫学、主な疾病の予防、職業病等について講義する。 (2 鈴木 健二/5回) 食品と健康等について解説する。	オムニバス
		生物統計学演習	最初に生物統計学の基礎である、帰無仮説の概念を説明し、パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分け、主な二群間の平均値の差の検定法、 $\chi^2$ 検定の適用できるデータの特性、最小二乗法による直線回帰と回帰係数の有意性の検定などを講義する。次に、多重比較検定法や多変量解析について概説した後、臨床で多用される統計学的手法について解説する。そこでは、まず臨床試験の特色や陥りやすいバイアスの種類と特徴を述べ、バイアスを回避するための計画上の技法を示す。さらに、リスク因子の評価としてのオッズ比、相対危険度、信頼区間とその計算法、基本的な生存時間解析法の特徴を解説する。これらは適宜、練習問題を解きながら演習形式で行う。	
		細胞生物学	「未知の生体の高次機能を理解すること」あるいは「さまざまな疾病の発症機構を解明すること」は生命科学の重要な課題である。これらの課題に取り組むためには、組織、臓器、さらには個体を構成する基本単位である細胞の構造と機能に関する十分な知識を身につけてはならない。このような観点から、本講義では、細胞の構造と、遺伝学と分子生物学のみならず、細胞周期や細胞死、細胞間コミュニケーションといった機能面についても解説し、さらに最新の生物学的発見や技術について講義する。	
		プロテオミクス	ポストゲノム時代の生命科学分野において、生命現象の直接の担い手であるタンパク質を網羅的かつ系統的に解析するプロテオミクス研究が注目を集めている。本講義では、プロテオミクス研究の分野（プロファイリング解析、タンパク質間相互作用解析、フォーカストプロテオミクス解析）および基礎的な技術（タンパク質複合体単離法、質量分析法など）を解説した上で、プロテオミクス研究のさまざまな生命現象の解明および医科学分野への応用について解説する。	
		薬理学A	まず、薬物の作用メカニズムを理解するうえでの基礎となる、薬物の用量と作用の関係、アゴニストとアンタゴニストの概念、薬物の作用する分子である受容体や酵素など、についてそれぞれ例をあげて説明し、解説する。次に神経生理学を概説した後、種々の生体内情報伝達物質を紹介し、薬理的性質を解説する。その後、中枢神経系に作用する薬物（全身麻酔薬、催眠薬、鎮痛薬、中枢神経疾患の治療薬）、自律神経系（交感神経系、副交感神経系）および体性神経系（知覚神経・運動神経系）に作用する薬物について詳述する。また、薬物の人体作用における個人差とその要因についても適宜、論じる。	

授 業 科 目 の 概 要				
(薬学部創薬科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	生物系薬学	薬理学B	薬理学Bでは、まず炎症に作用する薬物(免疫抑制薬、抗炎症薬)について述べる。次に、循環器系に作用する種々の薬物を説明した後、呼吸器系に作用する薬物を紹介し、作用機序などを詳解する。なお、腎機能は循環器系疾患とも関連性が高いので利尿薬についてもここで講義する。さらに消化器系に作用する薬物として胃・十二指腸潰瘍治療薬、催吐薬と制吐薬、肝臓疾患治療薬、膵臓疾患治療薬などをとりあげ講義する。また、最近わが国でも対策が求められているメタボリックシンドロームを取り上げ、代謝性疾患に対する治療薬、糖尿病治療薬、高脂血症治療薬、高尿酸血症・痛風治療薬について作用機序や各薬物の化学構造について解説する。最後に、ホルモンの分泌異常に用いられる治療薬物について講義する。	
		薬理学C	薬理学Cでは、感覚器、皮膚の疾患に対する治療薬から講義する。すなわち眼疾患や耳鼻咽喉系の疾患の治療薬について解説し、皮膚炎の治療薬について抗アレルギー薬と関連させて詳述する。それに続き、病原微生物・感染症に関する治療薬について述べる。種々の抗菌薬の薬理作用、化学構造、抗菌スペクトラムの概要を説明し、各薬物による治療対象となる疾患についても例示する。さらに、ウイルス感染についての治療薬を紹介した後、悪性腫瘍の治療薬の作用機序および対象となる腫瘍について概説する。また、ここ数年、抗体医薬に代表されるように、めざましい展開を見せているバイオ医薬品についても詳述する。	
		免疫学	生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化、すなわち生体防御機構としての免疫応答、その制御と破綻、および臨床応用に関する事項を習得する。具体的には、免疫系の特異性、多様性、自己と非自己の識別、記憶等とこれらに関わる免疫担当細胞や組織について学習を深める。免疫応答の破綻としてアレルギー、自己免疫疾患、臓器移植とその拒絶等を理解する。また免疫反応の利用としてワクチンの原理や種類、血清療法、抗体療法等についても理解を深める。	
		環境衛生学	人の健康はそれを取り巻く環境によって影響を受けるが、同時に現代社会に生きる我々は環境の変化に多大な影響を及ぼしている。環境衛生学はそうした人と環境の関わり合いを科学的に捉えようとする学問である。身近な生活環境である大気、水、土壌のそれぞれにおける汚染の発生機序と健康への影響、環境保全や浄化対策について解説する。さらに汚染物質の生体濃縮やいわゆる「環境ホルモン」などの問題については生理学的な考察を行う。公害と地球規模の環境問題についても理解を深める。	
		病態学A	生体の恒常性が崩れたときに生じる変化、すなわち破綻時(=疾病時)の病的変化を、病態生理学的に理解する。病態学Aでは、腫瘍総論、遺伝性疾患、血管、心臓、呼吸器、消化器、肝胆道系、腎臓に関する疾患の病態生理を中心に、症状、検査法等も交え講義する。そして薬物治療の標的となる疾患の概略を理解させる。	
		病態学B	生体の恒常性が崩れたときに生ずる変化、すなわち破綻時(=疾病時)の病的変化を、病態生理学的に理解する。病態学Aで述べた疾患を除く、泌尿器・生殖器、内分泌・代謝、神経・筋、精神、耳鼻咽喉、眼、皮膚、骨・関節などに関する疾患の病態生理を中心に、症状、検査法等も交え講義する。そして薬物治療の標的となる疾患の概略を理解させる。	
		衛生化学	「衛生化学」は化学という道具を用いて人の健康維持・増進に寄与することを目指した学問である。本講義では、人間の生命を支えている栄養素(糖質、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミン)についてその種類や生理機能、代謝を解説し、さらに食品添加物と保健機能食品の役割と安全性についても理解を深める。また、健康障害を引き起こす有害な化学物質について、その毒性発現のメカニズムや生体における解毒と代謝活性化の機構を解説し、併せて食品の安全管理と食中毒予防対策についても様々な試験法と対応させながら学習していく。	

授 業 科 目 の 概 要				
(薬学部創薬科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	生物系薬学	毒性学	環境化学物質や医薬品が内包する人体や環境への有害性について理解し、それを回避する知識と態度の習得を目標とする。環境化学物質の中には肝の薬物代謝酵素により有害化されるものがあるが、発癌物質などを例にこれを詳述する。次に、重金属やPCB、内分泌かく乱物質による人体毒性について解説する。また、現在も深刻な社会問題となっている、麻薬や覚せい剤などの乱用による薬物依存症についても講義する。さらに、薬の主作用と副作用の違い、副作用と有害事象の違いを解説し、代表的な薬害について言及する。また、毒物の評価法、解毒処置法、毒物中毒の生体試料の取り扱いなどの方法論や有害物質の法的規制についても適宜、言及する。	
		バイオインフォマティクス	ゲノムとは何かという初歩的な解説から始め、生命科学とコンピュータとの関わりは何か、生命情報学を応用することで何が解明されるかといった生命情報学に期待される研究分野について概説する。トピックとして遺伝情報発現、核酸とタンパク質、データベース、ゲノム解析、配列比較、構造・機能予測などを取り上げさらにシステムバイオロジーにも触れる。	
		システムバイオロジー	単細胞生物は、細胞膜、細胞質、染色体、核、ミトコンドリアなど数多くの部品が組み込まれた1つのシステムとしてみごとに機能している。そして同様な機能を持つ多数の細胞を有機的に統合し、システムとしてみごとに機能させているのが多細胞生物である。更には生態系も多種多様な生物からなる持続可能な1つのシステムとも見なせる。そこで本講義では細胞レベルから個体レベル、生態系までの多様な生命現象をシステムという新しい視点から総合的に解説する。	
		ゲノム創薬科学	ヒトゲノムの解読が完了しポストゲノム時代を迎えた今日、創薬科学の手法は構造生物学やシステムズバイオロジー、in silico創薬の発展により劇的に変化してきている。本講義ではゲノム解析技術を駆使した新薬開発の基盤となるゲノム創薬科学について、基礎となる手法から最先端の現状まで解説する。具体的には遺伝子工学を応用したバイオ医薬品、疾患関連遺伝子と遺伝子診断、ゲノム情報に基づいた創薬ターゲットの探索と合理的なドラッグデザイン、遺伝子治療や個別化医療、幹細胞技術の応用等について理解する。	
		ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジーは、有機化学と生物学の両方を包括する新しい学問領域で、化学物質を用いて生命現象を解明しようとするものである。特定の生体分子の機能を制御するケミカルライブラリーの化合物や、新しい分子を設計・合成し、これを生体に作用させることで、関連生体機能・分子の解明や制御に役立てようとするケミカルバイオロジーの概念および手法について概説する。また、ケミカルバイオロジーの方法論による蛍光プローブを用いたバイオイメージングや分子標的治療薬の開発など最先端研究と創薬への応用について解説する。	
		食品工学	食品の加工技術は、食品工業の発達により多様化している。講義では、食品加工の意義と目的、食品加工法(物理的加工、化学的加工、生物的加工)、加工食品の分類、加工による栄養成分の変化、米や砂糖など代表的な食品について、具体的にその生産行程や原料からの製法方法について学ぶ。また食品工学に必要な、物質やエネルギーの収支、伝熱などの物理化学的理論や、主な食品加工装置の利用目的と概要、バイオテクノロジーやナノテクノロジーを駆使した先端的な食品加工法についても学ぶ。	
		再生医療学	核移植によるクローンES細胞、転写因子の強制発現によるiPS細胞の作製でみられるように、分化した機能細胞を人為的操作により脱分化させ、体細胞から幹細胞の誘導が可能であることが示された。これに伴う幹細胞研究の急激な進展により、幹細胞から分化させた機能細胞、あるいは体細胞から直接誘導した機能細胞を用いて失われた機能を補完する、移植医療、再生医療が実現しようとしている。本講義では分子細胞生物学をベースとし、幹細胞、細胞分化、機能細胞の基本を学習すると共に、核移植、iPS細胞作製等の細胞工学を用いた細胞機能の改変、RNAや人工ヌクレアーゼ等を用いたゲノム編集、そして応用面としてこれらの技術を集結させた細胞移植医療、再生医療に関し解説する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生物系薬学	分子神経科学	遺伝子改変動物作製手法の進展により最も進んだ分野のひとつが神経科学である。中枢神経系の機能を遺伝子改変動物を用いて解析できるようになったメリットは大きく、個体レベルでの神経機能の解明が急速に進展している。本講義では、マウスジェネティクス的手法やその他モデル動物における遺伝子改変方法について解説する。また、脳や感覚器を対象としたモデル動物を用いることに明らかにされた神経疾患や自閉症などの精神疾患について学習し、さらに関連した治療標的と医薬品開発について講述する。	
	免疫医薬品学	生体防御機構としての免疫応答、その制御と破綻(疾患)等について免疫学で学習後、これらの応答を制御、改善する医薬品と、その薬物の作用機序、開発・創製法についても学習する。具体的には、免疫担当細胞の機能を制御するキナーゼ等の薬物、臓器移植の拒絶を軽減する免疫抑制剤、サイトカイン療法やサイトカインの機能を制御する生物学製剤(抗体療法)等について理解し、またこれらの副作用等、免疫系の制御を試みる医薬品についての事項も習得する。同時にそれらの開発、創製法等についても学習を深める。	
専門科目	製剤学・物理薬剤学A	薬物のもつ薬効を最大限かつ安全に発揮させるためには、薬物の副作用の防止、軽減を考慮すると同時に、医薬品としての適用や保存が便利のように適切な形状および機能を付与した剤形が選択されて、医薬品が製剤化される。様々な物性を持つ医薬品を適切な製剤とするために、医薬品以外の様々な物質が医薬品に添加され、適当な加工がなされた上で、最終製品が完成する。 品質の良い製剤を製造するためには、添加物の性質を理解し、さらに、個々の剤形に応じた様々な知識・理論・技術が必要である。本講義では製剤を調製するために必要な物理化学を基礎とした理論を講述する。	
	製剤学・物理薬剤学B	薬物のもつ薬効を最大限かつ安全に発揮させるためには、薬物の副作用の防止、軽減を考慮すると同時に、医薬品としての適用や保存が便利のように適切な形状および機能を付与した剤形が選択されて、医薬品が製剤化される。 本講義では、薬物を安全かつ有効に適用できる剤形を取り上げ、その治療上の意義、製剤設計法、製造法、及び機能評価法などについて、基礎から臨床応用に至る総合的な視点より講述する。	
	病原微生物学	病原微生物の特性とそれらによる感染症の感染・発症機序及び病態生理を学び、その対処法の科学的基盤を知る。その目的で、 ・ 疾患に関わる病原微生物の構造と、その生物学的特徴 ・ 病原微生物の感染経路と各々の経路で引き起こされる疾患 ・ 病原微生物の感染と疾患との関連 ・ 微生物感染に対する宿主防御機構及び免疫応答 ・ 抗菌剤、抗ウイルス剤の作用機序、副作用及び耐性 ・ 院内感染症と日和見感染症 ・ 病原微生物取扱いの基本手技 ・ 染色性、形態、菌体酵素反応等による起因菌の鑑別等を行動目標の項目としてあげ、教育する。	
	生物薬剤学	医薬品が生体に投与された後に薬効を発現するためには、作用部位において必要な濃度を必要な時間維持されなければならない。薬物の血中濃度や作用部位における濃度は、吸収、分布、代謝、排泄の各過程により規定される。本講義では、これら薬物の吸収、分布、代謝、排泄の過程ならびに各過程に影響する因子について詳細に講述するとともに、薬物の投与経路と剤形の関連について概説する。	
	日本薬局方概論	日本薬局方は我が国で繁用されている医薬品の性状や品質の適正化を図るため薬事法第41条に基づき国が定めた規格基準書であり、「医薬品」という特殊性を勘案した薬学独自の情報が記されたものである。日本薬局方は、通則、生薬総則、製剤総則、一般試験法、医薬品各条から構成されており、医薬品各条では性状、確認試験、純度試験、定量法などを規定している。本講義では日本薬局方の意義と位置づけを理解した上で、一般試験法と医薬品各条の確認試験、純度試験等について学習し、医薬品についての正しい知識の習得を目指す。	

授 業 科 目 の 概 要				
(薬学部創薬科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	医療系薬学	薬物動態学	医薬品が生体内に投与された後の薬物の吸収、分布、代謝、排泄の過程を定量的に予測し、薬物の有効性や安全性に関する評価を行うためには、体内における薬物の移動や代謝等の機構に基づいて速度論的な解析を行う必要がある。本講義では、薬物速度論の基礎理論に関して詳細に解説するとともに、薬物動態に関わるパラメーターや生物学的利用能の意味、薬物速度論を基盤とした至適な投与量、投与間隔、剤形などの決定に関して講述する。	
		薬物治療学A	最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、神経系疾患(脳血管障害、パーキンソン病、アルツハイマー病、気分障害、統合失調症、てんかん)・循環器系疾患(心不全、虚血性心疾患、不整脈、高血圧、動脈硬化症)・呼吸器系疾患(かぜ、インフルエンザ、肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患)の病態・薬物治療に関する知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する知識を身につける。	
		医薬品情報学	医薬品はその開発段階から非常に多くの情報を有しており、さらに市販後は患者からの情報を含む臨床情報が年々蓄積されていく。他方、社会のIT化の進展に伴い医療分野においても多数の情報源からの膨大な医薬品情報が氾濫している。このような状況下、薬剤師として医薬品の適正使用に必要な医薬品情報を理解し、正しく取り扱うことができるようになるために、医薬品情報の情報源、あるいはデータベース等について講述し、その収集・評価・加工・提供・管理のための基本的知識、技能、態度について理解させる。さらに、個々の患者への適正な薬物療法が実施されるようEBMの概念および患者情報の収集・評価・管理のための基本的知識、技能、技能、評価について解説する。	
		薬物治療学B	最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、消化器系疾患(消化性潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン病、腸炎、肝炎、肝硬変、胆石症、膵炎、胃がん、大腸がん、膵がん)・内分泌系疾患(先端巨大症、プロラクチノーマ、クッシング病、下垂体機能低下症、バセドウ病、橋本病、副甲状腺機能亢進症・低下症、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、アジソン病)・代謝性疾患(糖尿病、脂質異常症、痛風)・運動系疾患(骨粗鬆症、骨軟化症)の病態・薬物治療に関する知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する知識を身につける。	
		臨床薬剤学A	薬物治療の最終的な目的は、科学的根拠に基づき、個々の患者に最も必要な薬を選択し、必要に応じて十分なだけの量を過不足なく、かつ副作用を生じないように的確に投与することにある。本講義では、患者個々の病状や背景を考慮した個別的かつ合理的な薬物療法を行うために、薬物の血中濃度測定値に基づく薬物治療モニタリングの意義を理解し、薬物の濃度や体内にある時間などを予測する基礎理論、さらには投与設計理論や個々の患者の薬物体内動態変動要因の解析方法を講述する。	
		薬物治療学C	最適な薬物治療の実現に貢献できるようになるために、免疫・アレルギー疾患(全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、花粉症、AIDS)・腎泌尿器系疾患(急性・慢性腎炎、ネフローゼ症候群、尿路結石、前立腺肥大症・前立腺がん、膀胱炎、腎盂腎炎)・産婦人科疾患(流産、子宮筋腫、子宮がん、子宮内膜症)・眼科疾患(緑内障、白内障、結膜炎)・耳鼻科疾患(メニエール病、副鼻腔炎、中耳炎)・皮膚科疾患(蕁麻疹、湿疹、乾癬、天疱瘡、薬疹)・救急疾患(ショックなど)の病態・薬物治療に関する知識を修得し、治療に必要な情報収集・解析および医薬品の適正使用に関する知識を身につける。さらに症候学、臨床検査の読み方についても学習する。	
		薬事法規・薬事制度	薬剤師法の第1条には、薬剤師の任務として、「調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによつて、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するもの」とある。したがって、薬剤師を志す薬学部生にとって、医療、薬事等に関する法律や制度を熟知し、薬剤師の責務を自覚することはきわめて重要である。本授業では、薬剤師法、薬事法をはじめとする薬事に関する法律(麻薬取締法、毒物・劇物取締法など)や制度(医薬品副作用被害救済制度など)、医事、医療保険に関する法律や制度について解説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(薬学部創薬科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	医療系薬学	医療倫理	医療技術が飛躍的に進展するに伴い、従前の医の倫理では解決できない困難な問題が出現するようになった。本講義では、「自ら考えて解決の方策を探り、実践する能力」を身につけ、実践行動型の医療者となることを目標とする。具体的には、まず医療構造や医師患者関係の変容について講義を行い、次に、「考える枠組みを使って問題を検討する、議論を通じて解決策をたてる、実践方法を考える」という対処方法を、人間の尊厳に関わる問題や先端医療の問題などの実際の事例をもとに検討し、ディスカッションを通じて修得する。	
		薬物送達学	近年、製剤技術の高度化に伴い、精密な製剤機能を付与された製剤の開発が進んでいる。とりわけ放出速度を制御した経口投与製剤、外用剤、筋肉内投与剤などが実用化されており、さらに特定の組織、臓器、細胞への効率的な到達を狙ったターゲティング製剤、プロドラッグなども続々開発されつつあり、これこれらの技術を総称して Drug Delivery System (DDS) とよぶ。本講義では、製剤学、生物製剤学を基盤として、DDSの臨床上の意義、製造法、及び機能評価法などについて、基礎から臨床応用に至る総合的な視点より講述する。	
		薬物治療学D	悪性腫瘍、感染症治療、栄養療法について、臨床症例を提示しながら解説し、その病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について概説する。あわせて、妊婦・授乳婦、小児、高齢者といった特別に配慮する必要がある患者に対する薬物治療についても概説する。 さらに上記の分野における専門薬剤師制度に関する説明を行い各専門薬剤師の役割についても概説する。	
		医療薬学	新薬開発をはじめとする医療技術の進歩、高齢化社会による地域医療のさらなる必要性など医療を取り巻く環境は、日々大きく変化しており薬剤師の役割は、これまで以上に大きなものになっている。すなわち、医薬品の適正使用だけでなく、医療安全を含む医療の質の向上に向けて薬剤師にはこれまで以上の大きな期待が寄せられている。本講義では、市場に出ている医薬品がどのような過程を経て患者に対して安全に使用されているのかを学ぶ。あわせて、自己健康管理、軽い病気等の症状緩和や予防のために行う行動であるセルフメディケーションの実践に重要な役割を果たす一般用医薬品の使用目的とそれにかかわる薬剤師、登録販売者の役割・業務の違いについて概説する。	
		漢方医療薬学	日本の医師の9割が日常診療に漢方薬を用いており、国際的にもWHOが2015年に改訂予定の国際疾病分類 (ICD-11)に漢方診断の「証」が採用される。高齢化社会を迎え、ますます漢方が重要視されている。このような状況下、和漢薬論からの発展の授業として、漢方臨床医の漢方診断の講義を交え、薬剤師に求められている「患者や医師などの医療スタッフに有用なアドバイスをする」のに必要な漢方理論、漢方処方・漢方製剤の知識、漢方診療の実践など、漢方理論から漢方の診断にいたる漢方の実践についての知識を深める。 (オムニバス方式/全15回)  (117 三谷 和男/8回) 漢方理論、漢方診療の実際、重要処方解説など漢方の理論と臨床について講義する。 (14 池谷 幸信/7回) 漢方医学の中で使われる生薬、漢方製剤の知識、漢方薬の服薬指導上の注意点について講義する。	オムニバス
		医薬品開発論	人類にとって疾病の克服は悲願であり、これを担う新薬の創製は常に多分野にわたる最先端技術の集大成である。本講義では、有効性と安全性の確認のための複雑な医薬品開発のプロセスを理解し、発売までの申請と当局による審査・承認と市販後調査について学習する。さらに、生物資源から多岐にわたるリード化合物・新薬が発見・開発されてきた経緯や、情報科学の進展により可能となった計算機を用いたドラッグデザインやin silicoスクリーニング、さらに分子生物学とゲノム科学に基づく分子標的薬の開発やテーラーメイド医療の可能性についても解説する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(薬学部創薬科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
医療系薬学	臨床試験概論	医療現場で出会う医薬品の有効性、安全性に関する情報の多くは、臨床試験の結果によっている。医薬品の適正使用のためには、臨床試験の結果を正しく理解する必要がある。本講義では、臨床試験のプロトコルの作成を通じて、臨床試験の倫理、法規制、実施計画のポイント、インフォームドコンセント、治験コーディネータなどの関係者の役割について学ぶ。		
	医療統計学	医薬研究において必要な確率・統計の基礎的な知識・技能を修得する。主な統計的検定法についてその基礎理論と利用法について事例を挙げながら解説する。また、回帰分析の基本となる最尤推定法の原理や、数理モデルの構築とその解法について理解するとともに、医薬研究における応用例についても解説する。さらに、代表的な臨床統計解析手法やバイオインフォマティクスを理解するための基礎統計、医薬品開発における臨床試験の概要と統計学の役割についても論じる。		
専門科目	実習	分析化学実習A	分析化学実習は学生が初めて大学で行う実習であり、実験室での心得や安全に関する教育から始め、基本的な器具・測定装置の使用法を体得させることを目的としている。実験実習の内容は、1) 実験を安全に行うためのビデオ鑑賞とガイダンス、2) 天秤操作法、容量器具の使用法と溶液調製法の体得、3) 中和滴定、キレート滴定等の容量分析法の実習、4) 実験で得られたデータを使用して統計的なデータ処理の実習と計算法等である。	
		分析化学実習B	本実習は、「分析化学実習A」を受講した学生を対象にして計画された内容であり、応用的な容量分析法と機器分析の入門的なテーマを実習する。機器分析では、1) 緩衝溶液の調製やpH測定、2) 可視・紫外分光法の入門、3) ガスクロマトグラフィーと液体クロマトグラフィーによる分析、等のテーマを予定している。ここでは、高学年での実験を行うための基礎的な操作法や機器使用の基本を体得できるような内容の実習をおいている。また、学生を幾つかの小グループに分割し、少人数の学生に対して指導できるような体制を組んで教育効果の向上をはかる。	
		物理化学実習A	水溶液や液体の物性測定を中心にした物理化学実験実習をおこなう。テーマとしては、塩化コバルトの水への溶解熱、酢酸エチルの加水分解反応速度、水の凝固点降下、塩化ナトリウムの中水の部分モル体積、電解質水溶液の電気伝導度などである。これらの測定を通して、物理化学系の講義科目を補間しつつ、測定技術の習得を目指す。	
		物理化学実習B	分子の構造に関わる実験実習を行う。分光光学実験と計算機化学実習で構成する。分光光学実験では、分子の構造と吸収スペクトルとの関係を紫外・可視分光法を用いて調べる。また、タンパク質の変性実験を紫外・可視分光法を用いて測定し、変性の熱力学量を決する。さらに、分子の赤外スペクトルから、分子構造に関わる定数を決定する。計算機化学実習では、低分子のエネルギー計算、生体分子のモデリング実習などを行う。	
		有機化学実習A	有機化学実習を通して、危険な物質の取り扱いや有機化学反応を行う際の基本的な知識と技術を学ぶ。「有機化学A・有機化学B」で学習した内容、さらに本科目と並行して開講される「有機化学C」で学習する求核置換反応、エステル化、カップリング反応、脱水反応を実験テーマとし、「有機化学実習B」へと発展する。	
		有機化学実習B	「有機化学実習A」に引き続き、有機化学実験を通して、危険な物質の取り扱いや有機化学反応を行う際の基本的な知識と技術を学ぶ。「有機化学実習B」では芳香族求電子置換反応、還元反応などを実験テーマとし、官能基の定性試験や、官能基を利用した分離精製、融点測定を行い、さらに「有機分子解析法」で学習する核磁気共鳴(NMR)スペクトルや赤外(IR)吸収スペクトルによる化合物の構造決定や装置を取り扱う際の基本的な知識と技術の習得をめざす。	
		有機化学実習B		

授 業 科 目 の 概 要				
(薬学部創薬科学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	実 習	免疫学・組織学実習	本実習では、ELISA法やウエスタンブロット法などの抗体を用いた基本的な免疫学的検査法やサイトカイン等の定量法について学ぶ。次に光学顕微鏡を用いて、細胞の核等の小器官の観察を行い、スケッチを行う。また人体等の組織の正常と異常(疾病)の標本観察を行い、人体の構造について理解を深める。	
		生薬・天然物化学実習	生薬学・天然物化学・和漢薬論に関する実習である。漢方薬(漢方処方)を構成する生薬の外部形態、内部形態、並びにそれらの基原植物の形態を観察することで生薬・薬用植物の鑑定の基礎を養う。また、漢方薬の湯剤や軟膏剤を調剤したり、実際に医療で用いられている漢方製剤にふれて漢方薬調剤の基本的技能を習得する。そして、日本薬局方収載生薬の確認試験や純度試験、漢方薬の定量試験を実際に行い、生薬・漢方薬の品質管理法を習得する。さらに、生薬からの天然有機化合物の分離・精製を通じて、クロマトグラフ法や天然有機化合物を活用するための基本的技能を習得する。	
		微生物学実習	微生物取り扱いの基本となる無菌操作について理解した上で、身近な食品や皮膚常在菌、空中浮遊菌など環境中の微生物を、寒天培地で培養し観察する。また、各種消毒液、滅菌法による効果を、寒天培地での生菌数の減少として確認する。無菌操作に習熟するため、環境中の細菌の分離、培養を行い、単離した細菌をグラム染色などの染色を行った上で顕微鏡観察し、代表的な細菌の同定を行う。また、微生物の応用についても学ぶ。	
		生化学・分子生物学実習	生体を構成する重要な分子である、タンパク質、アミノ酸、核酸、糖質、脂質の定性、定量分析を習得する。また、酵素タンパク質の活性測定および反応速度論に関する実験を行い、酵素の性質および酵素反応の基本を体験的に理解する。さらに各種クロマトグラフィーによる精製、SDS-PAGEによる分離実験により、タンパク質の基礎的な取り扱い方法と分離・精製法を学ぶ。加えて、PCRによるDNAの増幅、制限酵素消化、DNA塩基配列の決定など基本的な分子生物学的な手技を修得し遺伝子発現調節の基本について理解する。	
		衛生化学実習	衛生化学実習の目的は、薬学部の学生に必要とされる健康科学と環境科学に関する分析法を習得することである。「栄養と健康」をテーマに、1)食品に含まれる栄養素と食品添加物の同定法や食品の変性・変敗の指標となる物質の測定法について、その原理を学習した後に実際に測定して試験結果の評価を行う。2)水道水に求められる水質基準の主な項目について測定する。3)化学物質の毒性の評価法としてエイムス試験を行い、化学発癌について理解する。また、「環境と健康」をテーマとして、1)水質汚濁及び大気汚染に関連した試験法を実施しその結果を評価する。2)室内環境を評価するための主な指標について測定する。さらに、放射性物質を取り扱う上で必要な技術を習得する。	
		薬理学実習	最初に、薬理学実験における動物実験倫理について学び、適切な動物の取り扱い法を学習したうえで、小実験動物を用いた臓器レベル、あるいは個体レベルでの実験を行う。中枢に作用する薬物、末梢神経に作用する薬物、末梢臓器に作用する薬物についての実験を実施する。それぞれの実験では、投与した薬物により惹起される生物応答を注意深く観察し、その実験結果からそれぞれの薬物の作用機序を考察し、理解させる。また、生体材料を用いた実験でのデータのバラツキについても体験させ、どのようにして結果を導き出すかを学習させる。	
		薬剤学実習	医薬品の有効性と安全性は製造承認申請時に提出された各種データに基づいて保証されている。製造承認後のその医薬品の有効性と安全性は承認申請書に記載されている品質・規格に適合していることを、定められた試験法で確認し保証することとなる。本実習では、製剤学・物理製剤学、生物製剤学および薬物動態学で学んだ知識を用いて、医薬品の品質を保証する物理化学的同等性、生物学的同等性に関して日本薬局方で定められている各種試験法、さらには医薬品投与後の薬物動態解析に関してシミュレーターあるいは動物を用いた実験法についての知識、技術を習得することを目的とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	実習 医薬品化学実習	「医薬品化学実習」では、2年次の「有機化学実習AおよびB」の発展型として、本科目と並行する「合成化学」の講義で取り上げる医薬品合成に有用な炭素-炭素結合形成や骨格合成反応のいくつかを実際に行い、有機合成化学実験の基本的操作方法ならびに諸原理を修得する。合成原料並びに生成物となる有機化合物の構造と物理的、化学的性質を良く理解した上で、医薬品合成で重要となる合成反応の連続性について、多段階合成を通じて理解する。	
	卒業研究	卒業研究A	各研究室への学生の配属を決定する。配属研究室で研究活動に対する基本的態度、文献調査、実験技術を学ぶと共に、研究テーマを決定し、研究の計画、遂行、結果の解釈、考察、発表という、研究活動を体験的に学ぶ。また研究テーマを通してこれまで学んできた学問を深く理解し、その統合、体系化を行なう。
卒業研究B		所属研究室において、問題解決能力の育成および研究成果をまとめて発表する方法を修得する。研究テーマにおいて、これまで習得した知識、方法論、実験技術を駆使し、未知課題の解決に取り組む。大学院進学を視野に、論理的思考、発表、そして展開方法という研究者としての基礎的能力の育成を行なう。さらに、卒業研究を複数の教員によりサポートし、多面的な研究指導を行うと共に、英語論文の読解力、英語でのプレゼンテーションなどの実践的英語能力を養う。	
自由科目	日本語Ⅷ (アカデミック日本語a)	日本語Ⅶで身につけた力をもとに、ゼミなどの小集団授業で必要な高度な読解力、文章表現力、聴解力、口頭表現力を総合的にのばす。	
	日本語Ⅷ (アカデミック日本語b)	アカデミック日本語aで学んだ知識を深め、その技術をみがくことをめざす。	
	日本語Ⅷ (キャリア日本語a)	日本の社会や慣習を理解し、ビジネス場面における適切な表現、語彙を学ぶ。社会人としての基本的な敬語や待遇表現を身につけ、円滑なコミュニケーションができるようにする。	
	日本語Ⅷ (キャリア日本語b)	実際のビジネス場面(電話、訪問、商談、等)に即したコミュニケーションの方法、ビジネス文書やメール文の実務的な表現や書式を学ぶ。プレゼンテーションの練習を行う。	
	日本語Ⅶ (文章表現a)	大学の授業で必要とされる文章表現力を養うことを目標とする。レポート作成に必要な文章構成を考え適切な文体や目的に応じた表現を使い簡潔な文章を作成する練習をする。	
	日本語Ⅶ (文章表現b)	大学の授業で必要とされる文章表現力を養うことを目標とする。論文作成に必要な文章構成を考え、適切な文体や目的に応じた表現を使い簡潔な文章を作成する練習をする。	
	日本語Ⅶ (読解a)	様々な文章の読みを通して読解のスキルを磨き、文章の内容をより速くより正確に掴めるようにすると共に、その背景にある日本文化・社会に対する理解を深める。さらに、段落の要点理解から、文章全体の大意を把握し要約する力を養う。	
	日本語Ⅶ (読解b)	評論、論説文、小説等複雑な構造の長文を速読して、論旨を読み取り要約し、自分の意見を構築することを目指す。また異なる視点から書かれた文章を読み比べるなど、文章をクリティカルに読む姿勢を身につける。	
	日本語Ⅶ (聴解口頭a)	日常的な会話能力を高めるとともに、大学の授業に参加するために必要な聴解力・口頭表現力を養う。ノートのとり方、講義の聞き方の練習を中心とし、自分の意見を正確に伝える力を伸ばす。	

授 業 科 目 の 概 要			
(薬学部創薬科学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由 科目	日本語Ⅶ(聴解口頭b)	日常的な会話能力を高めるとともに、大学の講義に参加するために必要な聴解力・口頭表現能力を養う。自分の関心のあるテーマについて情報を収集し、論拠を提示しながら論理的に話す力を伸ばす。	
	科学技術日本語Ⅰ	常識的な科学技術用語として講義や教科書の中で、改めて解説されることのない用語でも、日本語を母国語としていない学生にとっては理解できない用語がある。本科目では基本的な科学技術用語について系統的な具体例をあげて講義する。また、科学技術分野のニュースの紹介を行うことにより、応用力の向上を目指す。	
	科学技術日本語Ⅱ	科学技術に関する日本語を学習する。読解、作文(レポート)を中心に行う。毎週作文を宿題として出し、添削授業を通して理工系日本語作文能力を身につける。	
	単位互換科目	「大学コンソーシアム京都」によって京都地域を中心とした約50大学・短期大学から提供されている科目、「環びわ湖大学・地域コンソーシアム」によって滋賀県にある12大学から提供されている科目を受講し単位修得した場合に認定する。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に在籍する学生の学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

# BKCキャンパス位置図

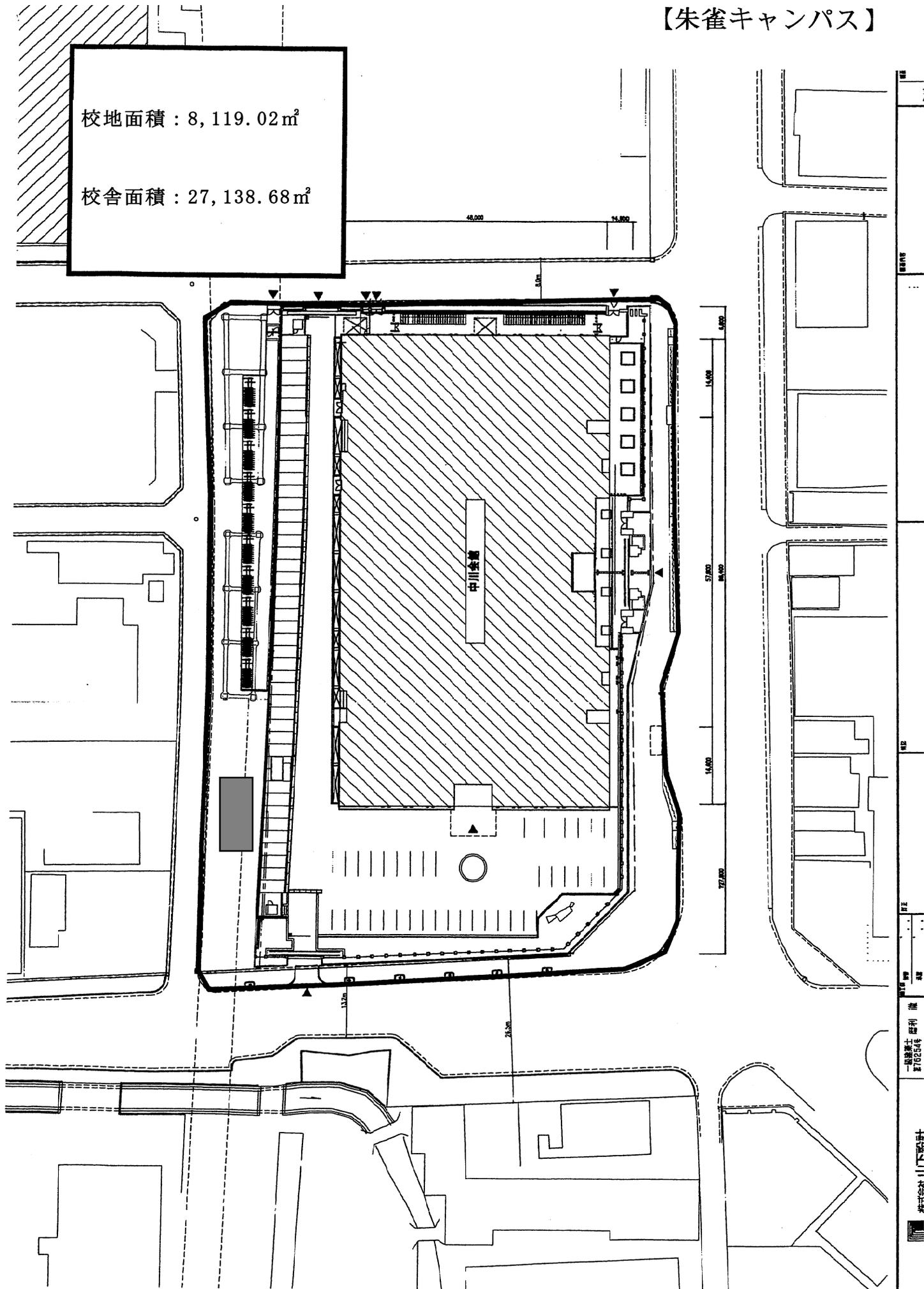


**BKC 最寄の駅からの距離や交通機関がわかる図面**



校地面積 : 8,119.02㎡

校舎面積 : 27,138.68㎡

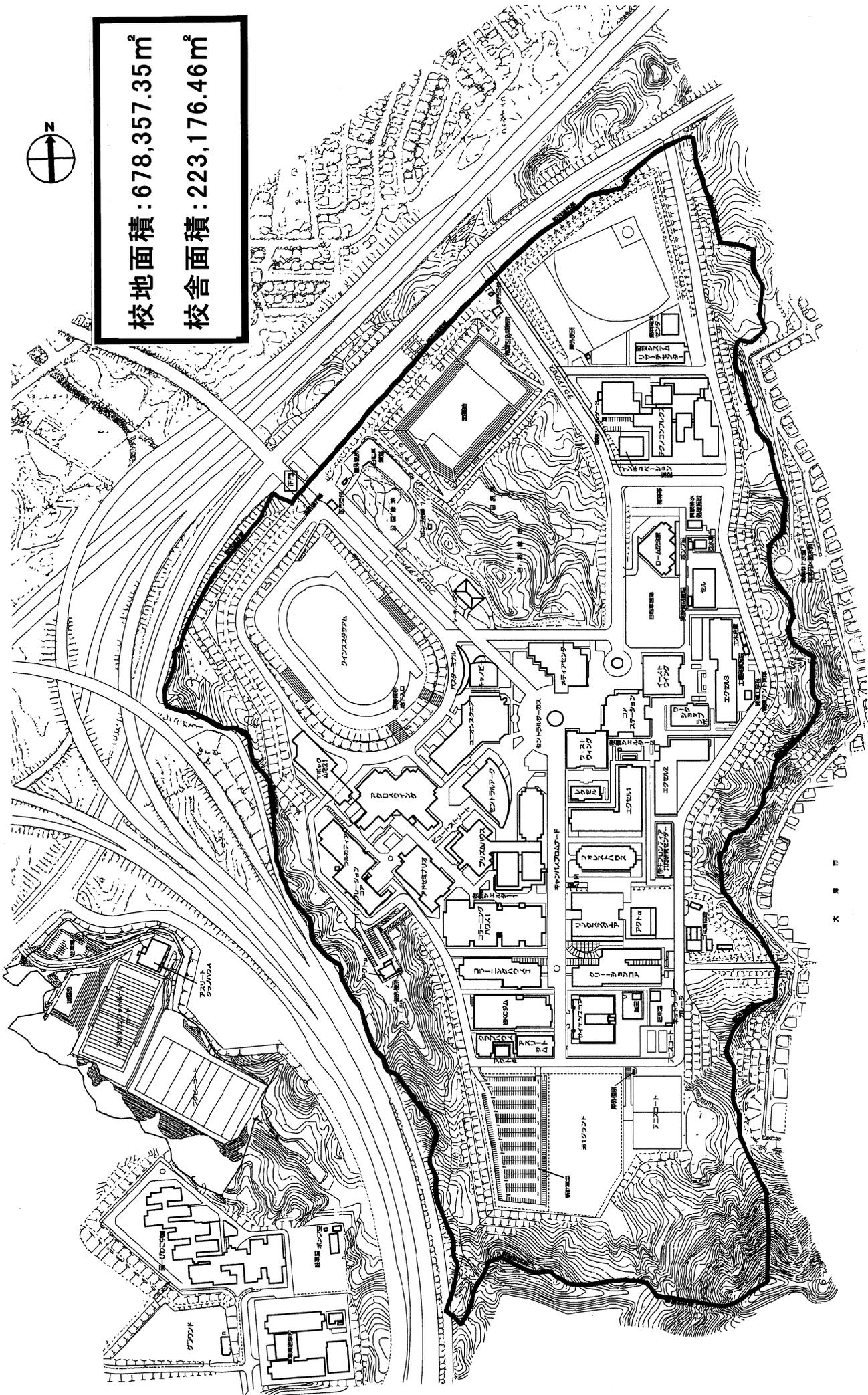


一級建築士 藤井 徹  
〒762544  
株式会社 山下設計



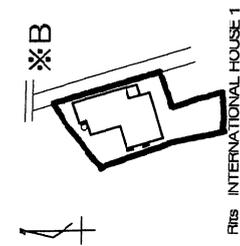
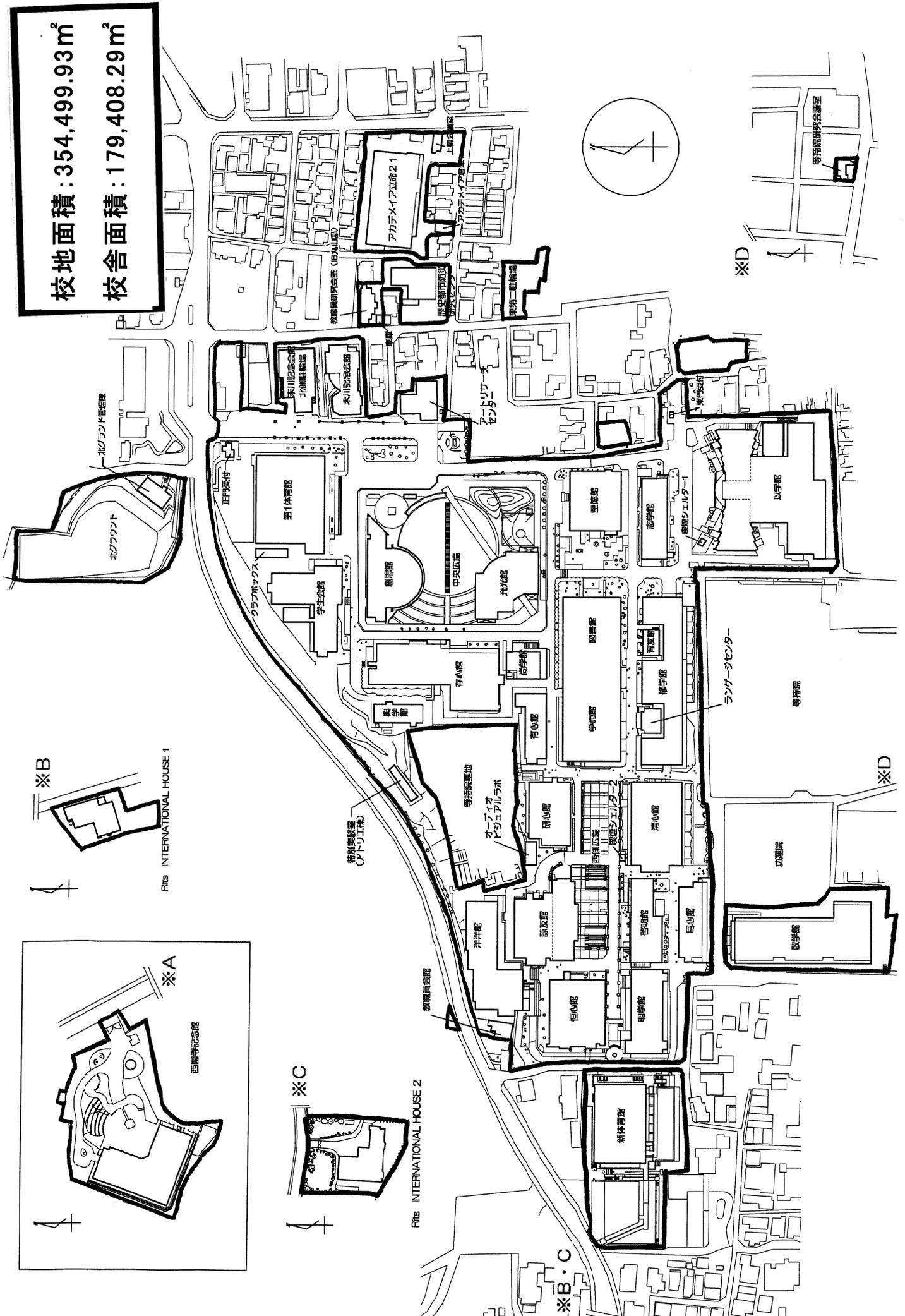
校地面積 : 678,357.35 m<sup>2</sup>

校舎面積 : 223,176.46 m<sup>2</sup>

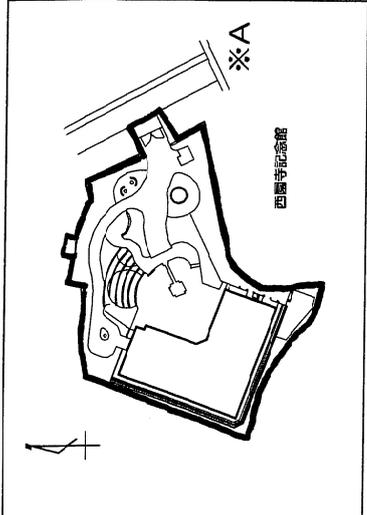


BKCキャンパス配置図 (1:4000)

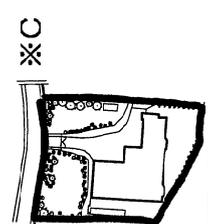
校地面積：354,499.93㎡  
校舎面積：179,408.29㎡



Rits INTERNATIONAL HOUSE 1



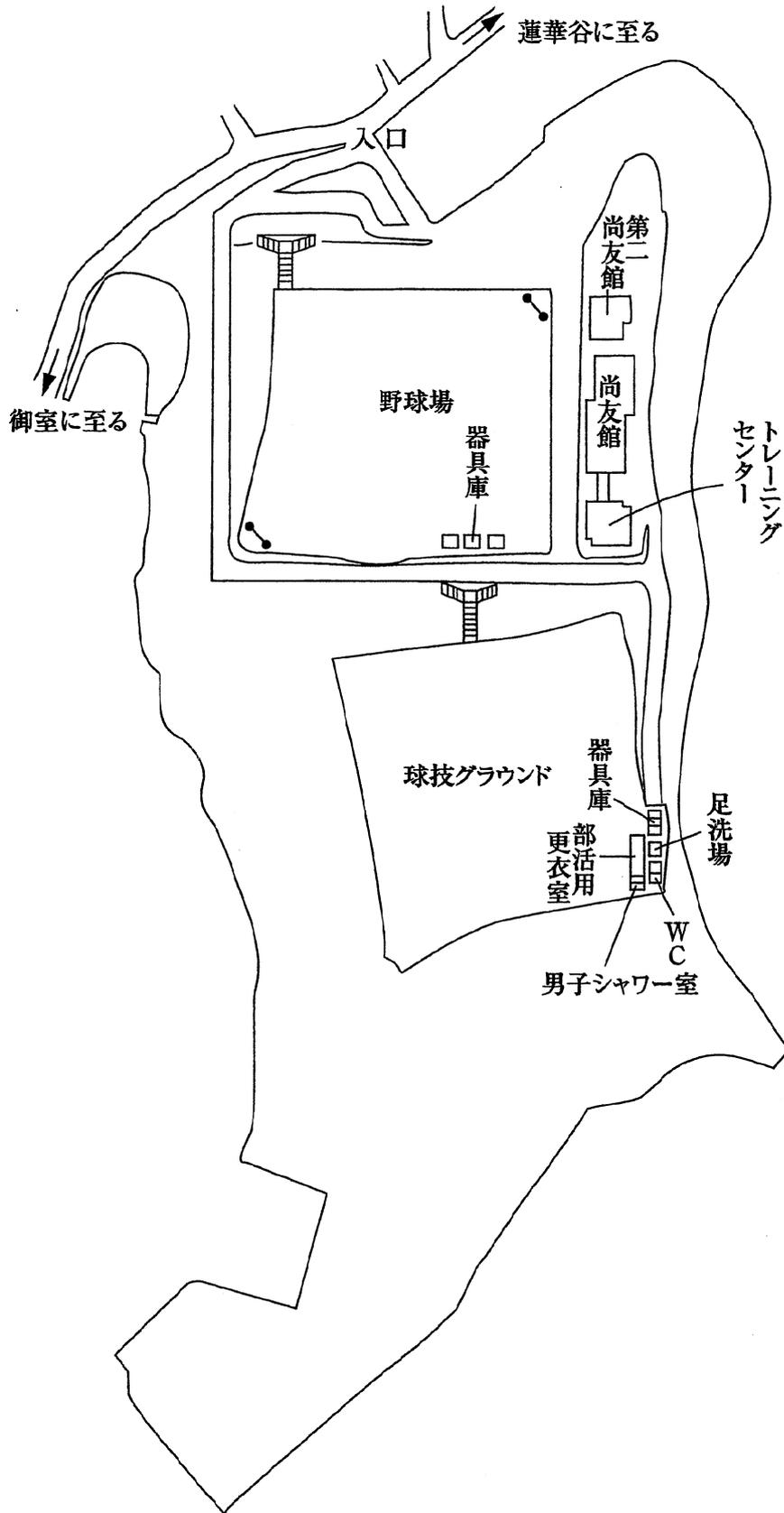
Rits INTERNATIONAL HOUSE 2



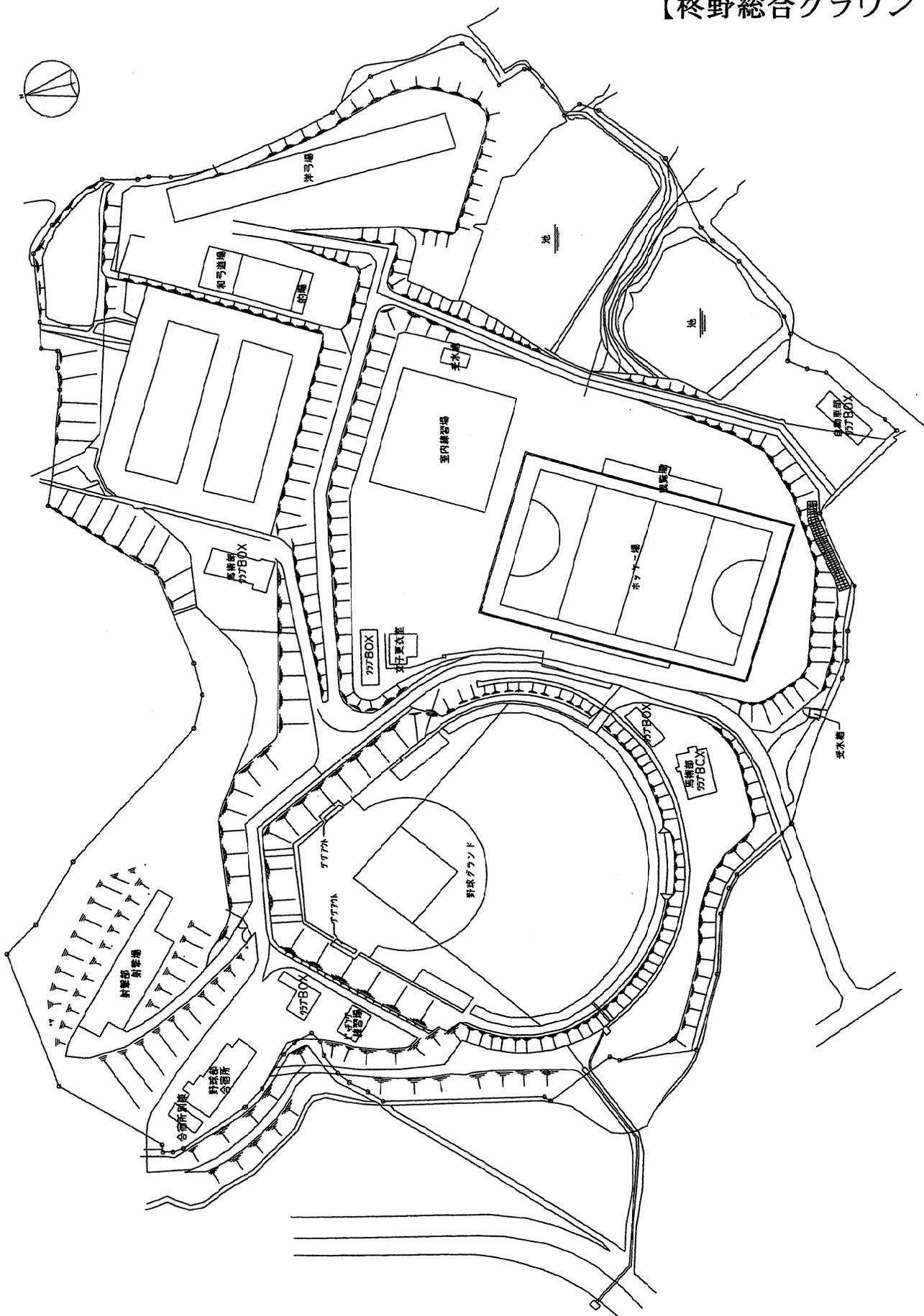
※D

TITLE	NAME	SCALE	DATE	NO.
	衣笠キャンパス全体図	1:2000	2011.3.16	

【原谷グラウンド】



# 【柘野総合グラウンド】



ARCHITECTS & ASSOCIATES <b>京都建築事務所</b>		ARCHITECT		DIRECTOR	CHIEF	OWNER	TITLE	SCALE
京都府京都市中京区西陣区52250号 一級建築士事務所 代表取締役 川下 晃 正		川下 晃 正					グラウンド建物配置図	1:1000
PARTNER		ARCHITECT		DIRECTOR	CHIEF	OWNER		

I. 1. 書類等の題名

「校地校舎等の図面」 1 ページ

都道府県における位置関係に関する図面 BKCキャンパス位置

2. 引用元

[http://map.yahoo.co.jp/maps?p=%E7%AB%8B%E5%91%BD%E9%A4%A8%E5%A4%A7&lat=34.9821988&lon=135.9627447&ei=utf-](http://map.yahoo.co.jp/maps?p=%E7%AB%8B%E5%91%BD%E9%A4%A8%E5%A4%A7&lat=34.9821988&lon=135.9627447&ei=utf-8&datum=wgs&lrm=%E7%AB%8B%E5%91%BD%E9%A4%A8%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%B3%E3%82%8F%E3%81%93%E3%83%BB%E3%81%8F%E3%81%95%E3%81%A4%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9&v=2&sc=3&uid=7010ce1ae601b32bd43e70e9ebc5c77ae5f0a277&fa=ids)

[8&datum=wgs&lrm=%E7%AB%8B%E5%91%BD%E9%A4%A8%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%B3%E3%82%](http://map.yahoo.co.jp/maps?p=%E7%AB%8B%E5%91%BD%E9%A4%A8%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%B3%E3%82%8F%E3%81%93%E3%83%BB%E3%81%8F%E3%81%95%E3%81%A4%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9&v=2&sc=3&uid=7010ce1ae601b32bd43e70e9ebc5c77ae5f0a277&fa=ids)

[8F%E3%81%93%E3%83%BB%E3%81%8F%E3%81%95%E3%81%A4%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%B3%E3](http://map.yahoo.co.jp/maps?p=%E7%AB%8B%E5%91%BD%E9%A4%A8%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%B3%E3%82%8F%E3%81%93%E3%83%BB%E3%81%8F%E3%81%95%E3%81%A4%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9&v=2&sc=3&uid=7010ce1ae601b32bd43e70e9ebc5c77ae5f0a277&fa=ids)

[%83%91%E3%82%B9&v=2&sc=3&uid=7010ce1ae601b32bd43e70e9ebc5c77ae5f0a277&fa=ids](http://map.yahoo.co.jp/maps?p=%E7%AB%8B%E5%91%BD%E9%A4%A8%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E3%81%B3%E3%82%8F%E3%81%93%E3%83%BB%E3%81%8F%E3%81%95%E3%81%A4%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%B3%E3%83%91%E3%82%B9&v=2&sc=3&uid=7010ce1ae601b32bd43e70e9ebc5c77ae5f0a277&fa=ids)

3. 説明

地図中の立命館大学びわこ・くさつキャンパスの位置を黒枠で囲んだ。

# 立 命 館 大 学 学 則

[2015 (平成27) 年4月1日施行]

2014 (平成26) 年6月

# 立命館大学学則

昭和26年2月23日  
規程第17号

## 第1章 総則

### 第1節 目的

(目的)

第1条 本大学は、建学の精神と教学理念にもとづき、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努め、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献することを目的とする。

2 各学部の教育研究上の目的は、各学部則で定める。

(自己点検・評価等)

第2条 本大学は、その教育研究水準の向上を図り、前条の目的および社会的使命を達成するため、本大学における教育研究活動等の状況を把握し、適切な事項について必要な体制をとり、教育研究の改善に努める。

(情報公開)

第3条 本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に公開する。

### 第2節 教育組織

(学部および学科等)

第4条 本大学に、次の学部、学科および専攻を置く。

法学部	法学科
経済学部	経済学科
	国際経済学科
経営学部	経営学科
	国際経営学科
産業社会学部	現代社会学科
	現代社会専攻
	メディア社会専攻
	スポーツ社会専攻
	人間福祉専攻
	子ども社会専攻
文学部	人文学科
理工学部	数理科学科
	物理科学科
	電気電子工学科
	電子情報工学科

機械工学科  
 ロボティクス学科  
 都市システム工学科  
 環境システム工学科  
 建築都市デザイン学科  
 国際関係学部 国際関係学科  
 政策科学部 政策科学科  
 情報理工学部 情報システム学科  
 情報コミュニケーション学科  
 メディア情報学科  
 知能情報学科  
 映像学部 映像学科  
 薬学部 薬学科  
 創薬科学科  
 生命科学部 応用化学科  
 生物工学科  
 生命情報学科  
 生命医科学科  
 スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科

(入学定員および収容定員)

第5条 本大学の入学定員、編入学定員および収容定員は、次表のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
法学部	法学科	790		3,160
経済学部	経済学科	535		2,140
	国際経済学科	200		800
	計	735		2,940
経営学部	経営学科	610		2,440
	国際経営学科	150		600
	計	760		3,040
産業社会学部	現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻	840		3,360
	子ども社会専攻	60		240
	計	900		3,600
文学部	人文学科	1,105		4,420

理工学部	電気電子工学科	142	12	592
	機械工学科	160	10	660
	都市システム工学科	84	2	340
	環境システム工学科	69	2	280
	ロボティクス学科	83	6	344
	数理科学科	90		360
	物理科学科	80		320
	電子情報工学科	94	8	392
	建築都市デザイン学科	70	16	312
	計	872	56	3,600
国際関係学部	国際関係学科	305	0	1,220
政策科学部	政策科学科	360		1,440
情報理工学部	情報システム学科	110		440
	情報コミュニケーション学科	110		440
	メディア情報学科	110		440
	知能情報学科	110		440
	計	440		1,760
映像学部	映像学科	150		600
薬学部	薬学科	100		600
	創薬科学科	60		240
	計	160		840
生命科学部	応用化学科	80		320
	生物工学科	80		320
	生命情報学科	60		240
	生命医科学科	60		240
	計	280		1,120
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	220		880
合計		7,077	56	28,620

(大学院)

第6条 本大学に、大学院を置く。

2 大学院に関する事項は、この学則に定める他、立命館大学大学院学則に定める。

第7条 削除

(附属施設および機関)

第8条 本大学に、研究所、図書館、共通教育推進機構、教育開発推進機構、言語教育推進機構、国際教育推進機構、教職教育推進機構、保健センター、心理・教育相談センターその他の附属施設および機関を置く。

2 各附属施設および機関に関する事項は、各規程に定める。

### 第3節 教職員組織

(役職)

第9条 本大学に、学長および副学長を置く。

2 各学部に、学部長、副学部長および学生主事を置く。

3 各研究科に、研究科長を置く。

4 学部および研究科は、必要に応じて、前2項以外の役職者を置くことができる。

(教職員)

第10条 本大学に、教授、准教授、講師、助教およびその他の職員を置く。

2 教職員に関する事項は、別に定める。

(学長および副学長)

第11条 学長は、学校法人立命館総長がこれを兼ねる。副学長は、学校法人立命館副総長のうち、本大学を担当するものがこれを兼ねる。

2 学長は、本大学を代表し、教育研究に関する事項を統括する。

3 副学長は、2人とし、1人は学長を補佐し、学長に事故あるとき、または学長が欠けたときは、その職務を代行する。

### 第4節 教授会および大学協議会等

(教授会)

第12条 本大学の各学部に、教授会を置く。

2 教授会は、当該の学部に属する次の各号に掲げる者で構成する。

(1) 教授

(2) 准教授

(3) 専任講師

3 教授会は、必要に応じて、前項にかかげる以外の教職員を出席させることができる。

4 教授会は、学部長が必要と認めたとき、または構成員の3分の1以上の要求があったとき、学部長がこれを招集してその議長となる。学部長に支障があるときは、その指名により他の教授がこれを代行する。

5 学長は、必要と認めたとき、教授会の招集を要請し、または教授会に出席して発言することができる。

6 教授会は、次の事項を審議する。

(1) 学部の学科および専攻の新設、増設、廃止、変更に関する事項

(2) 学則および学部諸規程の制定、改廃に関する事項

- (3) 教員の人事に関する事項
  - (4) 学科課程、授業および学力考査に関する事項
  - (5) 学生の入学、卒業、その他学生の身上に関する事項
  - (6) 学生の補導に関する事項
  - (7) 学生の定数に関する事項
  - (8) 学校法人および大学の諸規程において、教授会の議を経ることを要すると定められた事項
  - (9) その他、研究および教学に関する事項
- 7 学部長は、教授会の議決を執行し、学部を代表する。
- 8 この学則に定めるものの他、教授会の組織、運営等に関する事項は、各学部の教授会規程に定める。

#### (大学協議会)

第 13 条 本大学に、大学協議会（以下本条において「協議会」という。）を置く。

- 2 協議会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
- (1) 学長
  - (2) 副学長
  - (3) 各学部長
  - (4) 各学部教授会から選出された 1 人
  - (5) 独立研究科の各研究科長
- 3 協議会は、学長がこれを招集してその議長となる。
- 4 協議会は、次の事項について協議する。
- (1) 教学の基本方針に関する事項
  - (2) 大学の機構、組織および制度に関する事項
  - (3) 教員の人事に関する事項
  - (4) 教学、教務に関する事項
  - (5) 本大学と学校法人立命館が設置するその他の学校との関係に関する事項
  - (6) その他、教学上の重要な事項
- 5 協議会は、教学、教務、補導、就職等に関する他の諸機関の審議、決定事項について、当該機関から報告を受け、またはこれに承認を与える。
- 6 この学則に定めるものの他、協議会の運営等に関する事項は、大学協議会規程に定める。

#### (教学委員会)

第 13 条の 2 本大学に、教学委員会を置く。

- 2 教学委員会の組織および運営に関する事項は、立命館大学教学委員会規程に定める。

#### (補導会議)

第 14 条 本大学に、補導会議を置く。

- 2 補導会議は、学生の補導厚生に関する基本方針を協議決定する。
- 3 補導会議の組織および運営に関する事項は、立命館大学補導会議規程に定める。

## 第5節 学年、学期および休業日

(学年および学期)

第15条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 学年をふたつの学期に分け、前期および後期とする。

(1) 前期学期 4月1日から9月25日まで

(2) 後期学期 9月26日から3月31日まで

(休業日)

第16条 授業を行わない日(以下「休業日」という。)は、次のとおりとする。

(1) 日曜日および土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に定める日のうち学長が定める日

(3) 創立記念日

(4) 夏期休暇

(5) 冬期休暇

(6) 春期休暇

2 各年度の休業日については、大学協議会の議を経て、学年のはじめまでに学長が定める。

3 学長が必要と認めるときは、大学協議会の議を経て、前2項の休業日を臨時に変更し、または臨時の休業日を定めることができる。

## 第2章 学部通則

### 第1節 修業年限および在学年限

(修業年限)

第17条 修業年限は、4年とする。ただし、薬学部薬学科にあつては、6年とする。

(在学年限)

第18条 在学年限は、8年とする。ただし、薬学部薬学科にあつては、12年とする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第19条 第17条にかかわらず、社会人を対象とした入学制度により1年次に入学した学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを申し出たときは、教授会の議を経て、学部長が在学年限を上限としてその計画的な履修を許可することがある。

### 第2節 入学

(入学の時期)

第20条 本大学の入学時期は、毎年4月とする。ただし、教授会の議を経て、学長が9月に入学を認めることがある。

(入学の資格)

第21条 本大学に入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する資格を有する者で

なければならない。

- (1) 高等学校または中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

#### (入学の出願)

第22条 入学を志願する者は、所定の期日までに、入学願書に第62条の2に定める入学検定料および立命館大学入学の出願および入学手続に関する規程（以下「入学の出願等に関する規程」という。）に定める書類を添えて願い出なければならない。

- 2 前項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、入学検定料を徴収しない。
  - (1) 大使館推薦および大学推薦による国費外国人留学生の場合
  - (2) 大学その他の団体との間で協定等により不徴収について合意している場合
- 3 入学志願に関する事項は、入学の出願等に関する規程に定める。

#### (入学者の選考)

第23条 入学志願者は、別に定める方法により選考し、教授会の議を経て、学部長が合格者を決定する。

- 2 学部長は、前項の合格者に合格の通知を行う。
- 3 入学志願者の選考に関し必要な事項は、毎年度の立命館大学入学試験要項に定める。

#### (入学手続および入学許可)

第24条 前条第2項の合格の通知を受けた者は、入学の出願等に関する規程に定めるところにより、所定の期日までに入学手続書類を提出するとともに、所定の納付金を納めなければならない。

- 2 学部長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

#### (編入学の資格)

第25条 本大学に編入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する資格を有する者でなければならない。

- (1) 短期大学(外国の短期大学、我が国における、外国の短期大学相当として指定された学校(文

部科学大臣指定外国大学(短期大学相当)日本校)を含む。)を卒業した者

(2) 高等専門学校を卒業した者

(3) 専修学校の専門課程(修業年限が2年以上、総授業時数が1,700時間以上であるものに限る。)を修了した者

(転入学の資格)

第26条 本大学に転入学することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する資格を有する者でなければならない。

(1) 2年次

大学(外国の大学を含む。)に1年以上在学し、30単位以上修得した者

(2) 3年次

大学(外国の大学を含む。)に2年以上在学し、60単位以上修得した者

(学士入学の資格)

第27条 本大学に学士入学することのできる者は、学士の学位を有する者でなければならない。

2 本大学の卒業生が卒業学部他学科等へ入学を志願するときは、教授会の議を経て、学部長がこれを許可することがある。

(再入学の資格)

第28条 本大学に再入学することのできる者は、本大学を退学または除籍となった者で、退学または除籍となった学期の最終日の翌日から起算して2年以内のものとする。ただし、第18条に規定する在学年限を超えて除籍となった者および第57条第1項により退学処分となった者は、再入学することはできない。

(編入学、転入学、学士入学、再入学の在学年数)

第29条 編入学、転入学、学士入学および再入学を許可された者の入学年次および在学すべき年数については、教授会の議を経て、学部長が決定する。

(編入学等の出願、入学者選考、入学手続および入学許可)

第30条 編入学、転入学、学士入学および再入学の場合には、第20条および第22条から第24条までの規定を準用する。

2 前項の規定にかかわらず、再入学の検定料は徴収しない。

### 第3節 教育課程および履修方法等

(教育課程の編成方針)

第31条 本大学は、学部および学科等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

2 教育課程の編成にあたっては、各学部および学科に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮する。

(資格課程)

第 31 条の 2 教育職員免許状を得るための資格、学芸員、図書館司書または学校図書館司書教諭他の資格を得ようとする者のために、特に指定する資格課程を置く。

(授業科目)

第 32 条 授業科目は、各学部則に定める科目区分に分類して配置する。

2 授業科目は、必修科目、選択科目および自由科目に分け、各年次に配当して編成する。

(授業科目の担当者の決定)

第 32 条の 2 授業科目の担当者は、科目適合性を配慮し、教授会の議を経て学部長が決定する。

(授業の方法)

第 33 条 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。

2 教授会が必要と認めた場合には、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 前項の授業方法により修得する単位数は 60 単位を超えてはならない。

4 教授会が必要と認めた場合には、文部科学大臣が別に定めるところにより、第 1 項の授業の一部を、校舎および附属施設以外の場所(外国を含む)で行うことができる。

(単位計算方法)

第 34 条 各授業科目の単位数は、1 単位あたり 45 時間の学習を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果および授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

(1) 講義および演習については、教授会の定めるところにより毎週 1 時間から 2 時間までの範囲で、15 週の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験、実習および実技については、教授会の定めるところにより毎週 2 時間から 3 時間までの範囲で、15 週の授業をもって 1 単位とする。

(3) 1 の授業科目について、講義、演習、実験、実習または実技のうち 2 以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じて、前 2 号に規定する基準を考慮して、教授会の定める時間の授業をもって 1 単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、当該教授会が単位数を定めることができる。

(各授業科目の授業期間)

第 35 条 各授業科目の授業は、学期毎に 15 週にわたる期間を単位として行う。ただし、教授会が必要と認めた場合には、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(成績)

第 35 条の 2 授業科目の成績評価は、A+、A、B、C、P または F で行い、A+、A、B、C およ

びPを合格、Fを不合格とする。

- 2 前項の成績評価は、A+は100点法では90点以上、Aは同80点台、Bは同70点台、Cは同60点台およびFは同60点未満とし、Pは特定科目における合格とする。
- 3 前2項は、他学部の授業科目を履修した場合および入学する前に本大学の科目等履修生制度により授業科目を修得した単位を認定する場合についても適用する。
- 4 第1項および第3項にかかわらず、他大学等において修得した単位を認定する場合は、N(認定)とする。

#### (単位の授与)

第36条 授業科目を履修し、授業科目毎に実施する試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 授与または認定した単位の取消しは、行わない。ただし、教学委員会の議を経て教授会で承認した場合は、この限りでない。

#### (登録上限単位数)

第36条の2 学生が1年間または1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限は、各学部則で定める。

#### (自由科目)

第36条の3 自由科目の単位数は、卒業に必要な単位数に算入しない。

#### (他学部の授業科目の履修等)

第36条の4 教授会が教育上有益と認めるときは、学生に本大学の他学部の授業科目を履修させることができる。

#### (他大学等における授業科目の履修等)

第37条 教授会が教育上有益と認めるときは、他の大学または短期大学との協議にもとづき、学生に当該他大学等の授業科目を履修させることができる。

- 2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位については、60単位を超えない範囲で本大学における卒業に必要な単位として認めることができる。
- 3 前2項の規定は、学生が、外国の大学または短期大学に留学する場合について準用する。

#### (大学以外の教育施設等における学修)

第38条 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学または高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項および第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えてはならない。

#### (入学前の既修得単位等の認定)

第39条 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学または短期大学

(いずれも外国の大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生制度により修得した単位を含む。)を、本大学に入学した後における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 教授会が教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。
- 3 前2項により修得したものとみなし、または与えることのできる単位数は、編入学、転入学、学士入学および再入学の場合を除き、30単位を上限とし、第37条第1項および第2項ならびに前条第1項の規定により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えてはならない。

(単位認定等の権限)

第40条 第36条および第36条の4から第39条にもとづく単位授与または単位認定は、教授会の議を経て学部長が決定する。

(編入学、転入学および学士入学の単位認定)

第41条 編入学者、転入学者または学士入学者にあつては、第39条の規定により、入学以前の大学等において修得した単位のうち、2年次入学者にあつては30単位、3年次入学者にあつては62単位を超えない範囲で、本大学において履修し、修得したものとみなすことができる。ただし、理工学部および情報理工学部の2年次入学者にあつては34単位、3年次入学者にあつては70単位、理工学部の外国の大学との特別プログラムにおいて大学教育の学部2年次課程を修了し3年次に転入学した者にあつては92単位を上限とすることができる。

- 2 教授会が認めたときは、編入学、転入学または学士入学以前の大学等において修得した教職および教科に関する科目、学芸員に関する科目ならびに社会福祉士指定科目の単位を本大学において履修し、修得したものとみなすことができる。この場合、卒業に必要な単位として算入されない科目については前項に規定する上限を超えて単位を認定することができる。

(転籍の単位認定)

第42条 転籍者にあつては、前条の規定を準用する。ただし、同一の学部内の転籍者については、前条第1項に規定する上限を超えて単位を与えることができる。

第43条 削除

第44条 削除

(学部則)

第45条 この節に定めるものの他、授業科目の種類および単位数、履修方法、卒業に必要な単位数ならびに単位認定等については、各学部則に定める。

#### 第4節 休学、復学、転学、転籍、留学、国内交流派遣、退学および除籍

(休学)

第 46 条 病気その他やむを得ない理由により継続して 2 か月以上就学することができない者は、休学を願い出ることができる。

- 2 休学を願い出た者に対して、教授会の議を経て、学部長が休学を許可することがある。
- 3 学部長は、病気のため就学することが適当でない認められる者に対して、教授会の議を経て、休学を命ずることができる。
- 4 休学期間は、継続して 2 年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1 年を限度として、その期間を延長して許可することがある。
- 5 休学期間は、通算して 3 年を超えることができない。
- 6 前項にかかわらず、第 1 項の願い出の理由が、学長が決定した緊急災害による場合は、休学期間は前項の通算 3 年に含めない。
- 7 休学期間は、在学期間に算入しない。

#### (復学)

第 47 条 休学している者が復学を願い出たときは、教授会の議を経て、学部長が復学を許可することがある。

#### (他大学への転学)

第 48 条 本大学の学生が他の大学に転学を志願する場合は、教授会の議を経て、学部長がこれを許可することがある。

#### (転籍)

第 49 条 本大学の学生で、第 5 条に定める他の学部、学科または専攻等に転籍を志願する者については、選考のうえ、転籍元の教授会および転籍先の教授会の議を経て、2 年次または 3 年次の学年始めの転籍を転籍先の学部長が許可することがある。

- 2 転籍は、年次を下げてこれを許可しない。
- 3 前項にかかわらず、理工学部、情報理工学部、薬学部および生命科学部の 3 年次へ転籍を志願する者については、単位修得状況により 2 年次への転籍を許可することがある。

#### (留学)

第 50 条 留学とは、外国の大学、短期大学およびそれらに相当する高等教育機関で、協定または合意にもとづき、1 学期相当以上にわたり正規の授業科目を履修することをいう。

- 2 留学を志願する者に対して、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、学部長が留学を許可することがある。
- 3 留学期間は、在学期間に算入する。

#### (国内交流派遣)

第 51 条 国内交流派遣とは、国内の大学および短期大学との協定にもとづき、1 学期相当以上にわたり当該大学等の正規の授業科目を履修するために派遣することをいう。

- 2 国内交流派遣を志願する者に対して、教育上有益と認めるときは、教授会の議を経て、学部長が国内交流派遣を許可することがある。

3 国内交流派遣期間は、在学期間に算入する。

(退学)

第 52 条 退学しようとする者は、教授会の議を経て、学長の許可を得なければならない。

(除籍)

第 53 条 次の各号のいずれかに該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

- (1) 授業料、在籍料または特別在学料を納めない者
- (2) 第 18 条に規定する在学年限を超えた者
- (3) 第 46 条第 5 項に規定する休学期間を超えてなお復学しない者
- (4) 休学期間終了日までに所定の手続をとらなかった者
- (5) 死亡した者

(手続き)

第 53 条の 2 この節に定めるものの他、休学、復学、転籍、留学、国内交流派遣、退学および除籍に関する手続きは、立命館大学学籍に関する規程に定める。

## 第 5 節 卒業および学位

(卒業の認定)

第 54 条 第 17 条に規定する修業年限以上在学し、学部則に定める卒業に必要な単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

2 薬学部薬学科を除き本大学に 3 年以上在学したものが、卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと教授会が認める場合には、前項の規定にかかわらず、学長が卒業を認定することができる。

(学位)

第 55 条 学位および学位の授与に関する事項については、立命館大学学位規程による。

## 第 6 節 賞罰

(表彰)

第 56 条 学生として表彰に値する行為があった者は、学長が表彰することができる。

(懲戒)

第 57 条 本大学の規定に違反し、学生の本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

- 2 懲戒の種類は、退学、停学および戒告とする。
- 3 停学期間は、在学期間に算入し、修業年限に算入しない。ただし、停学期間が 3 か月以内の場合には、修業年限に算入することができる。
- 4 懲戒に関する事項は、立命館大学学生懲戒規程に定める。

## 第 7 節 科目等履修生、聴講生、特別聴講学生および外国人留学生

(科目等履修生)

第 58 条 本大学の授業科目の履修を志願する者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経て、学部長が科目等履修生として許可することがある。

2 科目等履修生に関する事項は、立命館大学科目等履修生規程に定める。

(聴講生)

第 59 条 本大学の授業科目の聴講を志願する者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経て、学部長が聴講生として許可することがある。

2 聴講生に関する事項は、立命館大学聴講生規程に定める。

(特別聴講学生)

第 60 条 他の大学または短期大学(外国の大学等を含む。)との協定等にもとづき、本大学の授業科目の履修を志願する者があるときは、選考のうえ、教授会の議を経て、学部長が特別聴講学生として許可することがある。

2 特別聴講学生に関する事項は、立命館大学特別聴講学生規程に定める。

(外国人留学生)

第 61 条 大学教育を受ける目的をもって入国し、本大学に入学した外国人で正規課程に在籍するものを外国人留学生とする。

## 第 8 節 授業料等納付金および手数料

第 62 条 削除

(入学検定料)

第 62 条の 2 入学検定料は、納付金等別表 1 のとおりとする。

(入学金)

第 62 条の 3 入学する者は、納付金等別表 2 に定める入学金を納めなければならない。

(授業料)

第 62 条の 4 学生は、在籍する学部、学科および専攻ならびに年次に応じて、前期授業料および後期授業料を学期毎に納めなければならない。ただし、9月に入学した者の授業料は、前期授業料を第 15 条第 2 項に定める後期学期の授業料とし、後期授業料を同前期学期の授業料とする。

2 前項の授業料は、納付金等別表 3—1—1 および、納付金等別表 3—1—2 のとおりとする。

3 前項にかかわらず、在学期間が修業年限を超える者において当該学期に成績評価する授業科目の受講登録単位数および第 37 条第 2 項にもとづき卒業に必要な単位として認定する単位数の合計が 8 単位以下である学期の授業料は、納付金等別表 3—1—1 および、納付金等別表 3—1—2 に定める授業料の 2 分の 1 とする。

4 前 2 項にかかわらず、第 19 条の規定により長期にわたる教育課程の履修を許可された者（以下「長期履修生」という。）の授業料は、納付金等別表 3—2 に定める 1 単位あたりの授業料に当該

学期の受講登録単位数を乗じた額とする。

(実習費)

第 62 条の 5 特定の科目または課程を履修する者は、立命館大学学費等の納付に関する規程に定める実習費を納めなければならない。

(在籍料)

第 62 条の 6 休学中の者は、当該期間中（休学を開始した学期を含む。）は、授業料に代えて納付金等別表 4-1 に定める在籍料を学期毎に納めなければならない。

(特別在学料)

第 62 条の 7 他大学との協定にもとづく学位取得プログラムにおいて本大学から当該他大学に留学している者であって、当該他大学に対する学費の納付を要するものは、当該期間中は、授業料に代えて納付金等別表 4-2 に定める特別在学料を学期毎に納めなければならない。ただし、同プログラムにより本大学に入学または転入学した者については、この限りでない。

第 63 条 削除

(科目等履修料等)

第 64 条 科目等履修生に志願する者は、科目等履修生選考料を所定の期日までに納めなければならない。

2 科目等履修生に許可された者は、科目等履修生登録料を所定の期日までに納めなければならない。

3 前 2 項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、科目等履修生選考料および科目等履修生登録料を徴収しない。

(1) 本大学の大学院生が履修する場合

(2) Study in Kyoto Program を履修する場合

(3) 大学その他の団体との間で協定等により不徴収について合意している場合

4 科目等履修生は、納付金等別表 5-1 に定める科目等履修料を所定の期日までに納めなければならない。

5 前項にかかわらず、第 3 項第 1 号または同第 3 号に該当する場合は、科目等履修料を徴収しない。

(聴講料等)

第 64 条の 2 聴講生に志望する者は、聴講生選考料を所定の期日までに納めなければならない。

2 聴講生は、納付金等別表 5-2 に定める聴講料を所定の期日までに納めなければならない。

3 前 2 項にかかわらず、大学その他の団体との間で協定等により合意している場合は、聴講生選考料および聴講料を徴収しない。

(手数料の金額等)

第 64 条の 3 科目等履修生選考料、科目等履修生登録料および聴講生選考料の金額および納付に関する事項は、立命館大学手数料規程に定める。

(特別履修料)

第 64 条の 4 特別聴講学生は、納付金等別表 5-3 に定める特別履修料を所定の期日までに納めなければならない。

2 前項にかかわらず、大学その他の団体との間で協定等により合意している場合は、特別履修料を徴収しない。

## 第 65 条 削除

(納付金等の減免)

第 65 条の 2 第 22 条、第 62 条の 3、第 62 条の 4、第 62 条の 6 および第 62 条の 7 にかかわらず、入学検定料、入学金、授業料、在籍料および特別在学料の一部または全額を免除することができる。

2 前項については、非常災害時による修学困難者に対する立命館大学学費減免規程、立命館大学外国人留学生学費減免規程および立命館大学災害救助法適用地域の受験生に対する入学検定料免除規程に定める。

(納付金等の納付)

第 66 条 入学検定料、入学金、授業料、実習費、在籍料、特別在学料、科目等履修料、聴講料および特別履修料の納付に関する事項は、立命館大学学費等の納付に関する規程に定める。

## 第 67 条 削除

(納付金等の返還)

第 68 条 既に納めた入学検定料、入学金、授業料、実習費、在籍料、特別在学料、科目等履修料、聴講料および特別履修料は、返還しない。

2 前項にかかわらず、次の期日までに入学辞退を願い出た場合は、既に納めた授業料に限り返還する。

(1) 4 月入学予定者 入学予定の前年度 3 月 31 日まで

(2) 9 月入学予定者 入学予定の当年度 9 月 25 日まで

3 第 1 項にかかわらず、9 月 25 日までに退学または除籍となった場合は、当年度の後期学期以降の授業料に相当する既納額を、3 月 31 日までに退学または除籍となった場合は、次年度の前期学期以降の授業料に相当する既納額を返還する。

4 第 1 項にかかわらず、長期履修生、科目等履修生または聴講生が前期学期に後期学期分を含む授業料、科目等履修料または聴講料を納め、後期学期の受講登録において後期学期の受講科目を取り消した場合は、取り消した科目数に相当する既納額を返還する。

## 第 68 条の 2 削除

## 第9節 奨学制度および学費貸与制度

(奨学制度)

第69条 本大学に、奨学制度および学費貸与制度を設ける。

2 奨学制度および学費貸与制度に関する事項は、各規程に定める。

## 第3章 公開講座

(公開講座)

第70条 本大学の教育研究を広く社会に開放し、地域社会の教育文化の向上に資するため、本大学に公開講座を開設する。

## 第4章 国際寮

(国際寮)

第70条の2 本大学に、国際寮を置く。

2 国際寮に関する事項は、各施設の規程に定める。

## 第5章 変更および細則

(変更)

第71条 この学則の変更は、教授会、大学協議会および常任理事会の議を経て、理事会が決定する。ただし、一部の学部または研究科のみに関する変更については、他の学部および研究科の教授会の議を経ることを要しない。

(細則)

第72条 この学則の施行に関する細則その他必要な事項は、別にこれを定める。

### 附 則

本学則は、昭和23年4月1日からこれを実施する。

### 附 則 (理工学部増設に伴う改正 昭和24年2月21日認可)

本学則は、昭和24年4月1日から施行する。

### 附 則 (文学部専攻増設昭和25年3月1日認可および大学院設置 昭和25年3月14日認可等に伴う改正)

本学則は、昭和25年4月1日から施行する。

### 附 則 (例規登録)

本学則は、昭和26年4月1日から施行する。

### 附 則 (大学院研究科専攻増設に伴う改正 昭和27年3月31日認可)

本学則は、昭和27年4月1日から施行する。

**附 則**（経済学部学科増設昭和28年1月31日認可および大学院専攻増設 昭和28年3月31日認可等に伴う改正）

本学則は、昭和28年4月1日から施行する。

**附 則**（大学院学則を分離したことに伴う改正）

本学則は、昭和29年4月1日から施行する。

**附 則**（字句その他整備および一部改正）

本学則は、昭和31年11月30日から施行する。

**附 則**（文学部専攻増設昭和32年3月22日認可および経済学部規定、文学部規定および聴講生規定中一部改正）

本学則は、昭和33年2月1日から施行する。

**附 則**（法学部規定、外国人学生規定中一部改正）

本学則は、昭和33年4月1日から施行する。

**附 則**（法学部・経済学部定員変更ならびに総則および文学部規定中一部改正）

この学則は、昭和34年4月1日から適用する。

**附 則**（総則、経済学部規定および文学部規定中一部改正）

この学則は、昭和35年4月1日から適用する。

**附 則**（教授会および大学協議会規定の整備に伴う改正）

この学則は、昭和35年9月1日からこれを適用する。

**附 則**（文学部規定および理工学部規定中一部改正）

この学則は、昭和36年4月1日から施行する。

**附 則**（経営学部増設に伴う改正昭和37年1月20日認可）

この学則は、昭和37年4月1日から施行する。

**附 則**（二部改組ならびに文学部および教員養成課程学則一部変更に伴う改正）

この学則は、昭和38年4月1日から適用する。

**附 則**（経営学部二部増設および各学部科目増設変更に伴う改正）

この学則は、昭和39年4月1日から適用する。

**附 則**（産業社会学部増設に伴う改正および各学部科目変更に伴う改正）

この学則は、昭和40年4月1日から施行する。

**附 則**

この学則は、昭和41年4月1日から施行する。

**附 則**（各学部規定のうち二部の随意外国語科目増設および二部文学部履修規定変更に伴う改正）

この学則は、昭和42年4月1日から施行する。

**附 則**（昭和42年8月22日転部制度廃止に伴う改正）

この学則は、昭和43年4月1日から適用する。但し、昭和42年度以前入学者の転部は改正前の学則による。

**附 則**（法学部および経営学部専門科目ならびに文学部学芸員科目を置くことの改正）

この学則は、昭和43年4月1日から適用する。

**附 則**（文学部専門科目及び二部法・経済・経営・文各学部科目変更に伴う改正）

この学則は、昭和44年4月1日から適用する。

**附 則**（昭和44年10月24日教授会民主化の制度化に伴う改正）

この学則は、昭和44年10月1日から適用する。ただし、第11条第2項については昭和44年11月1日から施行する。

**附 則**（昭和45年3月6日二部法・経済・文学部専門科目の一部改正）

この学則は、昭和45年4月1日から施行する。

**附 則**（昭和45年4月10日経済・経営・文・理工学部規定中科目等の改正）

この学則は、昭和45年4月1日から適用する。

**附 則**（昭和46年6月26日成績表示方法の改訂に伴う改正）

この学則は、昭和46年4月1日から適用する。但し、昭和42年度以前入学者は改正前の学則による。

**附 則**（法学部、経済学部、経営学部、産業社会学部、文学部ならびに理工学部の履修科目の整理と単位数の変更および外国語の単位数増に伴う改正）

この学則は、昭和46年4月1日から適用する。ただし、第32条、第33条、第39条、第40条、第46条および第47条は昭和44年度入学生から、また、第57条は昭和45年度入学生から、それぞれ適用する。

**附 則**（二部理工学部の専門科目中の一部改正）

この学則は、昭和46年4月1日から施行する。

**附 則**（経済学部、二部文学部専門科目等の一部改正）

この学則は、昭和47年4月1日から施行する。

**附 則**

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

**附 則**

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

**附 則**

この学則は、昭和49年4月1日から施行する。

**附 則**

この学則は、昭和49年4月1日から施行する。

**附 則**

この学則は、昭和50年4月1日から施行する。ただし、第60条（4）ロ、化学科の履修科目は、昭和48年度入学生から適用する。

**附 則**（学部 of 学科 of 名称及び収容定員の一部改正）

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

**附 則**（法学部、経済学部、経営学部一部の教職に関する専門科目の一部改正）

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

**附 則**（法学部、経済学部、経営学部、文学部二部の専門科目中共通専門科目の一部改正）

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

**附 則**（文学部二部の専門科目中固有専門科目の一部改正）

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

**附 則**（理工学部一部の外国語科目中一部改正）

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

**附 則**（理工学部一部専門科目中一部改正）

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

**附 則**（理工学部一部の教科及び教職に関する専門科目の一部改正）

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

**附 則**（昭和52年1月14日法学部一部の一般教育科目の一部改正）

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。

**附 則**（昭和52年1月14日産業社会学部の専門科目の特殊講義の科目表示及び単位数の一部改正）

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。ただし、昭和50年度入学者から適用する。

**附 則**（昭和52年1月28日経済学部一部の専門科目の一部改正）

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。ただし、昭和52年度1回生から適用する。

**附 則** (昭和52年3月25日法、経済、経営、文学部二部の一般教育、外国語、専門科目及び文学部二部の教職科目の一部改正)

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。

**附 則** (昭和52年11月12日経営学部一部専門科目の一部改正)

この学則は、昭和53年4月1日から施行する。

**附 則** (昭和53年1月20日法学部、経済学部、経営学部、産業社会学部、文学部一部の「外国語」随意科目の名称統一に伴う改正)

この学則は、昭和53年4月1日から施行する。

**附 則** (昭和53年1月20日理工学部一部、数学物理学科、化学科、専門科目中の単位数一部変更に伴う改正)

この学則は、昭和52年12月23日より適用する。

**附 則** (昭和53年1月20日理工学部、機械工学科のカリキュラム改訂に伴う改正)

この学則は、昭和53年4月1日より施行する。

**附 則** (昭和53年1月20日法学部、経済学部、経営学部、文学部二部の一般教育科目、外国語、共通専門科目、固有専門科目の一部変更に伴う改正)

この学則は、昭和53年4月1日より施行する。

**附 則** (昭和53年3月10日理工学部二部のカリキュラム改訂に伴う改正)

この学則は、昭和53年4月1日より施行する。

**附 則** (昭和53年10月13日理工学部二部の随意外国語の一部改正)

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。ただし、昭和53年度以前の入学者にも適用する。

**附 則** (昭和53年11月10日産業社会学部のカリキュラム改訂に伴う改正)

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。ただし、昭和54年度1回生から適用する。

**附 則** (昭和53年12月8日理工学部一部の随意外国語の一部改正)

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。ただし、昭和53年度以前の入学者にも適用する。

**附 則** (昭和54年1月26日理工学部一部化学科専門科目の一部改正)

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

**附 則** (昭和54年3月23日文学部一部の専門科目履修に関する一部改正)

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

**附 則** (昭和54年3月23日理工学部二部の外国語および教職科目の一部改正)

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。ただし、昭和53年度入学者から適用する。

**附 則** (昭和54年11月30日法学部一部の一般教育科目の特殊講義の単位数の改正および経済学部、経営学部、文学部、理工学部の一部の一般教育科目に特殊講義設置に伴う改正)  
この学則は、昭和55年4月1日より施行する。ただし、昭和54年度以前の入学者にも適用する。

**附 則** (昭和54年11月30日第49条産業社会学部一般教育科目中、特殊講義の適用回生については、昭和53年度以前の入学者にも適用することに改める改正)  
この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

**附 則** (昭和55年2月8日経済学部一部の一般教育および専門科目の一部改正及び理工学部一部数学物理学科の専門科目の一部改正)  
この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

**附 則** (昭和55年3月14日法・経済・理工学部の二部の専門科目並びに理工学部一部数学物理学科・化学科の専門科目の一部改正)  
この学則は、昭和55年4月1日から施行する。ただし、経済学部規定の改正については昭和55年度在学学生より適用する。

**附 則** (昭和55年4月11日法学部一部の専門科目、教職専門科目並びに文学部一部地理学科の専門科目の一部改正)  
この学則は、昭和55年4月1日から適用する。

**附 則** (昭和55年5月16日休業日に関する改正)  
この学則は、昭和55年4月1日から適用する。

**附 則** (昭和55年10月17日教職に関する専門科目、教育心理学、青年心理学の独立開設と条文の表現の統一及び科目名の統一と配列の一部改正)  
この学則は、昭和56年4月1日より施行する。ただし、昭和55年以前の入学者にも適用する。

**附 則** (昭和56年3月13日経営学部一部の専門科目履修単位数、理工学部一部数学物理学科並びに電気工学科専門科目増設、理工学部二部の専門科目単位数変更に伴う一部改正)  
この学則は、昭和56年4月1日より施行する。ただし、第60条 (3) 数学物理学科規程については昭和56年度在学学生にも適用する。

**附 則** (1981年3月27日法、文学部一部の専門科目の一部改正)  
この学則は、1981年4月1日から施行する。

**附 則** (1982年2月26日副学長の設置、経済学部一部の他学部受講科目の認定、理工学部一部機械工学科および土木工学科のカリキュラム変更、産業社会学部一部・理工学部一部および二部5学部の随意外国語科目の変更に伴う改正)  
この学則は、1982年4月1日から施行する。ただし、第32条 (2)、第39条 (2)、第46条 (2)、第49条 (2)、第56条 (2)、第60条 (2) および第63条 (2) の随意外国語規定については1982年度在

学生にも適用する。

**附 則**（1982年3月26日各学部の学士号を得るための一般教育科目の要件の一部改正）  
この学則は、1982年4月1日から施行する。ただし、1981年度以前の入学者にも適用する。

**附 則**（1982年6月11日日本大学において取得できる教育職員免許状の種類および教科の明記等に伴う一部改正）  
この学則は、1982年4月1日から適用する。

**附 則**（1983年2月25日理工学部化学科、工業化学課程選択科目の変更に伴う改正）  
この学則は、1983年4月1日から施行し、同年度入学の者より適用する。

**附 則**（1983年10月14日法学部一部の第二外国語科目増設に伴う一部改正）  
この学則は、1984年4月1日から施行する。

**附 則**（1983年12月9日文学部一部の専門科目名変更および履修規程の一部改正）  
この学則は、1984年4月1日から施行する。

**附 則**（1984年1月27日法学部、経済学部、経営学部、文学部、理工学部二部の教学改革に伴うカリキュラム改正）  
この学則は、1984年4月1日より施行する。ただし、1983年度以前の入学者にも適用するが、入学年度による適用範囲については別に定める。

**附 則**（1984年3月23日法学部、経済学部、経営学部、文学部、理工学部二部の外国語科目の一部改正）  
この学則は、1984年4月1日より施行する。ただし、1983年度以前の入学者にも適用するが、入学年度による適用範囲については別に定める。

**附 則**（1984年3月23日理工学部二部の専門科目の一部改正）  
この学則は、1984年4月1日から施行する。ただし、1983年度以前の入学者にも適用するが、入学年度による適用範囲については別に定める。

**附 則**（1984年3月23日理工学部二部の専門科目の一部改正）  
この学則は、1984年4月1日から施行し、1983年度以前の入学者に適用する。

**附 則**（1984年4月27日法学部一部の外国語・クラス選択制の実施に伴う改正）  
この学則は、1984年4月1日より適用し、1984年度入学の者より適用する。

**附 則**（1984年4月27日経済学部一部専門科目の一部改正）  
この学則は、1984年度入学者より適用する。ただし、「演習Ⅰ（4単位）」、「演習Ⅱ・卒業論文（8単位）」は、1982年度入学者より適用する。

**附 則**（1984年4月27日法・経済・経営・産業社会・文学部一部の随意外国語の単位の表現

の変更および経済学部一部の随意外国語にスペイン語を、理工学部一部の随意外国語に露語を新設することに伴う改正)

この学則は、1984年4月1日から適用する。ただし、1983年度以前の入学者にも適用する。

**附 則** (1984年6月8日収容定員の一部改正)

この学則は、1985年4月1日から施行する。

**附 則** (1984年10月22日入学資格に関する一部改正)

この学則は、1985年度入学試験より適用する。

**附 則** (1985年1月25日収容定員の一部改正)

この学則は、1985年4月1日から施行する。

**附 則** (1985年1月25日教職に関する専門科目の一部改正)

この学則は、1985年4月1日より施行し、1984年度以前の入学者にも適用する。

**附 則** (1985年2月22日理工学部一部数学物理学の専門科目の一部改正)

この学則は、1985年4月1日より施行する。ただし、数学課程は1983年度入学者より適用する。物理学課程は、1984年度以前の入学者にも適用する。

**附 則** (1985年2月22日理工学部一部機械工学科の専門科目の一部改正)

この学則は、1985年4月1日より施行する。

**附 則** (1985年3月8日理工学部一部数学物理学の専門科目の一部改正)

この学則は、1985年4月1日より施行する。ただし、数学課程は1983年度入学者より適用する。物理学課程は、1984年度以前の入学者にも適用する。

**附 則** (1985年3月8日理工学部一部機械工学科の専門科目の一部改正)

この学則は、1985年4月1日より施行する。

**附 則** (1985年3月22日法学部、経済学部、経営学部、産業社会学部、文学部、理工学部一部の一般教育科目および保健体育科目の改正、経済学部一部の専門科目の一部改正、産業社会学部の他学部受講の規定化ならびに字句の整合)

この学則は、1985年4月1日から施行する。ただし、経済学部一部の「統計学」、産業社会学部の「比較社会論」、保健体育科目の改正を除いて1984年度以前の入学者にも適用する。

**附 則** (1986年2月28日経済学部一部の専門科目の一部改正)

この学則は、1986年度入学者より適用する。

**附 則** (1986年2月28日経営学部一部の専門科目の一部改正)

この学則は、1986年度4月1日から施行し、1985年度以前の入学者にも適用する。

**附 則** (1986年2月28日理工学部一部の専門科目の一部改正)

この学則は、1986年4月1日より施行する。

**附 則**（1986年2月28日法・経済・経営学部二部の学科目変更）

この学則は、1986年4月1日から施行する。ただし、1985年度以前の入学者については、改正前の科目名に読替えるものとする。

**附 則**（1986年2月28日外国人留学生の外国語科目履修に関する改正）

この規程は、1986年4月1日から適用する。ただし、1985年度以前の入学生にも適用する。

**附 則**（1986年3月28日学年暦、除籍制度変更に伴う改正）

この学則は、1986年4月1日から施行する。

**附 則**（1986年3月28日法・経済・経営・産業社会・文・理工学部の一般教育科目の一部改正）

この学則は、1986年4月1日より施行し、1985年度以前の入学者にも適用する。

**附 則**（1986年4月11日専任講師制度設置に伴う改正）

この学則は、1986年4月11日から施行する。

**附 則**（1986年5月30日理工学部一部数学物理学数学課程カリキュラム改訂に伴う改正）

この学則は、1986年4月1日から適用する。

**附 則**（1986年5月30日外国人留学生の受入れおよび本学学生の外国留学を促進する政策の具体化に伴う改正）

この学則は、1986年4月1日から適用する。

**附 則**（1986年5月30日現行学則が一般教育等を全学一括で実施していることと整合していないので、関係条文を整備するための改正）

この学則は、1986年4月1日から適用する。

**附 則**（1986年6月13日「外国人留学生の既修得単位の取り扱いに関する規程」を新設することに伴う改正）

この学則は、1986年4月1日から適用する。

**附 則**（1986年12月23日文部省認可理工学部一部情報工学科設置に伴う改正）

この学則は、1987年4月1日から施行する。

**附 則**（1986年12月23日文部省認可期間を付した学生定員増申請に伴う改正）

この学則は、1987年4月1日から施行する。ただし、第16条の規定にかかわらず、1987年度から1995年度までの間の毎年入学収容定員は次のとおりとする。

学部または学科の種別	毎年入学収容定員	
	第1部	第2部

法学部法学科		650	200
経済学部経済学科		650	200
経営学部経営学科		650	200
産業社会学部産業社会学科		700	
文学部	哲学科	120	
	文学科	290	
	史学科	200	
	地理学科	90	
	人文学科		150
	計	700	150
理工学部	数学物理学科	90	
	化学科	100	
	電気工学科	80	
	機械工学科	80	
	土木工学科	100	
	情報工学科	80	
	基礎工学科		100
	計	530	100
合計		3880	850

**附 則**（1986年12月23日文部省認可理工学部第一部情報工学科設置申請補正に伴う改正）  
この学則は、1987年4月1日から施行する。

**附 則**（1987年2月13日理事会議案63号による第4条の変更）  
この学則は、1987年4月1日から施行する。

**附 則**（1987年2月13日理事会議案63号による第29条の変更）  
この学則は、1987年4月1日から施行する。ただし、1986年度以前の入学生にも適用する。

**附 則**（1987年2月13日理事会議案63号による第36条および第37条の変更）  
この学則は、1987年4月1日から施行する。ただし、第36条については1986年度以前の入学生にも適用する。第37条第4項のロについては1985年度および1986年度入学生にも適用する。

**附 則**（1987年2月13日理事会議案63号による第43条、第44条および第45条の変更）  
この学則は、1987年4月1日から施行する。ただし、「最適化理論」「多国籍企業論」「国際比較経営論」「国際マーケティング論」「貿易商社論」は経営学系列、「会計情報システム論」は会計学系列、「国際産業論」は産業・商学系列、「国際取引法」は法学系列の開設科目として、1986年度以前の入学生にも適用する。第44条第4項のニもまた同じ。

**附 則**（1987年2月13日理事会議案63号による第49条および第50条の変更）  
この学則は、1987年4月1日から施行する。

**附 則**（1987年2月13日理事会議案63号による第53条、第54条および第55条の変更）

この学則は、1987年4月1日から施行する。ただし、「外国文化（講読）」「比較思想」「現代思想」は哲学専攻、「外国文化（講読）」は心理学専攻、「外国文化（講読）」「現代文学論」「日本文化論」は日本文学専攻、「外国文化（講読）」は中国文学専攻、「外国文化（講読）」は英米文学専攻、「外国文化（講読）」「文化交流史」「比較社会史」は日本史学専攻、「外国文化（講読）」「文化交流史」「比較社会史」は東洋史学専攻、「外国文化（講読）」「文化交流史」「比較社会史」は西洋史学専攻、「外国文化（講読）」「比較地誌学」は地理学専攻の開設科目として、1986年度以前の入学生にも適用する。第54条第4項もまた同じ。

**附 則**（1987年9月18日理事会議案第26号による第19条の3の変更）

この学則は、1988年4月1日から施行する。

**附 則**（1987年9月18日理事会議案第26号による第16条及び期間を付した入学収容定員に関する附則の変更）

この学則は、1988年4月1日から施行する。ただし、本則第16条の規定にかかわらず、理工学部（第1部）電気工学科、機械工学科以外の学部、学科の1988年度から1995年度までの間の入学収容定員及び理工学部（第1部）電気工学科、機械工学科の1988年度から1996年度までの間の入学収容定員は、次のとおりとする。

学部または学科の種類		毎年入学収容定員	
		第一部	第二部
法学部法学科		600	200
経済学部経済学科		600	200
経営学部経営学科		630	200
産業社会学部産業社会学科		700	
文学部	哲学科	120	
	文学科	290	
	史学科	200	
	地理学科	90	
	人文学科		150
	計	700	150
理工学部	数学物理学科	90	
	化学科	100	
	電気工学科	100	
	機械工学科	100	
	土木工学科	100	
	情報工学科	80	
	基礎工学科		100
	計	570	100
国際関係学部国際関係学科		160	
合計		3,960	850

**附 則**（1987年12月18日理事会議案第42号による第19条の2、第29条、第30条、第36条、

第37条、第60条及び第61条の変更)

この学則は、1988年4月1日から施行する。

附 則 (1987年12月18日理事会議案第42号による第43条、第44条及び第45条の変更)

この学則は、1988年4月1日から施行する。ただし、「国際貿易論」は1987年度入学生は国際産業流通コース科目として、「途上国経済論」は経済学系列科目として1987年度以前の入学生にも適用する。

附 則 (1987年12月18日理事会議案第42号による第50条の変更)

この学則は、1988年4月1日から施行する。ただし、1987年度入学生より適用する。

附 則 (1987年12月18日理事会議案第42号による第53条、第54条および第55条の変更)

この学則は、1988年4月1日より施行する。ただし、第53条については1987年度の入学者にも、また第55条については1987年度以前の入学者にも適用する。

附 則 (1988年1月22日理事会議案第47号による第19条の2、第32条、第33条、第39条、第40条、第46条、第47条、第56条、第57条、第63条及び第64条の変更)

この学則は、1988年4月1日より施行する。ただし、1987年度以前の入学者にもその一部を適用することとし、その適用範囲については別に定める。

附 則 (1988年2月12日理事会議案第52号。1987年12月23日文部省認可国際関係学部国際関係学科設置に伴う変更)

この学則は1988年4月1日から施行する。ただし、本則第16条の規定にかかわらず1988年度から期間を付した入学収容定員を定めたものを、1988年度から国際関係学部の入学収容定員を加えたものとして、次のとおりとする。

学部または学科の種類		毎年入学収容定員	
		第一部	第二部
法学部法学科		600	200
経済学部経済学科		600	200
経営学部経営学科		630	200
産業社会学部産業社会学科		700	
文学部	哲学科	120	
	文学科	290	
	史学科	200	
	地理学科	90	
	人文学科		150
	計	700	150
理工学部	数学物理学科	90	
	化学科	100	
	電気工学科	100	
	機械工学科	100	
	土木工学科	100	

	情報工学科	80	
	基礎工学科		100
	計	570	100
国際関係学部国際関係学科		160	
合計		3,960	850

附 則（1988年3月30日理事会議案第77号による第33条、第40条、第47条、第56条及び第64条の変更）

この学則は、1988年4月1日から施行する。

附 則（1988年7月22日理事会議案第28号及び1988年12月22日文部省認可による第16条及び期間を付した入学収容定員に関する附則の変更）

この学則は、1989年4月1日から施行する。ただし、本則第16条の規程にかかわらず、入学収容定員は、次のとおりとする。

学部または学科の種類		1989年度から毎年入学収容定員		第一部の期間付き入学定員（入学収容定員の内数）とその期間
		第一部	第二部	
法学部法学科		600	200	1987年度～1995年度 50
経済学部経済学科		600	200	1987年度～1995年度 50
経営学部経営学科		630	200	1987年度～1995年度 50
産業社会学部産業社会学科		650		1987年度～1988年度 100 1989年度～1995年度 50
文学部	哲学科	120		1987年度～1995年度 30
	文学科	290		1987年度～1995年度 50
	史学科	200		1987年度～1995年度 40
	地理学科	90		—
	人文学科		150	
	計	700	150	
理工学部	数学物理学科	90		1987年度～1995年度 10
	化学科	100		1987年度～1995年度 20
	電気工学科	100		1988年度～1996年度 20
	機械工学科	100		1988年度～1996年度 20
	土木工学科	100		1987年度～1995年度 20
	情報工学科	100		1989年度～1997年度 20
	基礎工学科		100	
	計	590	100	
国際関係学部国際関係学科		200		1989年度～1997年度 40
合計		3,970	850	

附 則（1988年12月26日副総長制の確立に関わる寄附行為変更認可に伴う学則の一部変更）

この学則は、1988年12月26日から施行する。

附 則（1989年1月27日理工学部第一部数学物理学科物理学課程カリキュラム改訂に伴う変更）

この学則は、1989年4月1日から施行する。

附 則（1989年3月29日産業社会学部のカリキュラム整備に伴う専門科目の一部変更）

この学則は、1989年4月1日より施行する。ただし、1987年度入学生より適用する。

附 則（1989年3月29日第二部一般教育の科目変更に伴う変更）

この学則は、1989年4月1日から施行する。ただし、1988年度以前の入学者にも適用する。

附 則（1989年7月28日理事会議案第22号及び1989年12月22日文部省認可による期間を付した入学収容定員に関する附則の変更）

この学則は1990年4月1日から施行する。ただし、本則第16条の規定にかかわらず、入学収容定員は、次のとおりとする。

学部または学科の種類		1990年度から毎年入学収容定員		第一部の期間付き入学定員（入学収容定員の内数）とその期間
		第一部	第二部	
法学部法学科		700	200	1987年度～1995年度 50、 1990年度～1998年度 100
経済学部経済学科		700	200	1987年度～1995年度 50、 1990年度～1998年度 100
経営学部経営学科		700	200	1987年度～1995年度 50、 1990年度～1998年度 70
産業社会学部産業社会学科		750		1987年度～1988年度 100、 1990年度～1998年度 100、 1989年度～1995年度 50
文学部	哲学科	120		1987年度～1995年度 30
	文学科	290		1987年度～1995年度 50
	史学科	200		1987年度～1995年度 40
	地理学科	90		
	人文学科		150	
	計	700	150	
理工学部	数学物理学科	100		1987年度～1995年度 10、 1990年度～1998年度 10
	化学科	110		1987年度～1995年度 20、 1990年度～1998年度 10
	電気工学科	110		1988年度～1996年度 20、 1990年度～1998年度 10
	機械工学科	110		1988年度～1996年度 20、 1990年度～1998年度 10
	土木工学科	110		1987年度～1995年度 20、 1990年度～1998年度 10

	情報工学科	110		1989年度～1997年度 20、 1990年度～1998年度 10
	基礎工学科		100	
	計	650	100	
国際関係学部国際関係学科		210		1989年度～1997年度 40、 1990年度～1998年度 10
合計		4,410	850	

**附 則**（1989年7月28日「平成元年4月7日」付け文部省高等教育局長通知における学則内容検討依頼への対応、教育職員免許法改定に伴う再課程認定申請及び中学校専修免許状課程認定申請のための免許種別・設置科目の変更、「期間を付した入学定員」受入申請、第一部理工学部数学物理学科及び第一部経営学部におけるカリキュラム改革、条文各項目における表現上の統一に伴う変更）

この学則は、1990年4月1日から施行する。

**附 則**（1989年10月27日教育職員免許法改定に伴う再課程認定申請免許種別の変更、産業社会学部での社会福祉士国家試験受験資格取得に関する科目の新設、理工学部第一部数学物理学科、土木工学科におけるカリキュラム改定に伴う変更）

この学則は、1990年4月1日から施行する。

**付 則**（1989年12月22日産業社会学部のカリキュラム整備に伴う専門科目の一部変更）

この学則は、1990年4月1日より施行する。ただし、1989年度入学生より適用する。

**付 則**（1990年1月26日法学部カリキュラム整備に伴う専門科目一部変更）

この学則は、1990年4月1日から施行する。ただし、1989年度入学者から適用する。

**附 則**（1990年1月26日保健体育講義の修得単位を4単位に変更することに伴う一部変更）

この学則は、1990年4月1日から施行する。ただし、1990年度入学生から適用する。

**附 則**（1990年3月9日経済学部第一部専門科目中第1類科目の一部変更）

この学則は、1990年4月1日から施行する。ただし、1988年度入学者から適用する。

**附 則**（1990年7月27日理事会議案第27号及び1990年12月21日文部省認可による期間を付した入学収容定員に関する附則の変更）

この学則は、1991年4月1日から施行する。ただし、本則第16条の規定にかかわらず、入学収容定員は、次のとおりとする。

学部または学科の種類	1991年度から毎年入学収容定員		第一部の期間付き入学定員（入学収容定員の内数）とその期間
	第一部	第二部	
法学部法学科	700	200	1987年度～1995年度 50、 1990年度～1998年度 100
経済学部経済学科	700	200	1987年度～1995年度 50、 1990年度～1998年度 100

経営学部経営学科		700	200	1987年度～1995年度 50、 1990年度～1998年度 70
産業社会学部産業社会学科		830		1989年度～1995年度 50、 1991年度～1999年度 80、 1990年度～1998年度 100
文学部	哲学科	120		1987年度～1995年度 30
	文学科	330		1987年度～1995年度 50、 1991年度～1999年度 40
	史学科	230		1987年度～1995年度 40、 1991年度～1999年度 30
	地理学科	90		
	人文学科		150	
	計	770	150	
理工学部	数学物理学科	100		1987年度～1995年度 10、 1990年度～1998年度 10
	化学科	110		1987年度～1995年度 20、 1990年度～1998年度 10
	電気工学科	110		1988年度～1996年度 20、 1990年度～1998年度 10
	機械工学科	110		1988年度～1996年度 20、 1990年度～1998年度 10
	土木工学科	110		1987年度～1995年度 20、 1990年度～1998年度 10
	情報工学科	110		1989年度～1997年度 20、 1990年度～1998年度 10
	基礎工学科		100	
	計	650	100	
国際関係学部国際関係学科		210		1989年度～1997年度 40、 1990年度～1998年度 10
合計		4,560	850	

**附 則** (1990年7月27日理事会議案第28号②及び1991年2月27日文部省認可による第19条の3、第31条、第34条、第38条、第41条、第45条、第48条、第51条および第55条の変更)  
この学則は、1991年4月1日から施行する。ただし、1990年度入学者から適用する。

**附 則** (1991年1月11日理工学部第一部電気工学科および情報工学科専門科目の一部改正に伴う変更)  
この学則は、1991年4月1日から施行する。ただし、電気工学科は1988年度入学者より適用し、情報工学科は1991年度入学者より適用する。

**附 則** (1991年1月11日外国留学認定科目に対応するための科目整備)  
この学則は、1991年4月1日から施行する。ただし、1990年度以前の入学者にも適用する。

**附 則**（1991年1月11日第二部の特修外国語科目の一部改正）

この学則は、1991年4月1日から施行する。ただし、1990年度以前の入学者にも適用する。

**附 則**（1991年1月11日理事会議案第42号③及び1991年2月27日文部省認可による第34条、第41条、第48条および第58条の変更）

この学則は、1991年4月1日から施行する。ただし、1990年度入学者から適用する。

**附 則**（1991年3月8日二部責任体制の改革に伴う変更）

この学則は、1991年4月1日から施行する。

**附 則**（1991年7月26日理工学部第一部電気工学科の学科名称および一部学科目名・単位数の変更に伴う変更）

この学則は、1992年4月1日から施行する。

（理工学部第一部電気工学科の存続に関する経過措置）

理工学部第一部電気工学科は、改正後の学則の規定にかかわらず1992年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

**附 則**（1991年7月26日理事会議案第22号及び1991年12月20日文部省認可による期間を付した入学収容定員に関する附則の変更）

この学則は、1992年4月1日から施行する。ただし、本則第16条の規定にかかわらず、入学収容定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		1992年度から毎年入学収容定員		第一部の期間付き入学定員（入学収容定員の内数）とその期間
		第一部	第二部	
法学部法学科		750	200	1987年度～1995年度 50、 1990年度～1998年度 100、 1992年度～1999年度 50
経済学部経済学科		750	200	1987年度～1995年度 50、 1990年度～1998年度 100、 1992年度～1999年度 50
経営学部経営学科		750	200	1987年度～1995年度 50、 1990年度～1998年度 70、 1992年度～1999年度 50
産業社会学部産業社会学科		830		1989年度～1995年度 50、 1990年度～1998年度 100、 1991年度～1999年度 80
文学部	哲学科	120		1987年度～1995年度 30
	文学科	330		1987年度～1995年度 50、 1991年度～1999年度 40
	史学科	230		1987年度～1995年度 40、 1991年度～1999年度 30
	地理学科	130		1992年度～1999年度 40

	人文学科		150	
	計	810	150	
理工学部	数学物理学科	130		1987年度～1995年度 10、 1990年度～1998年度 10、 1992年度～1999年度 30
	化学科	140		1987年度～1995年度 20、 1990年度～1998年度 10、 1992年度～1999年度 30
	電気工学科	140		1988年度～1996年度 20、 1990年度～1998年度 10、 1992年度～1999年度 30
	機械工学科	140		1988年度～1996年度 20、 1990年度～1998年度 10、 1992年度～1999年度 30
	土木工学科	140		1987年度～1995年度 20、 1990年度～1998年度 10、 1992年度～1999年度 30
	情報工学科	140		1989年度～1997年度 20、 1990年度～1998年度 10、 1992年度～1999年度 30
	基礎工学科		100	
	計	830	100	
国際関係学部	国際関係学科	230		1989年度～1997年度 40、 1990年度～1998年度 10、 1992年度～1999年度 20
合計		4950	850	

**附 則** (1991年7月26日学位規則の一部を改正する文部省令にもとづく変更)  
この学則は、1991年7月1日から適用する。

**附 則** (1992年1月24日大学設置基準の改正および副専攻科目設置に伴う変更)  
この学則は、1992年4月1日から施行する。ただし、1990年度入学者から適用する。

**附 則** (1992年1月24日「教育職員免許法施行規則の一部を改正する省令」が平成3年6月10日  
日文部省令第30号をもって公布され、平成3年7月1日から施行されたことによる変更)  
この学則は、1991年7月1日から適用する。

**附 則** (1992年1月24日法学部第一部の専門科目の名称変更ならびに専門科目履修に関する  
一部改正)  
この学則は、1992年4月1日から施行する。

**附 則** (1992年1月24日経営学部の科目新設、他学部規定の改訂等に伴う変更)

この学則は、1992年4月1日から施行する。ただし、第44条（4）経済学科目規定については、1992年在学者についても適用する。

**附 則**（1992年1月24日国際関係学部の外国留学認定科目に対応するための科目整備等に伴う変更）

この学則は、1992年4月1日から施行する。但し、「外国留学科目」「外国留学特修科目」「異文化間コミュニケーション（UBC）」「環太平洋研究（UBC）」「憲法」「比較政治論Ⅰ」「比較政治論Ⅱ」「国際平和学Ⅰ」「国際平和学Ⅱ」「経済政策」「民族問題Ⅰ」「民族問題Ⅱ」「比較地域論Ⅰ」「比較地域論Ⅱ」並びに他学部科目については1991年度以前の入学生にも適用する。

**附 則**（1992年1月24日文学部の科目の改廃・名称変更・分野変更等による変更）

この学則は、1992年4月1日から施行する。ただし、副専攻実施に伴う規定は1990年度入学者から適用する。

**附 則**（1992年1月24日二部法学部、経済学部、経営学部、文学部のカリキュラム整備に伴う専門科目の一部変更）

この学則は、1992年4月1日から施行する。ただし、1990年度入学者から適用する。

**附 則**（1992年3月27日博物館実習料等の根拠規程を明確化するための変更）

この学則は、1992年4月1日から施行する。

**附 則**（1992年6月26日教育上有益なとき、9月入学を認めるための変更）

この学則は、1992年9月21日から施行する。

**附 則**（1992年6月26日科目等履修生制度を新設するための変更）

この学則は、1993年4月1日から施行する。

**附 則**（1993年1月22日理工学部第一部カリキュラム改革に伴う変更）

この学則は、1993年4月1日から施行する。但し、第19条の2第3号および第60条に規定する科目および単位については1992年度以前の入学生にも当該設置科目に追加して適用し、詳細は別途定める。

**附 則**（1993年1月22日副専攻カリキュラム改革にともなう変更）

この学則は、1993年4月1日から施行する。ただし、1992年度以前入学者にも当該設置科目に追加して適用し、詳細は別途定める。

**附 則**（1993年1月22日教職課程カリキュラム改革にともなう変更）

この学則は、1993年4月1日から施行する。ただし、1992年度以前入学者にも当該設置科目に追加して適用し、詳細は別途定める。

**附 則**（1993年1月22日編入学制度の改革および科目等履修生の新設にともなう変更）

この学則は、1993年4月1日から施行する。

附 則 (1992年6月26日理事会議案第15号、1993年5月28日理事会議案第17号・第20号、1993年6月25日理事会議案第32号および1993年9月24日理事会議案第46号並びに1993年12月21日文部省認可による入学定員等の変更)

この学則は、1994年4月1日から施行する。ただし、本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		1994年度からの入学定員			第一部の期間付き入学定員 (入学定員の内数) とその期間
		入学定員	編入学定員	入学定員	
		第一部		第二部	
法学部法学科		730	35	200	1987年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50
経済学部経済学科		730	35	200	1987年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50
経営学部経営学科		700	35	200	1987年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 70 1992年度～1999年度 50
産業社会学部産業社会学科		820	40		1989年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 100 1991年度～1999年度 80
文学部	哲学科	120			1987年度～1995年度 30
	文学科	330	20		1987年度～1995年度 50 1991年度～1999年度 40
	史学科	230	15		1987年度～1995年度 40 1991年度～1999年度 30
	地理学科	130	5		1992年度～1999年度 40
	人文学科			150	
	計	810	40	150	
理工学部	数学物理学科	130			1987年度～1995年度 10 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	化学科	140			1987年度～1995年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	電気電子工学科	140			1988年度～1996年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	機械工学科	140			1988年度～1996年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	土木工学科	130			1987年度～1995年度 20

					1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	情報工学科	(*1) [140]			[1989年度～1997年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30]
	情報学科	(*2) 260			1989年度～1997年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	生物工学科	80			
	環境システム 工学科	90			
	基礎工学科			100	
	計	1,110		100	
国際関係学部	国際関係学科	230	30		1989年度～1997年度 40 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 20
政策科学部	政策科学科	300	50		
	合計	5,430	265	850	

編入学定員は、3年次を原則とする。ただし、政策科学部の編入学定員は、1996年度からの定員である。

(\*1) 1994年4月から学生募集を停止し、期限付き入学定員は情報学科に振り替える。なお、情報工学科は、在学生在がいなくなるのを待って廃止する。

(\*2) 期限付き入学定員は情報工学科より振り替えたものである。

**附 則** (1993年9月24日理工学部第一部情報学科、生物工学科及び環境システム工学科設置による課程認定申請に伴う変更)

この学則は、1994年4月1日から施行する。ただし、1993年度以前入学者にも適用する。

**附 則** (1993年12月10日一般教育、外国語および教職課程ならびに法学部第一部・第二部、経済学部第一部・第二部、経営学部第一部・第二部、産業社会学部、文学部第一部・第二部および国際関係学部のカリキュラム改革に伴う変更)

この学則は、1994年4月1日から施行する。ただし、1993年度以前の入学者にも当該設置科目を追加して適用し、詳細は別途定める。

**附 則** (1994年3月25日聴講制度、科目等履修制度等に伴う変更)

この学則は、1994年4月1日から施行する。

**附 則** (1994年7月22日政策科学部政策科学科における免許状授与の所要資格を得させるための課程認定申請に伴う変更)

この学則は、1995年4月1日から施行する。ただし、1994年度入学者から適用する。なお、1994年度入学者については、施行日以降の取得科目に限定して適用する。

附 則 (1994年10月14日副専攻カリキュラム改革にともなう変更)

この学則は、1995年4月1日から施行する。ただし、1994年度以前の入学者にも該当設置科目を追加して適用する。

附 則 (1995年2月24日単位計算基準および科目の新設に伴う変更)

この学則は、1995年4月1日から施行する。ただし、1994年度以前の入学者にも追加して適用する。

附 則 (1995年5月26日理事会議案第13号及び1995年12月22日 文部大臣認可による昼夜開講制にともなう変更および経過措置)

- この学則は、1998年4月1日から施行する。
- 本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		1996年度からの入学定員			昼間主コースの期間付き入学定員 (入学定員の内数) とその期間
		入学定員	編入学定員	入学定員	
		昼間主コース		夜間主コース	
法学部法学科		810	35	160	1987年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50
経済学部経済学科		810	35	50	1987年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50
経営学部経営学科		780	35	100	1987年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 70 1992年度～1999年度 50
産業社会学部産業社会学科		820	40		1987年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 100 1991年度～1999年度 80
文学部	哲学科	140		40	1987年度～1995年度 30
	文学科	360	20	40	1987年度～1995年度 50 1991年度～1999年度 40
	史学科	260	15	40	1987年度～1995年度 40 1991年度～1999年度 30
	地理学科	130	5		1992年度～1999年度 40
	計	890	40	120	
理工学部	数学物理学科	130			1987年度～1995年度 10 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	化学科	140			1987年度～1995年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	電気電子工学科	140			1988年度～1996年度 20

					1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	機械工学科	140			1988年度～1996年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	土木工学科	130			1987年度～1995年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	情報学科	260			1989年度～1997年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	生物工学科	80			
	環境システム 工学科	90			
	計	1,110			
国際関係学部	国際関係学科	230	30		1989年度～1997年度 40 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 20
政策科学部	政策科学科	300	50		
	合計	5,750	265	430	

編入学定員は、3年次を原則とする。

理工学部については昼間主コースの定員を第一部の定員に、夜間主コースの定員を第二部の定員に読みかえる。

情報学科の期間付き入学定員は情報工学科より振り替えたものである。

- 3 以下に掲げる学部・学科の学生定員は、次の通りとし、在学する者がいなくなるまでの間継続する。

理工学部 第一部 情報工学科 入学定員80人 収容定員320人  
 法学部 第二部 法学科 入学定員200人 収容定員800人  
 経済学部 第二部 経済学科 入学定員200人 収容定員800人  
 経営学部 第二部 経営学科 入学定員200人 収容定員800人  
 文学部 第二部 人文学科 入学定員150人 収容定員600人  
 理工学部 第二部 基礎工学科 入学定員100人 収容定員400人

- 4 以下に掲げる学部・学科にあつては、存続している間取得できる教育職員免許状の種類および教科は、次のとおりとする。

理工学部 第一部 情報工学科  
 高等学校教諭1種免許状 工業  
 法学部 第二部 法学科  
 中学校教諭1種免許状 社会  
 高等学校教諭1種免許状 地理歴史、公民  
 経済学部 第二部 経済学科  
 中学校教諭1種免許状 社会  
 高等学校教諭1種免許状 地理歴史、公民

経営学部 第二部 経営学科

中学校教諭1種免許状 社会

高等学校教諭1種免許状 地理歴史、公民、商業

文学部 第二部 人文学科

中学校教諭1種免許状 社会、国語、英語

高等学校教諭1種免許状 地理歴史、公民、国語、英語

理工学部 第二部 基礎工学科

高等学校教諭1種免許状 工業

**附 則**(1995年5月26日理事会議案第16号及び1995年12月22日 文部大臣認可による理工学部  
第一部光工学科、ロボティクス学科の設置にともなう変更)

この学則は、1996年4月1日から施行する。ただし、本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員  
および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		1996年度からの入学定員			第一部の期間付き入学定員(入学定員の内数)とその期間
		入学定員	編入学定員	入学定員	
		第一部		第二部	
法学部法学科		730	35	200	1987年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50
経済学部経済学科		730	35	200	1987年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50
経営学部経営学科		700	35	200	1987年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 70 1992年度～1999年度 50
産業社会学部産業社会学科		820	40		1989年度～1995年度 50 1990年度～1998年度 100 1991年度～1999年度 80
文学部	哲学科	120			1987年度～1995年度 30
	文学科	330	20		1987年度～1995年度 50 1991年度～1999年度 40
	史学科	230	15		1987年度～1995年度 40 1991年度～1999年度 30
	地理学科	130	5		1992年度～1999年度 40
	人文学科			150	
	計	810	40	150	
理工学部	数学物理学科	130			1987年度～1995年度 10 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	化学科	140			1987年度～1995年度 20 1990年度～1998年度 10

					1992年度～1999年度 30
	電気電子工 学科	140			1988年度～1996年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	機械工学科	140			1988年度～1996年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	土木工学科	130			1987年度～1995年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	情報工学科	(*1) [140]			[1989年度～1997年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30]
	情報学科	(*2) 260			1989年度～1997年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	生物工学科	80			
	環境システ ム工学科	90			
	光工学科	100			
	ロボティク ス学科	100			
	基礎工学科			100	
	計	1,310		100	
国際関係学部	国際関係学科	230	30		1989年度～1997年度 40 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 20
政策科学部	政策科学科	300	50		
合計		5,630	265	850	

編入学定員は、3年次を原則とする。

(\*1) 1994年4月から学生募集を停止し、期限付き入学定員は情報学科に振り替える。なお、情報工学科は、在学生がいなくなるのを待って廃止する。

(\*2) 期限付き入学定員は情報工学科より振り替えたものである。

#### 附 則 (1995年6月23日カナダ研究 (UBC) 新設に伴う変更)

この学則は、1995年4月1日から適用する。ただし、1994年度以前の入学者にも当該設置科目を追加して適用する。

#### 附 則 (1995年7月14日 理事会議案第26号及び1995年12月22日 文部大臣認可による期間を付した入学定員の期間延長に係る学則変更)

この学則は、1996年4月1日から施行する。

本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		1996年度からの入学定員			第一部の期間付き入学定員 (入学定員の内数)とその期間
		入学定員	編入学定員	入学定員	
		第一部		第二部	
法学部法学科		730	35	200	1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
経済学部経済学科		730	35	200	1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
経営学部経営学科		700	35	200	1990年度～1998年度 70 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
産業社会学部産業社会学科		820	40		1990年度～1998年度 100 1991年度～1999年度 80 1996年度～1999年度 50
文学部	哲学科	120			1996年度～1999年度 30
	文学科	330	20		1991年度～1999年度 40 1996年度～1999年度 50
	史学科	230	15		1991年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 40
	地理学科	130	5		1992年度～1999年度 40
	人文学科			150	
	計	810	40	150	
理工学部	数学物理学科	130			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 10
	化学科	140			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 20
	電気電子工学科	140			1988年度～1996年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	機械工学科	140			1988年度～1996年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	土木工学科	130			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 20
	情報工学科	[140]			[1989年度～1997年度 20

					1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30]
	情報学科	260			1989年度～1997年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	生物工学科	80			
	環境システム工 学科	90			
	基礎工学科			100	
	計	1,110		100	
国際関係学部国際関係学科		230	30		1989年度～1997年度 40 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 20
政策科学部政策科学科		300	50		
合計		5,430	265	850	

編入学定員は、3年次を原則とする。

情報学科の期間付き入学定員は情報工学科より振り替えたものである。

**附 則** (1995年7月28日理工学部第一部光工学科、ロボティクス学科設置による課程認定申請に伴う変更)

この学則は、1996年4月1日から施行する。

**附 則** (1995年9月22日学校法人宇治学園との合併に伴う一部変更)

この学則は、1995年4月1日から適用する。

**附 則** (1995年12月8日文学部人文総合科学インスティテュート開設にともなう変更)

この学則は、1996年4月1日から施行する。

**附 則** (1996年3月22日法学部昼間主コースのカリキュラム整備に伴う専門科目の一部変更)

この学則は、1996年4月1日から施行する。ただし、1994年度入学者から適用する。

**附 則** (1996年3月22日経済学部の専門科目増設に伴う一部変更)

この学則は、1996年4月1日から施行する。ただし、1995年度以前入学者にも当該設置科目を追加して適用する。

**附 則** (1996年3月22日法学部、経済学部、経営学部、文学部の各夜間主コースにおける京都・大学センター単位互換制度導入に伴う一般教育科目の一部変更)

この学則は、1996年4月1日から施行する。ただし、1994年度以降の入学者に当該設置科目を追加して適用する。

**附 則** (1996年3月22日昼夜開講制実施による社会人入学者の履修に関する規程新設等に伴う変更)

この学則は、1996年4月1日から施行する。

**附 則**（1996年7月12日期間を付した入学定員の期間延長に係る学則変更）

この学則は、1997年4月1日から施行する。

本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		1997年度からの入学定員			昼間主コースの期間付き入学定員（入学定員の内数） とその期間
		入学定員	編入学定員	入学定員	
		昼間主コース		夜間主コース	
法学部法学科		810	35	160	1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
経済学部経済学科		810	35	50	1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
経営学部経営学科		780	35	100	1990年度～1998年度 70 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
産業社会学部産業社会学科		820	40		1990年度～1998年度 100 1991年度～1999年度 80 1996年度～1999年度 50
文学部	哲学科	140		40	1996年度～1999年度 30
	文学科	360	20	40	1991年度～1999年度 40 1996年度～1999年度 50
	史学科	260	15	40	1991年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 40
	地理学科	130	5		1992年度～1999年度 40
	計	890	40	120	
理工学部	数学物理学科	130			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 10
	化学科	140			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 20
	電気電子工学科	140			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1997年度～1999年度 20
	機械工学科	140			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1997年度～1999年度 20
	土木工学科	130			1990年度～1998年度 10

					1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 20
	情報学科	260			1989年度～1997年度 20 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30
	生物工学科	80			
	環境システム工学科	90			
	光工学科	100			
	ロボティクス学科	100			
	計	1,310			
国際関係学部	国際関係学科	230	30		1989年度～1997年度 40 1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 20
政策科学部	政策科学科	300	50		
	合計	5,950	265	430	

編入学定員は、3年次を原則とする。

理工学部については昼間主コースの定員を第一部の定員に読みかえる。

産業社会学部、文学部地理学科、国際関係学部および政策科学部の定員は昼間主コースの欄に記載。

情報学科の期間付き入学定員は情報工学科より振り替えたものである。

**附 則** (1996年10月25日理工学部第二部基礎工学科廃止および理工学部第一部名称変更による学則変更)

この学則は、1997年4月1日から施行する。

(立命館大学理工学部第一部数学物理学科、化学科、電気電子工学科、機械工学科、土木工学科、情報工学科、情報学科、生物工学科、環境システム工学科、光工学科、ロボティクス学科の存続に関する経過措置)

立命館大学理工学部第一部数学物理学科、化学科、電気電子工学科、機械工学科、土木工学科、情報工学科、情報学科、生物工学科、環境システム工学科、光工学科、ロボティクス学科は、改正後の学則の規定にかかわらず、1997年3月31日に当該学科に在学するものが、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

**附 則** (1996年11月22日「博物館法施行規則の一部を改正する省令」(平成8年文部省令第28号)に伴う変更)

この学則は、1997年4月1日から施行する。但し、施行の前に、下表の旧学則に掲げる科目の単位を修得した者は、新学則に掲げる科目の単位を修得したものとみなす。

旧学則		新学則	
社会教育概論	2	生涯学習概論	2
博物館学Ⅰ	2	博物館概論	2
博物館学Ⅱ	2	博物館学各論Ⅰ	2
		博物館学各論Ⅱ	2
視聴覚教育	2	視聴覚教育メディア論	2

**附 則**（1997年2月28日経済学部昼間主コースのカリキュラム改革に伴う変更）

この学則は、1997年4月1日から施行する。ただし、1996年度以前入学者にも当該設置科目に追加して適用し、詳細は別途定める。

**附 則**（1997年2月28日経営学部昼間主コースのカリキュラム改革にともなう変更）

この学則は、1997年4月1日から施行する。ただし、1996年度以前入学者にも当該設置科目に追加して適用し、詳細は別途定める。

**附 則**（1997年2月28日国際関係学部カリキュラム改革に伴う変更）

この学則は、1997年4月1日から施行する。ただし、1996年度以前の入学者にもその一部を適用することとし、その適用範囲については別に定める。

**附 則**（1997年2月28日経済・経営学部のカリキュラム改革に関わる一般教育科目増設・副専攻に関する変更、ならびに一般教育・基礎科目の特殊講義の単位数変更・調整および特修外国語科目イタリア語の新設に伴う変更）

この学則は、1997年4月1日から施行する。ただし、一般教育・基礎科目の特殊講義の単位数変更・調整および特修外国語科目イタリア語の新設については1996年度以前の入学者にも適用する。また、副専攻に関する変更については1996年度入学者から適用する。

**附 則**（1997年2月28日文学部および理工学部における他学科受講による教育職員免許状の種類と教科の取り扱いに関する変更）

この学則は、1997年4月1日から施行する。ただし、1996年度以前の入学者にも適用し、詳細は別途定める。

**附 則**（1997年2月28日入学前修得単位の認定限度に関する変更）

この学則は、1997年4月1日から施行する。

**附 則**（1997年4月25日産業社会学部社会調査士プログラム新設に伴う変更）

この学則は、1997年4月25日から施行し、1997年4月1日から適用する。

**附 則**（1997年6月27日期間を付した入学定員の期間延長に係る学則変更）

この学則は、1998年4月1日から施行する。

本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類	1998年度からの入学定員			昼間主コースの期間付き入学定員（入学定員の内数）とその期間
	入学定員	編入学定員	入学定員	
	昼間主コース		夜間主コース	
法学部法学科	810	35	160	1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50

経済学部経済学科		810	35	50	1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
経営学部経営学科		780	35	100	1990年度～1998年度 70 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
産業社会学部産業社会学科		820	40		1990年度～1998年度 100 1991年度～1999年度 80 1996年度～1999年度 50
文学部	哲学科	140		40	1996年度～1999年度 30
	文学科	360	20	40	1991年度～1999年度 40 1996年度～1999年度 50
	史学科	260	15	40	1991年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 40
	地理学科	130	5		1992年度～1999年度 40
	計	890	40	120	
理工学部	数学物理学科	130			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 10
	化学科	140			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 20
	電気電子工学科	140			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1997年度～1999年度 20
	機械工学科	140			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1997年度～1999年度 20
	土木工学科	130			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 20
	情報学科	260			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1998年度～1999年度 20
	生物工学科	80			
	環境システム工学科	90			
	光工学科	100			
	ロボティクス学科	100			
計	1,310				
国際関係学部国際関係学科		230	30		1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 20 1998年度～1999年度 40

政策科学部政策科学科	300	50		
合計	5,950	265	430	

編入学定員は、3年次を原則とする。

産業社会学部、文学部地理学科、国際関係学部、政策科学部および理工学部の定員は昼間主コースの欄に記載。

情報学科の期間付き入学定員は情報工学科より振り替えたものである。

**附 則**（1997年9月26日産業社会学部の社会人入学者の履修に関する取り扱いの新設）

この学則は、1997年9月26日から施行し、1997年4月1日から適用する。ただし、1996年度社会人入学者にも別途定めるところによりその一部を適用する。

**附 則**（1998年2月27日一般教育・基礎科目・基礎教育科目、特修外国語、副専攻科目のカリキュラム改革等に伴う一部変更および総合人間学プログラムの新設に伴う変更）

この学則は、1998年4月1日から施行する。ただし、その一部については1997年度以前の入学者にも適用することとし、詳細は別に定める。

**附 則**（1998年2月27日経済学部昼間主コース、経営学部昼間主コースおよび理工学部におけるインスティテュート設置に伴う変更）

この学則は、1998年4月1日から施行する。

**附 則**（1998年2月27日経済学部昼間主コースのカリキュラム改革にともなう変更）

この学則は、1998年4月1日から施行する。ただし、その一部については1997年度以前の入学者にも適用することとし、詳細は別途定める。

**附 則**（1998年2月27日経営学部昼間主コースのカリキュラム改革に伴う変更）

この学則は、1998年4月1日から施行する。ただし、その一部については1997年度以前の入学者にも適用することとし、詳細は別途定める。

**附 則**（1997年2月27日基礎科目の分野表示の廃止、外国語教育改革および副専攻の履修単位の変更に伴う第50条の一部変更）

この学則は、1998年4月1日から施行する。ただし、選択外国語の自由選択での認定については1997年度以前の入学者にも適用する。副専攻の履修単位の変更に適用については、別途定める。

**附 則**（1998年2月27日国際行政コース設置および各コースのカリキュラム改革などにともなう変更）

この学則は、1998年4月1日から施行し、1997年度入学者から適用する。ただし、選択外国語の自由選択としての認定については、1997年度以前の入学者にも適用し、専門外国語科目の変更にについては1996年度以前の入学者にも適用する。また、副専攻の単位認定の変更は、1998年度入学者から適用する。

**附 則**（1998年2月27日政策科学部のカリキュラム改革にともなう変更）

この学則は、1998年4月1日から施行する。

**附 則** (1998年2月27日文学部カリキュラム改訂等に伴う改正)

この学則は、1998年4月1日から施行し、1997年度入学者以前の入学者にも適用する。ただし、「4回生演習・卒業論文」に関しては、1995年度以降の入学者より適用する。副専攻の履修単位の変更の適用については別途定める。

**附 則** (1998年2月27日理工学部のカリキュラム改革に伴う変更)

この学則は、1998年4月1日から施行する。ただし、1998年度入学者より適用し、詳細は別途定める。

**附 則** (1998年2月27日総合人間学プログラムの新設にともなう一部変更)

この学則は、1998年4月1日から施行する。ただし、1994年度以降の入学者にも適用する。

**附 則** (1998年3月27日一般教育の分野区分の廃止、外国語教育の改編、全学・学部副専攻履修単位の変更、および選択外国語科目の設置に伴う一部変更)

この学則は、1998年4月1日から施行する。ただし、一般教育の分野区分の廃止は1994年度以降の入学者にも適用し、選択外国語科目の設置に伴う一部変更は1997年度以前の入学者にも適用する。なお、副専攻履修単位の変更の適用は別途定める。

**附 則** (1998年5月22日産業社会学部および文学部地理学科における昼夜開講制実施に伴う学則変更)

この学則は、1999年4月1日から施行する。

2 本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		1999年度からの入学定員			昼間主コースの期間付入学定員（入学定員の内数）とその期間
		入学定員	編入学定員	入学定員	
		昼間主コース		夜間主コース	
法学部法学科		810	35	160	1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
経済学部経済学科		810	35	50	1990年度～1998年度 100 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
経営学部経営学科		780	35	100	1990年度～1998年度 70 1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50
産業社会学部産業社会学科		820	40	100	1990年度～1998年度 100 1991年度～1999年度 80 1996年度～1999年度 50
文学部	哲学科	140		40	1996年度～1999年度 30
	文学科	360	20	40	1991年度～1999年度 40 1996年度～1999年度 50

	史学科	260	15	40	1991年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 40
	地理学科	130	5	40	1992年度～1999年度 40
	計	890	40	160	
理工学部	数学物理学科	130			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 10
	化学科	140			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 20
	電気電子工学科	140			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1997年度～1999年度 20
	機械工学科	140			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1997年度～1999年度 20
	土木工学科	130			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 20
	情報学科	260			1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 30 1998年度～1999年度 20
	生物工学科	80			
	環境システム工学科	90			
	光工学科	100			
	ロボティクス学科	100			
	計	1,310			
国際関係学部	国際関係学科	230	30		1990年度～1998年度 10 1992年度～1999年度 20 1998年度～1999年度 40
政策科学部	政策科学科	300	50		
合計		5,950	265	570	

編入学定員は、3年次を原則とする。

国際関係学部、政策科学部および理工学部の定員は昼間主コースの欄に記載。

理工学部情報学科の期間付き入学定員は情報工学科より振り替えたものである。

**附 則** (1998年7月24日大学コンソーシアム京都単位互換科目の単位数対応に伴う一部変更)

この学則は、1998年7月24日から施行し、1998年4月1日から適用する。ただし、その一部については1997年度以前の入学者にも適用する。

**附 則** (1998年7月24日期間を付した入学定員の期間延長に係る学則変更)

この学則は、1999年4月1日から施行する。

本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		1999年度からの入学定員			昼間主コースの期間付き入学定員（入学定員の内数） とその期間
		入学定員	編入学定員	入学定員	
		昼間主コース		夜間主コース	
法学部法学科		810	35	160	1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50 1999年度 100
経済学部経済学科		810	35	50	1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50 1999年度 100
経営学部経営学科		780	35	100	1992年度～1999年度 50 1996年度～1999年度 50 1999年度 70
産業社会学部産業社会学科		820	40		1991年度～1999年度 80 1996年度～1999年度 50 1999年度 100
文学部	哲学科	140		40	1996年度～1999年度 30
	文学科	360	20	40	1991年度～1999年度 40 1996年度～1999年度 50
	史学科	260	15	40	1991年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 40
	地理学科	130	5		1992年度～1999年度 40
	計	890	40	120	
理工学部	数学物理学科	130			1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 10 1999年度 10
	化学科	140			1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 20 1999年度 10
	電気電子工学科	140			1992年度～1999年度 30 1997年度～1999年度 20 1999年度 10
	機械工学科	140			1992年度～1999年度 30 1997年度～1999年度 20 1999年度 10
	土木工学科	130			1992年度～1999年度 30 1996年度～1999年度 20 1999年度 10
	情報学科	260			1992年度～1999年度 30 1998年度～1999年度 20

					1999年度 10
	生物工学科	80			
	環境システム工学科	90			
	光工学科	100			
	ロボティクス学科	100			
	計	1,310			
国際関係学部	国際関係学科	230	30		1992年度～1999年度 20 1998年度～1999年度 40 1999年度 10
政策科学部	政策科学科	300	50		
	合計	5,950	265	430	

編入学定員は、3年次を原則とする。

産業社会学部、文学部地理学科、国際関係学部、政策科学部および理工学部の定員は昼間主コースの欄に記載。

情報学科の期間付き入学定員は情報工学科より振り替えたものである。

**附 則** (1999年1月22日法学部・経済学部・経営学部・産業社会学部および文学部夜間主コースにおける、外国語科目の再整理、認定用科目の追加に伴う学則変更)

本学則は、1999年4月1日から施行する。ただし、科目受講に関しては、1992年度入学生から適用する。

**附 則** (1999年1月22日政策科学部副専攻「教育学コース」導入に伴う変更)

この学則は1999年4月1日から施行する。

**附 則** (1999年3月26日新昼夜開講制に伴う学部専門科目の別表化に伴い、「放送大学科目」の学則上の扱いの変更)

この学則は1999年4月1日から施行する。

**附 則** (1999年3月26日法学部昼間主コースカリキュラム改革並びに夜間主コース抜本改革の実施に伴う変更)

この学則は、1999年4月1日から施行する。ただし、その一部については1998年度以前入学者にも適用することとし、詳細は別途定める。

**附 則** (1999年3月26日経済学部新昼夜開講制導入による受講制度改正に伴う変更)

この学則は、1999年4月1日から施行する。ただし、その一部については1998年度以前入学者にも適用することとし、詳細は別途定める。

**附 則** (1999年3月26日経営学部新昼夜開講制導入による受講制度改革に伴う変更)

この学則は、1999年4月1日から施行する。ただし、その一部については1998年度以前入学者にも適用することとし、詳細は別途定める。

**附 則** (1999年3月26日国際関係学部専門外国語等のカリキュラム改革等に伴う一部変更)

この学則は、1999年4月1日から施行する。ただし、1998年度以前入学者にもその一部を適用することとし、その適用範囲については別に定める。

**附 則**（1999年3月26日基礎科目（理工学部）の単位数の一部変更および理工学部他学部受講制度導入に伴う変更）

この学則は1999年4月1日から施行する。ただし第19条の2については1998年度入学生より、第61条については1992年度入学生より、第61条の2については1998年度入学生より適用する。

**附 則**（1999年4月23日産業社会学部ボランティアコーディネーター養成プログラム開設に伴う一部変更）

この学則は1999年4月23日から施行する。ただし、1998年度以前入学者にも適用することとする。なお、その適用の範囲は別途定める。

**附 則**（1999年5月28日理工学部化学科および生物工学科の学科名称および一部科目名・単位数の変更に伴う一部変更）

この学則は2000年4月1日から施行する。

2 （理工学部化学科および生物工学科の存続に関する経過措置）

理工学部化学科および生物工学科は、変更後の学則の規定にかかわらず2000年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

**附 則**（1999年6月25日副専攻カリキュラム改革に伴う一部変更）

この学則は1999年6月25日から施行し、1999年4月1日から適用する。ただし、1997年度以前の入学者にも該当設置科目を追加して適用する。

**附 則**（1999年7月9日理工学部数理科学科および物理科学科設置に伴う一部変更）

この学則は、2000年4月1日から施行する。

2 （理工学部数学物理学科の存続に関する経過措置）

理工学部数学物理学科は、変更後の学則の規定にかかわらず2000年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

**附 則**（1999年7月9日期間を付した入学定員の廃止に伴う私立大学の恒常的入学定員の増加および期間を付した入学定員の設定に係る学則変更）

この学則は、2000年4月1日から施行する。

2 本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類	2000年度から2003年度までの入学定員				昼間主コースの 期間付入学定員 (入学定員の内 数)とその年度
	入学定員		編入学 定員	入学定員	
	昼間主コース			夜間主 コース	
法学部法学科	2000年度	800	35	160	
	2001年度				
	2002年度				

		2003年度				
経済学部経済学科		2000年度	790	35	50	2000年度 80
		2001年度	770			2001年度 60
		2002年度	750			2002年度 40
		2003年度	730			2003年度 20
経営学部経営学科		2000年度	763	35	100	2000年度 68
		2001年度	746			2001年度 51
		2002年度	729			2002年度 34
		2003年度	712			2003年度 17
産業社会学部産業社会学科		2000年度	789	40	100	2000年度 129
		2001年度	752			2001年度 92
		2002年度	716			2002年度 56
		2003年度	679			2003年度 19
文学部	哲学科	2000年度	140	0	40	2000年度 30
		2001年度	110			
		2002年度				
		2003年度				
	文学科	2000年度	350	20	40	2000年度 50
		2001年度	346			2001年度 46
		2002年度	327			2002年度 27
		2003年度	309			2003年度 9
	史学科	2000年度	260	15	40	2000年度 30
		2001年度	259			2001年度 29
		2002年度	247			2002年度 17
		2003年度	235			2003年度 5
	地理学科	2000年度	108	5	40	2000年度 18
		2001年度	107			2001年度 17
		2002年度	101			2002年度 11
		2003年度	95			2003年度 5
	計	2000年度	858	40	120	2000年度 128
		2001年度	822			2001年度 92
		2002年度	785			2002年度 55
		2003年度	749			2003年度 19
理工学部	応用化学科	2000年度	125			2000年度 30
		2001年度	120			2001年度 25
		2002年度	115			2002年度 20
		2003年度	105			2003年度 10
	電気電子工学科	2000年度	135			2000年度 25
		2001年度	125			2001年度 15
		2002年度	115			2002年度 5
		2003年度	115			2003年度 5

機械工学科	2000年度	135			2000年度 25
	2001年度	125			2001年度 15
	2002年度	115			2002年度 5
	2003年度	110			
土木工学科	2000年度	125			2000年度 30
	2001年度	120			2001年度 25
	2002年度	115			2002年度 20
	2003年度	105			2003年度 10
情報学科	2000年度	240			2000年度 30
	2001年度	235			2001年度 25
	2002年度	230			2002年度 20
	2003年度	220			2003年度 10
化学生物工学科	2000年度	80			
	2001年度				
	2002年度				
	2003年度				
環境システム工学科	2000年度	90			
	2001年度				
	2002年度				
	2003年度				
光工学科	2000年度	100			
	2001年度				
	2002年度				
	2003年度				
ロボティクス学科	2000年度	100			
	2001年度				
	2002年度				
	2003年度				
数理科学科	2000年度	65			
	2001年度				
	2002年度				
	2003年度				
物理科学科	2000年度	80			
	2001年度				
	2002年度				
	2003年度				
計	2000年度	1,275			2000年度 140
	2001年度	1,240			2001年度 105
	2002年度	1,205			2002年度 70
	2003年度	1,170			2003年度 35
国際関係学部国際関係学科	2000年度	230	30		2000年度 35

	2001年度				2001年度 35
	2002年度				2002年度 35
	2003年度				2003年度 35
政策科学部政策科学科	2000年度	300	50		
	2001年度				
	2002年度				
	2003年度				
合計	2000年度	5,805	265	570	2000年度 580
	2001年度	5,660			2001年度 435
	2002年度	5,515			2002年度 290
	2003年度	5,370			2003年度 145

編入学定員は、3年次を原則とする。

国際関係学部、政策科学部および理工学部の定員は昼間主コースの欄に記載。

**附 則**（2000年3月24日教職課程再課程認定申請等に伴う変更）

この学則は、2000年4月1日から施行する。

**附 則**（2000年3月24日学則第19条の2の（1）の科目表に「社会と正義」「民族と国家」を新設するための学則の一部変更）

この学則は、2000年4月1日から施行する。

**附 則**（2000年3月24日他大学における学修等の認定単位数の拡大、専修学校の専門課程での修得単位の認定および専修学校の専門課程卒業者に編入資格を認めることに伴う変更）

この学則は、2000年4月1日から施行する。

**附 則**（2000年3月24日学芸員課程カリキュラム変更のための変更）

この学則は、2000年4月1日から施行する。

**附 則**（2000年3月24日学則第53条別表の昼間主コース・夜間主コース科目の統一および整理のための科目名称変更・廃止および科目の新設に伴う変更）

この学則は、2000年4月1日から施行する。ただし、1999年度以前の入学者にも適用する。

**附 則**（2000年3月24日学則第53条別表に文学部英語副専攻を新設するための変更）

この学則は、2000年4月1日から施行する。

**附 則**（2000年3月24日学則第53条別表の科目分野を整理するための変更）

この学則は、2000年4月1日から施行する。

**附 則**（2000年3月24日法学部昼間主コース、産業社会学部昼間主コース、国際関係学部、政策科学部および文学部昼間主コースにおける国際インスティテュート設置に伴う変更）

この学則は、2000年4月1日から施行する。

**附 則**（2000年5月26日産業社会学部人間福祉学科、文学部心理学科の設置に伴う変更）

この学則は、2001年4月1日から施行する。

**附 則**（2000年7月14日産業社会学部産業社会学科のカリキュラム改正のための変更）

この学則は、2001年4月1日から施行する。

**附 則**（2000年7月14日文学部教育人間学専攻設置、哲学専攻カリキュラム変更、昼夜カリキュラム一本化に伴う変更）

この学則は、2001年4月1日から施行する。ただし、2000年度以前の入学者にも適用する。

**附 則**（2000年7月28日理工学部光工学科の学科名称変更に伴う一部変更）

この学則は、2001年4月1日から施行する。

## 2 （理工学部光工学科の存続に関する経過措置について）

理工学部光工学科は、変更後の学則の規定に係わらず、2001年3月31日に当該学科に在学するものが、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

**附 則**（2000年7月28日理工学部情報工学科廃止に伴う一部変更）

この学則は、2001年4月1日から施行する。

**附 則**（2000年9月29日理工学部電気電子工学科、機械工学科、情報学科、環境システム工学科、光工学科及びロボティクス学科のカリキュラム変更に伴う科目名・単位数の一部変更および理工学部副専攻マイクロエレクトロニクス・コース設置に伴う変更）

この学則は、2000年9月29日から施行し、2000年度入学生から適用する。

**附 則**（2000年12月22日経済学部、経営学部、理工学部インスティテュートのカリキュラム整備・改革にともなう一部変更）

この学則は、2001年4月1日から施行する。なお、2000年度以前入学者についても、2001年度以降開講の同科目はこの規程に拠る。

**附 則**（2001年3月23日立命館アジア太平洋大学等の設置、昼夜開講制の拡大、役職名等の変更、学則第19条の2および第19条の3の科目名等の新設・変更・削除ならびに別表化、カリキュラム改正に伴う学則の一部変更）

この学則は、2001年4月1日から施行する。

**附 則**（2001年3月23日産業社会学部人間福祉学科及び文学部心理学科新設に係る教職課程認定申請に伴う変更ならびに教科「情報」「福祉」の新設に係る教職課程認定申請に伴う変更）

この学則は、2001年4月1日から施行する。

**附 則**（2001年3月23日国際関係学部カリキュラム改革に伴う一部変更）

この学則は、2001年4月1日から施行する。

附 則（2001年6月22日理工学部情報学科の定員増にともなう学則変更）

この学則は、2002年4月1日から施行する。

2 本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		2002年度から2003年度までの入学定員				昼間主コースの 期間付入学定員 (入学定員の内 数) とその年度	
		入学定員		編入学 定員	入学定員		
		昼間主コース			夜間主 コース		
法学部法学科		2002年度	800	35	160		
		2003年度					
経済学部経済学科		2002年度	750	35	50	2002年度 40	
		2003年度	730			2003年度 20	
経営学部経営学科		2002年度	729	35	100	2002年度 34	
		2003年度	712			2003年度 17	
産業社会学部	産業社会学科	2002年度	716	40	100	2002年度 56	
		2003年度	679			2003年度 19	
	人間福祉学科	2002年度	200	30			
		2003年度					
	計		2002年度	916	70	100	2002年度 56
			2003年度	879			2003年度 19
文学部	哲学科	2002年度	110		40		
		2003年度					
	文学科	2002年度	327	20	40	2002年度 27	
		2003年度	309			2003年度 9	
	史学科	2002年度	247	15	40	2002年度 17	
		2003年度	235			2003年度 5	
	地理学科	2002年度	101	5	40	2002年度 11	
		2003年度	95			2003年度 5	
	心理学科	2002年度	150	30			
		2003年度					
	計		2002年度	935	70	160	2002年度 55
			2003年度	899			2003年度 19
	理工学部	応用化学科	2002年度	115			2002年度 20
			2003年度	105			2003年度 10
電気電子工学科		2002年度	115			2002年度 5	
		2003年度	115			2003年度 5	
機械工学科		2002年度	115			2002年度 5	
		2003年度	110				
土木工学科		2002年度	115			2002年度 20	
		2003年度	105			2003年度 10	

	情報学科	2002年度	460			2002年度 20
		2003年度	450			2003年度 10
	化学生物工学科	2002年度	80			
		2003年度				
	環境システム工学科	2002年度	90			
		2003年度				
	電子光情報工学科	2002年度	100			
		2003年度				
	ロボティクス学科	2002年度	100			
		2003年度				
	数理科学科	2002年度	65			
		2003年度				
	物理科学科	2002年度	80			
		2003年度				
	計	2002年度	1,435			2002年度 70
		2003年度	1,400			2003年度 35
	国際関係学部国際関係学科	2002年度	230	30		2002年度 35
		2003年度				2003年度 35
政策科学部政策科学科	2002年度	300	50			
	2003年度					
合計	2002年度	6,095	325	570	2002年度 290	
	2003年度	5,950			2003年度 145	

**附 則 (2001年9月28日科目等履修生の受講要件の変更に伴う変更)**

この学則は、2001年9月28日から施行し、2001年4月1日から適用する。

**附 則 (2002年3月8日第29条別表の一部変更に伴う変更)**

この学則は、2002年4月1日から施行する。

**附 則 (2002年3月8日経済学部2002年度以降入学生対象のカリキュラム改革に伴う変更)**

この学則は、2002年4月1日から施行する。ただし、2001年度以前入学者についても新設科目「アドバンスト・プログラムⅦ」、「アドバンスト・プログラムⅧ」は遡及して適用する。

**附 則 (2002年3月8日経営学部2002年度以降入学生対象のカリキュラム改革に伴う変更)**

この学則は、2002年4月1日から施行する。

**附 則 (2002年3月8日産業社会学部科目名称変更に伴う変更)**

この学則は、2002年4月1日から施行する。ただし、第49条の2別表については、1994年度入学者より適用する。

**附 則 (2002年3月8日国際関係学部カリキュラム改革に伴う一部変更)**

この学則は、2002年4月1日から施行する。ただし、2001年度以前入学者にもその一部を適用する

こととし、その適用範囲については別途定める。

**附 則 (2002年3月8日政策科学部カリキュラム改革に伴う変更)**

この学則は、2002年4月1日から施行する。

**附 則 (2002年3月8日文学部専門科目の一部変更に伴う変更)**

この学則は、2002年4月1日から施行する。ただし、イタリア文化プログラム以外の変更は2001年度以前の入学者にも適用する。

**附 則 (2002年3月8日理工学部外国語改革に伴う変更)**

この学則は、2002年4月1日から施行し、2002年度入学生より適用する。ただし、外国語改革で追加された「実践英語」は、2000年度以降入学生にも当該設置科目に追加して適用する。

**附 則 (2002年3月29日セメスター期間の変更および社会福祉士国家試験受験資格取得要件の修正に伴う変更)**

この学則は、2002年4月1日から施行する。ただし、第51条第3項については、2001年度入学者より適用する。

**附 則 (2002年3月26日夜間時間帯一般教育・基礎科目カリキュラムに伴う学則第19条の2別表の変更)**

この学則は、2002年4月1日から施行する。ただし、学則第19条の2別表(1)一般教育科目(法学部、経済学部および経営学部)、基礎科目(産業社会学部、文学部および国際関係学部)の内、次の科目については在校生にも適用する。

企業と社会、経済学、現代の福祉、哲学Ⅰ、歴史学Ⅰ、心理学Ⅰ、科学技術史Ⅰ、ジェンダー論、情報リテラシー、社会学、歴史学

**附 則 (2002年3月26日教職科目カリキュラム改革に伴う一部変更)**

この学則(別表)は、2002年4月1日から施行する。

**附 則 (2002年4月12日文理総合インスティテュートのカリキュラム整備・改革にともなう一部変更)**

この学則は、2002年4月12日から施行し、2002年4月1日から適用する。ただし、2001年度以前入学者についても、「コミュニティ・デザイン」「エコマテリアルⅠ」「生活福祉経済論」および「エコマテリアルⅡ」は遡及して適用する。

**附 則 (2002年6月14日理事会議案第21号および2002年10月28日文科科学大臣認可による電気電子工学科および電子光情報工学科の定員増に伴う変更)**

この学則は、2003年4月1日から施行する。

2 本学則第16条の規定にかかわらず、入学定員および編入学定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類	2003年度の入学定員			2003年度昼間主コースの期間付入学定員 (入学定員の内数)
	入学定員	編入学定員	入学定員	
	昼間主コース		夜間主	

				コース	
法学部法学科		800	35	160	
経済学部経済学科		730	35	50	20
経営学部経営学科		712	35	100	17
産業社会学部	産業社会学科	679	40	100	19
	人間福祉学科	200	300		
	計	879	70	100	19
文学部	哲学科	110		40	
	文学科	309	20	40	9
	史学科	235	15	40	5
	地理学科	95	5	40	5
	心理学科	150	30		
	計	899	70	160	19
理工学部	応用化学科	105			10
	電気電子工学科	165			5
	機械工学科	110			
	土木工学科	105			10
	情報学科	450			10
	化学生物工学科	80			
	環境システム工学科	90			
	電子光情報工学科	150			
	ロボティクス学科	100			
	数理科学科	65			
	物理科学科	80			
	計	1,500			35
国際関係学部国際関係学科		230	30		35
政策科学部政策科学科		300	50		
合計		6,050	325	570	145

**附 則 (2002年12月13日文学部のカリキュラム改革に伴う一部変更)**

この学則は、2003年4月1日から施行する。ただし、人文総合科学インスティテュート・学際プログラム教学改革に伴う変更は2002年度以前入学生にも適用し、テーマリサーチ型ゼミナール科目新設に伴う変更は2001年度以降入学生にも適用する。

**附 則 (2003年1月24日文学部に図書館司書課程および学校図書館司書教諭課程を設置することに伴う変更)**

この学則は、2003年4月1日から施行する。

**附 則 (2003年3月20日、2001年1月6日省庁再編による職名変更による一部変更)**

この学則は、2003年3月20日から施行し、2001年1月6日から適用する。

**附 則 (2003年3月26日法学部インターンシップ科目およびAPU交流科目の設置に伴うなら**

びにカリキュラム改革の前倒し措置に伴う一部変更)

この学則は、2003年4月1日から施行する。

- 2 インターンシップ科目の適用は2000年度以降の入学生とし、APU交流科目の適用は2002年度以降の在學生とする。
- 3 カリキュラム改革の前倒し措置の適用は、2003年度入学生からとする。

**附 則** (2003年3月26日経済学部インターンシップ科目およびAPU交流科目の設置に伴う一部変更)

この学則は、2003年4月1日から施行する。ただし、インターンシップ科目は2000年度入学生より適用する。また、APU交流科目は、2002年度以降在學生より適用する。

**附 則** (2003年3月26日経営学部インターンシップ科目およびAPU交流科目の設置に伴う一部変更)

この学則は、2003年4月1日から施行する。ただし、インターンシップ科目の適用は2000年度以降の入学生とし、APU交流科目の適用は、2002年度以降の在學生とする。

**附 則** (2003年3月26日産業社会学部インターンシップ科目およびAPU交流科目の設置ならびに精神保健福祉士課程の設置等に伴う一部変更)

この学則は、2003年4月1日から施行する。ただし、インターンシップ科目の適用は、2000年度以降の入学生とし、APU交流科目の適用は、2002年度以降の在學生とする。

**附 則** (2003年3月26日国際関係学部カリキュラム改革およびインターンシップ科目ならびにAPU交流科目の設置に伴う一部変更)

この学則は2003年4月1日から施行する。

- 2 インターンシップ科目の適用は2000年度以降の入学生とし、APU交流科目の適用は、2002年度以降の在學生とする。
- 3 カリキュラム改革の適用は、2002年度以前の入学生にもその一部を適用し、その適用範囲については別途定める。

**附 則** (2003年3月26日政策科学部インターンシップ科目およびAPU交流科目の設置に伴う一部変更)

この学則は、2003年4月1日から施行する。ただし、インターンシップ科目の適用は2000年度以降の入学生とし、APU交流科目の適用は、2002年度以降の在學生からとする。

**附 則** (2003年3月26日インターンシップ科目およびAPU交流科目の設置に伴う一部変更)

この学則は、2003年4月1日から施行する。ただし、インターンシップ科目の適用は2000年度以降の入学生とし、APU交流科目の適用は、2002年度以降の在學生とする。

**附 則** (2003年3月26日理工学部APU交流科目の設置に伴う一部変更)

この学則は、2003年4月1日から施行し、2002年度以降の在學生より適用する。

**附 則** (2003年3月26日インターンシップ科目およびAPU交流科目の設置に伴う一部変更)

この学則は、2003年4月1日から施行する。ただし、インターンシップ科目の適用は2000年度以降

の入学生とし、APU交流科目の適用は2002年度以降の在學生とする。

**附 則** (2003年3月26日副専攻「朝鮮語コミュニケーションコース」および経済学部・経営学部副専攻「スペイン語コミュニケーションコース」を開設することに伴う一部変更)

この学則は、2003年4月1日より施行し、2003年度以降の入学生から適用する。

**附 則** (2003年3月28日立命館宇治中学校設置および産業社会学部に精神保健福祉士課程設置に伴う一部変更)

この学則は、2003年4月1日から施行する。

**附 則** (2003年3月28日理事会議案第73号および2003年5月17日文部科学省届出による立命館大学情報理工学部設置にともなう学則の一部改正)

この学則は、2004年4月1日より施行する。

**附 則** (2003年4月25日文学部人文学科を設置することに伴う一部変更)

この学則は、2004年4月1日から施行する。

**附 則** (2003年4月25日文学部人文学科を設置することに伴う一部変更)

この学則(別表)は、2004年4月1日から施行する。

**附 則** (2003年4月25日理事会議案第8号および2003年5月26日文部科学省届出による学部間の定員振替および昼間主コース、夜間主コース、編入学定員の統合に伴う一部変更)

この学則は、2004年4月1日から施行する。

**附 則** (2003年5月23日外国語科目としてのロシア語および選択外国語初修外国語科目の廃止に伴う一部変更)

この学則は、2003年5月23日に施行し、2003年4月1日から適用する。

**附 則** (2003年5月23日国際インスティテュートカリキュラム改革に伴う一部変更)

- 1 この学則は、2003年5月23日に施行し、2003年4月1日から適用する。
- 2 ただし、適用は2003年度入学生からとする。
- 3 2にかかわらず、2002年度以前入学生にもその一部を適用し、その範囲は別に定める。
- 4 1～3にかかわらず、専門ドイツ語Ⅰ～Ⅶの変更については、2002年4月1日から適用する。

**附 則** (2003年5月23日専門アラビア語Ⅰ～Ⅳ単位数の変更に伴う一部変更)

この学則は、2003年5月23日から施行し、2003年度4月1日から適用する。

**附 則** (2003年6月27日理事会議案第25号および2003年7月24日文部科学大臣届出による立命館大学理工学部電子情報デザイン学科、マイクロ機械システム工学科、建築都市デザイン学科の設置、理工学部土木工学科の学科名称変更および文部科学省認可による収容定員増等に伴う学則変更)

この学則は、2004年4月1日から施行する。

附 則 (2003年7月25日文学部人文学科、理工学部電子情報デザイン学科、マイクロ機械システム工学科、建築都市デザイン学科、情報理工学部設置に係る教職課程認定申請および昼間主コース定員、夜間主コース定員の統合化および理工学部土木工学科の学科名称変更に係る教職課程の変更届出ならびに理工学部情報学科の募集停止に伴う学則の一部変更)

- 1 この学則は、2004年4月1日から施行する。
- 2 以下に掲げる学部・学科にあつては、存続している間取得できる教育職員免許状の種類および教科は、次の通りとする。

法学部 法学科 昼間主コース・夜間主コース

中学校教諭一種免許状 社会

高等学校教諭一種免許状 地理歴史、公民

経済学部 経済学科 昼間主コース・夜間主コース

中学校教諭一種免許状 社会

高等学校教諭一種免許状 地理歴史、公民

経営学部 経営学科 昼間主コース

中学校教諭一種免許状 社会

高等学校教諭一種免許状 地理歴史、公民、商業

経営学部 経営学科 夜間主コース

中学校教諭一種免許状 社会

高等学校教諭一種免許状 地理歴史、公民

産業社会学部 産業社会学科 昼間主コース・夜間主コース

中学校教諭一種免許状 社会

高等学校教諭一種免許状 地理歴史、公民

文学部 哲学科 昼間主コース・夜間主コース

中学校教諭一種免許状 社会

高等学校教諭一種免許状 地理歴史、公民

文学部 文学科 昼間主コース

中学校教諭一種免許状 国語、英語

高等学校教諭一種免許状 国語、英語

文学部 文学科 夜間主コース

中学校教諭一種免許状 国語

高等学校教諭一種免許状 国語

文学部 史学科 昼間主コース・夜間主コース

中学校教諭一種免許状 社会

高等学校教諭一種免許状 地理歴史、公民

文学部 地理学科 昼間主コース・夜間主コース

中学校教諭一種免許状 社会

高等学校教諭一種免許状 地理歴史、公民

理工学部 情報学科

中学校教諭一種免許状 数学

高等学校教諭一種免許状 数学、工業

理工学部 土木工学科

高等学校教諭一種免許状 工業

**附 則** (2004年3月12日情報理工学部教職課程設置にともなう教科に関する科目別表ならびに教職科目カリキュラム改革に伴う教職に関する科目別表の一部変更)

この学則(別表)は、2004年4月1日より施行し、2004年度入学生より適用する。なお、2003年度以前入学生については、別途各学部の履修要項(教職課程)に定める。

**附 則** (2004年3月12日キャリア形成科目設置に伴う一部変更)

この学則は、2004年4月1日より施行し、2001年度入学生より適用する。

**附 則** (2004年3月12日キャリア形成科目の設置に伴う一部変更)

この学則は、2004年4月1日より施行し、2001年度入学生より適用する。

**附 則** (2004年3月12日インターンシップ科目およびキャリア形成科目の設置、カリキュラム改革にともなう一部変更)

この学則は、2004年4月1日より施行する。ただし、2003年度以前の入学生の適用範囲は、法学部履修要項に定める。

**附 則** (2004年3月12日インターンシップ科目の設置およびカリキュラム改革にともなう一部変更)

この学則は2004年4月1日から施行する。ただし、2003年度以前の入学生の適用範囲は、経済学部履修要項に定める。

**附 則** (2004年3月12日カリキュラム改革にともなう一部変更)

この学則は、2004年4月1日より施行する。ただし、2003年度以前の入学生の適用範囲は、国際関係学部履修要項に定める。

**附 則** (2004年3月12日インターンシップの履修上の取り扱いの変更、教職課程認定のための科目の変更などに伴う変更)

この学則は、2004年4月1日から施行する。ただし、2003年度以前の入学生の適用範囲は、文学部履修要項に定める。

**附 則** (2004年3月12日人文学科設置によるカリキュラムの変更に伴う変更)

この学則は、2004年4月1日より施行し、2004年度入学生より適用する。

**附 則** (2004年3月12日カリキュラム改正およびMOT入門科目および自由選択科目の設置に伴う一部変更)

この学則は、2004年4月1日から施行する。ただし2003年度以前の入学生の適用範囲については履修要項に定める。

**附 則** (2004年3月25日ファイナンスインスティテュートの名称変更、カリキュラム改革および全学インターンシップ科目の設置にともなう一部変更)

この学則は2004年4月1日より施行する。ただし、2003年度以前の入学生の適用範囲は、経済学部、

経営学部、理工学部の履修要項に定める。

**附 則**（2004年3月25日BKC外国語副専攻改革、文理総合インスティテュートのカリキュラム整備・改革に伴う変更）

この学則は、2004年4月1日より施行する。ただし、2003年度以前の入学生の適用については経済学部・経営学部・理工学部の履修要項に定める。

**附 則**（2004年3月25日教養教育カリキュラム改革に伴う変更）

この学則別表は、2004年4月1日から施行し、同日以降の入学生から適用する。ただし、2003年度以前の入学生が改正後の第19条の2別表（1）または（3）に定める科目の単位を修得したときは、学部が定めるところに従い、これを一般教育科目、基礎科目または基礎教育科目として認定することができる。

**附 則**（2004年3月26日産業社会学部精神保健福祉士課程の設置に伴う一部変更）

この学則は、2004年4月1日より施行し、2001年度入学生より適用する。

**附 則**（2004年3月26日教養教育カリキュラム改革に伴う一部変更）

この学則は、2004年4月1日から施行し、同日以降の入学生から適用する。ただし、2003年度以前の入学生が改正後の第19条の2別表（1）または（3）に定める科目の単位を修得したときは、学部が定めるところに従い、これを一般教育科目、基礎科目または基礎教育科目として認定することができる。

**附 則**（2004年3月26日初修外国語学力回復科目の設置、総合人間学プログラムの廃止および放送大学との単位互換協定締結に伴う一部変更）

この学則は、2004年4月1日から施行する。

**附 則**（2004年3月26日法学部昼間主コースおよび夜間主コースの統合にともなう一部変更）

この学則は、2004年4月1日より施行する。ただし、2003年度以前の入学生の適用範囲は、法学部履修要項に定める。

**附 則**（2004年3月26日理工学部の卒業に必要な単位数の変更に伴う一部変更）

この学則は、2004年4月1日から施行する。ただし2003年度以前の入学生の適用範囲については理工学部履修要項に定める。

**附 則**（2004年3月26日情報理工学部教職課程設置にともなう一部変更）

この学則は、2004年4月1日より施行する。

**附 則**（2004年4月23日国際インスティテュートカリキュラム改革に伴う一部変更）

この学則は、2004年4月23日より施行し、2004年4月1日より適用する。ただし、2003年度以前の入学生の適用範囲は履修要項に定める。

**附 則**（2005年3月11日英語コミュニケーションコースの廃止および「教職に関する科目」のカリキュラム改革、文学部人文学科、理工学部新設3学科および情報理工学部設置

に係る教職課程認定申請に伴う一部変更)

この学則は2005年4月1日から施行する。ただし、教育学コースの変更は2004年4月1日から適用する。

**附 則 (2005年3月11日)**

- 1 この学則は2005年4月1日から施行する。
- 2 適用は2005年度入学生からとする。
- 3 2にかかわらず、2004年度以前入学生にもその一部を適用し、その範囲は履修要項に定める。

**附 則 (2005年3月11日インターンシップ科目およびボランティアコーディネータープログラムの設置、カリキュラム改革進行にともなう新規科目開設にともなう一部変更)**

この学則は、2005年4月1日から施行する。ただし、2004年度以前の入学生の適用範囲は、法学部履修要項に定める。

**附 則 (2005年3月11日カリキュラムの一部変更に伴う設置科目の追加に係わる変更)**

この学則は、2005年4月1日から施行し、2005年度入学生から適用する。

**附 則 (2005年3月11日キャリア形成科目の設置科目の追加に係わる改正)**

この学則は、2005年4月1日から施行する。ただし、2003年度以前入学生の適用範囲は、履修要項に定める。

**附 則 (2005年3月11日キャリア形成科目設置に伴う一部変更)**

この学則は、2005年4月1日から施行する。ただし、2003年度以前の入学生の適用範囲は、履修要項に定める。

**附 則 (2005年3月11日2005年度産業社会学部カリキュラム改革による設置科目の改編、国際社会コースならびに国際福祉コースの設置および学部英語副専攻の開設にともなう一部変更)**

この学則は、2005年4月1日から施行する。ただし、2004年度以前の入学生の適用範囲は、産業社会学部履修要項に定める。

**附 則 (2005年3月11日文学部心理学科のカリキュラムの改革、公務員進路プログラム・ボランティアコーディネーター養成プログラム開設等に伴う変更)**

この学則は、2005年4月1日から施行する。ただし、2004年度以前の入学生の適用範囲は、文学部履修要項に定める。

**附 則 (2005年3月11日カリキュラム改革にともなう一部変更)**

この学則は、2005年4月1日から施行する。ただし、2004年度以前の入学生の適用範囲は、国際関係学部履修要項に定める。

**附 則 (2005年3月25日経済学部国際経済学科設置、経営学部国際経営学科設置、および文学部学科改編に伴う一部変更)**

- 1 この学則は、2006年4月1日から施行する。

(文学部心理学科の存続に関する経過措置について)

- 2 文学部心理学科は、変更後の学則の規定にかかわらず、2006年3月31日に当該学科に在学するものが、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

**附 則** (2005年3月25日国際経済学科設置、および経済学科カリキュラム改革に係わる変更)  
本規程は2006年4月1日から施行し、2006年度入学生から適用する。

**附 則** (2005年3月25日国際経営学科設置、および経営学科カリキュラム改革に伴う改正)  
本規程は2006年4月1日から施行する。

**附 則** (2005年3月25日文学部学科改編に伴う変更)  
本規程は2006年4月1日から施行する。

**附 則** (2005年5月27日インスティテュートカリキュラム改革に伴う一部変更)  
この学則は2005年5月27日から施行し、2005年度入学者より適用する。

**附 則** (2005年7月15日理工学部数理科学科から経済学部経済学科への定員の振替えに伴う学則の一部変更)  
この学則は2006年4月1日から施行する。

**附 則** (2005年7月15日経済学部国際経済学科ならびに経営学部国際経営学科の設置に係る教職課程認定申請、文学部心理学科の学生募集停止と人文学科への定員振替えに係る教職課程認定変更の届出に伴う、学則の一部変更)

- 1 この学則は、2006年4月1日から施行する。
- 2 以下に掲げる学部・学科にあつては、存続している間取得できる教育職員免許状の種類および教科は、次の通りとする。

文学部 心理学科  
中学校教諭一種免許状 社会  
高等学校教諭一種免許状 公民

**附 則** (2005年11月25日産学協同アントレプレナー教育プログラムの新設に伴う一部変更)  
この学則は、2005年11月25日から施行し、2005年4月1日から適用する。ただし、産学協同アントレプレナー教育プログラム科目は、2004年度入学生から適用する。

**附 則** (2006年1月27日学費納付規程および同施行細則に記載されている学費額を立命館大学学則へ記載変更する。また、立命館大学の2006年度学費額変更に伴い一部変更する。)  
この学則は、2006年4月1日から施行する。

**附 則** (2006年3月10日)

- 1 この学則は2006年4月1日から施行する。
- 2 前項にかかわらず、2005年度以前入学生にもその一部を適用する場合がある。その範囲は履修要項に定める。

**附 則** (2006年3月10日インターンシップ科目追加、カリキュラム改革進行、ボランティア教育関連科目の新規開設に伴う一部変更)

この学則は、2006年4月1日より施行する。ただし、2004年度以前の入学生の適用範囲は、法学部履修要項に定める。

**附 則** (2006年3月10日2006年度経済学科カリキュラム改革による設置科目の整理、2006年度国際経済学科開設による設置科目の整理、コーオプ演習の設置に伴うに係わる一部変更)

この学則は2006年4月1日から施行する。ただし、2005年度以前の入学生の適用範囲は、経済学部履修要項に定める。

**附 則** (2006年3月10日経営学部海外留学科目新設に伴う一部変更)

この学則は2006年4月1日から施行する。

**附 則** (2006年3月10日日本語教育プログラムの設置、公務員進路プログラムの設置、コーオプ演習の設置、ボランティア教育関連科目の新規開設および社会調査士課程のカリキュラム変更による設置科目の改編に伴う一部変更)

この学則は、2006年4月1日から施行する。ただし、2005年度以前の入学生の適用範囲は、産業社会学部履修要項に定める。

**附 則** (2006年3月10日国際関係学部カリキュラム改革に伴う一部変更)

この規程は、2006年4月1日から施行する。ただし、2005年度以前の入学生の適用範囲は、国際関係学部履修要項に定める。

**附 則** (2006年3月10日文学部カリキュラム改革および教職課程カリキュラム改革に伴う一部変更)

この学則は、2006年4月1日から施行する。ただし、2005年度以前の入学生の適用範囲は、文学部履修要項に定める。

**附 則** (2006年3月10日政策科学部2006年度カリキュラム改革、ボランティア教育関連科目の新規開設に伴う一部変更)

この学則は、2006年4月1日から施行する。ただし、2005年度以前の入学生の適用範囲は、政策科学部履修要項に定める。

**附 則** (2006年3月24日早期卒業制度導入、立命館守山高等学校および立命館小学校の設置、「立命館アジア太平洋大学と立命館大学理工学部・情報理工学部連携プログラムの推進に関する諸施策について」(2006年1月25日常任理事会)による入学金の取扱いの変更に伴う一部変更)

この学則は、2006年4月1日から施行する。

**附 則** (2006年4月28日大学協議員の構成変更に伴う一部変更)

この学則は、2006年4月28日から施行し、2006年4月1日から適用する。

**附 則**（2006年4月28日映像学部映像学科設置に伴う一部変更）

この学則は、2007年4月1日から施行する。

**附 則**（2006年5月12日 教職課程科目カリキュラム改革に伴う一部変更）

この学則は、2006年5月12日から施行し、2006年4月1日から適用する。ただし、2005年度以前入学生については、別途各学部の履修要項（教職課程）に定める。

**附 則**（2006年7月21日 現代社会学科の設置と産業社会学部産業社会学科および人間福祉学科の学生募集停止に伴う一部変更）

この学則は、2007年4月1日から施行する。ただし、2006年度以前の入学生の適用範囲は、産業社会学部履修要項に定める。

**附 則**（2006年7月21日産業社会学部現代社会学科および映像学部設置に係る教職課程認定申請に伴う、学則の一部変更）

- 1 この学則は、2007年4月1日から施行する。
- 2 以下に掲げる学部・学科にあつては、存続している間取得できる教育職員免許状の種類および教科は、次の通りとする。

産業社会学部 産業社会学科

中学校教諭一種普通免許状 社会

高等学校教諭一種普通免許状 地理歴史、公民

産業社会学部 人間福祉学科

中学校教諭一種普通免許状 社会

高等学校教諭一種普通免許状 地理歴史、公民、福祉

養護学校一種免許状

**附 則**（2006年7月28日海外研修プログラムの単位認定に伴う一部変更）

この学則は、2006年7月28日から施行し、2006年4月1日から適用する。

**附 則**（2006年11月24日 学校教育法の一部を改正する法律（平成17年法律第83号）および大学設置基準等文部科学省令の施行ならびに立命館大学の2007年度学費額変更にともなう一部変更）

この学則は、2007年4月1日から施行する。

**附 則**（2007年1月26日 学校教育法の一部を改正する法律（平成17年法律第83号）および大学設置基準等文部科学省令の施行ならびに大学設置基準（平成13年文部科学省告示第51号「多様なメディアを高度に利用して当該授業を教室以外の場所で行うことができる」）の一部改正にともなう一部変更）

この学則は、2007年4月1日から施行する。ただし、第19条第7項および第20条2第7項については2005年4月1日から遡及適用する。

**附 則**（2007年3月23日 条項の整理、産業社会学部の教育職員免許法改正にともなう一部変更、映像学部映像学科の教職課程および学芸員課程設置にともなう一部変更）

この学則は、2007年4月1日から施行する。ただし、第19条の4、第51条の2および第51条の3の2006年度以前入学生の適用範囲は、産業社会学部履修要項に定める。また教職に関わる科目別表の2006年度以前入学生の適用範囲は、別途各学部の履修要項（教職課程）に定める。

**附 則（2008年1月25日 理工学部数学物理学科廃止に伴う一部変更）**

この学則は、2008年1月25日から施行する。

**附 則（2007年3月23日生命科学部設置に伴う一部変更）**

- 1 この学則は、2008年4月1日から施行する。  
（理工学部応用化学科、化学生物工学科および情報理工学部生命情報学科の存続に関する経過措置について）
- 2 理工学部応用化学科、化学生物工学科および情報理工学部生命情報学科は、変更後の学則の規定に関わらず、2008年3月31日現在に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

**附 則（2007年5月25日生命科学部新設に係る教職課程認定申請に伴う、学則の一部変更）**

- 1 この学則は、2008年4月1日から施行する。
- 2 以下に掲げる学部・学科にあつては、存続している間取得できる教育職員免許状の種類および教科は、次の通りとする。

理工学部 応用化学科

中学校一種免許状 理科

高等学校一種免許状 理科、工業

理工学部 化学生物工学科

中学校一種免許状 理科

高等学校一種免許状 理科、工業

情報理工学部 生命情報学科

中学校一種免許状 理科

高等学校一種免許状 理科、情報

**附 則（2007年5月25日薬学部設置に伴う一部変更）**

この学則は、2008年4月1日から施行する。

**附 則（2007年5月25日総合理工学院の設置に伴う一部変更）**

この学則は、2008年4月1日から施行する。

**附 則（2007年6月8日薬学部設置申請に向けた文部科学省等への相談結果に基づく別表の一部変更）**

この学則は、2008年4月1日から施行する。

**附 則（2007年9月28日科目名および科目内容の整合性を高めるための一部変更）**

この学則は、2008年4月1日から施行する。

**附 則（2007年11月30日複数大学との学部共同学位プログラム協定締結および立命館大学の**

2008年度学費額変更に伴う一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。

**附 則** (2008年2月22日 2008年度教養教育改革にともなう科目新設および科目名の変更に  
よる立命館大学学則別表の一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。ただし、「教養ゼミナール」は2007年度以前入学生にも適用する。

**附 則** (2008年3月13日 2008年度からの法学部改革にともなう一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。ただし、2007年度以前の入学生の適用範囲は、法学部履修要項に定める。

**附 則** (2008年3月13日 経営学部開講科目の変更に伴う一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。ただし、2006年度以降入学生にも適用することとする。

**附 則** (2008年3月13日 文学部副専攻の新規コース開設および科目名称変更にともなう別表  
の一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。

**附 則** (2008年3月13日 理工学部カリキュラム改定およびイングリッシュ・ディプロマ・  
コースの新設にともなう一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。ただし、2007年度以前の入学生の適用範囲については、理工学部履修要項に定める。

**附 則** (2008年3月13日 国際関係学部カリキュラム改革にともなう一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。ただし、2007年度の入学生にも遡及して適用する。

**附 則** (2008年3月13日 政策科学部科目の新規開設にともなう一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。ただし、2005年度以前の入学生の適用範囲は、政策科学部履修要項に定める。

**附 則** (2008年3月13日 学則への教育研究目標の明示にともなう別表条項の整理、生命科  
学部随意科目の開講および科目名称変更に伴う一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。

**附 則** (2008年3月13日 薬学部随意科目の開講に伴う一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。

**附 則** (2008年3月13日 国際インスティテュートカリキュラム改革にともなう一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。ただし、2007年度以前入学生にもその一部を適用する  
場合がある。その範囲は履修要項に定める。

**附 則** (2008年3月13日 平成19年度現代GP「琵琶湖で学ぶMOTTAINAI共生学」の科目

設置ならびにカリキュラム改革にともなう一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。ただし、2007年度以前の入学者の適用範囲は、履修要項に定める。

**附 則** (2008年3月13日 生命科学部の設置届出に係る教職課程認定申請にともなう一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。ただし、2007年度以前入学生については、別途各学部の履修要項(教職課程)に定める。

**附 則** (2008年3月13日 異文化理解セミナープログラム見直しに伴う一部変更)

この学則は2008年4月1日から施行し、2007年度以前入学生より適用する。

**附 則** (2008年3月28日 教育研究上の目的を明示することに伴う一部変更ならびに教育関連機構設置および総合理工学院設置に伴う一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。

**附 則** (2008年3月28日 理工学部情報学科に係る本則および附則の整理ならびに数学物理学廃止に伴う一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。

(理工学部情報学科の存続に関する経過措置について)

- 2 理工学部情報学科については、2004年3月31日を持って、学生募集を停止する。
- 3 理工学部情報学科は、変更後の学則の規定に関わらず、2004年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

**附 則** (2008年3月28日 理工学部数学物理学の廃止にともなう学費別表の一部変更)

この学則は、2008年4月1日から施行する。

**附 則** (2008年3月28日 法学部、国際関係学部および文学部における教学改革による収容定員変更に伴う一部変更)

この学則は、2009年4月1日から施行する。

**附 則** (2008年4月25日 公務員進路プログラム関連科目群の再編および産業社会学部「初修外国語高度化科目」の開講に伴う第49条の2別表の一部変更)

この学則は、2008年4月25日から施行し、2008年4月1日から適用する。

**附 則** (2008年4月25日 公務員進路プログラム関連科目群の再編に伴う第53条別表の一部変更)

この学則は、2008年4月25日から施行し、2008年4月1日から適用する。

**附 則** (2008年4月25日 公務員進路プログラムおよびボランティアセンター関連科目群開設ならびに第73条の2の2別表と学芸員に関わる科目別表との重複整理等に伴う第19条の2別表および第73条の2の2別表の一部変更)

この学則は、2008年4月25日から施行し、2008年4月1日から適用する。ただし、2007年度入学生

にも適用する。

**附 則** (2008年5月9日 公務員プログラム科目の改編ならびに学則別表に記載もれのあった科目を記載することに伴う第66条の2別表の一部変更)

この学則は、2008年5月9日から施行し、2008年4月1日から適用する。ただし、「企業研究」については2003年度以降の入学生から適用する。

**附 則** (2008年11月28日 立命館大学の2009年度学費額変更に伴う一部変更)

この学則は、2009年4月1日から施行する。

**附 則** (2009年3月12日 環境論コース廃止、外国語コミュニケーションコース再編にともなう別表の一部変更)

この学則は、2009年4月1日から施行する。ただし、2008年度入学生にも遡及して適用する。

**附 則** (2009年3月12日 法学部における2006年度からの政策科学部カリキュラム改革および公務行政特修課程専門化プログラム対象科目の変更にともなう一部変更)

この学則は、2009年4月1日から施行する。ただし、政策科学部カリキュラム改革にともなう一部変更は2006年度入学生から遡及適用し、法学部カリキュラム改革にともなう一部変更は2008年度入学生から遡及適用する。

**附 則** (2009年3月12日 産業社会学部における社会福祉士課程関連科目群の再編および精神保健福祉士課程科目群の再編に伴う第49条の2別表の一部変更)

この学則は、2009年4月1日から施行する。

**附 則** (2009年3月12日 国際関係学部カリキュラム改革にともなう一部変更)

この学則は、2009年4月1日から施行する。ただし、2008年度以前の入学生にも遡及して適用する。

**附 則** (2009年3月12日 文学部人文学科人文総合科学インスティテュート京都学プログラムおよび言語コミュニケーションプログラムの設置、文学部副専攻「アジア太平洋コース」の募集停止、文学部人文学科人文総合科学インスティテュート学際プログラムのカリキュラム変更、文学部人文学科人文総合科学インスティテュート総合プログラムの募集停止、文学部人文学科人文総合科学インスティテュート国際プログラムのカリキュラム変更にともなう別表の一部変更)

この学則は、2009年4月1日から施行する。

**附 則** (2009年3月12日 政策科学部におけるPS-APUプログラム廃止にともなう一部変更)

この学則は、2009年4月1日から施行する。

**附 則** (2009年3月12日 映像学部における初年度より変更すべき科目等の是正ならびに教育内容の現代化による英語講読科目の新設にともなう第73条の2の2別表の一部変更)

この学則は、2009年4月1日から施行する。ただし、科目等の是正については2008年度以前の入学生にも適用する。

**附 則**（2009年3月12日 文学部に「京都学プログラム」と「言語コミュニケーションプログラム」を開設することにもなう教職に関わる科目別表の一部変更）

この学則は、2009年4月1日から施行する。ただし、2008年度以前入学生については、別途各学部の履修要項（教職課程）に定める。

**附 則**（2009年3月27日 単位の取扱いの整理および編入学、転入学、学士入学等の整理にもなう一部変更）

- 1 この学則は、2009年4月1日から施行する。
- 2 この学則の施行に伴い、昭和27年2月2日に定めた立命館大学転学・編入学に関する規程（規程第96号）は廃止する。

**附 則**（2009年3月27日 国際教育推進機構設置および多様なメディアを高度に利用した科目の別表明示にもなう一部変更）

この学則は、2009年4月1日から施行する。

**附 則**（2009年3月27日 スポーツ健康科学部設置にもなう一部変更）

この学則は、2010年4月1日から施行する。

**附 則**（2009年4月24日 文学部、理工学部および国際関係学部における3年次編入学定員の設定にもなう学則の一部変更）

この学則は、2010年4月1日から施行する

**附 則**（2009年5月15日教養科目(B群)「スポーツ方法実習」の設置にもなう一部変更）

この学則は、2010年4月1日から施行し、2010年度入学者より適用する。

**附 則**（2009年6月12日 異文化理解セミナーの認定単位数変更による産業社会学部英語副専攻カリキュラムへの「異文化理解セミナー」（2単位）の科目追加に伴う第49条の2別表の一部変更）

この学則は、2009年6月12日から施行し、2008年4月1日から適用する。

**附 則**（2010年1月22日 校務の権限の明確化および教務諸規程と学則の整理に伴う一部変更）

- 1 この学則は2010年4月1日から施行する。ただし、第46条第5項および第53条第3号は2010年度入学生から適用する。
- 2 本学則第5条の規定にかかわらず、2010年度の学部および学科別学生の入学定員、編入学定員および収容定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		入学定員	3年次 編入学定員	収容定員
法学部法学科		790		3,330
経済学部	経済学科	535		2,290
	国際経済学科	200		800
	計	735		3,090

経営学部	経営学科		610		2,590
	国際経営学科		150		600
	計		760		3,190
産業社会学部	現代社会学科	現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻	840		3,360
		子ども社会専攻	60		240
	計		900		3,600
文学部人文学科			1,102	6	4,363
理工学部	応用化学科		0		95
	電気電子工学科		94	2	386
	機械工学科		99	2	401
	都市システム工学科		84	2	341
	化学生物工学科		0		80
	環境システム工学科		69	2	281
	電子光情報工学科		79	2	321
	ロボティクス学科		79	2	321
	数理科学科		90		360
	物理科学科		80		320
	電子情報デザイン学科		74	2	321
	マイクロ機械システム工学科		74	2	306
	建築都市デザイン学科		70		280
	計		892	16	3,813
国際関係学部国際関係学科			302	6	1,163
政策科学部政策科学科			360		1,440
情報理工学部	情報システム学科		110		455
	情報コミュニケーション学科		110		455
	メディア情報学科		110		455
	知能情報学科		110		455
	生命情報学科		0		60
	計		440		1,880
映像学部映像学科			150		600

薬学部薬学科		100		300
生命科学部	応用化学科	80		240
	生物工学科	80		240
	生命情報学科	60		180
	生命医科学科	60		180
	計	280		840
スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科		220		220
合計		7,031	28	27,829

附 則 (2010年3月26日 学費減免、学費および諸費の返還ならびに科目等履修料等の整理に伴う一部変更)

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則 (2010年9月24日 別表1-3への条項追加に伴う一部改正)

この学則は、2010年9月26日から施行する。

附 則 (2011年1月28日 転籍の単位認定に関する準用条項の追加に伴う一部変更)

- 1 この学則は、2011年4月1日から施行する。
- 2 本学則第5条の規定にかかわらず、2011年度の学部および学科別学生の入学定員、編入学定員および収容定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類			入学定員	3年次編入学定員	収容定員
法学部法学科			790		3,245
経済学部	経済学科		535		2,240
	国際経済学科		200		800
	計		735		3,040
経営学部	経営学科		610		2,540
	国際経営学科		150		600
	計		760		3,140
産業社会学部	現代社会学科	現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻	840		3,360
		子ども社会専攻	60		240

		計	900		3,600
文学部人文学科			1,102	6	4,396
理工学部	電気電子工学科		94	2	382
	機械工学科		99	2	402
	都市システム工学科		84	2	342
	環境システム工学科		69	2	282
	電子光情報工学科		79	2	322
	ロボティクス学科		79	2	322
	数理科学科		90		360
	物理科学科		80		320
	電子情報デザイン学科		74	2	302
	マイクロ機械システム工学科		74	2	302
	建築都市デザイン学科		70		280
	計		892	16	3,616
国際関係学部国際関係学科			302	6	1,196
政策科学部政策科学科			360		1,440
情報理工学部	情報システム学科		110		440
	情報コミュニケーション学科		110		440
	メディア情報学科		110		440
	知能情報学科		110		440
	計		440		1,760
映像学部映像学科			150		600
薬学部薬学科			100		400
生命科学部	応用化学科		80		320
	生物工学科		80		320
	生命情報学科		60		240

	生命医科学科	60		240
	計	280		1,120
スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科		220		440
合計		7,031	28	27,993

附 則 (2011 年 3 月 25 日 文学部の入学定員等の変更、理工学部電子情報デザイン学科の電子情報工学科への名称変更および理工学部の学科再編による定員変更等に伴う一部変更)

- 1 この学則は、2012 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 理工学部電子光情報工学科およびマイクロ機械システム工学科は、2012 年 3 月 31 日をもって学生募集を停止する。
- 3 理工学部電子光情報工学科、電子情報デザイン学科およびマイクロ機械システム工学科は、変更後の学則の規定にかかわらず、2012 年 3 月 31 日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 4 前項にかかわらず、理工学部電子光情報工学科、電子情報デザイン学科およびマイクロ機械システム工学科は、2012 年 4 月 1 日以後においても、当該学科に在学する者の属する年次には、転入学、編入学、転籍または再入学者を受け入れることができるものとする。
- 5 本学則第 5 条の規定にかかわらず、2012 年度から 2014 年度の入学定員、編入学定員および収容定員は次のとおりとする。

学部または学科の種類		年度	入学定員	3 年次編入学定員	収容定員	
法学部法学科		2012 年度	790		3,160	
		2013 年度				
		2014 年度				
経済学部	経済学科	2012 年度	535		2,190	
		2013 年度			2,140	
		2014 年度				
	国際経済学科	2012 年度	200		800	
		2013 年度				
		2014 年度				
	計		2012 年度	735		2,990
			2013 年度			2,940

			2014 年度			
経営学部	経営学科		2012 年度	610		2,490
			2013 年度			2,440
			2014 年度			
	国際経営学科		2012 年度	150		600
			2013 年度			
			2014 年度			
	計		2012 年度	760		3,090
			2013 年度			3,040
			2014 年度			
産業社会学部	現代社会学科	現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻	2012 年度	840		3,360
			2013 年度			
			2014 年度			
	子ども社会専攻		2012 年度	60		240
			2013 年度			
			2014 年度			
	計		2012 年度	900		3,600
			2013 年度			
			2014 年度			
文学部人文学科			2012 年度	1,105	0	4,420
			2013 年度			4,414
			2014 年度			4,417
理工学部	電気電子工学科		2012 年度	142	2	429
			2013 年度			476
			2014 年度		12	534
	機械工学科		2012 年度	160	2	462

		2013 年度			522
		2014 年度		10	591
	都市システム工学科	2012 年度	84	2	341
		2013 年度			340
		2014 年度			
	環境システム工学科	2012 年度	69	2	281
		2013 年度			280
		2014 年度			
	電子光情報工学科	2012 年度	0	2	242
		2013 年度			162
		2014 年度		0	81
	ロボティクス学科	2012 年度	83	2	325
		2013 年度			328
		2014 年度		6	336
	数理科学科	2012 年度	90		360
		2013 年度			
		2014 年度			
	物理科学科	2012 年度	80		320
		2013 年度			
		2014 年度			
	電子情報デザイン学科	2012 年度	0	2	227
		2013 年度			152
		2014 年度		0	76
	電子情報工学科	2012 年度	94	0	94
		2013 年度		0	188

		2014 年度		8	290	
	マイクロ機械システム工学科	2012 年度	0	2	227	
		2013 年度			152	
		2014 年度		0	76	
	建築都市デザイン学科	2012 年度	70	16	296	
		2013 年度			312	
		2014 年度				
	計	2012 年度	872	32	3,604	
		2013 年度			3,592	
		2014 年度		56	3,596	
	国際関係学部国際関係学科	2012 年度	302	6	1,223	
		2013 年度			1,220	
		2014 年度				
	政策科学部政策科学科	2012 年度	360		1,440	
		2013 年度				
		2014 年度				
情報理工学部	情報システム学科	2012 年度	110		440	
		2013 年度				
		2014 年度				
	情報コミュニケーション学科	2012 年度	110		440	
		2013 年度				
		2014 年度				
	メディア情報学科	2012 年度	110		440	
		2013 年度				
		2014 年度				
		知能情報学科	2012 年度	110		440

	計	2013 年度				
		2014 年度				
		2012 年度	440		1,760	
		2013 年度				
		2014 年度				
映像学部映像学科		2012 年度	150		600	
		2013 年度				
		2014 年度				
薬学部薬学科		2012 年度	100		500	
		2013 年度			600	
		2014 年度				
生命科学部	応用化学科	2012 年度	80		320	
		2013 年度				
		2014 年度				
	生物工学科	2012 年度	80		320	
		2013 年度				
		2014 年度				
	生命情報学科	2012 年度	60		240	
		2013 年度				
		2014 年度				
	生命医科学科	2012 年度	60		240	
		2013 年度				
		2014 年度				
	計		2012 年度	280		1,120
			2013 年度			
			2014 年度			

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科	2012年度	220		660
	2013年度			880
	2014年度			
合計	2012年度	7,014	38	28,167
	2013年度			28,366
	2014年度		62	28,373

**附 則** (2011年4月22日 学費額変更に伴う一部変更)

この学則は、2011年4月22日から施行し、2011年4月1日から適用する。

**附 則** (2011年5月27日 緊急災害による休学期間および在籍料に追加に伴う一部変更)

この学則は、2011年5月27日から施行し、2011年4月1日から適用する。

**附 則** (2012年3月23日 大学院学則の全部変更および総合理工学院の解消等に伴う一部変更)

この学則は、2012年4月1日から施行する。

**附 則** (2012年3月23日 立命館大学の2012年度学費変更に伴う一部変更)

- 1 この学則は、2012年4月1日から施行する。
- 2 前項にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する者については、2016年3月31日（薬学部は2018年3月31日）まで、第46条、第50条、第62条、第62条の3から第62条の7、第63条、第65条、第65条の2、第66条および第68条第1項から同第3項はなお従前の例によるものとし、第53条第1号は「学費、在籍料または特別在学料を納めない者」とする。
  - (1) 2012年3月31日に在籍する者
  - (2) 2012年度に2年次以上に再入学、転入学、編入学または学士入学する者
  - (3) 2013年度に3年次以上に再入学、転入学、編入学または学士入学する者
  - (4) 2014年度に4年次以上に再入学する者
  - (5) 2015年度に5年次以上に再入学する者
  - (6) 2016年度に薬学部の6年次以上に再入学する者
  - (7) 2017年度に薬学部の7年次以上に再入学する者
- 3 前2項にかかわらず、理工学部、情報理工学部、生命科学部、スポーツ健康科学部および薬学部の授業料、教育充実費および実験実習料は、前項の各号のいずれかに該当する者については、2015年度(薬学部は2017年度)まで次表のとおりとする。

(単位：円)

学部	学科等	費目	1年次(年間)	2年次(年間)	3年次(年間)	4年次(年間) (注1)

理 工 学 部	物理科学科、電気電子工学科、電子光情報工学科、電子情報デザイン学科、機械工学科、ロボティクス学科、マイクロ機械システム工学科、都市システム工学科、環境システム工学科および建築都市デザイン学科	授業料	1,098,000	1,098,000	1,098,000	1,098,000
		実験実習料 (2007年度以前の入学者)	—	—	—	135,000
		実験実習料 (2008年度以降の入学者)	105,000	105,000	105,000	105,000
		教育充実費	155,000	315,000	315,000	315,000
	数理科学科	授業料	1,098,000	1,098,000	1,098,000	1,098,000
		実験実習料 (2007年度以前の入学者)	—	—	—	65,000
		実験実習料 (2008年度以降の入学者)	50,000	50,000	50,000	50,000
		教育充実費	155,000	315,000	315,000	315,000
情 報 理 工 学 部	情報システム学科、情報コミュニケーション学科、メディア情報学科、知能情報学科、生命情報学科	授業料	1,098,000	1,098,000	1,098,000	1,098,000
		実験実習料 (2007年度以前の入学者)	—	—	—	135,000
		実験実習料 (2008年度以降の入学者)	105,000	105,000	105,000	105,000
		教育充実費	155,000	315,000	315,000	315,000
生 命 科 学 部	応用化学科、生物工学科、生命情報学科、生命医科学科	授業料	1,098,000	1,098,000	1,098,000	1,098,000
		実験実習料	135,000	135,000	135,000	135,000
		教育充実費	155,000	315,000	315,000	315,000
ス ポ ー ツ 健 康 科 学 部	スポーツ健康科学科	授業料	915,000	915,000	915,000	915,000
		教育充実費	103,000	263,000	263,000	263,000

学部	学科	費目	1年次	2年次	3年次	4年次
薬学部	薬学科	授業料	1,574,000	1,574,000	1,574,000	1,574,000
		実験実習料	242,000	242,000	242,000	242,000
		教育充実費	242,000	452,000	452,000	452,000
		区分	5年次	6年次 (注1)		
		授業料	1,574,000	1,574,000		
		実験実習料	242,000	242,000		
		教育充実費	452,000	452,000		

注1 5年次（薬学部は7年次）以降は、4年次（薬学部は6年次）の金額と同額とする。

4 第1項にかかわらず、第2項の各号のいずれかに該当する者のうち次のいずれかに該当する者で、次表の区分ごとに定める要件をすべて満たす場合については、2015年度（薬学部は2017年度）までは、当該年次の授業料を年額の2分の1とし、教育充実費および実験実習料は徴収しない。ただし、長期履修生は適用しない。

- (1) 在学期間が修業年限を超えた5年次生以上の者（薬学部は7年次生以上の者）
- (2) 情報理工学部において原級に留置されたことがある4年次生以上の者
- (3) 薬学部において原級に留置されたことがある6年次生以上の者

区分		要件
4 月 入 学 者	当該年次の前期学期に在学する場合 (留学および国内交流派遣は除く)	(1)前期学期の受講登録において、当該年次の授業科目の受講登録単位数と改正後の第37条第2項にもとづき認定する単位数の合計が1単位以上8単位以内であること。 (2)前期学期の受講登録において、卒業見込みとなること。 (3)後期学期の受講登録においても(1)の要件を満たしていること（前期学期に卒業した場合は除く）。
	当該年次の前期学期に休学、留学もしくは国内交流派遣をしていた場合または後期学期に再入学する場合	(1)後期学期の受講登録において、当該年次の授業科目の受講登録単位数と改正後の第37条第2項にもとづき認定する単位数の合計が1単位以上8単位以内であること。 (2)後期学期の受講登録において、卒業見込みとなること。
9 月 入 学 者	当該年次の後期学期に在学する場合 (留学および国内交流派遣は除く)	(1)後期学期の受講登録において、当該年次の授業科目の受講登録単位数と改正後の第37条第2項にもとづき認定する単位数の合計が1単位以上8単位以内であること。 (2)後期学期の受講登録において、卒業見込みとなること。 (3)前期学期の受講登録においても(1)の要件を満たしていること（後期学期に卒業した場合は除く）。
	当該年次の後期学期に休学、留学もしくは国内交流派遣	(1)前期学期の受講登録において、当該年次の授業科目の受講登録単位数と改正後の第37条第2項にもとづき認定する単位数の合計が1単位以上8単位以内であること。

遣をしていた場合 または前期学期に 再入学する場合	(2)前期学期の受講登録において、卒業見込みとなること。
---------------------------------	------------------------------

**附 則(2012年3月23日 国際関係学部の入学定員等の変更に伴う一部変更)**

- 1 この学則は、2013年4月1日から施行する。
- 2 変更後の学則第5条にかかわらず、国際関係学部の2013年度から2015年度の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	2013年度	2014年度	2015年度
国際関係学部	国際関係学科	1,217	1,214	1,217

**附 則 (2012年7月27日 入学検定料に関わる免除措置および見直し等に伴う一部変更)**

この学則は、2012年7月27日から施行し、2012年5月1日から適用する。

**附 則(2013年1月25日 資格課程および他学部受講の追加ならびに改廃手続きの変更等に伴う一部変更)**

- 1 この学則は、2013年4月1日から施行する。
- 2 前項にかかわらず、2013年3月31日に在籍する者については、なお従前の例による。

**附 則(2013年1月25日 2012年3月23日変更に伴う経過措置の一部変更)**

2012年3月23日変更の附則第2項にかかわらず、2013年度以降は、インスティテュート費を徴収しない。

**附 則(2013年3月22日 科目等履修料の一部追加に伴う第64条別表の一部変更)**

この学則は、2013年4月1日から施行する。

**附 則(2013年5月24日 入学検定料の区分名称変更等に伴う第62条の2別表の一部変更)**

この学則は、2013年5月24日から施行する。

**附 則(2014年1月24日 変更手続の変更に伴う一部変更)**

この学則は、2014年4月1日から施行する。

**附 則(2014年3月28日 創薬科学科設置に伴う一部変更)**

- 1 この学則は、2015年4月1日から施行する。
- 2 変更後の第5条にかかわらず、薬学部創薬科学科の2015年度から2017年度の収容定員は次表のとおりとする。

学部	学科	2015年度	2016年度	2017年度
薬学部	創薬科学科	60	120	180

附 則(2014年3月28日 2012年3月23日の2012年度学費変更に伴う経過措置の一部変更)  
2012年3月23日学費変更に伴う附則第4項第1号から第3号を次のとおりとする。

- (1) 在学期間が修業年限を超えた5年次生以上の者
- (2) 情報理工学部において、在学期間が修業年限を超えた5年次生以上の者または原級に留置されたことにより在学期間が修業年限を超えた者
- (3) 薬学部薬学科において、在学期間が修業年限を超えた7年次生以上の者または原級に留置されたことにより在学期間が修業年限を超えた者

附 則 (2014年5月23日 創薬科学科設置に伴う一部変更)  
この学則は、2015年4月1日から施行する。

附 則(2014年5月23日 入学検定料の区分変更に伴う納付金等別表1の一部変更)  
この学則は、2014年5月23日から施行し、2015年度入学を志願する者から適用する。

#### 納付金等別表1(入学検定料)

(第62条の2関連)

(単位：円)

区分	金額	
以下の入学試験方式以外の入学試験	35,000	
同一日に実施する同一入学試験で、複数の学科、学域または専攻に併願する入学試験	45,000	
大学入試センター試験方式	18,000	
二段階選考を行う特別入学試験	1次選考	15,000
	2次選考	20,000
AO英語基準入学試験	5,000	
推薦英語基準入学試験		

#### 納付金等別表2(入学金)

(第62条の3関連)

(単位：円)

区分	金額
入学、編入学、転入学、学士入学	300,000
再入学	10,000

#### 納付金等別表3—1—1(授業料)

(第62条の4関連)

(単位：円)

学部	学科および 専攻	費目	1年次	2年次	3年次	4年次 (注1)	
法学部	法学科	前期授業料	311,000	471,000	471,000	471,000	
		後期授業料	471,000	471,000	471,000	471,000	
経済学部	経済学科	前期授業料	311,000	471,000	471,000	471,000	
		後期授業料	471,000	471,000	471,000	471,000	
	国際経済学 科	前期授業料	372,000	532,000	532,000	532,000	
		後期授業料	532,000	532,000	532,000	532,000	
経営学部	経営学科	前期授業料	311,000	471,000	471,000	471,000	
		後期授業料	471,000	471,000	471,000	471,000	
	国際経営学 科	前期授業料	372,000	532,000	532,000	532,000	
		後期授業料	532,000	532,000	532,000	532,000	
産業社会学 部	現代社会学 科現代社会 専攻、メディ ア社会専攻、 スポーツ社 会専攻、人間 福祉専攻	前期授業料	396,000	556,000	556,000	556,000	
		後期授業料	556,000	556,000	556,000	556,000	
	現代社会学 科子ども社 会専攻	前期授業料	429,000	589,000	589,000	589,000	
		後期授業料	589,000	589,000	589,000	589,000	
	文学部	人文学科地 域研究学域、 心理学域	前期授業料	392,400	552,400	552,400	552,400
			後期授業料	552,400	552,400	552,400	552,400
人文学科人 間研究学域 教育人間学 専攻、日本史 研究学域考 古学・文化遺 産専攻		前期授業料	382,000	552,400	552,400	552,400	
		後期授業料	542,000	552,400	552,400	552,400	
人文学科人 間研究学域 哲学・倫理学 専攻、日本文 学研究学域、 日本史研究 学域日本史 学専攻、東洋 研究学域、国 際文化学域、		前期授業料	382,000	542,000	542,000	542,000	
		後期授業料	542,000	542,000	542,000	542,000	

	コミュニケーション学 域					
理工学部	数理科学科	前期授業料	571,500	731,500	731,500	731,500
		後期授業料	731,500	731,500	731,500	731,500
	物理科学科、 電気電子工 学科、電子情 報工学科、機 械工学科、ロ ボティクス 学科、都市シ ステム工学 科、環境シス テム工学科 および建築 都市デザイ ン学科	前期授業料	599,000	759,000	759,000	759,000
		後期授業料	759,000	759,000	759,000	759,000
国際関係学 部	国際関係学 科	前期授業料	452,500	612,500	612,500	612,500
		後期授業料	612,500	612,500	612,500	612,500
政策科学部	政策科学科	前期授業料	405,000	565,000	565,000	565,000
		後期授業料	565,000	565,000	565,000	565,000
情報理工学 部	情報システ ム学科、情報 コミュニケ ーション学 科、メディア 情報学科、知 能情報学科、 生命情報学 科	前期授業料	599,000	759,000	759,000	759,000
		後期授業料	759,000	759,000	759,000	759,000
映像学部	映像学科	前期授業料	739,500	899,500	899,500	899,500
		後期授業料	899,500	899,500	899,500	899,500
生命科学部	応用化学科、 生物工学科、 生命情報学 科、生命医科 学学科	前期授業料	614,000	774,000	774,000	774,000
		後期授業料	774,000	774,000	774,000	774,000
スポーツ健 康科学部	スポーツ健 康科学科	前期授業料	429,000	589,000	589,000	589,000
		後期授業料	589,000	589,000	589,000	589,000
薬学部	創薬科学科	前期授業料	715,000	875,000	875,000	875,000
		後期授業料	875,000	875,000	875,000	875,000

注1 5年次以降は、4年次の金額と同額とする。

納付金等別表3—1—2(6年制の授業料)

(第62条の4関連)

(単位：円)

学部	学科	費目	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次 (注1)
薬学部	薬学科	前期授業料	924,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000
		後期授業料	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000

注1 7年次以降は、6年次の金額と同額とする。

納付金等別表3—2(長期履修生の1単位あたりの授業料)

(第62条の4関連)

(単位：円)

学部	学科等	金額
法学部	法学科	29,000
経済学部	経済学科	29,000
	国際経済学科	33,000
経営学部	経営学科	29,000
	国際経営学科	33,000
産業社会学部	現代社会学科現代社会専攻、メディア社会専攻、スポーツ社会専攻、人間福祉専攻	34,600
	現代社会学科子ども社会専攻	36,700
文学部	人文学科地域研究学域、心理学域	34,300
	人文学科人間研究学域教育人間学専攻、日本史研究学域考古学・文化遺産専攻	34,200
	人文学科人間研究学域哲学・倫理学専攻、日本文学研究学域、日本史研究学域日本史学専攻、東洋研究学域、国際文化学域、コミュニケーション学域	33,700

納付金等別表4—1(在籍料)

(第62条の6関連)

(単位：円)

学部および学科等	金額
全学部	5,000(学期につき)

納付金等別表4—2(特別在学科)

(第62条の7関連)

(単位：円)

学部および学科等	金額
全学部	5,000(学期につき)

納付金等別表5—1(科目等履修料)

(第64条関連)

(単位：円)

区分	金額
法学部、経済学部、経営学部、産業社会学部、国際関係学部、政策科学部、文学部およびスポーツ健康科学部の科目ならびに理工学部、情報理工学部、生命科学部および映像学部の専門科目以外の科目	21,000(1単位につき)
理工学部、情報理工学部、生命科学部および映像学部の専門科目	31,000(1単位につき)
APU教育職員免許状(英語)取得プログラム(APU国内学生)	1年次 53,000
	2～4年次 120,000(年額)
佛教大学との教育交流協定にもとづく中学校・高等学校教諭免許状(理科)取得プログラム	1～2年次 243,000(年額)
	3年次 241,000(年額)
佛教大学との教育交流協定にもとづく中学校・高等学校教諭免許状(保健体育)取得プログラム	1～3年次 182,000(年額)
Study in Kyoto Program	366,000(学期につき)
京都未来を担う人づくり推進事業人財養成講座	500,000(年額)

納付金等別表5—2(聴講料)

(第64条の2関連)

(単位：円)

区分	金額
法学部、経済学部、経営学部、産業社会学部、国際関係学部、政策科学部、文学部およびスポーツ健康科学部の科目ならびに理工学部、情報理工学部、生命科学部および映像学部の専門科目以外の科目	12,500(1単位につき)
理工学部、情報理工学部、生命科学部および映像学部の専門科目	18,500(1単位につき)

納付金等別表5—3(特別履修料)

(第64条の4関連)

(単位：円)

学部および学科等	金額
全学部	366,000(学期につき)

## 変更事項を記載した書類

薬学部創薬科学科の設置に伴い、下記のとおり立命館大学学則の一部変更を行う。

- (1) 創薬科学科を規定化する。(第4条)
- (2) 創薬科学科の入学定員および収容定員を規定化する。(第5条)
- (3) 創薬科学科の修業年限を4年とすることを明確化する。(第17条)
- (4) 創薬科学科の在学年限を8年とすることを明確化する。(第18条)
- (5) 創薬科学科を、3年以上の在学による早期卒業の対象とすることを明確化する。  
(第54条第2項)
- (6) 創薬科学科の授業料を規定化する。(納付金等別表3-1-1)

## 立命館大学学則新旧対照表

現行	変更案
<p>第1条～第3条 (省略)</p> <p>(学部および学科等)</p> <p>第4条 本大学に、次の学部、学科および専攻を置く。</p> <p>法学部</p> <p>    法学科</p> <p>経済学部</p> <p>    経済学科</p> <p>    国際経済学科</p> <p>経営学部</p> <p>    経営学科</p> <p>    国際経営学科</p> <p>産業社会学部</p> <p>    現代社会学科</p> <p>        現代社会専攻</p> <p>        メディア社会専攻</p> <p>        スポーツ社会専攻</p> <p>        人間福祉専攻</p> <p>        子ども社会専攻</p> <p>文学部</p> <p>    人文学科</p> <p>理工学部</p> <p>    数理科学科</p> <p>    物理科学科</p> <p>    電気電子工学科</p> <p>    電子情報工学科</p> <p>    機械工学科</p> <p>    ロボティクス学科</p> <p>    都市システム工学科</p> <p>    環境システム工学科</p> <p>    建築都市デザイン学科</p> <p>国際関係学部</p> <p>    国際関係学科</p> <p>政策科学部</p> <p>    政策科学科</p>	<p>第1条～第3条 (現行どおり)</p> <p>(学部および学科等)</p> <p>第4条 本大学に、次の学部、学科および専攻を置く。</p> <p>法学部</p> <p>    法学科</p> <p>経済学部</p> <p>    経済学科</p> <p>    国際経済学科</p> <p>経営学部</p> <p>    経営学科</p> <p>    国際経営学科</p> <p>産業社会学部</p> <p>    現代社会学科</p> <p>        現代社会専攻</p> <p>        メディア社会専攻</p> <p>        スポーツ社会専攻</p> <p>        人間福祉専攻</p> <p>        子ども社会専攻</p> <p>文学部</p> <p>    人文学科</p> <p>理工学部</p> <p>    数理科学科</p> <p>    物理科学科</p> <p>    電気電子工学科</p> <p>    電子情報工学科</p> <p>    機械工学科</p> <p>    ロボティクス学科</p> <p>    都市システム工学科</p> <p>    環境システム工学科</p> <p>    建築都市デザイン学科</p> <p>国際関係学部</p> <p>    国際関係学科</p> <p>政策科学部</p> <p>    政策科学科</p>

情報理工学部

情報システム学科

情報コミュニケーション学科

メディア情報学科

知能情報学科

映像学部

映像学科

薬学部

薬学科

生命科学部

応用化学科

生物工学科

生命情報学科

生命医科学科

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

(入学定員および収容定員)

第5条 本大学の入学定員、編入学定員および収容定員は、次表のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
法学部	法学科	790		3,160
経済学部	経済学科	535		2,140
	国際経済学科	200		800
	計	735		2,940
経営学部	経営学科	610		2,440
	国際経営学科	150		600
	計	760		3,040
産業社会学部	現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻	840		3,360
		子ども社会専攻	60	
	計	900		3,600

情報理工学部

情報システム学科

情報コミュニケーション学科

メディア情報学科

知能情報学科

映像学部

映像学科

薬学部

薬学科

創薬科学科

生命科学部

応用化学科

生物工学科

生命情報学科

生命医科学科

スポーツ健康科学部

スポーツ健康科学科

(入学定員および収容定員)

第5条 本大学の入学定員、編入学定員および収容定員は、次表のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
法学部	法学科	790		3,160
経済学部	経済学科	535		2,140
	国際経済学科	200		800
	計	735		2,940
経営学部	経営学科	610		2,440
	国際経営学科	150		600
	計	760		3,040
産業社会学部	現代社会専攻 メディア社会専攻 スポーツ社会専攻 人間福祉専攻	840		3,360
		子ども社会専攻	60	
	計	900		3,600

文学部	人文学科	1,105		4,420
理工学部	電気電子工学科	142	12	592
	機械工学科	160	10	660
	都市システム工学科	84	2	340
	環境システム工学科	69	2	280
	ロボティクス学科	83	6	344
	数理科学科	90		360
	物理科学科	80		320
	電子情報工学科	94	8	392
	建築都市デザイン学科	70	16	312
	計	872	56	3,600
国際関係学部	国際関係学科	305	0	1,220
政策科学部	政策科学科	360		1,440
情報理工学部	情報システム学科	110		440
	情報コミュニケーション学科	110		440
	メディア情報学科	110		440
	知能情報学科	110		440
	計	440		1,760
映像学部	映像学科	150		600
薬学部	薬学科	100		600
	(新規)			
	(新規)			
生命科学部	応用化学科	80		320
	生物工学科	80		320
	生命情報学科	60		240
	生命医科学科	60		240
	計	280		1,120
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	220		880
合計		<u>7,017</u>	56	<u>28,380</u>

第6条～第16条 (省略)

(修業年限)

文学部	人文学科	1,105		4,420
理工学部	電気電子工学科	142	12	592
	機械工学科	160	10	660
	都市システム工学科	84	2	340
	環境システム工学科	69	2	280
	ロボティクス学科	83	6	344
	数理科学科	90		360
	物理科学科	80		320
	電子情報工学科	94	8	392
	建築都市デザイン学科	70	16	312
	計	872	56	3,600
国際関係学部	国際関係学科	305	0	1,220
政策科学部	政策科学科	360		1,440
情報理工学部	情報システム学科	110		440
	情報コミュニケーション学科	110		440
	メディア情報学科	110		440
	知能情報学科	110		440
	計	440		1,760
映像学部	映像学科	150		600
薬学部	薬学科	100		600
	創薬科学科	<u>60</u>		<u>240</u>
	計	<u>160</u>		<u>840</u>
生命科学部	応用化学科	80		320
	生物工学科	80		320
	生命情報学科	60		240
	生命医科学科	60		240
	計	280		1,120
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	220		880
合計		<u>7,077</u>	56	<u>28,620</u>

第6条～第16条 (現行どおり)

(修業年限)

第 17 条 修業年限は、4 年とする。ただし、薬学部にあつては、6 年とする。

(在学年限)

第 18 条 在学年限は、8 年とする。ただし、薬学部にあつては、12 年とする。

第 19 条～第 53 条 (省略)

(卒業の認定)

第 54 条 第 17 条に規定する修業年限以上在学し、学部則に定める卒業に必要な単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

2 薬学部を除き本大学に 3 年以上在学したものが、卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと教授会が認める場合には、前項の規定にかかわらず、学長が卒業を認定することができる。

第 55 条～第 62 条の 3 (省略)

(授業料)

第 62 条の 4 学生は、在籍する学部、学科および専攻ならびに年次に応じて、前期授業料および後期授業料を学期毎に納めなければならない。ただし、9 月に入学した者の授業料は、前期授業料を第 15 条第 2 項に定める後期学期の授業料とし、後期授業料を同前期学期の授業料とする。

2 前項の授業料は、納付金等別表 3—1 のとおりとする。

3 前項にかかわらず、在学期間が修業年限を超える者において当該学期に成績評価する授業科目の受講登録単位数および第 37 条第 2 項にもとづき卒業に必要な単位として認定する単位数の合計が 8 単位以下である学期の授業料は、納付金等別表 3—1 に定める授業料の 2 分の 1 とする。

4 前 2 項にかかわらず、第 19 条の規定により長期にわたる教育課程の履修を許可された者(以下「長期履修生」という。)の授業料は、納付金等別表 3—2 に定める 1 単位あたりの授業料に当該学期の受講登録単位数を乗じた額とする。

第 62 条の 5～第 72 条 (省略)

附 則 (省略)

第 17 条 修業年限は、4 年とする。ただし、薬学部薬学科にあつては、6 年とする。

(在学年限)

第 18 条 在学年限は、8 年とする。ただし、薬学部薬学科にあつては、12 年とする。

第 19 条～第 53 条 (現行どおり)

(卒業の認定)

第 54 条 第 17 条に規定する修業年限以上在学し、学部則に定める卒業に必要な単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、卒業証書・学位記を授与する。

2 薬学部薬学科を除き本大学に 3 年以上在学したものが、卒業に必要な単位を優秀な成績で修得したと教授会が認める場合には、前項の規定にかかわらず、学長が卒業を認定することができる。

第 55 条～第 62 条の 3 (現行どおり)

(授業料)

第 62 条の 4 学生は、在籍する学部、学科および専攻ならびに年次に応じて、前期授業料および後期授業料を学期毎に納めなければならない。ただし、9 月に入学した者の授業料は、前期授業料を第 15 条第 2 項に定める後期学期の授業料とし、後期授業料を同前期学期の授業料とする。

2 前項の授業料は、納付金等別表 3—1—1 および、納付金等別表 3—1—2 のとおりとする。

3 前項にかかわらず、在学期間が修業年限を超える者において当該学期に成績評価する授業科目の受講登録単位数および第 37 条第 2 項にもとづき卒業に必要な単位として認定する単位数の合計が 8 単位以下である学期の授業料は、納付金等別表 3—1—1 および、納付金等別表 3—1—2 に定める授業料の 2 分の 1 とする。

4 前 2 項にかかわらず、第 19 条の規定により長期にわたる教育課程の履修を許可された者(以下「長期履修生」という。)の授業料は、納付金等別表 3—2 に定める 1 単位あたりの授業料に当該学期の受講登録単位数を乗じた額とする。

第 62 条の 5～第 72 条 (現行どおり)

附 則(2014 年 3 月 28 日 創薬科学科設置に伴う一部変更)

1 この学則は、2015 年 4 月 1 日から施行する。

2 変更後の第 5 条にかかわらず、薬学部創薬科学科の 2015 年度から 2017 年度の収容定員は次表のとおりとする。

学部	学科	2015年度	2016年度	2017年度
薬学部	創薬科学科	60	120	180

附 則 (2014年5月23日 創薬科学科設置に伴う一部変更)

この学則は、2015年4月1日から施行する。

納付金等別表 1～納付金等別表 2 (省略)

納付金等別表 1～納付金等別表 2 (現行どおり)

納付金等別表 3—1(授業料)

納付金等別表 3—1—1(授業料)

(第 62 条の 4 関連)

(第 62 条の 4 関連)

(単位：円)

(単位：円)

学部	学科および専攻	費目	1年次	2年次	3年次	4年次(注1)	
法学部	法学科	前期授業料	311,000	471,000	471,000	471,000	
		後期授業料	471,000	471,000	471,000	471,000	
経済学部	経済学科	前期授業料	311,000	471,000	471,000	471,000	
		後期授業料	471,000	471,000	471,000	471,000	
	国際経済学科	前期授業料	372,000	532,000	532,000	532,000	
		後期授業料	532,000	532,000	532,000	532,000	
経営学部	経営学科	前期授業料	311,000	471,000	471,000	471,000	
		後期授業料	471,000	471,000	471,000	471,000	
	国際経営学科	前期授業料	372,000	532,000	532,000	532,000	
		後期授業料	532,000	532,000	532,000	532,000	
産業社会学部	現代社会学科現代社会専攻、メディア社会専攻、スポーツ社会専攻、人間福祉専攻	前期授業料	396,000	556,000	556,000	556,000	
		後期授業料	556,000	556,000	556,000	556,000	
	現代社会と専攻	前期授業料	429,000	589,000	589,000	589,000	
		後期授業料	589,000	589,000	589,000	589,000	
	文	人文学科	前期授	392,	552,	552,	552,

学部	学科および専攻	費目	1年次	2年次	3年次	4年次(注1)	
法学部	法学科	前期授業料	311,000	471,000	471,000	471,000	
		後期授業料	471,000	471,000	471,000	471,000	
経済学部	経済学科	前期授業料	311,000	471,000	471,000	471,000	
		後期授業料	471,000	471,000	471,000	471,000	
	国際経済学科	前期授業料	372,000	532,000	532,000	532,000	
		後期授業料	532,000	532,000	532,000	532,000	
経営学部	経営学科	前期授業料	311,000	471,000	471,000	471,000	
		後期授業料	471,000	471,000	471,000	471,000	
	国際経営学科	前期授業料	372,000	532,000	532,000	532,000	
		後期授業料	532,000	532,000	532,000	532,000	
産業社会学部	現代社会学科現代社会専攻、メディア社会専攻、スポーツ社会専攻、人間福祉専攻	前期授業料	396,000	556,000	556,000	556,000	
		後期授業料	556,000	556,000	556,000	556,000	
	現代社会と専攻	前期授業料	429,000	589,000	589,000	589,000	
		後期授業料	589,000	589,000	589,000	589,000	
	文	人文学科	前期授	392,	552,	552,	552,

学部	地域研究 学域、心理 学域	業料	400	400	400	400
		後期授 業料	552, 400	552, 400	552, 400	552, 400
	人文学科 人間教育 人間学専攻 人間学専攻 日本史学専攻 考古学・文 化遺産専攻	前期授 業料	382, 000	552, 400	552, 400	552, 400
		後期授 業料	542, 000	552, 400	552, 400	552, 400
	人文学科 人間哲学 学・倫理学 専攻、日本 文学域、日 本史学専攻 日本史学専攻 東洋研究 学域、国際 化学域、コ ミュニケー ション学域	前期授 業料	382, 000	542, 000	542, 000	542, 000
		後期授 業料	542, 000	542, 000	542, 000	542, 000
理工学部	数理科学 科	前期授 業料	571, 500	731, 500	731, 500	731, 500
		後期授 業料	731, 500	731, 500	731, 500	731, 500
	物理科学 電機電子工 学、電気電 子工学、電 子情報工学 、機械工学 、ロボティ クス学、都 市システム 工学、環境 システム工 学、おおよ び都市デザ イン学	前期授 業料	599, 000	759, 000	759, 000	759, 000
		後期授 業料	759, 000	759, 000	759, 000	759, 000
国際関係 学部	国際関係 学科	前期授 業料	452, 500	612, 500	612, 500	612, 500
		後期授 業料	612, 500	612, 500	612, 500	612, 500
政策科学 部	政策科学 科	前期授 業料	405, 000	565, 000	565, 000	565, 000
		後期授 業料	565, 000	565, 000	565, 000	565, 000
情報理工 学部	情報システ ム学、コン ピューシ ョン学、メ ディア情 報学、情報 学	前期授 業料	599, 000	759, 000	759, 000	759, 000
		後期授 業料	759, 000	759, 000	759, 000	759, 000

学部	地域研究 学域、心理 学域	業料	400	400	400	400
		後期授 業料	552, 400	552, 400	552, 400	552, 400
	人文学科 人間教育 人間学専攻 人間学専攻 日本史学専攻 考古学・文 化遺産専攻	前期授 業料	382, 000	552, 400	552, 400	552, 400
		後期授 業料	542, 000	552, 400	552, 400	552, 400
	人文学科 人間哲学 学・倫理学 専攻、日本 文学域、日 本史学専攻 日本史学専攻 東洋研究 学域、国際 化学域、コ ミュニケー ション学域	前期授 業料	382, 000	542, 000	542, 000	542, 000
		後期授 業料	542, 000	542, 000	542, 000	542, 000
理工学部	数理科学 科	前期授 業料	571, 500	731, 500	731, 500	731, 500
		後期授 業料	731, 500	731, 500	731, 500	731, 500
	物理科学 電機電子工 学、電気電 子工学、電 子情報工学 、機械工学 、ロボティ クス学、都 市システム 工学、環境 システム工 学、おおよ び都市デザ イン学	前期授 業料	599, 000	759, 000	759, 000	759, 000
		後期授 業料	759, 000	759, 000	759, 000	759, 000
国際関係 学部	国際関係 学科	前期授 業料	452, 500	612, 500	612, 500	612, 500
		後期授 業料	612, 500	612, 500	612, 500	612, 500
政策科学 部	政策科学 科	前期授 業料	405, 000	565, 000	565, 000	565, 000
		後期授 業料	565, 000	565, 000	565, 000	565, 000
情報理工 学部	情報システ ム学、コン ピューシ ョン学、メ ディア情 報学、情報 学	前期授 業料	599, 000	759, 000	759, 000	759, 000
		後期授 業料	759, 000	759, 000	759, 000	759, 000

	科、生命情報学科					
映像学部	映像学科	前期授業料	739,500	899,500	899,500	899,500
		後期授業料	899,500	899,500	899,500	899,500
生命科学部	応用化学科、生物工学科、生命情報学科、生命医学科	前期授業料	614,000	774,000	774,000	774,000
		後期授業料	774,000	774,000	774,000	774,000
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	前期授業料	429,000	589,000	589,000	589,000
		後期授業料	589,000	589,000	589,000	589,000

	科、生命情報学科					
映像学部	映像学科	前期授業料	739,500	899,500	899,500	899,500
		後期授業料	899,500	899,500	899,500	899,500
生命科学部	応用化学科、生物工学科、生命情報学科、生命医学科	前期授業料	614,000	774,000	774,000	774,000
		後期授業料	774,000	774,000	774,000	774,000
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	前期授業料	429,000	589,000	589,000	589,000
		後期授業料	589,000	589,000	589,000	589,000
薬学部	創薬科学科	前期授業料	715,000	875,000	875,000	875,000
		後期授業料	875,000	875,000	875,000	875,000

注1 5年次以降は、4年次の金額と同額とする。

納付金等別表 3-1-2(6年制の授業料)  
(第62条の4関連)

(単位：円)

学部	学科	費目	1年次	2年次	3年次	4年次		
薬学部	薬学科	前期授業料	924,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000		
		後期授業料	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000		
		費目	5年次	6年次(注1)				
		前期授業料	1,134,000	1,134,000				
		後期授業料	1,134,000	1,134,000				

注1 5年次(薬学部は7年次)以降は、4年次(薬学部は6年次)の金額と同額とする。

納付金等別表 3-2～納付金等別表 5-3 (省略)

(単位：円)

学部	学科	費目	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次(注1)
薬学部	薬学科	前期授業料	924,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000
		後期授業料	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000	1,134,000

注1 7年次以降は、6年次の金額と同額とする。

納付金等別表 3-2～納付金等別表 5-3 (現行どおり)

## 立命館大学薬学部教授会規程

2012年2月28日

規程第960号

### (趣旨)

第1条 この規程は、立命館大学学則(以下「学則」という。)第9条第4項および第12条第8項にもとづき、薬学部(以下「学部」という。)の組織および薬学部教授会(以下「教授会」という。)の運営について必要な事項を定める。

### (役職者の職務)

第2条 学部に、学部長、副学部長、学生主事およびその他の役職を置く。

- 2 学部長は、教授会の議長となり、学部を代表するとともに、その議決を執行する。
- 3 学部長に支障があるとき、その職務を遂行できなくなったとき、または欠けたときは、副学部長もしくは学部長または教授会に指名された教授がこれを代行する。
- 4 副学部長は、学部教学、研究、国際、企画、入試・高大連携、就職および医療薬学に関する事項について、学部長を補佐する。
- 5 学生主事は、学生の指導および援助に関する事項について、学部長を補佐する。
- 6 医療薬学教育支援室長は、医療薬学に関する事項について、学部長を補佐する。
- 7 その他については、必要に応じて定める。

### (役職者の選出)

第3条 学部長は、立命館大学学部長選挙規程にもとづき選出する。

- 2 副学部長、学生主事およびその他の役職者は、教授会の承認を得て、学部長が任命する。

### (役職者の任期)

第4条 学部長の任期は、立命館大学学部長選挙規程第5条に定めるところによる。

- 2 副学部長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、連続して3期以上その任にあたることはできない。
- 3 学生主事の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、連続して3期以上その任にあたることはできない。

### (教授会の構成)

第5条 教授会は、学部に所属する教授、准教授および専任講師をもって構成する。

- 2 前項の教授および准教授については、任期を定めた教員を含める。
- 3 教授会は、必要に応じて、前2項以外の教職員を出席させることができる。

(教授会の招集)

第6条 教授会は、定例で開催する。ただし、学部長が必要と認めたとき、または構成員の3分の1以上の要求があったときは、臨時にこれを招集する。

2 学長は、必要と認めたとき、教授会の招集を学部長に要請し、または教授会に出席して発言することができる。

(教授会の成立要件)

第7条 教授会は、休職している者、学外研究員、出張および校務を命じられている者を除く構成員の過半数の出席により成立する。

2 教授会の議決は、出席者の過半数の賛成によって行い、可否同数のときは議長の決するところによる。

3 前2項にかかわらず、教員の任用・昇任の場合の成立および議決の要件は、立命館大学教員任用・昇任規程の定めるところによる。

4 教員の懲戒に関しては、前項を準用する。

(教授会の審議事項)

第8条 教授会は、次の事項を審議する。

- (1) 学部の学科、専攻、コースの新設、増設、廃止、変更に関する事項
- (2) 学則および学部諸規程の制定ならびに改廃に関する事項
- (3) 教員の人事に関する事項
- (4) 学科課程、授業および学力考査に関する事項
- (5) 学生の入学、卒業、その他学生の身上に関する事項
- (6) 学生の補導および援助に関する事項
- (7) 学生の定数に関する事項
- (8) 学校法人および大学の諸規程において、教授会の議を経ることを要すると定められた事項
- (9) その他教育研究に関する事項

(生命科学部教授会と合同で開催する教授会)

第9条 前条にかかわらず、教授会は、次に掲げる事項については、生命科学部教授会と合同で開催し、審議する。

- (1) 前条第4号のうち、生命科学部および薬学部の両学部を跨るカリキュラム改革および開講方針に関する事項
- (2) 前条第9号のうち、生命科学部および薬学部で共通に使用する施設・設備に関する事項
- (3) その他、合同で開催する教授会において議決する必要があると生命科学部と薬学部

の合同の執行部会議で判断した事項

第10条 教授会のもとに、次の各号に定める委員会および会議を置く。

- (1) 教務委員会
- (2) 学生委員会
- (3) 医療薬学教育支援室会議
- (4) 病院・薬局実習委員会
- (5) 薬剤師育成支援委員会
- (6) Objective Structured Clinical Examination委員会
- (7) Computer-based Testing委員会
- (8) FD委員会

2 教授会は、特定の課題を検討または推進するために、他の委員会または会議を置くことができる。

(自己評価推進委員会)

第11条 立命館大学自己評価委員会規程第8条にもとづき、教授会のもとに自己評価推進委員会を置く。

- 2 自己評価推進委員会は、学部長、学部教学担当副学部長および学部長が指名した者をもって構成する。
- 3 学部長は、自己評価推進委員会を主宰し、自己評価推進委員長となる。
- 4 自己評価推進委員会は、必要に応じて、第2項に定める者以外の教職員を出席させることができる。

(議事録)

第12条 教授会の議事については、議事録を作成し、次回の教授会において承認を得なければならない。

(規程の改廃)

第13条 この規程の改廃は、教授会の議決によって行う。

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、教授会が定める。

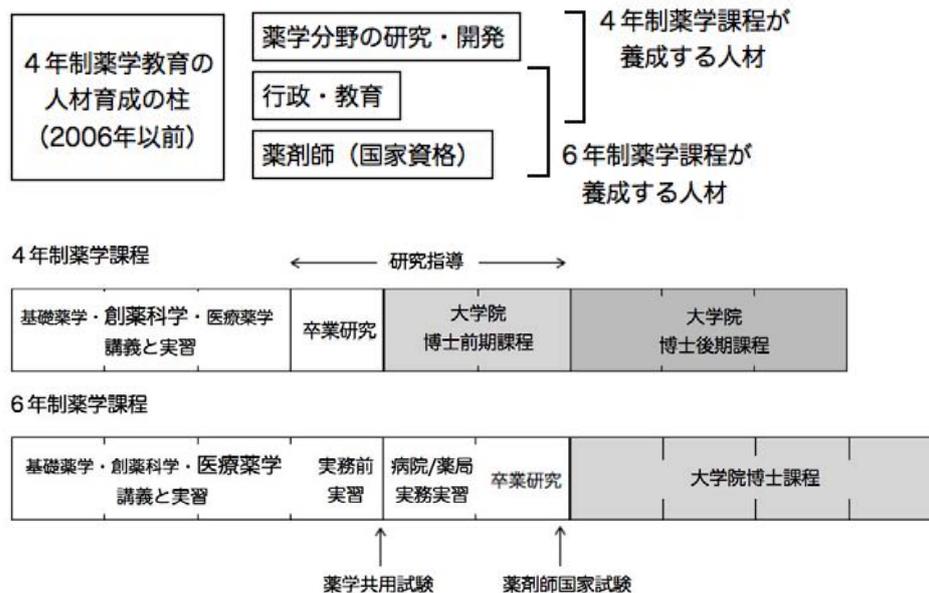
附 則

この規程は2012年4月1日から施行する。

## 立命館大学薬学部創薬科学科 設置の趣旨等を記載した書類

### ア、設置の趣旨及び必要性

薬学は生命現象と人の健康を化合物や生体物質に着目して総合的に科学する学問であり、医薬品の創製とその適正使用の実践などを通して人類の健康と幸福に貢献し、社会の発展に寄与していくことをその使命としている。明治以来の日本の薬学教育は、「医療現場で活躍する薬剤師」と「薬を生み出す創薬研究者」というふたつの人材育成目標を掲げながらひとつの教育システムとして発展してきた。しかしながら 21 世紀を迎えて、臨床における診断技術や治療法・予防法が日々高度化してきている中、より高度な薬剤師の育成が求められるようになった。こうしたニーズを受けて、2006(平成 18)年 4 月に学校教育法、薬剤師法が改正され、薬の専門家である薬剤師を養成する薬学教育の 6 年制学士課程と、薬学基礎系として従来型の 4 年制学士課程の 2 つの薬学教育課程がスタートした。4 年制課程と 6 年制課程では人材育成目標が大きく異なり、4 年制課程では医薬品の創製、開発、生産、さらには食品・化粧品、環境や衛生分野などの薬学関連領域での研究及び教育に従事する人材を養成し、6 年制課程では、薬物の適正使用に求められる知識・技能の習得とその進歩を担う薬剤師、さらに医療薬学分野の研究者を養成する。また、この改定を受けて 6 年制課程では、単なる修業年限の延長ではなくカリキュラムに様々な追加・変更がなされ、特に医療人としての実践的能力を育成するために 5 回生時に病院と薬局においてそれぞれ 11 週間の参加型実務実習が必修化された。さらにこの長期実務実習に参加する学生の水準を一定以上に保つための施策として「薬学教育モデル・コアカリキュラム」と「薬学共用試験」、「薬学教育評価機構による専門分野別評価」が導入されている。



医療人としての薬剤師の質的向上とその地位の向上を目指した 6 年制薬学教育課程が着実に成果をあげている一方で、新たな問題も生じている。2006(平成 18)年の新課程のスタートにあたって全国の私立薬学部・薬科大学が一斉に 6 年制課程に舵をきったことから 4 年制と 6 年制の学生定員に大きな偏りが生まれ、明治以来日本の薬学教育システムが担ってきた「創薬人材の育成」というもうひとつの重要な役割を果たすことが困難になってきたということである。医療の発展と国民の健康増進に貢献できる多様な人材を多分野に輩出するという薬学部本来の目的を達成するためには、「医療薬学」と「創薬科学」という日本独自の薬学教育システムをバランスよく機能させていかなければならない。さらに、分子標的薬やゲノム創薬に代表される医薬品創製技術・手法の高度化にともない、それに対応できるハイレベルな創薬研究者の育成が求められている現在、創薬科学の重要性は益々増大している。

以上のような社会的ニーズを勘案し、立命館大学薬学部には備わる研究に対する高いポテンシャルを活用して薬学を通じた社会へのさらなる貢献と、医学・薬学分野における研究力を備えた人材育成の一層の強化を目指すために、立命館大学薬学部は 2015(平成 27)年度より「薬学科 (6 年制)」と「創薬科学科 (4 年制)」の二学科体制として新たに展開する。

本学は 2008(平成 20)年 4 月、びわこ・くさつキャンパス (以下「BKC」という。)に高度医療の一端を担う薬剤師養成を目的とする 6 年制学士課程の薬学部を設置し、「基礎薬学から臨床薬学までの専門的知識・研究力を備え、使命感・倫理観を有する薬剤師、医療人、科学者として、地域や社会に貢献できる人材を育成すること」を目標にした教学と研究を進めてきた。開設当初より滋賀県や京都府の薬剤師会・病院薬剤師会と連携を図り進めてきた実務実習においても受け入れ先機関から本学学生の知識や技能・態度について極めて高い評価を得ている。薬学科においては、6 年制薬学教育の核となる「薬学教育モデル・コアカリキュラム (以下「コアカリ」という)」が改訂されて 2015(平成 27)年度新入生から適用されるため、新コアカリに合わせて創薬・研究分野の人材育成を目指す創薬科学科とは明確に区別してカリキュラム改訂を行ない、より一層、高度医療人としての薬剤師の養成を進めていく。

創薬科学科では、「薬を中心に据えた」人の健康にかかわる自然科学を基盤とし、医薬品の創製と分析、環境因子と人体への影響、疾病と薬物治療など多方面にわたる「学際的な薬学」の専門知識と技術を習得させるとともに、大学院修士課程と連携した研究指導により、最先端の医薬品創製と医療を支える薬学研究者の養成を行う。

## 本学薬学部薬学科および創薬科学科の人材育成目的

薬学部は、医薬品等を通じて人の生命や健康にかかわるという使命感や倫理観を持ち、人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の具体的育成目的は下記の通りです。

### 薬学科

医薬品についての高度な専門知識、実務能力、医療人としての素養を有し、地域薬局や病院内で医療チームの一員として先導的な役割を果たす薬剤師、および研究マインドを持ち薬剤師として医療薬学分野の発展に貢献できる人材を養成することを目的としています。

### 創薬科学科

創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成することを目的としています。

医薬品メーカーは元々大阪発祥の企業が多く、武田薬品、田辺三菱製薬、大日本住友製薬、塩野義製薬などの国内大手企業、アストラゼネカ、バイエルなどといった外資系企業の多くが本社を大阪にしている。また本社の立地と物流の関係から、大阪やその周辺の近畿圏に研究所や工場をもつ企業が多く、他業種に比べ関西を拠点として事業展開している企業の割合が多いことが特徴として挙げられる(資料 1. 医療用医薬品メーカー売り上げTOP20の本社・研究・生産機能)。ところが、薬学部を有する57私大中4年制を併設する14大学をみると、4年制学科については東日本の495名の入学定員に対し西日本はわずか130名に過ぎず、東西で大きな偏りが生まれている(資料 2. 2013(平成 25)年度 薬系大学入学定員一覧)。したがって、京都、滋賀、大阪にキャンパスを有する本学が創薬科学科を設置し、製薬業界等で活躍できる人材を多く輩出することは、地域的、社会的にも大きく貢献できると考える。

## イ、学部、学科等の特色

立命館大学薬学部創薬科学科(仮称)は、総合科学である「薬学」の中にあって研究者養成を目指すものであり、その特色は以下の通りである。なお、カリキュラムの特色については「エ. 教育課程の編成の考え方及び特色」で詳細に記載する。

### (1) 創薬研究に必要な薬学の基礎に習熟する。

薬学は生命現象と人の健康を化合物や生体物質に注目して総合的に科学する学問である。既設の6年制薬学科は、薬剤師免許を取得し、薬を通して人の健康に貢献する医療人を輩出して、主に病院や薬局といった医療現場あるいは医療行政の分野で社会に貢献することが求められている。その中でも特に高度化する医療に対してその専門性を発揮する能力が期待されている。これに対して4年制創薬科学科は「体」、「病気」、「医薬品」の科学を学んだ人材を輩出して主に医薬品創製の分野で社会に貢献することが求められている。

創薬科学科ではこれらの社会要請に応えるため、入学時より研究者としての意識付け

を行い、基礎薬学、創薬科学、基礎医療薬学に関する講義に加え、分析化学実習から薬理・薬剤学実習までの薬学系実習科目など、幅広い領域の自然科学における知識と技能を習得する。加えて、生理活性を有する機能性分子の設計・合成や疾病の分子レベルでの理解に基づく新規薬物標的の探索など医薬品の創製に必要な高度な専門知識を学生個人の進路希望に併せて習得するとともに、卒業研究を通して研究の基礎力や問題発見・解決能力を習得し、創薬分野において社会に貢献できる人材を養成する。

- (2) 研究力養成と大学院修士課程を含む6年間一貫教育を想定した研究指導体制を構築する。

他大学薬学部4年制課程における進路状況を見てみると、9割近くの学生が大学院に進学しており、他の理系学部に比べて薬学部4年制課程には研究指向の強い学生が在籍していることが窺える。このような状況から、本学4年制創薬科学科においても、大学院進学を念頭に置いた学生が多数入学してくることが期待できる。

6年制薬学科と同様に3回生までに多くの実験実習が配置されているために卒業研究導入時には、研究の基礎力の形成はすでに成されている。卒業研究を通して、専門性を高め問題発見・解決能力の養成を行う。さらに、大学院進学を想定した研究者養成という学生の要望に合わせ、学部から大学院修士課程までの6年間一貫教育、特に4回生時の1年間の卒業研究と2年間の修士課程を合わせた3年間の研究指導を充実させ、国際学会発表レベルの研究成果の醸成と情報発進力の養成を目指す。

- (3) 卒業研究指導をクラスター化して活性化する。

立命館大学の理系学部はこれまでいわゆる「大講座制」を採用しており、一人一人の専任教員が単独で研究室を運営し、学生の教育と研究にあたってきた。薬学部では例えば有機化学、生物化学、薬理学などそれぞれ近い領域を専門とする教員をクラスター化し、卒業研究のゼミ等を複数の研究室で合同実施することにより、よりきめ細かく、また多面的な指導を行う。教員のクラスター化は研究面での連携の促進による活性化も期待できる。

- (4) 専門英語教育を拡充し、研究活動のグローバル化に対応できる人材育成に努める。

生命科学部と薬学部で行われてきたプロジェクト発信型英語教育プログラムは、先端的研究をプロジェクトのテーマとし、情報を集め、議論し、その成果を英語で発表することにより、実践的な英語でのコミュニケーション能力の養成に努め、大きな成果を挙げている。創薬科学科においてもこのプロジェクト発信型英語プログラムを実施し、さらに卒業論文・修士論文については英語による発表を基本とする。

- (5) 国内製薬企業との連携を強化する。

立命館大学薬学部はこれまでの教学展開の中で滋賀県や京都府の薬剤師会及び病院薬剤師会と連携を深め、薬学共用試験や実務教育、就職や人材育成など多方面においてネットワークを強化してきた。創薬科学科はその学科名に示されているように、製薬企業研究開発部門とその関連する分野において新規医薬品の創製・開発に携わる人材の養成を目指している。創薬科学科では、教学システムと人材育成プランの連携を図り、薬学部からの教育・研究の両面にわたる情報発信に努め、さらに薬学部と薬学会・製薬業界とのネットワークを構築し、国内の「薬」に関係する研究者や技術者との学術上の情報交換・交流を活性化する。

## ウ、学部、学科等の名称及び学位の名称

### (1) 学科名称、学位名称

教育・研究内容を端的に示すものであることを原則としつつ、先行して2008(平成20)年4月に開設した薬学科との整合性確保を重視し、創薬研究の分野において活躍できる人材を養成する学科を表現する名称として、学科名は創薬科学科 (Department of Pharmaceutical Sciences)、学位は学士(薬科学) (Bachelor of Pharmaceutical Sciences) とする。

学部名	学科名	学位
薬学部	薬学科	薬学
College of Pharmaceutical Sciences	Department of Pharmacy	Bachelor of Pharmacy
	<u>創薬科学科</u>	<u>薬科学</u>
	<u>Department of Pharmaceutical Sciences</u>	<u>Bachelor of Pharmaceutical Sciences</u>

## エ、教育課程の編成の考え方及び特色

薬学は基礎薬学、衛生薬学、薬理学・薬物治療学、薬剤学・製剤学、医療薬学などを基盤とし、「薬」という生理活性を有する化学物質を中心に据えた学際的な学問領域である。創薬科学科では、幅広い自然科学の知識と医薬品の創製や開発に必要な技能を有する薬学研究者の輩出を目指す。

6年制の薬学科と4年制の創薬科学科には、それぞれの教育目標や人材育成目的が独自に設定されているが、一方で両学科とも「薬」と「健康」に関する学問を深めていくことは共通している。したがって、創薬科学科の1-2回生では両学科に共通する科目を配置し、物理、化学、生物を基盤とする基礎薬学を主に学ぶ。2-4回生では創薬科学に関する専門的な必修科目、選択科目を配置し、人材育成目標と進路に基づいた系統的な履修を行う。

薬学において求められる幅広い専門知識と技能を涵養するための実習科目は、医療系薬学実習を除いて6年制薬学科と共同で開講し、1回生から3回生までに系統的に履修する。3回生後期には研究室に所属し卒業研究に従事する。創薬科学科の修業年限は4年であるが、

その人材育成目的から高い大学院進学率を想定しており、学部での卒業研究1.5年に修士課程2年を加えた3.5年間を見据え、より高度な問題解決能力、研究や開発能力の醸成を目指す教学システムとする。

#### (1) カリキュラムポリシー

本学薬学部のカリキュラムポリシーは以下の通りである。

薬学部は、医薬品等を通じて人類の健康と幸福に貢献できる人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成します。

##### 薬学科

1. 豊かな教養や人間性を涵養する科目を配置する。
2. 医療人である薬剤師として相応しい態度や倫理観を涵養する科目を配置する。
3. 基礎薬学から実践的な医療薬学まで、薬剤師として必要な知識、技能を養成する科目を系統的に配置する。
4. 医療人である薬剤師に必須なコミュニケーション能力を養成する科目を配置する。
5. 医療や科学の高度化に対応できる幅広い知識、論理的な思考、研究マインドに基づく問題発見・解決能力を涵養する科目を配置する。
6. 地域医療の基盤となる保健・医療・福祉等についての知識を習得する科目を配置する。
7. 英語での情報収集・発信能力を涵養する科目を系統的に配置する。

##### 創薬科学科

1. 豊かな教養や人間性を涵養する科目を配置する。
2. 薬学を基盤とし最先端の創薬研究に必要な知識、技能を養成する科目を系統的に配置する。
3. 薬学や医学の発展・高度化に対応できる幅広い知識、論理的な思考力を養成する科目を配置する。
4. 企業や大学において基礎研究および臨床開発に必要な問題発見・解決能力を醸成する科目を配置する。
5. 英語での情報収集・発信能力を涵養する科目を系統的に配置する。

#### (2) 科目区分と必修科目の配置

先に述べたカリキュラムポリシーを達成するために、科目区分として「教養科目」「外国語科目」「基礎科目」「専門科目」「自由科目」の5つを設定する。

上述のように薬学は、「薬」を中心に据えた学際的な学問領域であるため、創薬科学科においても人の健康にかかわる幅広い自然科学や医療薬学に習熟する必要がある。したがって、履修が特定の分野に偏らないように科目配置を考える必要があり、4年制創薬科学科においても6年制薬学科と同様に、必修科目を各科目区分に多数配置する。

なお、3回生後期及び4回生前後に配置された創薬科学科で単独開講する9科目18単位は、想定される進路に応じた履修（カ.教育方法、履修指導方法及び卒業要件（2）履修モデル 参照）が推奨されることから、選択必修科目とし、このうち8単位修得することを卒業の要件とした。

##### ①教養科目（選択履修）

本学における教養教育は、薬学部専門教育の知識体系と価値観について専門以外の幅広い分野から見直し再考するための価値観、社会の変革・革新に対応するための広

範囲な教養の獲得、多様化した社会に必要な問題発見・解決能力の成長、を目指している。したがって、教養科目は低回生時のみの開講とせず、卒業までの4年間通じて履修ができる様にする。

幅広い教養を修得し、学生の興味に応じた選択履修を可能にするため十分な教養科目を配置する。

外国語科目と基礎科目を多く配置している点と薬学部の専門科目区分の必要単位数との関係から、教養科目における卒業要件単位数は16単位以上とする。

## ②外国語科目（必修）

外国語は英語とし、薬学科と共通したプロジェクト発信型英語教育により、英語による基礎的なコミュニケーション力、情報発信能力の習得を目的とする。

## ③基礎科目（選択履修）

薬学分野の専門を学ぶ上で必要な基礎科学力（科学的思考力、情報収集と処理力、日本語表現力）の習得を目的とする。各学生の興味や関心、目指す進路に応じた選択履修を可能にする。

## ④専門科目（必修または選択必修、選択履修）

薬学導入科目、化学系専門科目、生物系専門科目、医療系専門科目を順に配置し、系統的な専門知識の習得を可能にする。実習科目を対応する年次に配置し効果的な知識と技能の習得を行う。

### ・薬学導入科目

創薬に関わる研究施設の見学や臨床を含む薬学の幅広い領域の概要理解を目的として1回生に配置する。

### ・専門英語

薬学分野における課題について英語文献による情報収集や英語での情報発信を到達目標にしており、基礎的な英語力とコミュニケーション能力及び専門知識が必要となるため3回生に配置する。

### ・化学系薬学

医薬品の基礎となる化学物質の物理的性質や化学的性質を学ぶとともに、化学物質や天然物及び生体高分子の分析手法について学ぶ。必修科目は1回生に主に配置し、選択科目を2-3回生に主に配置する。

### ・生物系薬学

タンパク質や核酸など分子のレベルから、細胞、生体までの幅広い階層の生物学を学び、疾病の病態や発症のメカニズム及び生理活性物質や薬の作用機序などについて分子科学的な解釈ができる能力を培う。必修科目、選択科目ともに2-3回生に主

に配置する。

- ・医療系薬学

人体の構造と機能や疾病及び薬物治療について学ぶ。化学系、生物系薬学の専門知識を習得した上で応用的な医療系専門科目を学ぶ事が望まれるため、必修科目、選択科目ともに3-4回生に主に配置する。

- ・実習

化学系実習を1-2回生に主に配置し、生物系実習を3回生に配置する。卒業研究は3回生と4回生に配置する。

### ⑤自由科目（選択履修）

自由科目には卒業要件の単位に含まない科目を配置する。具体的には他学部受講科目、他学科受講科目、単位互換科目および留学生のみを対象とする日本語科目を開講する。

### (3) 科目配置の考え方

低年次では、広く教養科目、外国語科目、基礎（数学、物理等）科目を修得できるように科目を配置する。

専門科目は1年次から配置するが、導入科目から始め系統的に専門性を高めていけるような科目配置とする。薬学は化学、物理学、生物学など広範囲にわたる学問分野が連携して薬の創製と医療現場での使用を研究する学際的総合科学であるので、系統履修を促進するために、創薬科学科においても薬学科同様に、他の理系学部よりも必修科目を多く設置する。

進路においては、製薬会社のみならず、食品や化粧品などの化学系メーカーの研究開発職などの多様なキャリアパスが考えられる。3回生後期及び4回生前期には創薬科学科で単独開講する科目を重点的に配置することにより、興味や進路に応じた履修を可能にする。

## **オ、教員組織の編成の考え方及び特色**

### (1) 教員組織の編成の考え方

4年制創薬科学科においては、医薬品合成化学、生薬・天然物化学、分析化学、物理化学といった化学系薬学分野、生化学、生理学、衛生化学といった生物系薬学分野、薬剤学、製剤学、薬理学、薬物治療学といった医療系薬学分野に関して、創薬科学科所属教員と薬学科所属教員が共に協力して教育を行う。4年制創薬科学科は、薬学を基盤とし最先端の創薬研究を遂行する為の基礎的な知識、技能を備え、人の健康にかかわる自然科学を学び、大学や企業で創薬研究・開発に携わる人材を育成することを目的としているため、6年制薬学科より教育内容の比重が大きいと考えられる化学系薬学分野および生物

系薬学分野の教員を主として配置する。また、4年制創薬科学科では、最先端の化学や生命科学の知識と技能を有する薬学研究者の輩出を目指しており、開設する専門科目の講義に加えて、医薬品の創製と分析、環境因子と人体への影響、疾病と薬物治療など多方面にわたる「学際的な薬学」、医薬品創製分野において、優れた教育研究能力を有した専任教員を配置する。

## (2) 研究分野・研究体制

以下の分野を中心とした研究活動を、表に示した専任教員により展開する。

教授		准教授		助教	
4名	化学系薬学分野 1名	3名	化学系薬学分野 2名	3名	化学系薬学分野 1名
	生物系薬学分野 3名		生物系薬学分野 1名		生物系薬学分野 2名

〈化学系薬学分野〉

- 医薬品合成化学
- 分析化学
- 物理化学

〈生物系薬学分野〉

- 生物化学
- 細胞生物学
- 薬理学
- 製剤学

教授、准教授は、教員個人研究室、卒業研究室をそれぞれ1室ずつ有し、また、共同施設（低温室、暗室、共通機器室等）、動物飼育施設を整備しており、創薬研究を行うにあたり十分な研究環境が整っている。学生は3回生後期から卒業研究室に配属となるが、専門領域ごとのクラスターを形成し、薬学科教員とも連携して多面的な研究指導にあたる。本学では、生命科学部、理工学部、情報理工学部、スポーツ健康科学部といった学部において、薬学とは異なったアプローチによる人の健康に関わる研究が行われており、これらの学部教員と共同研究を活発に行うことにより創薬関連分野の研究を大いに推進することが期待できる。

## (3) 専任教員の年齢構成に関して

専任教員の年齢構成は、創薬科学科の完成年度3月31日時点において、教授4名の平均年齢は57.3歳、准教授3名の平均年齢は45.3歳、助教3名の平均年齢は37歳であり、偏り

無くバランスの取れた体制を組んだ。教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障はない。

#### (4) 兼任教員について

専任教員以外に兼任教員も創薬科学科の授業を担当する。本学教員の定年は、教授が65歳、教授以外の教員は60歳であり、創薬科学科の完成年度を待たずに本学を定年となる兼任教員もいるが、立命館大学特別任用教授規定（資料3. 立命館大学特別任用教員規程）に基づき、任用することを機関決定し、完成年度まで勤務できる条件を整えている。

### **カ、教育方法、履修指導方法及び卒業要件**

#### (1) 教育方法

創薬科学科の開講科目については、BKC全学部が受講することとなる大規模科目から、薬学科と合同で開講し160名程度の受講生となる学部専門科目、創薬科学科のみで開講する60名程度の学科専門科目、創薬科学科学生30名程度を基本とした小集団クラス科目に大きく分けられる。教養科目においては他学部との交流できる機会として、幅広い知識、視野を身に付けさせることも目的とする。一方で基本的に専門性の高い科目は小規模で開講する。

1回生では、専門科目への導入として「創薬科学基礎演習」「創薬研究概論」を配置し、創薬科学科60名を2クラスに分けてコミュニケーションスキルと医療全般に携わる者に求められる倫理観の醸成を図る。座学に加えて、実践的な演習、見学、小集団学習（PBLやSGD）を行い、授業への理解度を高め、自発的な気づきを促すことを目指す。

薬学は生命現象と人の健康を化合物や生体物質に注目して総合的に科学する学問であり、薬学科と創薬科学科に共通して、有機化学や分析化学から薬理学や薬剤学までの「薬学基盤科目」を実習と関連させながら修得することが薬学部カリキュラムの特徴となる。したがって、2-3回生時の専門科目については、両学科の合同開講とする。

なお、これまで薬学部薬学科では系統履修を効果的に行い、知識と技能の習得に一定の質を保証するシステムとして進級制度を導入し、運用してきた。「エ、教育課程の編成の考え方及び特色」に示した通り、創薬科学科においても各年次において一定の学力を付けて卒業まで導く系統的履修の考え方を踏襲した教育を行うため2回生から3回生と3回生から4回生へ進級する際に一定の基準を課す「進級制度」を導入する。

#### <3回生進級要件>

2回生終了時までまでに要卒単位のうち76単位を修得し、かつ1回生担当の必修科目の全て、および2回生担当実習科目の全て(下記の科目)を修得していること。

科目区分①	科目区分②	科目名	単位数	授業方法	開講期間	担当回生	必修/選択
外国語科目	外国語科目	英語 P1	1	講義	前	1	必修
		英語 P2	1	講義	後	1	必修

専門科目		英語 S1	1	講義	前	1	必修
		英語 S2	1	講義	後	1	必修
	薬学導入科目	創薬科学基礎演習	1	演習	前	1	必修
		創薬研究概論	2	講義	後	1	必修
	化学系薬学	有機化学 A	2	講義	前	1	必修
		有機化学 B	2	講義	後	1	必修
		物理化学 A	2	講義	前	1	必修
		物理化学 B	2	講義	後	1	必修
		分析化学 A	2	講義	前	1	必修
		機器分析化学	2	講義	後	1	必修
	生物系薬学	人体の構造と機能 A	2	講義	後	1	必修
		生化学 A	2	講義	後	1	必修
	実習	分析化学実習 A	1	実習	後	1	必修
		分析化学実習 B	1	実習	後	1	必修
		有機化学実習 A	1	実習	前	2	必修
		有機化学実習 B	1	実習	前	2	必修
		物理化学実習 A	1	実習	後	2	必修
		物理化学実習 B	1	実習	後	2	必修

<4回生進級要件>

3回生終了時までまでに要卒単位のうち108単位を修得し、かつ1, 2回生配当の必修科目の全て、および3回生配当実習科目の必修科目の全てと卒業研究科目(下記の科目)を修得していること。

科目区分①	科目区分②	科目名	単位数	授業方法	開講期間	配当回生	必修/選択
外国語科目	外国語科目	英語 P1	1	講義	前	1	必修
		英語 P2	1	講義	後	1	必修
		英語 P3	1	講義	前	2	必修
		英語 P4	1	講義	後	2	必修
		英語 S1	1	講義	前	1	必修
		英語 S2	1	講義	後	1	必修
		英語 S3	1	講義	前	2	必修
		英語 S4	1	講義	後	2	必修
専門科目	薬学導入科目	創薬科学基礎演習	1	演習	前	1	必修
		創薬研究概論	2	講義	後	1	必修
	化学系薬学	有機化学 A	2	講義	前	1	必修
		有機化学 B	2	講義	後	1	必修
		有機化学 C	2	講義	前	2	必修
		有機化学 D	2	講義	後	2	必修
		物理化学 A	2	講義	前	1	必修
		物理化学 B	2	講義	後	1	必修
		分析化学 A	2	講義	前	1	必修
		機器分析化学	2	講義	後	1	必修
		生薬学	2	講義	前	2	必修
		天然物化学	2	講義	後	2	必修
		生物系薬学	人体の構造と機能 A	2	講義	後	1
	人体の構造と機能 B		2	講義	前	2	必修
	生化学 A		2	講義	後	1	必修
	生化学 B		2	講義	前	2	必修

		微生物学	2	講義	後	2	必修
		薬理学 A	2	講義	後	2	必修
		病態学 A	2	講義	後	2	必修
		衛生化学	2	講義	後	2	必修
		生物統計学演習	1	演習	前	2	必修
	医療系薬学	製剤学・物理薬剤学 A	2	講義	後	2	必修
	実習	分析化学実習 A	1	実習	後	1	必修
		分析化学実習 B	1	実習	後	1	必修
		有機化学実習 A	1	実習	前	2	必修
		有機化学実習 B	1	実習	前	2	必修
		物理化学実習 A	1	実習	後	2	必修
		物理化学実習 B	1	実習	後	2	必修
		生化学・分子生物学実習	2	実習	前	3	必修
		生薬・天然物化学実習	2	実習	前	3	必修
		薬理学実習	1	実習	前	3	必修
		衛生化学実習	1	実習	後	3	必修
		微生物学実習	1	実習	後	3	必修
		免疫学・組織学実習	1	実習	後	3	必修
		薬剤学実習	1	実習	後	3	必修
	卒業研究	卒業研究 A	2	演習	後	3	必修

## (2) 履修モデル

選択科目については、想定される進路別の系統的な学習を目的として3つの履修モデルを設定する。4年制創薬科学科の主要な就職先と考えられる製薬企業は、様々な専門性を有する創薬研究者、臨床開発担当者、医薬情報担当者を必要としている。創薬研究の実務は、合成・製剤研究を行う化学系、薬理・生物学的評価研究を行う生物系に大別できる。そこで創薬研究者志望の科目選択の目安として、A. 創薬研究者（化学系）、B. 創薬研究者（生物系）の履修モデルを設定する。また、薬学・医学の知識を基盤として臨床開発・医薬情報担当者を志望する場合の科目選択の目安として、C. 臨床開発・医薬情報担当者の履修モデルを設定する（資料4. 創薬研究者（化学系）履修モデル）（資料5. 創薬研究者（生物系）履修モデル）（資料6. 臨床開発・医薬情報担当者履修モデル）。

### A. 創薬研究者（化学系）：33 単位

1 回生 選択科目 5 科目	2 回生 選択科目 6 科目	3 回生 選択科目 5 科目	4 回生 選択科目 4 科目
数学 A(微分法)②	有機分子解析法②	生体分子解析法②	◎香粧品学②
数学 B(積分法)②	物理化学 C②	構造生物学②	◎食品工学②
数学 C(線形代数)②	分析化学 B②	医薬品製造学②	◎医薬品開発論②
物理学 A②	放射化学②	◎合成化学②	臨床試験概論①
情報処理演習①		医薬品化学実習①	

※◎は選択必修科目、○の数字は単位数

B. 創薬研究者（生物系）：33 単位

1 回生 選択科目 5 科目	2 回生 選択科目 4 科目	3 回生 選択科目 7 科目	4 回生 選択科目 3 科目
数学 A(微分法)②	分子生物学②	病態学 B②	◎ゲノム創薬科学②
数学 B(積分法)②	免疫学②	◎再生医療学②	薬物治療学 C②
数学 D(確率・統計)②	細胞生物学②	薬理学 C②	◎免疫医薬品学②
生物科学②		薬物治療学 A②	
情報処理演習①		薬物治療学 B②	
		◎分子神経科学②	

※◎は選択必修科目、○の数字は単位数

C. 臨床開発・医薬情報担当者：33 単位

1 回生 選択科目 5 科目	2 回生 選択科目 4 科目	3 回生 選択科目 4 科目	4 回生 選択科目 7 科目
数学 A(微分法)②	公衆衛生学②	和漢薬論②	◎食品工学②
数学 B(積分法)②	免疫学②	環境衛生学②	薬事法規・薬事制度②
数学 D(確率・統計)②	放射化学②	医薬品情報学②	◎医療薬学②
日本語表現法②		◎再生医療学②	臨床試験概論①
情報処理演習①			医療統計学①
			◎医薬品開発論②

※◎は選択必修科目、○の数字は単位数

(3) 履修指導方法

入学直後のオリエンテーション時に、創薬科学科の理念および学びの特色、研究室配属方針や進路等について、具体的説明を行う。

6年制薬学科同様に、入学時より、各回生の学生を専任教員に振り分けるアドバイザー制度を設け、数人規模の小集団で指導を行う体制を整備する。アドバイザーは履修指導から成績を含めた学生生活、進路・就職に関する相談までのきめ細かな支援にあたる。

具体的には、アドバイザーは各学生と半年ごとの成績発表時に面談を行って知識・技能の習得状況について把握するとともに、個々の学生にあった履修指導を行っていく。

薬学領域の進路は、研究職、臨床開発・医薬情報担当者、行政職と多岐にわたる。特に研究職の専門性はきわめて広汎であり、3回生までの実習を通じて研究の概要を体験することはできても、進路を決定するためには様々な情報を適切な時期に提供することが重要である。したがって、将来を見据えて履修計画をたてる様にアドバイザー教員が個々の学生の希望を聞きつつ、細やかな指導にあたる。

また、アドバイザーは各卒業研究室に配属した高回生との学年を越えた学生の交流と

情報交換をする環境を提供し、低回生時から高度な知識や研究、卒業後の進路に関する関心を高める手助けをする。

#### (4) 年間受講登録上限単位数

年間の受講登録上限単位数は、低回生に必修科目が多数配置されている点、自学自習時間の確保などを考慮し、49単位に設定する。

#### (5) 卒業研究について

薬学部創薬科学科では、3回生に「卒業研究A」（後期）、4回生に「卒業研究B」（通年）を開講する。

「卒業研究A」では、研究室に配属して、研究活動に対する基本的態度、文献調査の重要性と方法、基本的な実験技術を学ぶとともに、各自の研究テーマを決定し、実験の計画、遂行、結果の解釈と考察、発表という研究のプロセスを体験的に学ぶ。「卒業研究B」では、研究テーマに沿って実験を進め、未知課題の解決に取り組む。あわせて問題解決能力を涵養し、研究成果をまとめて発表する方法を習得する。大学院進学を視野に、論理的思考、発表、そして展開方法という研究者としての基礎的能力の育成を行う。

以上の授業内容を踏まえ、また、教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、「卒業研究A」は2単位、「卒業研究B」は4単位を授与することとした。

#### (6) 卒業要件

創薬科学科では、科目選択に幅をもたせることにより、薬学の一般知識のうえにそれぞれが選択した深い専門知識・技能を取得して卒業することとなる。いずれの場合も卒業要件としては、教養科目から16単位以上、外国語科目を8単位、基礎科目から9単位以上、専門科目から必修科目71単位と選択必修科目8単位以上を含む95単位以上、合計で128単位以上の修得とする。

科目区分	科目区分毎の要件	卒業要件
教養科目	16 単位以上を修得する。	合計 128 単位以上を修得する。
外国語科目	8 単位を修得する。	
基礎科目	9 単位以上を修得する。	
専門科目	必修科目 71 単位と選択必修科目 8 単位以上を含む 95 単位以上を修得する。	

## (7)ディプロマ・ポリシー

本学薬学部のディプロマ・ポリシーは以下の通りである。

薬学部は、「薬学を基盤として人の健康にかかわる自然科学を学び、基礎薬学から臨床薬学までの専門知識と研究力を備え、医薬品等を通じて人類の健康と幸福に貢献できる人材」を育成することを目的として、卒業時において身につけておくべき素養（教育目標）を下記の通り4項目定めています。これらの素養の獲得と各学科の教育課程に規定する所定単位の修得をもって、各学科人材育成目的の達成とみなし、学士課程学位を授与します。

### 薬学科

1. 医療人である薬剤師として身につけておくべき、幅広い教養に基づいた豊かな人間性、専門的な知識・技能および相応しい態度と倫理観・使命感、コミュニケーション能力。
2. 医療の高度化に対応できる知識、探究心、問題発見・解決能力。
3. 地域社会における医療の担い手として必要な保健・医療・福祉等についての知識・技能・態度。
4. 国際社会でも活躍できる英語での情報収集・発信能力。

### 創薬科学科

1. 最先端の創薬研究を遂行するうえで必要な知識と技能、問題発見・解決能力。
2. 研究者としての自立心と向上心、探求心。
3. 人の健康に関わる仕事に携わる人材に相応しい倫理観と使命感。
4. 国際社会でも活躍できる英語での情報収集・発信能力。

## キ、施設、設備等の整備計画

### (1)設置キャンパス

薬学部創薬科学科は、滋賀県草津市に所在する BKC に設置する。(資料 7. 都道府県内におけるキャンパスの位置)。BKC は約 61 万㎡の敷地に、経済学部、経営学部、スポーツ健康科学部、理工学部、情報理工学部、生命科学部、薬学部の 7 学部、及び 経済学研究科、経営学研究科、スポーツ健康科学研究科、理工学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科、情報理工学研究科、生命科学研究科、薬学研究科の 8 研究科が設置されている文理総合型キャンパスである。(経営学部、経営学研究科、テクノロジー・マネジメント研究科は、2015(平成 27)年度より大阪いばらきキャンパスへ移転予定)

BKC には社会科学系のメディアライブラリー及び理工学系のメディアセンターといった 2 つの図書館 (1,788 席、キャンパス全体の収容定員の 11%強の座席数) を有し、その他にはセミナーハウス、学生交流施設、食堂施設、保健センター等の施設も備えている。

キャンパス内には公園緑地、自然緑地、遊歩道等を有し、自然環境に配慮した作りとなっている。また、歩車分離を行ったうえで建物間の空間を広く確保し、スロープや点字ブロックといったバリアフリー対策を講じた、ユニバーサルデザインに配慮したキャンパスとなっている。

### (2)校舎等施設

2008 (平成 20) 年度の薬学部開設時には、薬学部及び生命科学部の基本棟となるサイ

エンスコアを建設し、卒業研究室、教員研究室、共通施設（低温室、暗室、共通機器室等）、動物飼育施設、学生実習室、模擬臨床実習施設（模擬薬局、模擬病室）、演習室、講義室、会議室等を配置している。さらに、2012(平成24)年度に臨床系実習施設の充実のため、サイエンスコアに南棟 2,596.16 m<sup>2</sup>を増築し、臨床系実習施設をさらに充実させた。なお、上記施設以外にもクリエイションコア、イーストウィング、エクセル 2 に薬学部の教員研究室、卒業研究室、学生実習室を置いており、その他薬草園も整備している。

2015(平成27)年度の創薬科学科開設時には、立命館高等学校が BKC にて使用していたカラーニングハウスⅡの一部 1077.6 m<sup>2</sup>及び 生命科学部が使用していたサイエンスコアの一部 379 m<sup>2</sup>を薬学部施設として転用することにより(資料 8. 立命館大学薬学部改修施設)、薬学科と創薬科学科の両学科が使用できるスペースを拡充させ、十分な教育・研究環境を整備する予定となっている。

創薬科学科にて開講する科目のうち、講義科目・演習科目については、他学部と共有している教室棟を使用する。また、実習科目については、多くを薬学科と共同開講することとしており、これに伴って受講生が 100 名から 160 名へと増加(薬学科 100 名に創薬科学科 60 名が加わる)する。受講生が 160 名へ増加することへの対応として、「有機化学実習 A,B」、「分析化学実習 A,B」、「物理化学実習 A」および「医薬品化学実習」は、カラーニングハウスⅡの 1 階部分に増設する収容定員 80 名の学生実習室を使用し、その他 3 回生時の実習科目についてはサイエンスコア 2 階の実習室 5 の収容人数を 200 名規模へと改修して使用する予定である(資料 9. 創薬科学科における実験実習科目)。

なお、創薬科学科のみが開講する「物理化学実習 B」については、受講生が 60 名のみとなるため、既存の実習室で対応する。

### (3) 機器備品

化学系実習、生物系実習、医療・臨床系実習等に必要な機器・備品、FACS (Fluorescence Activated Cell Sorting)、NMR (Nuclear Magnetic Resonance)、LC-MS (Liquid Chromatograph Mass Spectrometry) /MS (Mass Spectrometry)、DNA シークエンサー、イメージアナライザーといった大型設備・機器についても 2008(平成20)年度の薬学部設置時に既に整備しているが、この度の創薬科学科設置に伴い学生数が増えるため、実験実習等に支障をきたすことがない様に不足分は追加購入する。なお、カラーニングハウスⅡに新設する学生実習室においても、ドラフトチャンバー等を設置するとともに、「有機化学実習 A,B」、「分析化学実習 A,B」、「物理化学実習 A,B」にて必要な機器・備品類についても整備する。

### (4) 図書等の資料及び図書館の整備状況

#### ① 図書および雑誌

立命館大学には、図書館施設として、びわこ・くさつキャンパスにメディアセンター（自然科学系図書館）、メディアライブラリー（社会科学系図書館）、衣笠キャンパスに衣笠図書館、修学館リサーチライブラリー、人文系文献資料室、朱雀キャンパスに朱雀リサーチライブラリーをそれぞれ設置している。これらの施設を含めた全学の蔵書は、約 306 万 3 千冊（製本雑誌含む）に達し、これに加えて約 4 万 3 千タイトルの学術雑誌、約 7 万 8 千タイトルの電子ジャーナルを収集・整備している。これらすべて、学生の利用が可能である。

医療・医学系、薬学系、生命科学・化学系の図書・雑誌については、薬学部、生命科学部の開設、大学院薬学研究科、生命科学研究科の開設に伴って、既に整備しており、そのなかで、薬学系の図書・雑誌は図書 19,431 冊（うち外国書 2,865 冊）、学術雑誌 6,281 種（うち外国雑誌 6,136 種）、視聴覚資料 497 点を設置している。電子ジャーナルは、学術雑誌のうち 6,148 種（うち外国雑誌 6,026 種）を整えている。選書にあたっては、授業概要やシラバスで紹介されている教科書・参考書だけでなく、科目概要や教員の希望等に基づいて選書・収集を行っている。びわこ・くさつキャンパスの図書館資料は、学習用・研究用の用途・目的を問わず、メディアセンター、メディアライブラリーに設置し利用に供している。

## ②電子ジャーナル、オンラインデータベース、電子書籍等

前述のように、各キャンパスに配置されている図書館が収集する電子ジャーナル約 6 千タイトルは、キャンパス・ネットワークを介して全学で共有しており、人文科学、自然科学、社会科学の分野を問わず幅広い分野を対象に選定・収集している。特に、Elsevier Science b.v.、Wiley-Blackwell、Oxford University Press、Springer、Cambridge University Press の大手 5 社が刊行する電子ジャーナルについては継続的に収集している。二次情報を中心としたデータベースについては、Web of Scienceをはじめ、SciFinder、ProQuest Central など、科学技術情報の基本的なデータベース・ツールの提供を行い、全学で共有できる電子書籍も積極的に収集している。

## ③閲覧席、ラーニングコモンズ

立命館大学の学術資料は、立命館大学学術情報システム（RUNNERS）を利用して、図書資料の所在情報、貸出返却・予約などが可能であり、一部図書資料については、抄録のオンラインでの閲覧も可能となっている。

2013 年度の開館日数は、メディアセンター343 日、メディアライブラリー340 日であり、土日・祝日等も開館し、学生および教員の図書館利用を促進・支援している。また、びわこ・くさつキャンパスの閲覧座席数はメディアセンター878 席、メディアライブラリー1,059 席、合計 1,937 を備えている。開館時間は平日 9 時～22 時（土日・祝日は 10 時～17 時）設けており、地域住民に対する開放にも寄与している。

メディアセンター、メディアライブラリーにはラーニングコモンズ「びあら」を設置し、メディアセンターに年間のべ約2万6千人、メディアライブラリーに同じく約4万5千人の学生が利用している。メディアセンターでは、数学、物理、電子系、化学・生物の各分野の学習サポートを展開している。また、各図書館の「びあら」に正課授業と連携したライティング・サポートデスクを設置して論文・レポート作成の支援を実施している。

#### ④図書館等との相互協力

他機関との協力に関わっては、Online Computer Library Center, Inc. (OCLC) や国立情報学研究所の NACSIS-CAT/ILL、GeNii の図書館間ネットワーク等に参加するとともに、私立大学図書館協会、大学図書館コンソーシアム連合(JUSTICE)等の加盟館として、国内外を問わず他大学、他機関と図書館間相互協力（文献複写や相互現物貸借）を推進している。

#### ⑤検索手法の指導等

各図書館の職員によってクリッカーを利用した双方向授業の取り組みや Web 視聴による講義等を実施し、RUNNERS の図書検索など内容の充実をはかっている。また、RUNNERS や電子ジャーナル、オンラインデータベースの検索・活用方法等を中心に、各学部の教学やニーズに沿った図書館リテラシー教育を各学部の担当教員と協働で展開している。

## ク、入学者選抜の概要

本学薬学部のアドミッションポリシーは以下の通りである。

薬学部は、医療の高度化に伴う薬学の深い専門的な力量をつけるため、以下のような学生を求めています。

- ①理科・数学において基礎的な知識を有し、科学的な思考力を持つ者。
- ②課題探究心、社会性および一定のコミュニケーション能力を有する者。
- ③薬学科では先端的な医療に関心を持ち、高度専門職業人としての薬剤師となることを強く志望し、そのために努力を惜しまない者。
- ④創薬科学科では医薬品創製の分野において基礎研究および臨床開発に携わり、グローバルに活躍することを強く志望し、そのために努力を惜しまない者。

### (1)入学者定員

設置の趣旨を踏まえた教学的な観点、大学院を含めた研究力増強の視点、進路就職の見込み、入学志願者予測等を勘案して、創薬科学科の入学定員を60名とする。

### (2)入試選抜方式

#### ①一般入試

基礎学力を有し、薬学系創薬分野を志望する者を対象とする入試である。入学定員60

名のうち42名を募集する。

[本学独自試験]

- ・全学統一方式(理系)  
3教科型入試：外国語(英語)、理科(物理、化学、生物から1科目選択)、数学  
各科目の配点は100点とし、合計300点満点。
- ・薬学方式  
3教科型入試：外国語(英語)、理科(物理、化学、生物から1科目選択)、数学  
※ 数学については、数学Ⅲを除く  
各科目の配点は100点とし、合計300点満点。
- ・学部個別配点方式  
3教科型入試：外国語(英語)、理科(物理、化学、生物から1科目選択)、数学  
外国語、数学の配点は100点、理科の配点は150点とし、合計350点満点。
- ・後期分割方式(3月実施入試)  
2教科型入試：理科(物理、化学、生物から1科目選択)、数学  
各科目の配点は100点とし、合計200点満点。

[センター試験利用方式]

- ・センター試験を利用した試験として、3教科型と7科目型を実施する予定である。

②特別入試

入学定員60名のうち18名を募集する。

- ・附属高等学校および提携校からの学内推薦入学試験  
立命館高校、立命館宇治高校、立命館慶祥高校、立命館守山高校の4附属高等学校の学校長、本学と提携関係にある高校の学校長より推薦された者を受け入れる入学試験である。
- ・指定校推薦入学試験  
高等学校評定平均値の一定水準以上の基礎学力を持った者で高等学校の学校長等より推薦された者を受け入れる入学試験である。
- ・文化・芸術活動に優れた者の特別選抜入試  
高等学校の3年間において、文化・芸術に優れた能力と実績を持ち、本学の教育を受けるに相応しい基礎学力を有している者を選抜する入試である。また、本学への入学を専願とし、入学後も学業と本学の学生団体・サークルなどでの活躍を両立させる強い意思と能力を持つ者を選抜する。さらに、こうした多用な能力や個性を有する学生を迎え入れることによって、個性豊かな人材の育成ならびに、学術文化の振興に寄与することを期待する。
- ・外国人留学生入学試験

国際相互理解を通じた多文化共生の大学を目指し確かな学力と豊かな個性を持った外国人留学生を、国籍・人種・地域・宗教・性別を問わず、世界各国・地域から受け入れることを目的とする入試である。

## **ケ、管理運営**

薬学部創薬科学科の管理運営に関しては、立命館大学学則第 12 条に基づき、「立命館大学薬学部教授会」（以下、「教授会」という）が設置されており、教授会では薬学部薬学科と併せて創薬科学科の教員人事、学科課程および学科考査、学位授与の審査、入学、学生の資格、課程修了の認定、その他身分に関する事項等を審議することとなる。

教授会は、立命館大学学則第 12 条 2 に基づき、教授、准教授、専任講師によって組織している。開催頻度は原則として月 2 回程度開催（隔週開催）している。

## **コ、自己点検・評価**

### (1) 大学としての自己点検・評価

本学は、2004（平成 16）年度に大学基準協会の大学評価（認証評価）において「適合」認定を得て、2011（平成 23）年度の大学基準協会の大学評価（認証評価）においても「適合」認定を得た。また、毎年度「自己点検・評価報告書」、「大学基礎データ」を作成している。

### (2) 学部としての自己点検・評価

本学薬学部薬学科は 2011（平成 23）年度に薬学教育評価機構の「自己評価 23」に対応して、自己点検・評価の取り組みを行った。その取り組みについて自己点検・評価書を作成し、2012（平成 24）年 4 月にホームページに公表するとともに、薬学教育評価機構に提出した。今後は薬学教育評価機構の分野別第三者評価を受審する予定である。

創薬科学科においては、薬学科と同様に薬学部教授会の下に自己評価推進委員会を設置し、自己点検・評価を行うとともに、FD 委員会とも連携しながら、改善に向けた取り組みを行う。

## **サ、情報の公表**

### (1) 大学としての情報の公表

本学では、かねてより大学ホームページ上で 2004（平成 16）年度および 2011（平成 23）年度大学基準協会認証評価結果、自己点検・評価報告書、大学基礎データ、財務書類（資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表など）、事業計画・事業報告書、学部・研究科の設置申請書および届出書、履行状況報告書、教員の教育研究情報、入学試験要項・入試情報、入試合格発表、進路・就職状況、学生数などを広く社会に公表している。

(2) 学部としての情報の公表

薬学部ホームページ上では、自己評価 23、人材育成目的、アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー、教員情報、シラバス、カリキュラムなどを公開している。創薬科学科においても、薬学部ホームページ上にこれらの情報を公開する。

(3) 学校教育法第 113 条、学校教育法施行規則第 172 条の 2 への対応

本学ホームページの [http://www.ritsumei.jp/public-info/public00-ru\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/public-info/public00-ru_j.html) において、大学の情報を公開している。

①大学の教育研究上の目的に関すること

[http://www.ritsumei.jp/public-info/public00-ru\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/public-info/public00-ru_j.html)

②教育研究上の基本組織に関すること

[http://www.ritsumei.jp/profile/pdf/a10\\_13a-01.pdf](http://www.ritsumei.jp/profile/pdf/a10_13a-01.pdf)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

[http://www.ritsumei.jp/profile/pdf/a10\\_13a-02.pdf](http://www.ritsumei.jp/profile/pdf/a10_13a-02.pdf)

<http://research-db.ritsumei.ac.jp/scripts/websearch/index.htm>

[http://www.ritsumei.jp/public-info/pdf/public04\\_11\\_3-3ru.pdf](http://www.ritsumei.jp/public-info/pdf/public04_11_3-3ru.pdf)

④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

(受入方針)

[http://www.ritsumei.jp/profile/pdf/a10\\_2013\\_tenken08.pdf](http://www.ritsumei.jp/profile/pdf/a10_2013_tenken08.pdf)

(入学者の数、収容定員及び在学する学生の数)

[http://www.ritsumei.jp/profile/pdf/a10\\_13a-04.pdf](http://www.ritsumei.jp/profile/pdf/a10_13a-04.pdf)

(修了した者の数ならびに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況)

[http://www.ritsumei.jp/public-info/pdf/public04\\_11\\_7-3.pdf](http://www.ritsumei.jp/public-info/pdf/public04_11_7-3.pdf)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること

<http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/gaku/onlinesyllabus.htm>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<http://www.ritsumei.jp/public-info/pdf/109.pdf>

⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

[http://www.ritsumei.jp/public-info/pdf/public04\\_11\\_9-2.pdf](http://www.ritsumei.jp/public-info/pdf/public04_11_9-2.pdf)

⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

[http://www.ritsumei.jp/profile/a07\\_01\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/profile/a07_01_j.html)

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に関すること

<http://www.ritsumei.ac.jp/infostudents/common/file/campuslife2013.pdf>

⑩その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置計画履行状況報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

（学則等各種規定）

[http://www.ritsumei.jp/public-info/public00-ru\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/public-info/public00-ru_j.html)

（設置認可申請書、設置計画履行状況報告書）

[http://www.ritsumei.jp/profile/a15\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/profile/a15_j.html)

（自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）

[http://www.ritsumei.jp/profile/a10\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/profile/a10_j.html)

## **シ、授業内容方法の改善を図るための組織的な取り組み**

### (1) 大学としての取り組み

本学では FD を「建学の精神と教学理念を踏まえ、学部、研究科、他教学機関が掲げる理念と教育目標を実現するために、カリキュラムや個々の授業についての配慮・内容・教材・評価等の適切性に関して、教員が職員と協働し、学生の参画を得て、組織的な研究・研修を推進するとともに、それらの取り組みの妥当性、有効性について、継続的に検証を行い、さらなる改善に活かしていく活動」と定義している。

2008（平成 20）年 4 月から改正された大学設置基準では人材養成像の公表を含め、人材養成像と整合性のあるカリキュラムや客観的かつ厳格な成績評価基準の明示とともに、FD 活動が義務化された。FD は従来の研修会、講演会への参加や学生の授業評価アンケートの実施等に留まらず、薬学部で日常的に行われる全ての教育改善活動、学修支援活動を組織化した「相互研修型」に転換していくことが求められている。教育改善活動を「組織の成熟度」という観点から総括し、包括的評価を行うことが重要な課題となっている。本学では、大学、学部、研究科、教学機関の掲げた人材育成像と教育目標を実現するため、「教育開発推進機構」を置き、全学に関わる教育内容の改善と情報化促進に向けた取り組みを行うこととし、教職員等を対象とした講演会・シンポジウムの開催、新任教員および在職教員対象の研修、TA 対象の研修会の開催、ワークショップの開催、授

業アンケートの実施、国内外の高等教育に関する調査活動、各種セミナーの開催、紀要「立命館高等教育研究」の刊行等を行い、FD活動を積極的に展開している。

職員のSD (Staff Development) に関わっては、2005 (平成 17) 年度に大学行政研究研修センターを設置し、次世代職員の育成に向けた研修制度を実施している。そこでは高等教育情勢に対する理解、問題発見・解決力の養成、海外大学の調査・研修等の年間プログラムを実施している。その研究成果は、研究論文としてまとめ、論文報告会を実施するとともに紀要「大学行政研究」を刊行し、広く社会に公表している。

## (2) 薬学部としての取り組み

「大学設置基準」第 25 条の 3 に基づき、薬学部の授業および研究指導等の内容およびその方法の改善を図るための組織的な研修および研究に関する取り組みを薬学部 FD 委員会が実施する。また、その取り組みの内容を毎年度刊行する「立命館大学薬学部年報」に掲載し、公表する。

## **ス、社会的・職業的自立に関する指導等及び体制**

### (1) 教育課程内の取組について

以下の教養科目を通じて技術系専門職のための導入教育を行う。

「科学技術と倫理」では、科学技術の発達によって生じてきた倫理的問題について考察する。「シチズンシップ・スタディーズ I・II」「現代社会のフィールドワーク」「ソーシャル・コラボレーション演習」では、サービスラーニング手法を用いて各種事業に関わる人々の責務やそこで求められる素養などについて体験的に学ぶ。「全学インターンシップ」では、企業での就業体験を通して、仕事のイメージをより明確化し、自己の適性や進路について考察する。「学びとキャリア」「仕事とキャリア」「社会とキャリア」では、実際に社会で活躍する人たちとの交流を通して大学での学びとキャリア形成について学ぶ。

さらに、医薬品の開発など学科の人材育成目的に見合った職種への学生のキャリア開発支援につながる科目として「創薬科学基礎演習」「創薬研究概論」「医療倫理」の3つの専門科目を開講する。

「創薬科学基礎演習」では、コミュニケーションスキルと医療全般に携わる者に求められる倫理観の醸成を図る。「創薬研究概論」では、医薬品創製のプロセスと最新の創薬研究手法について学び、研究者としての職業観を習得する。「医療倫理」では、人間の尊厳や先端医療に関わる問題を議論し、医療倫理に纏る様々な問題に対応できる能力を涵養する。

### (2) 教育課程外の取組について

#### ①職業観の涵養

正課教育の充実を図る一方、3回生からは自己理解を踏まえて学生自身が自らの将来を考えるための企画を実施する。まず3回生前期からは進路・就職ガイダンスを実施し、就職活動の全体スケジュールの把握および学生生活の充実の重要性の理解を促すようにする。合わせて社会で活躍する OBOG を中心に働く意義や生きがいについて語ってもらい将来のビジョンを考えるセミナーや、自己理解を深めるための自己分析について学ぶセミナーを開催する。夏期休暇にはインターンシップの紹介を通じて、具体的な業界や職種を理解を深める。

3回生後期には学生が自らの強みを理解し、それをアピールするための自己 PR についてのワークショップを開催する一方、学内に薬学部創薬科学科の想定進路の企業を招聘し、求められる人材像を理解するための学内企業研究会を開催する。また窓口相談や模擬面接を通じて採用選考に備える。

## ②学外でのネットワーク形成

本学ではこれまで 30 万人を超える卒業生のネットワークを構築してきており、創薬科学科の卒業生が出るまでの間は、薬学科や他の学部の卒業生への OBOG 訪問や企画での交流を通じて将来の働き方のビジョンを形成できる機会を提供する。創薬科学科の卒業生を輩出後は、想定進路についてのより具体的な準備ができる交流企画を提供していく。

## (3) 適切な体制の整備について

### ①就職委員の配置

本学では各学部に就職委員を配置しており、薬学部では 2014 年 4 月現在、3 名の教員が就職委員となっている。就職委員は後述する「キャリアセンター」の担当者と連携して製薬企業や公務員などの想定進路の情報収集に当たるとともに、創薬科学科の学生に対しては研究内容を踏まえた進路のアドバイスを行っていく。

### ②キャリアセンター

就職支援の全学組織としてキャリアセンターを設置している。キャリアセンターでは、担当教員 3 名、専任職員 25 名、専門職員 12 名の体制となっている。創薬科学科の設置されているびわこ・くさつキャンパスおよび衣笠キャンパス、朱雀キャンパス、大阪梅田キャンパス、東京キャンパスにて学生相談や企業対応に当たっている。

### ③資格取得支援

資格取得支援の全学組織としてエクステンションセンターを設置している。エクステンションセンターでは、公務員試験対策講座や各種資格試験対策講座を開講し、

学生の正課外の学習の支援を行っている。

以上

<資料1. 医療用医薬品メーカー売上げTOP20の本社・研究・生産機能(IMS医薬品市場統計・2012年売上高)>

1	武田薬品工業	本社 (大阪)・研究所・工場 (大阪)
2	アステラス製薬	本社 (東京)・研究所 (茨城・静岡) 工場 ((小会社) 茨城・静岡他)
3	第一三共	本社 (東京)・工場 (大阪/神奈川他 (第一三共プロファーマ))
4	田辺三菱製薬	本社 (大阪)・研究所 (大阪)・工場 (大阪)
5	中外製薬	本社 (東京)・工場 (栃木・東京・静岡)
6	MSD	本社 (東京)・工場 (埼玉)
7	ノバルティスファーマ	本社 (東京) 工場 (兵庫)
8	エーザイ	本社 (東京)・研究所 (茨城)・工場 (埼玉)
9	ファイザー	本社 (東京)・工場 (愛知・神奈川)
10	グラクソ・スミスクライン	本社 (東京)・工場 (栃木)
11	大塚製薬	本社 (東京)・研究所 (徳島、滋賀、兵庫)・工場 (徳島、他)
12	サノフィ	本社 (東京) 工場 (埼玉)
13	協和発酵キリン	本社 (東京)・研究所 (大阪、他) 工場 (大阪、三重、他)
14	アストラゼネカ	本社 (大阪) 工場 (滋賀)
15	大日本住友製薬	本社 (大阪)・研究所 (大阪)・工場 (大阪、三重、他)
16	塩野義製薬	本社 (大阪)・研究所 (大阪、北海道)・工場 (大阪、岩手)
17	バイエル薬品	本社 (大阪)・工場 (滋賀)
18	日本イーライリリー	本社 (兵庫)
19	小野薬品	本社 (大阪)・研究所 (大阪、福井他)・工場 (大阪、静岡)
20	アボットジャパン	本社 (東京)・工場 (千葉・福井)

<資料2. 2013(平成25)年度 薬系大学入学定員一覧>

	大学名		6年制学科	4年制学科
			入学定員	入学定員
1	北海道大学	国立	30	50
2	東北大学	国立	20	60
3	千葉大学	国立	40	40
4	東京大学	国立	8	72
5	富山大学	国立	55	50
6	金沢大学	国立	35	40
7	静岡県立大学	公立	80	40
8	名古屋市立大学	公立	60	40
9	岐阜薬科大学	公立	80	40
10	京都大学	国立	30	50
11	大阪大学	国立	25	55
12	岡山大学	国立	40	40
13	広島大学	国立	38	22
14	徳島大学	国立	40	40
15	九州大学	国立	30	49
16	長崎大学	国立	40	40
17	熊本大学	国立	55	35
18	北海道医療大学	私立	160	
19	北海道薬科大学	私立	210	
20	青森大学	私立	90	
21	岩手医科大学	私立	160	
22	東北薬科大学	私立	300	40
23	奥羽大学	私立	140	
24	いわき明星大学	私立	90	
25	国際医療福祉大学	私立	180	
26	高崎健康福祉大学	私立	90	
27	城西大学	私立	250	50
28	日本薬科大学	私立	260	90
29	東邦大学	私立	220	
30	日本大学	私立	240	
31	東京理科大学	私立	100	100
32	千葉科学大学	私立	120	40
33	城西国際大学	私立	130	
34	帝京平成大学	私立	240	
35	北里大学	私立	250	35
36	慶応義塾大学	私立	150	60
37	昭和大学	私立	200	
38	星薬科大学	私立	260	20
39	東京薬科大学	私立	420	
40	明治薬科大学	私立	300	60
41	武蔵野大学	私立	145	
42	昭和薬科大学	私立	240	
43	帝京大学	私立	320	

44	横浜薬科大学	私立	360	
45	新潟薬科大学	私立	180	
46	北陸大学	私立	306	
47	名城大学	私立	250	
48	金城学院大学	私立	150	
49	愛知学院大学	私立	145	
50	鈴鹿医療科学大学	私立	100	
51	立命館大学	私立	100	
52	京都薬科大学	私立	360	
53	同志社女子大学	私立	120	
54	大阪薬科大学	私立	270	30 (6年制と一括募集)
55	近畿大学	私立	150	30
56	摂南大学	私立	220	
57	大阪大谷大学	私立	140	
58	神戸学院大学	私立	250	
59	神戸薬科大学	私立	270	
60	兵庫医療大学	私立	150	
61	武庫川女子大学	私立	210	40
62	姫路独協大学	私立	100	
63	就実大学	私立	120	
64	安田女子大学	私立	120	
65	福山大学	私立	150	
66	広島国際大学	私立	160	
67	徳島文理大学	私立	180	
68	徳島文理大学香川	私立	90	
69	松山大学	私立	100	
70	第一薬科大学	私立	173	
71	福岡大学	私立	230	
72	長崎国際大学	私立	120	
73	崇城大学	私立	120	
74	九州保険福祉大学	私立	140	30

<資料3. 立命館大学特別任用教員規程>

○立命館大学特別任用教員規程

1993年11月26日

規程第277号

(趣旨)

第1条 この規程は、特別任用教員に関して必要な事項を定める。

(定義)

第2条 特別任用教員は、本大学を定年退職した教授のうち、高度な教育の能力と実績を有する者を、主として授業を担当する目的で任用する有期雇用教員をいう。

(職位)

第3条 特別任用教員の職位は、教授とする。

(所属)

第4条 特別任用教員は、大学院独自の教員組織を整備した研究科(以下「独立研究科」という。)または定年退職時の学部もしくは教育機構に所属する。

(職務)

第5条 特別任用教員は、主として所属組織の教育に従事する。ただし、原則として大学運営には加わらない。

2 特別任用教員の職務は、その所属により次の2つに区分する。

(1) 学部または機構に所属する者(以下「特別任用教員A」という。)は、主として学部教育にあたる。

(2) 独立研究科に所属する者(以下「特別任用教員B」という。)は、主として大学院教育にあたる。

3 特別任用教員の責任時間は、通年4授業時間(1授業時間は90分)とする。ただし、所属により責任時間を次のとおり定める。

(1) 特別任用教員Aの責任時間には、教養科目(教養ゼミナールを除く。)、理工系の専門基礎(基礎専門)科目、教職科目のうち「(教)」がついた科目、語学科目のいずれかを通年1授業時間以上を含む。

(2) 特別任用教員Bの責任時間については、独立研究科の研究指導科目(法務研究科は演習科目)を通年2授業時間以上および独立研究科の講義科目を通年1授業時間以上含む。

4 特別任用教員は、教授会、研究科委員会、各種委員会等への出席を要しない。

(人事委員会)

第6条 特別任用教員の任用のために、特別任用教員人事委員会(以下「人事委員会」という。)を置く。

2 人事委員会は、次の各号に定める者で構成し、委員長は学長とする。

- (1) 学長
- (2) 副学長(教学担当)
- (3) 常務理事(教学担当)
- (4) 該当する学部、研究科および機構の長
- (5) 教学部長

3 人事委員会の事務局長は教学部長とする。

(任用手続)

第7条 特別任用教員の任用は、学部長、研究科長または機構長が、次条に定める任用基準に合致する候補者を人事委員会に推薦し、人事委員会で審査のうえ、本人の意向を確認し、大学協議会および常任理事会の議を経て決定する。

2 前項にかかわらず、定年退職前に外国語を担当していた者は、言語教育推進機構長が当該教員の所属する学部の学部長、教学部副部長(外国語担当)等の意見を聴取したうえで推薦する。

(任用基準)

第8条 特別任用教員の任用は、次の各号に掲げる基準をすべて満たす場合に行う。

- (1) 全学共通教育および学部教育に必要な者であることまたは課程博士輩出等大学院教育に顕著な実績があること。
- (2) 若手教員の模範となり、FDへの理解と実績があること。
- (3) 担当する授業科目についての適合性があること。

2 前項の基準を満たす者であっても、教育および研究を行うに十分な健康状態にない者は任用しない。

第9条 削除

第10条 削除

(更新基準等)

第11条 第8条に定めるもののほか、契約更新時の審査基準は、人事委員会で定める。

(就業規則)

第12条 特別任用教員の就業等に関する事項は、立命館大学有期雇用教員就業規則の定めるところによる。

(処遇)

第13条 個人研究費については、立命館大学個人研究費取扱規程の定めるところによる。

2 共用の教員研究室を提供する。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、常任理事会の議を経て、大学協議会がこれを行う。

附 則

(施行期日)

第1条 本規程は、1994年4月1日から施行する。

(経過措置)

第2条 本規程は、1993年3月31日定年退職教授及び1994年3月31日定年退職予定教授についても、これを適用することができる。

第3条 1993年3月31日定年退職教授及び1994年3月31日定年退職予定教授の任用手続については、本規程第4条第1項中、「5月15日」とあるのは「1993年11月30日」と、同条第3項中、「6月末日」とあるのは「1993年12月20日」と読み替えるものとする。

(見直し期限)

第4条 本規程は、1998年10月末日までに、その改廃も含めてこれを再検討するものとする。

附 則(1994年10月28日第7条の期日読替え規定の改正)

本規程は、1994年4月1日から適用する。

附 則(1996年4月26日昼夜開講制実施に伴う一部改正)

1 この規程は、1996年4月1日から施行する。

2 1996年3月31日現在「第二部」に在学する学生がいなくなるまでの間、この規程の条文における「夜間主コース」を「二部」と読み替えることができる。

附 則(1999年3月12日第4条、第7条の任用手続変更に関わる規程の改正)

1 本規程は、1999年4月1日から施行する。

2 本規程は、2000年10月末日までに、その改廃も含めてこれを再検討するものとする。

附 則(2001年6月22日任用制度の変更及び教学上の全学的必要性を任用基準として明確にすることに關する規程の改正)

本規程は、2001年6月22日から施行し、2002年4月1日付任用者から適用する。

附 則(2006年4月1日機構改革に伴う改正)

この規程は、2006年6月28日から施行し、2006年4月1日から適用する。

附 則(2008年3月19日 授業時間の表記変更にもなう一部改正)

この規程は、2008年4月1日から施行する。

附 則(2008年10月29日2013年度までの運用とする新たな特別任用教授制度への変更にもなう改正)

- 1 この規程は、2009年4月1日から施行する。ただし、2006年3月31日定年退職教授、2007年3月31日定年退職教授および2008年3月31日定年退職教授についても、適用する。
- 2 2005年3月31日に定年退職を迎えた特別任用教授任用者に関する取扱いは従来のものである。

附 則(2011年11月4日特別任用教授制度の見直しに伴う全部改正)

- 1 この規程は、2013年4月1日から施行する。
- 2 前項にかかわらず、特別任用教授の所属および特別任用教授人事委員会については、2012年4月1日から施行する。

附 則(2013年3月8日立命館大学有期雇用教員就業規則の改正等に伴う一部改正)

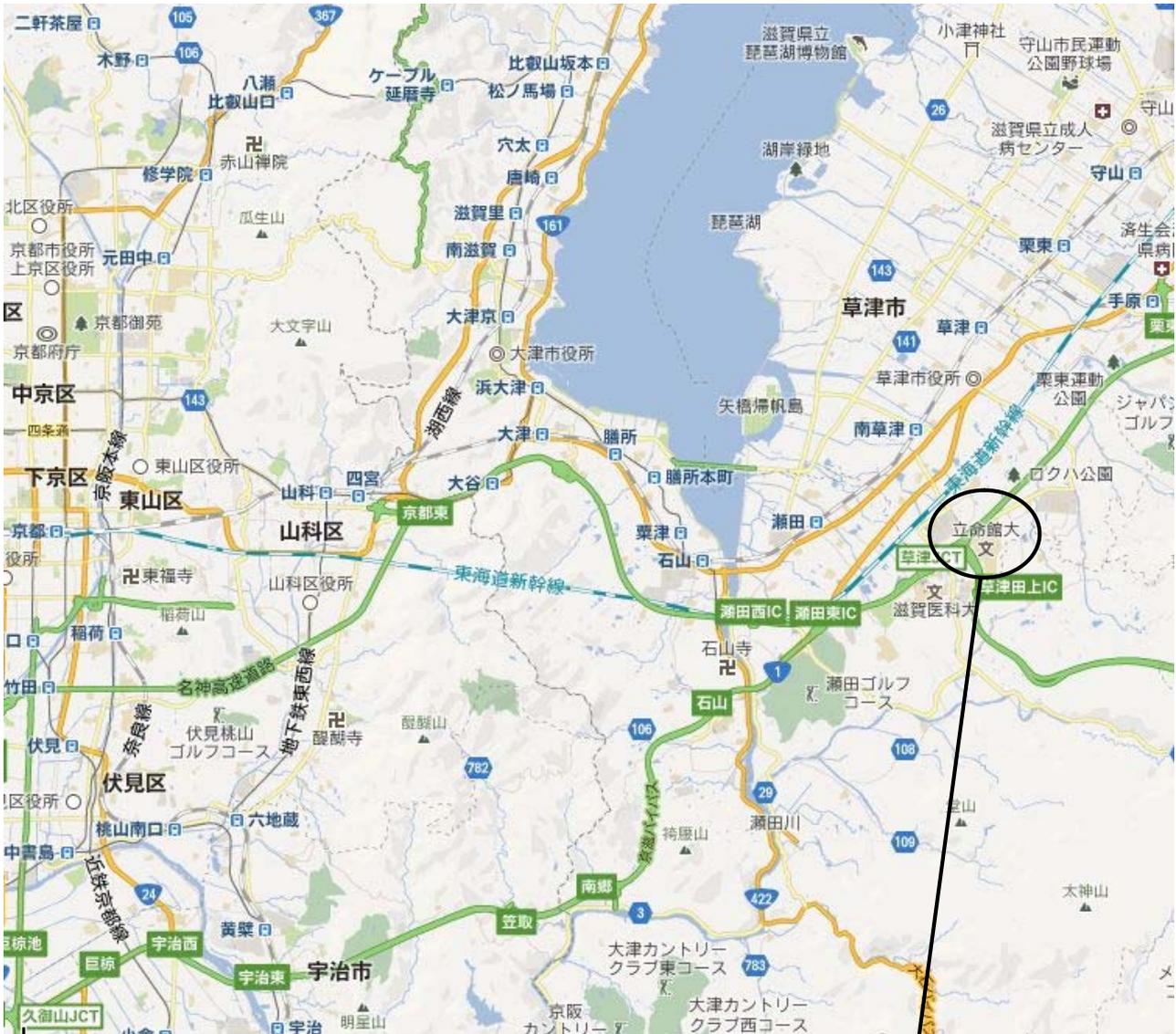
この規程は、2013年4月1日から施行する。





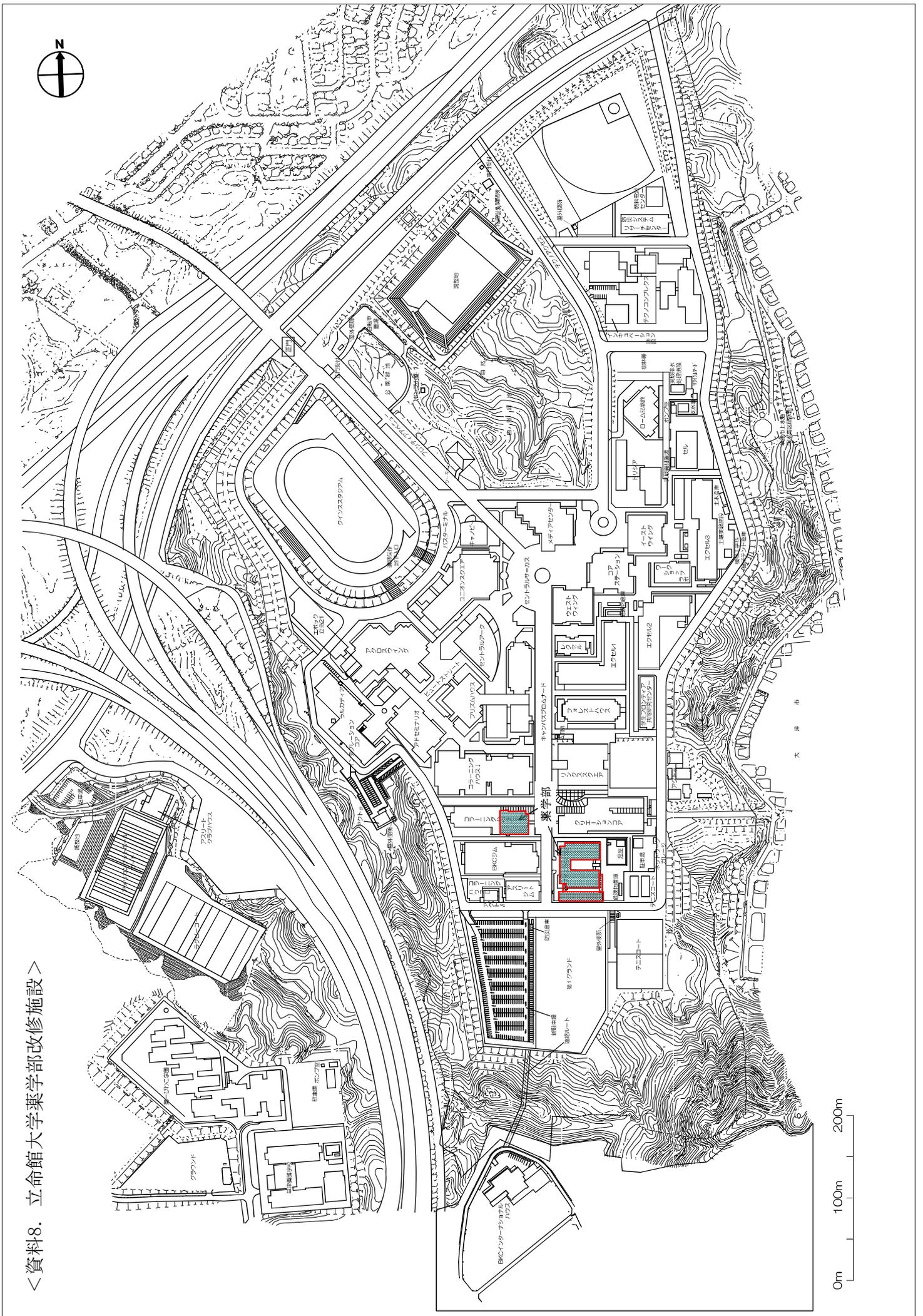


<資料 7. 都道府県内におけるキャンパスの位置>



立命館大学  
びわこ・くさつキャンパス

<資料8. 立命館大学薬学部改修施設>

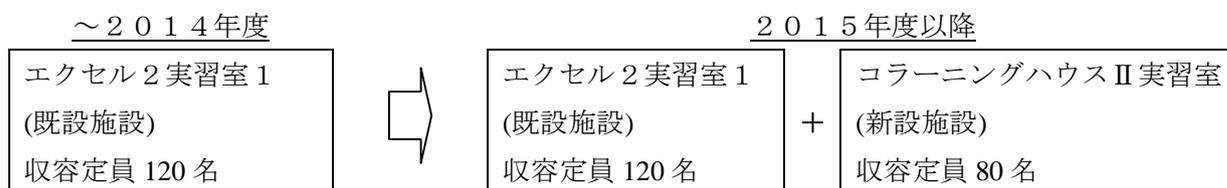


<資料 9. 創薬科学科における実験実習科目>

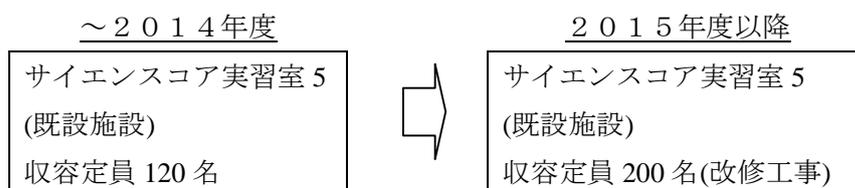
1 回生		2 回生		3 回生	
前期	後期	前期	後期	前期	後期
	分析化学実習 A 分析化学実習 B	有機化学実習 A 有機化学実習 B	物理化学実習 A 物理化学実習 B	生化学・分子生物学実習 生薬・天然物化学実習 薬理学実習	衛生化学実習 微生物学実習 免疫学・組織学実習 医薬品化学実習 薬剤学実習

※下線：創薬科学科と薬学科の合同で実施

【1,2 回生実習科目（分析化学実習 A,B、有機化学実習 A,B、物理化学実習 A）】



【3 回生実習科目（生化学・分子生物学実習、生薬・天然物化学実習、薬理学実習、衛生化学実習、微生物学実習、免疫学・組織学実習、薬剤学実習）】



立命館大学薬学部薬学科・創薬科学科においてカリキュラム上異なる部分について

薬学科と創薬科学科の特徴は下記のとおりです。下記以外は両学科とも共通。

薬学科	1年次	生物科学	2単位	必修
	1年次	薬学概論	2単位	必修
	1年次	薬学基礎演習	1単位	必修
	1年次	コミュニケーション演習	1単位	必修
	1年次	特殊講義（専門）	2単位	選択
	2年次	薬学応用演習	1単位	必修
	2年次	社会薬学	2単位	必修
	2年次	有機化学D	2単位	選択
	2年次	放射化学	2単位	必修
	2年次	分子生物学	2単位	必修
	2年次	公衆衛生学	2単位	必修
	2年次	免疫学	2単位	必修
	3年次	医薬品製造学	2単位	必修
	3年次	和漢薬論	2単位	必修
	3年次	薬理学C	2単位	必修
	3年次	環境衛生学	2単位	必修
	3年次	病態学B	2単位	必修
	3年次	毒性学	2単位	必修
	3年次	製剤学・物理薬剤学B	2単位	必修
	3年次	病原微生物学	2単位	必修
	3年次	薬物動態学	2単位	必修
	3年次	薬物治療学A	2単位	必修
	3年次	医薬品情報学	2単位	必修
	3年次	医療コミュニケーション	2単位	必修
	3年次	薬物治療学B	2単位	必修
	3年次	臨床薬剤学A	2単位	必修
	3年次	医療社会論	2単位	選択
	4年次	薬学専門英語演習	1単位	選択
	4年次	調剤学	2単位	必修
	4年次	薬物治療学C	2単位	必修
	4年次	臨床薬剤学B	2単位	必修
	4年次	薬事法規・薬事制度	2単位	必修
4年次	医療倫理	2単位	必修	

	4年次	薬物治療学 D	2単位	必修
	4年次	医療薬学実習 A	2単位	必修
	4年次	医療薬学実習 B	2単位	必修
	4年次	実務前実習	4単位	必修
	4年次	臨床心理学	1単位	選択
	4年次	臨床診断学	1単位	選択
	4年次	医療安全学	1単位	選択
	4年次	地域薬局学	1単位	選択
	5年次	病院実務実習	10単位	必修
	5年次	薬局実務実習	10単位	必修
	5年次	薬学海外フィールドスタディ	2単位	選択
	5年次	卒業研究 C	2単位	必修
	6年次	卒業論文英語	1単位	選択
	6年次	医療システム論	2単位	選択
	6年次	症例検討演習	2単位	選択
	6年次	卒業研究 D	2単位	必修
	6年次	薬学総合演習 A	2単位	必修
	6年次	薬学総合演習 B	2単位	必修

この中で卒業までに必要な4年次までの標準選択科目単位数 約5単位

創薬科学科	1年次	日本の社会	2単位	選択
	1年次	日本の文化	2単位	選択
	1年次	日本の経済	2単位	選択
	1年次	日本の経営	2単位	選択
	1年次	日本の自然	2単位	選択
	1年次	日本の科学技術	2単位	選択
	1年次	日本事情特殊講義	2単位	選択
	1年次	日本事情入門 I	2単位	選択
	1年次	日本事情入門 II	2単位	選択
	1年次	留学生数学 I	2単位	選択
	1年次	留学生数学 II	2単位	選択
	1年次	留学生物理 I	2単位	選択
	1年次	留学生物理 II	2単位	選択
	1年次	生物科学	2単位	選択
	1年次	創薬科学基礎演習	1単位	必修
	1年次	創薬研究概論	2単位	必修

1年次	日本語Ⅶ（文章表現 a）	1単位	自由
1年次	日本語Ⅶ（文章表現 b）	1単位	自由
1年次	日本語Ⅶ（読解 a）	1単位	自由
1年次	日本語Ⅶ（読解 b）	1単位	自由
1年次	日本語Ⅶ（聴解口頭 a）	1単位	自由
1年次	日本語Ⅶ（聴解口頭 b）	1単位	自由
1年次	科学技術日本語Ⅰ	1単位	自由
1年次	科学技術日本語Ⅱ	1単位	自由
2年次	日本語学Ⅰ	2単位	選択
2年次	日本語学Ⅱ	2単位	選択
2年次	有機化学 D	2単位	必修
2年次	放射化学	2単位	選択
2年次	分子生物学	2単位	選択
2年次	公衆衛生学	2単位	選択
2年次	免疫学	2単位	選択
2年次	システムバイオロジー	2単位	選択
2年次	ケミカルバイオロジー	2単位	選択
2年次	物理化学実習 B	1単位	必修
2年次	日本語Ⅷ（アカデミック日本語 a）	1単位	自由
2年次	日本語Ⅷ（アカデミック日本語 b）	1単位	自由
2年次	日本語Ⅷ（キャリア日本語 a）	1単位	自由
2年次	日本語Ⅷ（キャリア日本語 b）	1単位	自由
3年次	医薬品製造学	2単位	選択
3年次	和漢薬論	2単位	選択
3年次	合成化学	2単位	選択
3年次	薬理学 C	2単位	選択
3年次	環境衛生学	2単位	選択
3年次	病態学 B	2単位	選択
3年次	毒性学	2単位	選択
3年次	分子神経科学	2単位	選択
3年次	製剤学・物理薬剤学 B	2単位	選択
3年次	病原微生物学	2単位	選択
3年次	薬物動態学	2単位	選択
3年次	薬物治療学 A	2単位	選択
3年次	医薬品情報学	2単位	選択
3年次	薬物治療学 B	2単位	選択

	3年次	臨床薬剤学 A	2単位	選択
	3年次	医薬品化学実習	1単位	選択
	4年次	食品工学	2単位	選択
	4年次	薬物治療学 C	2単位	選択
	4年次	薬事法規・薬事制度	2単位	選択
	4年次	医療倫理	2単位	選択
	4年次	薬物治療学 D	2単位	選択
	4年次	医療薬学	2単位	選択
	4年次	医薬品開発論	2単位	選択

この中で卒業までに必要な選択科目単位数 約16単位

I. 1. 書類等の題名

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」 26 ページ

【資料1】医療用医薬品メーカー売上げTOP20 の本社・研究・生産機能(IMS 医薬品市場統計・2012(平成24)年売上高)

2. 引用元

[https://www.ims-japan.co.jp/japanese/topline/dl/top\\_line\\_12YEj\\_.pdf](https://www.ims-japan.co.jp/japanese/topline/dl/top_line_12YEj_.pdf)

3. 説明

上記引用元中、「3) 製薬企業上位 20 社」のランキング表に、本学において本社位置等を調査のうえ加筆した。

II. 1. 書類等の題名

「学則の変更の趣旨等を記載した書類」 27 ページから 28 ページ

【資料2】2013 (平成25) 年度 薬系大学入学定員一覧

2. 引用元

「日本私立薬科大学協会だより」第 81 号

3. 説明

上記引用元 74 ページ、「平成 25 年度私立薬科大学 (薬学部) 入学定員と入学者数」を参考にして作成した。

# 立命館大学薬学部創薬科学科 学生の確保の見通し等を記載した書類

## 1、学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

### (1) 学生確保の見通し

#### ①定員充足の見込み

本学は、2015(平成27)年に創始145年・学園創立115周年を迎える歴史と伝統を有しており、近代日本の代表的な国際人であり自由主義者でもあった西園寺公望が1869(明治2)年に開いた家塾「立命館」を前身としている。学園の創立は、1900(明治33)年であり、中川小十郎は、西園寺公望の精神を受け継ぎ「自由にして清新」な学府、すなわち自由にして進取の気風に富んだ学園の創造を目指し、これが「自由と清新」という本学の建学の精神として受け継がれている。

戦後、本学は「平和と民主主義」を教学理念として掲げ、常に社会と時代の要請に応えるために大学改革に積極的に取り組んできた。1948(昭和23)年に学校教育法による「立命館大学」(新制)として法学部、経済学部、文学部の3学部から出発し、学部・学科や大学院研究科の設置・改組などを経て、現在は13学部(法学部、経済学部、経営学部、産業社会学部、文学部、理工学部、情報理工学部、国際関係学部、政策科学部、映像学部、生命科学部、薬学部およびスポーツ健康科学部)、18研究科(法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、社会学研究科、文学研究科、理工学研究科、情報理工学研究科、国際関係研究科、政策科学研究科、応用人間科学研究科、先端総合学術研究科、言語教育情報研究科、テクノロジー・マネジメント研究科、公務研究科、スポーツ健康科学研究科、映像研究科、生命科学研究科、薬学研究科)、2専門職大学院(法務研究科、経営管理研究科)で構成される。本学の在校生数は、日本大学、早稲田大学について国内で3番目、西日本最多の約3万2000人、卒業生数は30万人を超え、日本を代表する総合大学となっている。

本学の2013(平成25)年度の入学試験結果では、全学部の入学定員7017名に対し志願者が86,219名、志願倍率が12.3倍であった。過去5年間の全13学部の志願者・合格者・入学者数の推移(資料1.立命館大学13学部の志願者・合格者・入学者数の推移)をみても、本学においては18歳人口が減少している中でも非常に安定して受験者および入学者を確保していることがわかる。

私立大学薬学部(6年制、4年制合わせて)の志願者数は、2006(平成18)年度から減少傾向にあったが、2010(平成22)年度の7万3943人を底にこの3年間で急激に伸びている。2013(平成25)年度の志願者数は10万3584人と前年度より2万人以上も増加し、平均競争倍率も9.1倍と前年度の6.8倍を大きく上回った。また、入学者数においても総定員数を3年連続で上回っており、薬学部は入学者を順調に確保できる状況にある。なお、薬学部4年制課程だけでみても、志願者数は2009(平成21)年度の3954名から2013(平成25)年度には5727名に増大しており、18歳人口の減少に伴い受験生確保に苦

慮する大学・学部が多い中、ここ数年で大変人気を集めていることが示された（資料2. 2009(平成21)年度～2013(平成25)年度の私立大学薬学部4年制課程の入学定員、志願者、入学者数）。このことは薬剤師国家試験の受験資格が6年制課程に移行して7年が経過し、4年制課程の担う基礎薬学・創薬研究者養成という役割に対する認知や期待が高まっていることにほかならない。

さらには、2013(平成25)年私立大一般入試学部別系統別志願状況（資料3. 2013(平成25)年私立大一般入試学部別系統別志願状況(「蛍雪時代」(2013(平成25)年5月号))）によれば、理系学部への志願者が大きく増加した一方で、文系は小幅な増加に留まっており、「文低理高」傾向がより鮮明になった。特に医学、歯学、薬学、医療・看護系の志願者が軒並み大幅に増加していることがわかる。

上記学外データに加え後述するアンケート調査等を分析することにより、創薬科学科については学生確保の見通しは十分に立ち、かつ、社会的にも人材需要があることが分かった。本学薬学科の入学定員が100名であることや教員数、教学的な観点から入学定員は60名とした。なお定員を決定するにあたり、他の私立大学の入学定員を参考とし、本学においても他の私立大学同様に、6年制学科に比べ4年制学科の入学定員を少なく設定しており（資料4. 2013(平成25)年度入試における私立大学薬学部6年制、4年制併設校における入学定員・志願者数・志願倍率）、無理のない定員であると判断した。

## ②定員充足の根拠となる調査結果の概要

このたびの創薬科学科の新設に伴い、学生確保の見通しについて学外からデータを収集するとともに、以下3種のアンケート調査を実施して分析を行った。

- ・高等学校の進路指導教員を対象としたアンケート（以下 高校教員を対象としたアンケートという）（資料5. 高校教員を対象としたアンケート）（資料6. 高校教員を対象としたアンケートの集計結果）

調査対象：本学薬学科に在籍する学生の出身高校から附属校を除いた313校

回収率：59.7%(回収187校/依頼313校)

有効調査対象数：187

調査方法：郵送による配布回収

調査期間：2013(平成25)年11月15日～2013(平成25)年12月6日

- ・立命館大学附属高等学校4校の2年生を対象としたアンケート(以下 附属校生を対象としたアンケートという)（資料7. 附属校生を対象としたアンケート）（資料8. 附属校生を対象としたアンケートの集計結果）

調査対象：立命館高等学校、立命館宇治高等学校、立命館慶祥高等学校、立命館守山高等学校

回収率：100%(回収4校/依頼4校)

有効調査対象数：568

調査方法：郵送による配布回収

調査期間：2013(平成25)年11月13日～2013(平成25)年12月6日

- ・立命館大学附属高等学校以外の高等学校において2015(平成27)年3月卒業予定の生徒を対象としたアンケート（以下 一般高校生を対象としたアンケートという）（資料9. 一般高校生を対象としたアンケート）（資料10. 一般高校生を対象としたアンケートの集計結果）

調査対象：本学薬学科に在籍する学生の出身高校から附属校を除いた313校

回収率：11.2%(回収35校/依頼313校)

有効調査対象数：5253

調査方法：郵送による配布回収

調査期間：2014(平成26)年2月25日～2014(平成26)年4月30日

定員充足の見込みを検討するにあたり実施した、附属校生を対象としたアンケートでは、「立命館大学に薬学部「創薬科学科(仮称)」ができればあなたは志望しますか？」の問いに対し、大学(理系)に進学を希望する生徒のうち14名(3.8%)が「進学を希望する」、123名(33.7%)が「進学先の候補として考える」と回答した。また、一般高校生を対象としたアンケートでも、「立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」に合格すれば進学を希望しますか」の問いに対し、大学(理系)に進学を希望する生徒のうち202名(5.6%)が「進学を希望する」、985名(27.5%)が「進学先の候補として考える」と回答した。設置届出前で広報を控えてきたにも関わらず、現時点で「進学を希望する」と回答した生徒が合計で216名となり、既に定員60名を上回っていることが確認できた。

さらに附属校生を対象としたアンケートでは「関心を持ちましたか？」の問いに対して、大学(理系)に進学を希望する生徒のうち「とても関心がある」「少し関心がある」とした回答が199名(55.9%)であり、非常に関心が高いことがわかった。高校教員を対象としたアンケートでも、「御校の生徒で薬学部4年制学科の受験を考えている学生はいますか？」という問いに対し、57.8%の教員が「いる」と回答しており、設置届出後に本格的に広報活動を行うことで、こういった層も本学創薬科学科の志願者層になると考えている。

以上の学外データと本学が実施したアンケート調査より、薬学部4年制新学科を目指す受験生の需要は十分にあることが確認された。薬学部を有する57私大中4年制を併設する14大学をみると、4年制学科については東日本の495名の入学定員に対し西日本はわずか130名に過ぎず、東西で大きな偏りが生まれている状況であり（資料11. 2013(平成25)年度 薬系大学入学定員一覧）、本学が創薬科学科を設置すれば西日本全体からの受験生が見込める。さらには、本学は全国各地から学生が集まっており、関西圏外からの志願者が53.2%と大変高いため、関西圏のみならず、全国からの受験生を集めることが出来る（資料12. 2013(平成25)年度立命館大学出身都道府県別志願者数・合格者数・在籍者数）。

このような状況を勘案し、本学が創薬科学科を新設するにあたり設定した入学定員60名は妥当であると判断した。

### ③学生納付金の設定の考え方

新たに設置する学部・学科等の学生納付金を設定する際、本学では、学生納付金や補助金、手数料等の収入で、当該部門における教育・研究活動に必要な人件費および経常的な経費を賄い、完成年度以降において消費収支が均衡の見通しが持てることを原則としている。

今次設置する薬学部創薬科学科は、既存の薬学部薬学科の教員体制に加えて10人の教員体制を整備し、また多くの実習科目を必修として1年次から4年次まで配置したカリキュラムを編成することとしている。他の私立大学の薬学部4年制課程の学生納付金（資料13. 私立大学薬学部4年制課程の学生納付金）を参照しつつ、これらの教員体制整備に伴う人件費および実習費等の経常経費を織り込んだ収支見通しを勘案して、薬学部創薬科学科の初年度学生納付金は、入学金300千円および授業料1,590千円とする。

### (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

薬学部4年制教育課程およびその目的を広く社会に発信し、薬学部以外の理系学部を目指す受験生の潜在的需要についても開拓していくと同時に、本学創薬科学科の特色等についても積極的に広報することで、学生確保に努めている。

具体的な活動としては、創薬科学科の設置について掲載した大学案内パンフレットを作成し、高等学校約2,300校、塾・予備校約1,500校へ送付するとともに、全国の高等学校の進路指導教員を訪問し創薬科学科の教育理念や人材育成目的等について説明している。また、高校内ガイダンスも積極的に実施し、大学情報誌や広告代理店等が企画する入試相談会にも多数参加して受験生へ直接説明する機会を設けている。

また、本学薬学部のホームページにも、創薬科学科の情報を掲載しており、具体的なカリキュラム等を提示している。

また、夏期休暇期間中にはオープンキャンパスを2日間実施して創薬科学科のカリキュラムや人材育成像等について詳細な説明をすることを予定しており、志願者の開拓を図る。

## 2、人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の要請に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

21世紀を迎えて、臨床における診断技術や治療法・予防法が日々高度化してきている中、より高度な薬剤師の育成が求められるようになった。こうしたニーズを受けて、2006(平成18)年4月に学校教育法、薬剤師法が改正され、薬の専門家である薬剤師を養成する薬学教育の6年制学士課程と、薬学基礎系として従来型の4年制学士課程の2つの薬学教育課程がスタートした。4年制課程と6年制課程では人材育成目標が大きく異なり、4年制課程では医薬品の創製、開発、生産、さらには食品・化粧品、環境や衛生分野などの薬学関連領域での研究及び教育に従事する人材を養成し、6年制課程では、薬物の適正使用に求められる知識・技能の修得とその進歩を担う薬剤師、さらに医療薬学分野の研究者を養成する。

医療人としての薬剤師の質的向上とその地位の向上を目指した6年制薬学教育課程が着実に成果をあげている一方で、新たな問題も生じている。2006(平成18)年の新課程のスタ

ートにあたって全国の私立薬学部・薬科大学が一斉に6年制課程に舵をきったことから4年制と6年制の学生定員に大きな偏りが生まれ、明治以来日本の薬学教育システムが担ってきた「創薬人材の育成」というもうひとつの重要な役割を果たすことが困難になってきたということである。医療の発展と国民の健康増進に貢献できる多様な人材を多分野に輩出するという薬学部本来の目的を達成するためには、「医療薬学」と「創薬科学」という日本独自の薬学教育システムをバランスよく機能させていかなければならない。さらに、分子標的薬やゲノム創薬に代表される医薬品創製技術・手法の高度化にともない、それに対応できるハイレベルな創薬研究者の育成が求められている現在、「創薬科学」の重要性は益々増大している。

以上のような社会的ニーズを勘案し、立命館大学薬学部には備わる研究に対する高いポテンシャルを活用して薬学を通じた社会へのさらなる貢献と、医学・薬学分野における研究力を備えた人材育成の一層の強化を目指すために、立命館大学薬学部は2015(平成27)年度より「薬学科(6年制)」と「創薬科学科(4年制)」の二学科体制として新たに展開する。

創薬科学科では、「薬を中心に据えた」人の健康にかかわる自然科学を基盤とし、医薬品の創製と分析、環境因子と人体への影響、疾病と薬物治療など多方面にわたる「学際的な薬学」の専門知識と技術を習得させるとともに、大学院修士課程と連携した研究指導により、最先端の医薬品創製と医療を支える薬学研究者の養成を行う。本学びわこ・くさつキャンパスには生命科学部、理工学部、情報理工学部、スポーツ健康科学部、いくつかの研究センターなど自然科学とテクノロジーに関する幅広い学部と施設が存在しており、それらの機関と協働して立命館大学における先端医療研究拠点の形成を図り、研究成果を社会に還元し、人類の健康と福祉の向上に寄与する。

#### 本学薬学部薬学科および創薬科学科の人材育成目的

薬学部は、医薬品等を通じて人の生命や健康にかかわるという使命感や倫理観を持ち、人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の具体的育成目的は下記の通りです。

##### 薬学科

医薬品についての高度な専門知識、実務能力、医療人としての素養を有し、地域薬局や病院内で医療チームの一員として先導的な役割を果たす薬剤師、および研究マインドを持ち薬剤師として医療薬学分野の発展に貢献できる人材を養成することを目的としています。

##### 創薬科学科

創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成することを目的としています。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

このたびの創薬科学科の新設に伴い、社会的な人材需要について学外からデータを収集するとともに、以下のアンケート調査を実施して分析を行った。

- ・製薬企業の人事担当者を対象としたアンケート(以下 製薬企業を対象としたアンケートという)(資料14. 製薬企業を対象としたアンケート)(資料15. 製薬企業を対象としたアンケートの集計結果)

調査対象：日本製薬工業協会に加盟する企業70社  
大阪医薬品協会に加盟する企業306社  
滋賀県薬業協会に加盟する企業35社  
※重複して加盟している企業あり

回収率：17.3%（回収71社/依頼411社）

※依頼411社はのべ数

有効調査対象数：71

調査方法：郵送および電子メールによる配布回収

調査期間：2013(平成25)年11月14日～2013(平成25)年12月13日

製薬企業を対象としたアンケート調査では、「御社において、薬学部4年制学科を卒業していることは強みになりますか？」の問いに対し、「そう思う」「ややそう思う」とした回答がそれぞれ28.6%、41.4%、合わせて70.0%であった。また、「薬学部4年制学科を卒業した人材は御社にとって必要ですか？」の問いに対し、「そう思う」「ややそう思う」とした回答がそれぞれ32.9%、40.0%、合わせて72.9%であり、約7割の製薬企業で薬学部4年制課程を卒業した人材の需要があることが確認できた。

また、薬学部4年制学科卒業後に修士以上の学位を取得した人材については需要が高く、「御社において、薬学部4年制学科を卒業し修士以上の学位を取得していることは強みになりますか？」の問いに対しては「そう思う」「ややそう思う」と回答した割合がそれぞれ47.1%、27.1%、合わせて74.2%。「薬学部4年制学科を卒業し修士以上の学位を取得した人材は御社にとって必要ですか？」の問いには「そう思う」「ややそう思う」とした回答が48.6%、27.1%、合わせて75.7%であった。さらに、「薬学部4年制学科を卒業し修士以上の学位を取得していることは、どの分野において強みになりますか？」の問いには、「研究」「開発」との回答がそれぞれ32.0%、33.6%で合わせて過半数を超え、研究・開発分野を担う人材に対して高い期待が寄せられていることが窺えた。

「立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」の教育・研究に期待できる。」という問いに対しては「そう思う」「ややそう思う」とした回答がそれぞれ27.5%、59.4%と合わせて86.9%に達し、「立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」の卒業生を採用したいですか？」の問いに対しても「採用したい」「採用を検討したい」の回答が17.1%、54.3%と合わせて71.4%であった。上記のアンケート結果より、本学創薬科学科が育成する人材像は製薬企業のニーズに応えるものであると判断できる。

日本国内は人口減を背景に各業界で市場の縮小が見込まれているが、医療分野は高齢者の増加に伴って数少ない成長マーケットとなっている。実際、国民医療費は1989(平成元)年の19兆7,290億円から、2009(平成21)年には36兆67億円まで急激に増加している(資料16. 国民医療費の年次推移)。バブル経済が崩壊し景気の後退が続いた間も、医療分野は景気動向の影響をほとんど受けておらず、今後も我が国の経済成長への貢献が期待されているといえる。

現在の医療分野の活況を示す様に、医薬情報担当者の求人数は順調に増えている(資料17. 医薬情報担当者数の推移)。なお、医薬情報担当者以外にも、製品の発売に向け

た開発関連職種において採用意欲が高まってきている。具体的には、近年の薬事法改正に関わり薬事法規・制度やファーマコビジランス（医薬品安全性監視）およびPMS（市販後調査）に精通した人材、活発化する新薬の研究開発分野では専門分野において医療スタッフと密に連携できるような人材の需要拡大が見込めると推測される。また、製薬企業だけでなく創薬科学科で学んだ学生の就職先としては、化学、化粧品、食品関連企業などがあげられる。さらに医薬品開発業務受託機関（CRO）、治験施設支援機関（SMO）にて臨床開発モニター（CRA）、治験コーディネーター（CRC）としての活躍も期待される。

卒業後の進路についてみると2012（平成24）年度4年制課程卒業生のうち、大学院への進学者数は国立大学で454名、公立大学で113名、私立大学で248名、進学率はそれぞれ92.8%、95.8%、64.6%であった（資料18. 2013（平成25）年3月 国公立薬系4年制課程修了者進路の調査結果）。私立大学における進学率については大学間で格差があり、進学率が高い大学では、東京理科大学 103/107（96.2%）、星薬科大学 26/31（88.6%）、慶応義塾大学35/43（81.4%）であった。

また、2012（平成24）年度春の大学院博士前期課程修了者の進路調査（資料19. 2013（平成25）年3月 国公立薬系大学院修士修了者進路の調査結果）によれば、国公立大学で41.4%が、私立大学でも23.5%が製薬企業に就職している。一方で、博士後期課程への進学率はそれぞれ27.8%と18.1%となっている。さらに朝日新聞と河合塾の共同調査「ひらく 日本の大学」（2012（平成24）年度）によれば、大学院修士課程（博士前期課程）修了後の進路を系統別に比べると、進学者の割合が薬学系は21%で最も高い結果となった（資料20. 大学院修士課程・博士課程（前期）・一貫課程（4年制）修了後の進路（系統別））。これらのデータは、4年制薬学課程に医薬品創製とその関連分野で研究職・開発職を志す学生が数多く入学していることを示しており、本学創薬科学科が掲げる人材育成目的は、こうした学生の需要に合致するものである。

以上をまとめると、志願者の動向や卒業生の進路調査結果から、薬学4年制課程の創薬研究者養成という人材育成目的は広く社会に認知され、同時にその役割を果たしているといえる。また薬学4年制カリキュラムに基づくこの人材育成目的は、その引き受け手である製薬企業などからも大いに期待されている事がわかった。医薬品メーカーは元々大阪発祥の企業が多く、武田薬品、田辺三菱製薬、大日本住友製薬、塩野義製薬などの国内大手企業、アストラゼネカ、バイエルなどといった外資系企業の多くが本社を大阪にしている。また本社の立地と物流の関係から、大阪やその周辺の近畿圏に研究所や工場をもつ企業が多く、他業種に比べ関西を拠点として事業展開している企業の割合が多いことが特徴として挙げられる（資料21. 医療用医薬品メーカー売り上げTOP20の本社・研究・生産機能）。したがって、京都、滋賀、大阪にキャンパスを有する本学が創薬科学科を設置し、製薬業界等で活躍できる人材を多く輩出することは、地域的、社会的にも大きく貢献できると考える。

<資料1. 立命館大学13学部の志願者・合格者・入学者数の推移>

学部名		2009 (平成 21)年度	2010 (平成 22)年度	2011 (平成 23)年度	2012 (平成 24)年度	2013 (平成 25)年度
法学部	志願者	7,594	7,496	6,607	6,800	7,058
	合格者	2,714	2,893	2,789	3,065	3,160
	入学者(A)	856	873	836	842	815
	入学定員(B)	790	790	790	790	790
	A/B	1.08	1.11	1.06	1.07	1.03
経済学部	志願者	9,594	9,612	8,168	8,785	7,732
	合格者	3,717	3,610	3,698	3,920	3,572
	入学者(A)	871	762	789	763	752
	入学定員(B)	785	735	735	735	735
	A/B	1.11	1.04	1.07	1.04	1.02
経営学部	志願者	10,425	7,702	6,076	8,131	7,103
	合格者	2,423	2,125	2,162	2,415	2,569
	入学者(A)	909	825	808	789	815
	入学定員(B)	810	760	760	760	760
	A/B	1.12	1.09	1.06	1.04	1.07
産業社会学部	志願者	9,787	9,873	8,296	10,163	9,818
	合格者	2,621	2,598	2,690	2,700	2,708
	入学者(A)	970	939	992	977	972
	入学定員(B)	900	900	900	900	900
	A/B	1.08	1.04	1.10	1.09	1.08
文学部	志願者	12,013	11,652	10,353	11,914	11,253
	合格者	3,861	3,727	3,515	3,744	3,737
	入学者(A)	1,259	1,268	1,202	1,198	1,156
	入学定員(B)	1,105	1,102	1,102	1,105	1,105
	A/B	1.14	1.15	1.09	1.08	1.05
理工学部	志願者	17,558	14,979	16,005	17,230	17,758
	合格者	6,720	6,733	7,002	6,720	6,292
	入学者(A)	1,001	959	1,063	957	880
	入学定員(B)	900	892	892	872	872
	A/B	1.11	1.08	1.19	1.10	1.01
国際関係学部	志願者	3,341	3,191	3,479	3,585	2,533
	合格者	926	958	968	891	859
	入学者(A)	326	328	359	309	313
	入学定員(B)	305	302	282	302	305
	A/B	1.07	1.09	1.27	1.02	1.03
政策科学部	志願者	4,035	2,813	3,635	3,686	3,590
	合格者	1,034	1,072	1,225	1,217	1,287
	入学者(A)	385	390	386	376	386
	入学定員(B)	360	360	360	360	360
	A/B	1.07	1.08	1.07	1.04	1.07
情報理工学部	志願者	4,116	4,285	4,219	5,252	5,359
	合格者	1,776	1,738	1,915	1,917	1,916
	入学者(A)	483	450	510	472	446
	入学定員(B)	440	440	440	440	440
	A/B	1.10	1.02	1.16	1.07	1.01
映像学部	志願者	2,118	1,653	1,350	1,584	1,309
	合格者	315	327	368	380	380
	入学者(A)	165	150	152	167	166
	入学定員(B)	150	150	150	150	150
	A/B	1.10	1.00	1.01	1.11	1.11
薬学部	志願者	1,775	1,509	2,117	2,235	2,430
	合格者	639	714	689	644	581
	入学者(A)	99	142	111	101	108
	入学定員(B)	100	100	100	100	100
	A/B	0.99	1.42	1.11	1.01	1.08
生命科学部	志願者	8,370	6,606	6,783	7,375	7,669
	合格者	1,876	2,432	2,485	2,510	2,272
	入学者(A)	276	298	315	313	299
	入学定員(B)	280	280	280	280	280
	A/B	0.99	1.06	1.13	1.12	1.07
スポーツ健康科学部	志願者	-	2,027	2,645	2,203	2,607
	合格者	-	454	564	607	663
	入学者(A)	-	229	247	218	224
	入学定員(B)	-	220	220	220	220
	A/B	-	1.04	1.12	0.99	1.02
大学合計	志願者	90,726	83,398	79,733	88,943	86,219
	合格者	28,622	29,381	30,070	30,730	29,996
	入学者(A)	7,600	7,613	7,770	7,482	7,332
	入学定員(B)	6,925	7,031	7,031	7,014	7,017
	A/B	1.10	1.08	1.11	1.07	1.04

※注

※注

※注

注) 5月1日を基準日とするため、以下の入学者数比率には「2013年9月入学者」数は含まれていない。

- ・国際関係学部
- ・政策科学部
- ・大学合計

<資料2. 2009(平成21)年度～2013(平成25)年度の私立大学薬学部4年制課程の入学定員、志願者、入学者数>  
(日本私立薬科大学協議会調べ)

	平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度		
	入学定員	入学志願者	入学者数	入学定員	入学志願者	入学者数	入学定員	入学志願者	入学者数	入学定員	入学志願者	入学者数	入学定員	入学志願者	入学者数
東北薬科大学	50	152	37	40	106	33	40	117	33	40	112	38	40	110	31
城西大学	50	144	36	50	231	65	50	190	51	50	161	50	50	431	73
日本薬科大学	/	/	/	/	/	/	90	80	52	90	105	59	90	123	69
千葉科学大学	40	81	11	50	73	35	50	61	21	40	52	18	40	50	23
	40	69	21												
北里大学	6年制と一括入試			35	326	38	35	370	37	35	472	37	35	391	37
慶応義塾大学	30	698	33	30	772	37	60	834	74	60	681	65	60	807	57
東京理科大学	100	1304	120	100	1161	137	100	1268	103	100	1387	100	100	1420	99
星薬科大学	20	393	41	20	385	27	20	350	28	20	446	34	20	468	21
明治薬科大学	60	536	69	60	657	69	60	669	71	60	594	63	60	784	79
大阪薬科大学	6年制と一括入試														
近畿大学	30	366	44	30	425	32	30	570	34	30	561	37	30	769	31
武庫川女子大学	40	163	40	40	149	28	40	140	45	40	236	51	40	296	52
徳島文理大学	10	20	7	10	10	2	10	8	4	/	/	/	/	/	/
九州保健福祉大学	30	48	19	30	61	35	30	82	25	30	86	33	30	78	28
合計	500	3954	478	495	4356	538	615	4739	578	595	4893	585	595	5727	600

<資料3. 2013(平成25)年私立大一般入試学部別系統別志願状況(「蛍雪時代」(2013(平成25)年5月号))>



<資料4. 2013(平成25)年度入試における私立大学薬学部6年制、4年制併設校における入学定員・志願者数・志願倍率>

大学名	6年制入学定員	6年制志願者数	6年制競争率	4年制入学定員	4年制志願者数	4年制競争率
慶応義塾	150	2126	14.17	60	807	13.45
東京理科大	100	2641	26.41	100	1420	14.2
北里大	250	2730	10.92	35	391	11.17
星薬科大	260	3911	15.04	20	468	23.4
近畿大	150	5444	36.29	30	769	25.63
東北薬科大	300	1411	4.7	40	110	2.75
城西大	250	1761	7.04	50	431	8.62
日本薬科大	260	1127	4.33	90	123	1.37
千葉科学大	120	344	2.87	40	50	1.25
明治薬科大	300	3954	13.18	60	784	13.06
大阪薬科大学	6年制学科、4年制学科の一括入試					
武庫川女子大	210	1716	8.17	40	296	7.4
九州保健福祉大	140	410	2.93	30	78	2.6
立命館大学	100	2430	24.3	60		

<資料5. 高校教員を対象としたアンケート>

立命館大学薬学部創薬科学科(仮称)の設置について (構想案)

※予定であり変更の可能性があります。

1、設置の理念および概要

明治以来の日本の薬学教育は、「医療現場で活躍する薬剤師」と「薬を生み出す創薬研究者」というふたつの人材育成目標を掲げながらひとつの教育システムとして発展してきました。しかしながら 21 世紀を迎えて、臨床における診断技術や治療法・予防法が日々高度化してきている中、より高度な薬剤師の育成が求められるようになり、こうしたニーズを受けて 2006(平成 18)年 4 月に学校教育法、薬剤師法が改正され、薬の専門家である薬剤師を養成する薬学教育の 6 年制学士課程と、薬学基礎系として従来型の 4 年制学士課程の 2 つの薬学教育課程がスタートしました。

2006(平成 18)年 4 月の新課程のスタートにあたって、医療人としての薬剤師の質的向上とその地位の向上を目指した 6 年制薬学教育課程が着実に成果をあげている一方で、全国の私立薬学部・薬科大学が一斉に 6 年制課程に舵をきったことから 4 年制と 6 年制の学生定員に大きな偏りが生まれ、「創薬人材の育成」というもうひとつの重要な役割を果たすことが困難になってきています。

このたびの本学薬学部の新学科設置は、「医療薬学」と「創薬科学」の 2 つの薬学教育システムをバランスよく機能させ、医療の発展と国民の健康増進に貢献できる多様な人材を多分野に輩出することを目的としています。2015(平成 27)年度より「創薬科学科(仮称)」を設置し、「薬学科(6 年制)」との二学科体制として新たに展開することで、総合大学としての強みを生かし、医療系人材のみならず、創薬系の人材育成においても貢献していきたいと考えています。

<薬学部 4 年制新学科の名称、定員等>

学科名	学位	修業年限	入学定員	開設年度
創薬科学科	薬科学	4 年	60 名	2015 年(予定)

<カリキュラム、特色>

「創薬科学科(仮称)」はまず、低回生で物理、化学、生物を基盤とする基礎薬学を学びます。そのうえで、2 年次以降は、創薬科学に関する専門的な必修科目、選択科目を配置し、人材育成目標と進路に基づいた系統的な履修を行います。3 年次後期より卒業研究室に配属させ、先端科学や医療に関連した選択科目を学びながら、それぞれの専門分野で研究します。

創薬研究者志望の科目選択の目安として、A. 創薬研究者(化学系)、B. 創薬研究者(生物系)の履修モデルを設定します。また、薬学・医学の知識を基盤として臨床開発・医薬品情報担当者を志望する場合の科目選択の目安として、C. 臨床開発・医薬品情報担当者の履修モデルを設定します。

2、養成する人材像

薬学部は、薬学を基盤として人の健康にかかわる自然科学を学び、基礎薬学から臨床

薬学までの専門知識と研究力を修得します。医薬品等を通じて人の生命や健康にかかわるといふ使命感や倫理観を持ち、人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の具体的育成目的は下記の通りです。

### 創薬科学科（仮称）

創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成することを目的としています。

### 薬学科（参考）

医薬品についての高度な専門知識、実務能力、医療人としての素養を有し、①地域薬局や病院内で医療チームの一員として先導的な役割を果たす薬剤師、②研究マインドを持ち薬剤師として医療薬学分野の発展に貢献できる人材を養成することを目的としています。

## 3、設置場所（アクセス）

〒525 - 8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス



出発駅	乗り換え	所要時間	備考
京阪 中書島駅	直行便バス	約30分	平日 中書島発15便 大学発14便（土日祝は運行しません）
JR 大津駅	直行便バス	約25分	平日16往復（土日祝は運行しません）
JR 大阪駅	JR	47分	
JR 京都駅	JR	17分	
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄	約60分	（京都駅経由）
JR 三ノ宮駅	JR	約70分	
	JR 南草津駅	約10分	近江鉄道バス 「立命館大学行き」 または 立命館大学経由 「熱島グリーンヒル行き」

## 4、学生納付金（他大学既設学部）

薬学部4年制学科を設置している私立大学13校の初年度学納金は以下の通りです。立命館大学の初年度学納金は1,700,000～1,900,000円程度を予定しています。

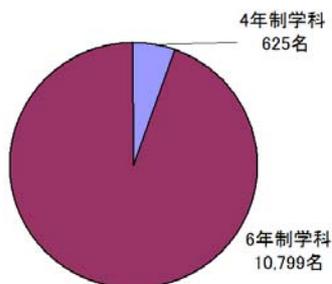
<私立大学薬学部4年制課程の学生納付金 単位：円>

	入学金	授業料他	初年度合計
東北薬科大学薬学部生命薬科学科	350,000	1,430,000	1,780,000
城西大学薬学部薬科学科	500,000	2,021,000	2,521,000
城西大学薬学部薬医療栄養学科	400,000	1,866,000	2,266,000
千葉科学大学薬学部生命薬科学科	300,000	1,450,000	1,750,000
北里大学薬学部生命創薬科学科	400,000	1,650,000	2,050,000
慶応義塾大学薬学部薬科学科	200,000	1,840,000	2,040,000
東京理科大学薬学部生命創薬科学科	300,000	1,645,000	1,945,000
星薬科大学薬学部創薬科学科	400,000	1,630,000	2,030,000
明治薬科大学薬学部生命創薬科学科	400,000	1,600,000	2,000,000
日本薬科大学薬学部医療ビジネス薬科学科	300,000	1,200,000	1,500,000
大阪薬科大学薬学部薬科学科	400,000	1,800,000	2,200,000
近畿大学薬学部創薬科学科	250,000	1,365,000	1,615,000
武庫川女子大学薬学部健康生命薬科学科	350,000	1,453,000	1,803,000
九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科	300,000	1,496,000	1,796,000
立命館大学薬学部創薬科学科(仮称)	初年度合計 1,700,000～1,900,000円程度		

## 5、他大学薬学部4年制学科の設置状況

私立大学でみると、6年制学科の入学定員は10,799名に対し4年制学科の入学定員はわずか625名となっています。また、西日本において薬学部4年制学科を設置しているのは4校のみであり、入学定員では東日本の495名に対し西日本はわずか130名に過ぎません。東西で大きな偏りがあるため、関西に拠点をおく本学としては、創薬系人材の育成に貢献していきたいと考えています。

<平成25年度 私立大学薬学部4年制学科、6年制学科の入学定員>



<薬学部に4年制学科を設置している私立大学>

大学名	大学区分	学科名	入学定員(名)
東北薬科大学	私立	生命薬科学科	40
城西大学	私立	薬科学科	50
日本薬科大学	私立	医療ビジネス薬科学科	90
東京理科大学	私立	生命創薬科学科	100
千葉科学大学	私立	生命薬科学科	40
北里大学	私立	生命創薬科学科	35
慶応義塾大学	私立	薬科学科	60
星薬科大学	私立	創薬科学科	20
明治薬科大学	私立	生命創薬科学科	60
大阪薬科大学	私立	薬科学科	30
近畿大学	私立	創薬科学科	30
武庫川女子大学	私立	健康生命薬学科	40
九州保健福祉大学	私立	動物生命薬科学科	30

(参考：国公立大学の薬学部4年制学科設置状況)

大学名	大学区分	学科名	入学定員(名)
北海道大学	国立	薬科学科	50
東北大学	国立	創薬学科	60
千葉大学	国立	薬科学科	40
東京大学	国立	薬科学科	72
富山大学	国立	創薬科学科	50
金沢大学	国立	創薬科学類	40
静岡県立大学	公立	薬科学科	40
名古屋市立大学	公立	生命薬科学科	40
岐阜薬科大学	公立	薬科学科	40
京都大学	国立	薬科学科	50
大阪大学	国立	薬科学科	55
岡山大学	国立	創薬科学科	40
広島大学	国立	薬科学科	22
徳島大学	国立	創製薬科学科	40
九州大学	国立	創薬科学科	49
長崎大学	国立	薬科学科	40
熊本大学	国立	創薬・生命薬科学科	35

以上

## アンケート調査表

**Q1.** 薬学部には6年制課程と4年制課程があり、それぞれの教育課程の目的（6年制課程は薬剤師の資格取得、4年制課程は薬学領域における研究者等の養成）について、広く理解されていると思いますか？

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q2.** 御校の生徒で薬学部を志望している学生の大学卒業後の希望進路は何でしょうか？主なものを2つお選びください。

- ① 企業(製薬,食品,化粧品等)    ② 病院・薬局    ③ 官公庁(公務員など)    ④ 大学等研究機関

**Q3.** 御校の生徒で薬学部4年制学科を志望している学生はいますか？

- ① いる    ② いない    ③ わからない

**Q4.** 御校の生徒で薬学部4年制学科の受験を考えている学生はいますか？

- ① いる    ② いない    ③ わからない

**Q5.** 立命館大学薬学部が構想している「創薬科学科（仮称）」について、どのような印象を持ちましたか？以下の各質問項目に対して、当てはまるものをお選びください。

**Q5-1.** 輩出する人材は、これからの社会において需要が高い。

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q5-2.** 将来性がある。

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q5-3.** 卒業後の進路がイメージし易い。

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q5-4.** 就職に有利である。

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q5-5.** 受験生や保護者の関心が高い。

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q5-6.**立命館大学薬学部「創薬科学科（仮称）」を学生に勧めてみたい。

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

**Q5-7.**立命館大学薬学部「創薬科学科（仮称）」の教育・研究に期待できる。

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

自由記述欄（ご意見などお寄せください）

--

以上

ご協力ありがとうございました。

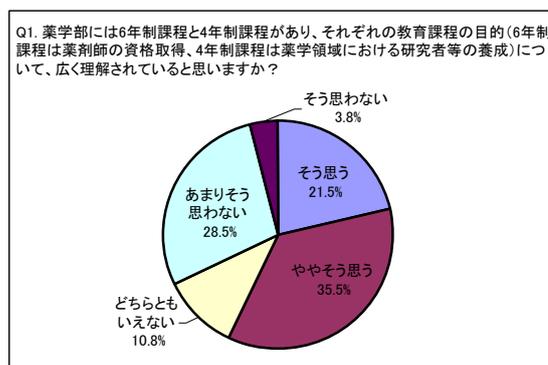
## 高等学校進路指導教員に対するアンケート結果(回答数187)

立命館大学薬学部4年制創薬科学科(仮称)設置に関するアンケート

Q1. 薬学部には6年制課程と4年制課程があり、それぞれの教育課程の目的(6年制課程は薬剤師の資格取得、4年制課程は薬学領域における研究者等の養成)について、広く理解されていると思いますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	40	21.5%
ややそう思う	66	35.5%
どちらともいえない	20	10.8%
あまりそう思わない	53	28.5%
そう思わない	7	3.8%
合計 ※	186	100.0%

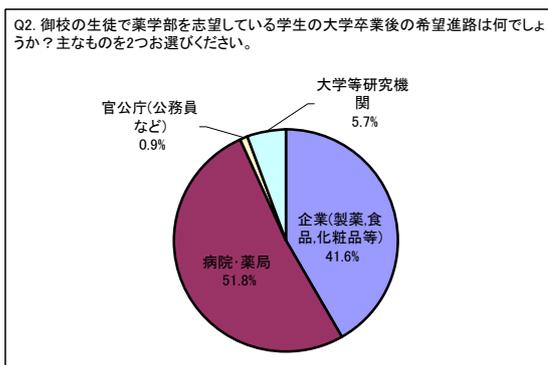
※複数回答あり、無回答2



Q2. 御校の生徒で薬学部を志望している学生の大学卒業後の希望進路は何でしょうか？  
主なものを2つお選びください。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
企業(製薬,食品,化粧品等)	139	41.6%
病院・薬局	173	51.8%
官公庁(公務員など)	3	0.9%
大学等研究機関	19	5.7%
合計 ※	334	100.0%

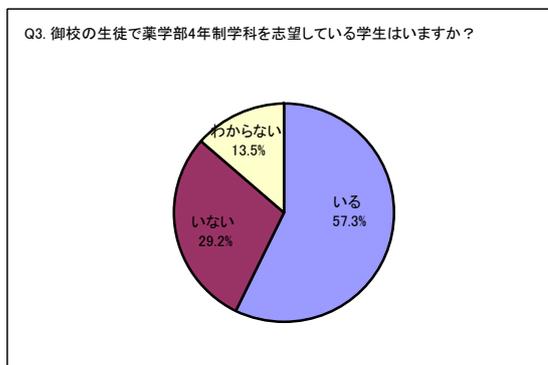
※複数回答あり、無回答1



Q3. 御校の生徒で薬学部4年制学科を志望している学生はいますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
いる	106	57.3%
いない	54	29.2%
わからない	25	13.5%
合計 ※	185	100.0%

※無回答2

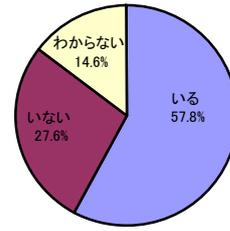


Q4. 御校の生徒で薬学部4年制学科の受験を考えている学生はいますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
いる	107	57.8%
いない	51	27.6%
わからない	27	14.6%
合計 ※	185	100.0%

※無回答2

Q4. 御校の生徒で薬学部4年制学科の受験を考えている学生はいますか？



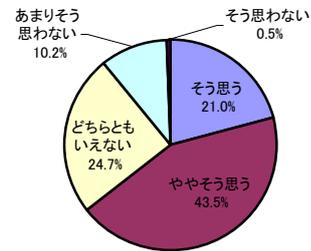
Q5. 立命館大学薬学部が構想している「創薬科学科(仮称)」について、どのような印象を持ちましたか？

Q5-1. 輩出する人材は、これからの社会において需要が高い。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	39	21.0%
ややそう思う	81	43.5%
どちらともいえない	46	24.7%
あまりそう思わない	19	10.2%
そう思わない	1	0.5%
合計 ※	186	100.0%

※無回答1

Q5-1. 輩出する人材は、これからの社会において需要が高い。

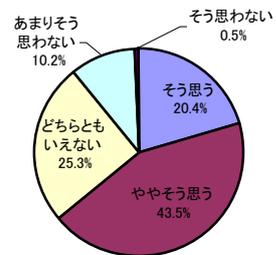


Q5-2. 将来性がある。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	38	20.4%
ややそう思う	81	43.5%
どちらともいえない	47	25.3%
あまりそう思わない	19	10.2%
そう思わない	1	0.5%
合計 ※	186	100.0%

※複数回答あり、無回答2

Q5-2. 将来性がある。

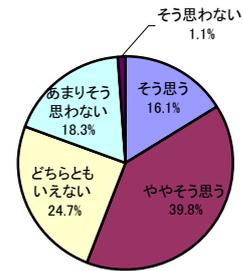


Q5-3. 卒業後の進路がイメージしやすい。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答数)
そう思う	30	16.1%
ややそう思う	74	39.8%
どちらともいえない	46	24.7%
あまりそう思わない	34	18.3%
そう思わない	2	1.1%
合計 ※	186	100.0%

※無回答1

Q5-3. 卒業後の進路がイメージしやすい。

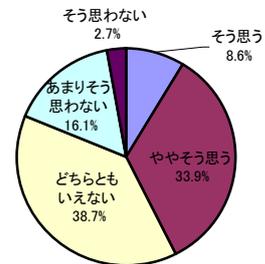


Q5-4. 就職に有利である。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答数)
そう思う	16	8.6%
ややそう思う	63	33.9%
どちらともいえない	72	38.7%
あまりそう思わない	30	16.1%
そう思わない	5	2.7%
合計 ※	186	100.0%

※無回答1

Q5-4. 就職に有利である。

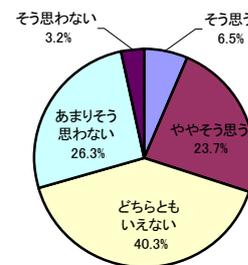


Q5-5. 受験生や保護者の関心が高い。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答数)
そう思う	12	6.5%
ややそう思う	44	23.7%
どちらともいえない	75	40.3%
あまりそう思わない	49	26.3%
そう思わない	6	3.2%
合計 ※	186	100.0%

※無回答1

Q5-5. 受験生や保護者の関心が高い。

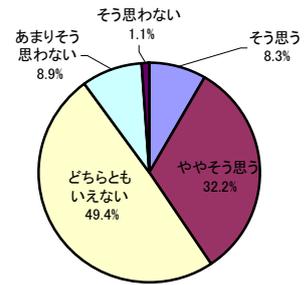


Q5-6. 立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」を学生に勧めてみたい。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	15	8.3%
ややそう思う	58	32.2%
どちらとも いえない	89	49.4%
あまりそう 思わない	16	8.9%
そう思わない	2	1.1%
合計 ※	180	100.0%

※無回答7

Q5-6. 立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」を学生に勧めてみたい。

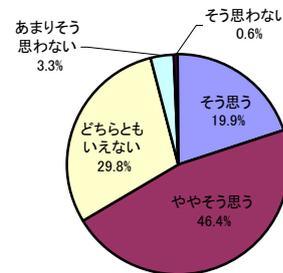


Q5-7. 立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」の教育・研究に期待できる。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	36	19.9%
ややそう思う	84	46.4%
どちらとも いえない	54	29.8%
あまりそう 思わない	6	3.3%
そう思わない	1	0.6%
合計 ※	181	100.0%

※無回答6

Q5-7. 立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」の教育・研究に期待できる。



<資料7. 附属校生を対象としたアンケート>

## 立命館大学薬学部創薬科学科(仮称)の設置について (構想案)

※予定であり変更の可能性があります。

### 1、設置の理念および概要

21世紀を迎えて、臨床における診断技術や治療法・予防法が日々高度化してきている中、より高度な薬剤師の育成が求められるようになりました。こうしたニーズを受けて2006(平成18)年4月から薬の専門家である薬剤師を養成する薬学教育の6年制学士課程と、薬学基礎系として従来型の4年制学士課程の2つの薬学教育課程がスタートしました。

2006(平成18)年4月の新課程のスタートにあたって、医療人としての薬剤師の質的向上とその地位の向上を目指した6年制薬学教育課程が着実に成果をあげている一方で、全国の私立薬学部・薬科大学が一齐に6年制課程に舵をきったことから4年制と6年制の学生定員に大きな偏りが生まれ、「創薬人材の育成」というもうひとつの重要な役割を果たすことが困難になってきています。

立命館大学薬学部は2015(平成27)年度より「創薬科学科(仮称)」を設置し、「医療薬学」と「創薬科学」の2つの薬学教育システムをバランスよく機能させ、医療の発展と国民の健康増進に貢献できる多様な人材を多分野に輩出したいと考えています。「薬学科(6年制)」との二学科体制として新たに展開することで、総合大学としての強みを生かし、医療系人材のみならず、創薬系の人材育成においても貢献していきたいと考えています。

<薬学部4年制新学科の名称、定員等>

学科名	学位	修業年限	入学定員	開設年度
創薬科学科	薬科学	4年	60名	2015年(予定)

<カリキュラム、特色>

「創薬科学科(仮称)」はまず、低回生で物理、化学、生物を基盤とする基礎的科目を学びます。そのうえで、2年次以降は、人材育成目標と進路に基づいた創薬科学に関する専門的な必修科目、選択科目を学びます。3年次後期より卒業研究室に配属して、先端科学や医療に関連した選択科目を学びながら、それぞれの専門分野で研究します。

創薬研究者志望の科目選択の目安として、A. 創薬研究者(化学系)、B. 創薬研究者(生物系)の履修モデルを設定します。また、薬学・医学の知識を基盤として臨床開発・医薬品情報担当者を志望する場合の科目選択の目安として、C. 臨床開発・医薬品情報担当者の履修モデルを設定します。

### 2、養成する人材像

薬学部は、薬学を基盤として人の健康にかかわる自然科学を学び、基礎薬学から臨床薬学までの専門知識と研究力を修得します。医薬品等を通じて人の生命や健康にかかわるといふ使命感や倫理観を持ち、人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の具体的育成目的は下記の通りです。

## 創薬科学科（仮称）

創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成することを目的としています。

## 薬学科（参考）

医薬品についての高度な専門知識、実務能力、医療人としての素養を有し、①地域薬局や病院内で医療チームの一員として先導的な役割を果たす薬剤師、②研究マインドを持ち薬剤師として医療薬学分野の発展に貢献できる人材を養成することを目的としています。

### 3、設置場所（アクセス）

〒525 - 8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス



駅名	路線	所要時間	備考
京阪 中書島駅	直行便/バス	約30分	平日 中書島発15便 大学発14便（土日祝は運行しません。）
JR 大津駅	直行便/バス	約25分	平日16往復（土日祝は運行しません。）
JR 大阪駅	JR	47分	JR 南草津駅
JR 京都駅	JR	17分	
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄	約60分	（京都駅経由）
JR 三ノ宮駅	JR	約70分	
	近江鉄道/バス	約10分	「立命館大学行き」または「立命館大学経由「飛鳥グリーンヒル行き」」

### 4、学生納付金（他大学既設学部）

薬学部4年制学科を設置している私立大学13校の初年度学納金は以下の通りです。立命館大学の初年度学納金は1,700,000～1,900,000円程度を予定しています。

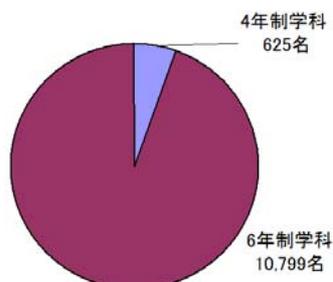
<私立大学薬学部4年制課程の学生納付金 単位：円>

大学名	入学金	授業料他	初年度合計
東北薬科大学薬学部生命薬科学科	350,000	1,430,000	1,780,000
城西大学薬学部薬科学科	500,000	2,021,000	2,521,000
城西大学薬学部薬医療栄養学科	400,000	1,866,000	2,266,000
千葉科学大学薬学部生命薬科学科	300,000	1,450,000	1,750,000
北里大学薬学部生命創薬科学科	400,000	1,650,000	2,050,000
慶応義塾大学薬学部薬科学科	200,000	1,840,000	2,040,000
東京理科大学薬学部生命創薬科学科	300,000	1,645,000	1,945,000
星薬科大学薬学部創薬科学科	400,000	1,630,000	2,030,000
明治薬科大学薬学部生命創薬科学科	400,000	1,600,000	2,000,000
日本薬科大学薬学部医療ビジネス薬科学科	300,000	1,200,000	1,500,000
大阪薬科大学薬学部薬科学科	400,000	1,800,000	2,200,000
近畿大学薬学部創薬科学科	250,000	1,365,000	1,615,000
武庫川女子大学薬学部健康生命薬科学科	350,000	1,453,000	1,803,000
九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科	300,000	1,496,000	1,796,000
立命館大学薬学部創薬科学科（仮称）	初年度合計 1,700,000～1,900,000円程度		

## 5、他大学薬学部4年制学科の設置状況

私立大学でみると、6年制学科の入学定員は10,799名に対し4年制学科の入学定員はわずかに625名となっています。また、西日本において薬学部4年制学科を設置しているのは4校のみであり、入学定員では東日本の495名に対し西日本はわずかに130名に過ぎません。東西で大きな偏りがあるため、関西に拠点をおく本学としては、創薬系人材の育成に貢献していきたいと考えています。

<平成25年度 私立大学薬学部4年制学科、6年制学科の入学定員>



<薬学部に4年制学科を設置している私立大学>

大学名	大学区分	学科名	入学定員(名)
東北薬科大学	私立	生命薬科学科	40
城西大学	私立	薬科学科	50
日本薬科大学	私立	医療ビジネス薬科学科	90
東京理科大学	私立	生命創薬科学科	100
千葉科学大学	私立	生命薬科学科	40
北里大学	私立	生命創薬科学科	35
慶応義塾大学	私立	薬科学科	60
星薬科大学	私立	創薬科学科	20
明治薬科大学	私立	生命創薬科学科	60
大阪薬科大学	私立	薬科学科	30
近畿大学	私立	創薬科学科	30
武庫川女子大学	私立	健康生命薬学科	40
九州保健福祉大学	私立	動物生命薬科学科	30

(参考：国公立大学の薬学部4年制学科設置状況)

大学名	大学区分	学科名	入学定員(名)
北海道大学	国立	薬科学科	50
東北大学	国立	創薬学科	60
千葉大学	国立	薬科学科	40
東京大学	国立	薬科学科	72
富山大学	国立	創薬科学科	50
金沢大学	国立	創薬科学類	40
静岡県立大学	公立	薬科学科	40
名古屋市立大学	公立	生命薬科学科	40
岐阜薬科大学	公立	薬科学科	40
京都大学	国立	薬科学科	50
大阪大学	国立	薬科学科	55
岡山大学	国立	創薬科学科	40
広島大学	国立	薬科学科	22
徳島大学	国立	創製薬科学科	40
九州大学	国立	創薬科学科	49
長崎大学	国立	薬科学科	40
熊本大学	国立	創薬・生命薬科学科	35

以上

アンケート調査表

**Q1.** 性別。

- ① 男子      ② 女子

**Q2.** あなたの考えている進路についてお答えください。

- ① 大学進学(文系) ② 大学進学(理系) ③ 専門学校進学 ④ 就職 ⑤ その他(      )

**Q3以降はQ2で「②大学進学(理系)」と回答した方のみご回答ください。**

**Q3.** 進路として以下のどの領域を検討していますか？

- ① 理工系 ② 情報系 ③ 生命科学系 ④ 医歯薬看護系 ⑤ その他(      )

**Q4.** 薬学部には6年制課程と4年制課程があり、それぞれの教育課程の目的(6年制課程は薬剤師の資格取得、4年制課程は薬学領域における研究者等の養成)について、理解していますか？

- ① 理解している ② 大体理解している ③ どちらともいえない ④ あまり理解していない ⑤ 理解していない

**Q5.** 薬学部4年制課程について

- ① とても関心がある      ② 少し関心がある      ③ 関心がない      ④ わからない

**Q6.** 立命館大学に薬学部「創薬科学科(仮称)」ができればあなたは志望しますか？

- ① 進学を希望する ② 進学先の候補として考える ③ 志望しない ④ わからない

**Q7.** 立命館大学薬学部が構想している「創薬科学科(仮称)」について、どのような印象を持ちましたか？以下の質問に対して、当てはまる項目をお選びください。

**Q7-1** 輩出する人材は、これからの社会において需要が高い。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

**Q7-2.** 将来性がある。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

**Q7-3.** 卒業後の進路がイメージしやすい。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

Q7-4.就職に有利である。

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

Q7-5.関心を持ちましたか？

- ① とても関心がある    ② 少し関心がある    ③ 関心がない    ④ わからない

Q7-6.立命館大学薬学部「創薬科学科（仮称）」の教育・研究に期待できる。

- ① そう思う    ② ややそう思う    ③ どちらともいえない    ④ あまりそう思わない    ⑤ そう思わない

自由記述欄（ご意見などお寄せください）

--

以上

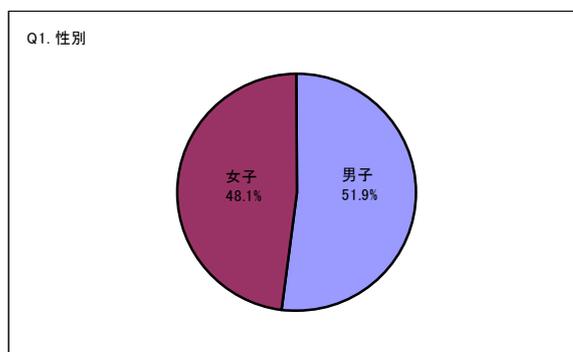
ご協力ありがとうございました。

## 本学附属高等学校4校の2年生に対するアンケート結果(回答数568)

立命館大学薬学部4年制創薬科学科(仮称)設置に関するアンケート

### Q1. 性別

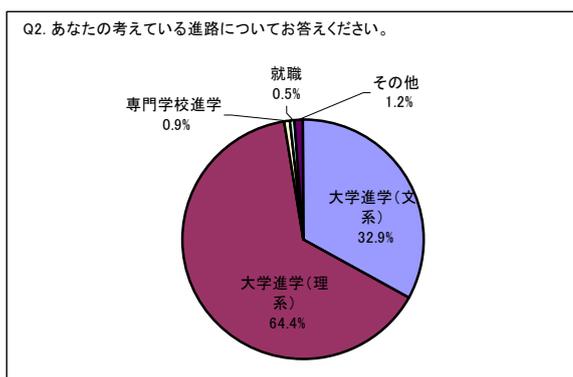
回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
男子	295	51.9%
女子	273	48.1%
合計	568	100.0%



### Q2. あなたの考えている進路についてお答えください。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
大学進学(文系)	188	32.9%
大学進学(理系)	368	64.4%
専門学校進学	5	0.9%
就職	3	0.5%
その他	7	1.2%
合計 ※	571	100.0%

※複数回答あり、無回答1



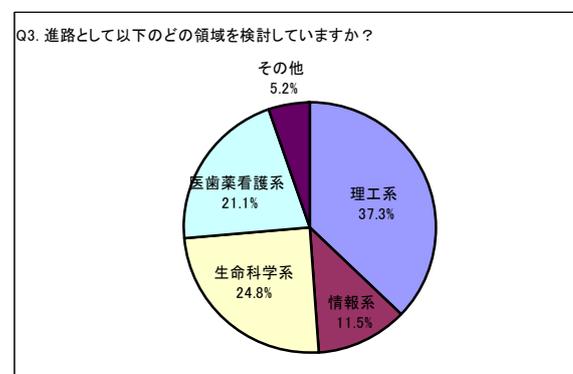
### Q3以降はQ2で「大学進学(理系)」と回答した方のみ回答

### Q3. 進路として以下のどの領域を検討していますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
理工系	143	37.3%
情報系	44	11.5%
生命科学系	95	24.8%
医歯薬看護系	81	21.1%
その他	20	5.2%
合計 ※	383	100.0%

※複数回答あり、無回答7

※無効回答除く

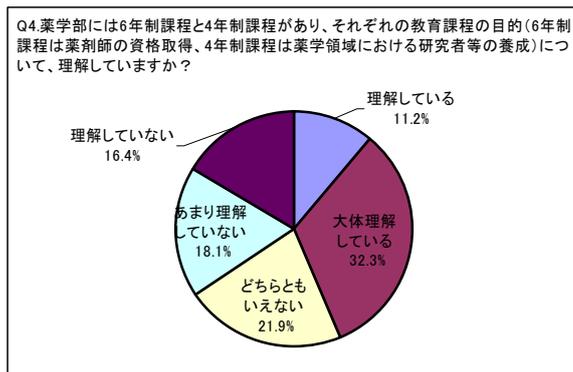


Q4. 薬学部には6年制課程と4年制課程があり、それぞれの教育課程の目的(6年制課程は薬剤師の資格取得、4年制課程は薬学領域における研究者等の養成)について、理解していますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答数)
理解している	41	11.2%
大体理解している	118	32.3%
どちらともいえない	80	21.9%
あまり理解していない	66	18.1%
理解していない	60	16.4%
合計 ※	365	100.0%

※無回答3

※無効回答除く

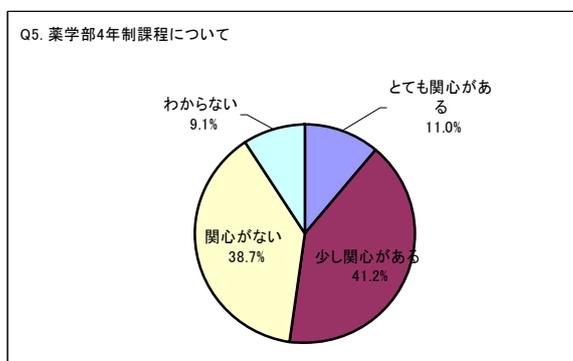


Q5. 薬学部4年制課程について

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答数)
とても関心がある	40	11.0%
少し関心がある	149	41.2%
関心がない	140	38.7%
わからない	33	9.1%
合計 ※	362	100.0%

※無回答6

※無効回答除く

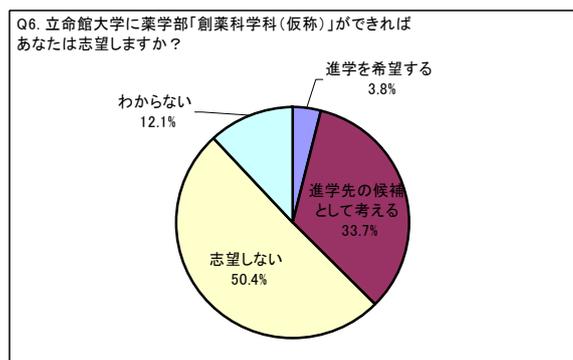


Q6. 立命館大学に薬学部「創薬科学科(仮称)」ができればあなたは志望しますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答数)
進学を希望する	14	3.8%
進学先の候補として考える	123	33.7%
志望しない	184	50.4%
わからない	44	12.1%
合計 ※	365	100.0%

※無回答3

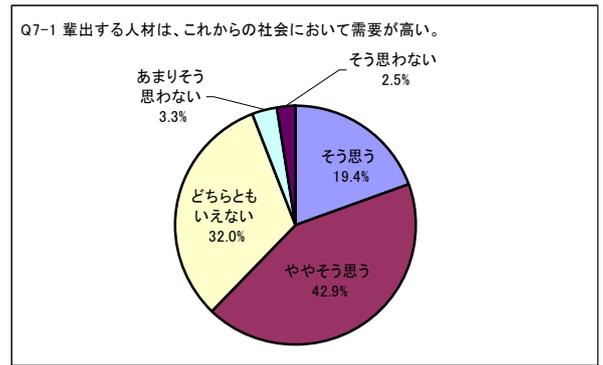
※無効回答除く



Q7. 立命館大学薬学部が構想している「創薬科学科(仮称)」について、どのような印象を持ちましたか？  
 Q7-1 輩出する人材は、これからの社会において需要が高い。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	71	19.4%
ややそう思う	157	42.9%
どちらとも いえない	117	32.0%
あまりそう 思わない	12	3.3%
そう 思わない	9	2.5%
合計 ※	366	100.0%

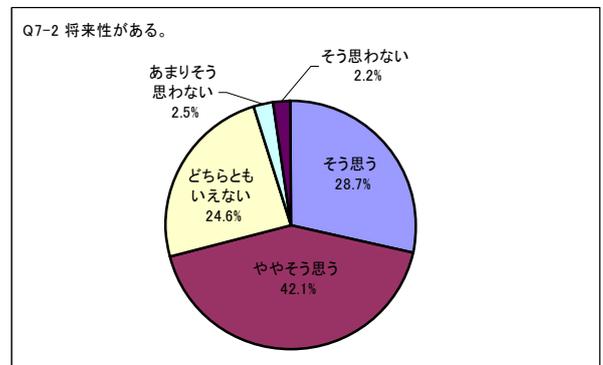
※無回答2  
 ※無効回答除く



Q7-2 将来性がある。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	105	28.7%
ややそう思う	154	42.1%
どちらとも いえない	90	24.6%
あまりそう 思わない	9	2.5%
そう 思わない	8	2.2%
合計 ※	366	100.0%

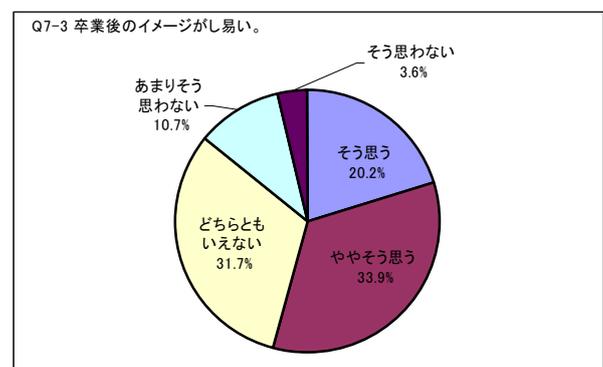
※無回答2  
 ※無効回答除く



Q7-3 卒業後のイメージがし易い。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	74	20.2%
ややそう思う	124	33.9%
どちらとも いえない	116	31.7%
あまりそう 思わない	39	10.7%
そう 思わない	13	3.6%
合計 ※	366	100.0%

※無回答2  
 ※無効回答除く

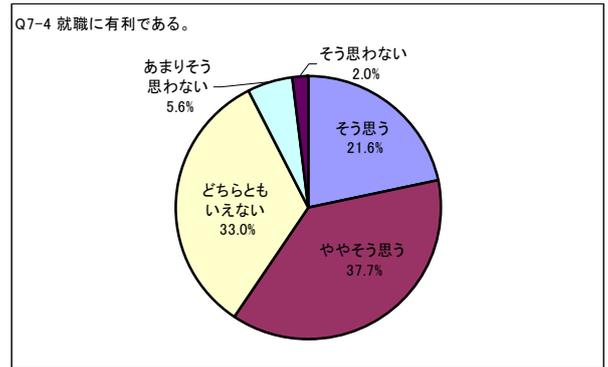


Q7-4 就職に有利である。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	74	21.6%
ややそう思う	129	37.7%
どちらとも いえない	113	33.0%
あまりそう 思わない	19	5.6%
そう 思わない	7	2.0%
合計 ※	342	100.0%

※無回答26

※無効回答除く

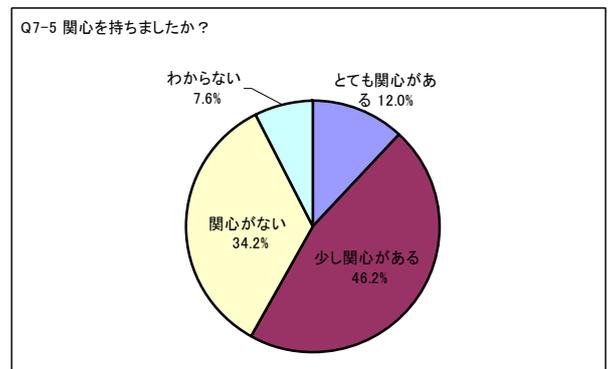


Q7-5 関心を持ちましたか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
とても関心がある	41	12.0%
少し関心がある	158	46.2%
関心がない	117	34.2%
わからない	26	7.6%
合計 ※	342	100.0%

※無回答26

※無効回答除く

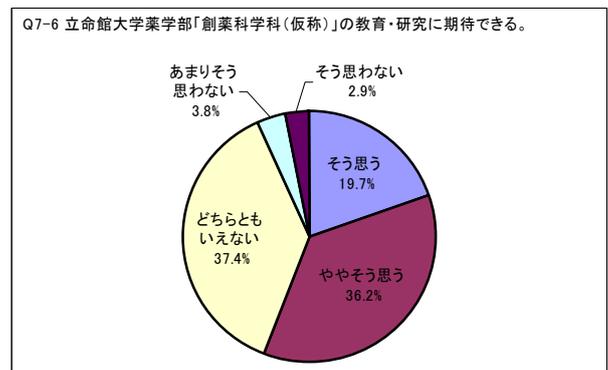


Q7-6 立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」の教育・研究に期待できる。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	67	19.7%
ややそう思う	123	36.2%
どちらとも いえない	127	37.4%
あまりそう 思わない	13	3.8%
そう 思わない	10	2.9%
合計 ※	340	100.0%

※無回答28

※無効回答除く



<資料 9. 一般高校生を対象としたアンケート>

立命館大学薬学部創薬科学科(仮称)の設置について (構想案)

※予定であり変更の可能性あります。

1、設置の理念および概要

21世紀を迎えて、臨床における診断技術や治療法・予防法が日々高度化してきている中、より高度な薬剤師の育成が求められるようになりました。こうしたニーズを受け2006(平成18)年4月から薬の専門家である薬剤師を養成する薬学教育の6年制学士課程と、薬学基礎系として従来型の4年制学士課程の2つの薬学教育課程がスタートしました。

立命館大学薬学部は2015(平成27)年度より、既存の6年制薬学科に加え「4年制創薬科学科(仮称)」を設置し、「医療薬学」と「創薬科学」の2つの薬学教育システムをバランスよく機能させて、医療の発展と国民の健康増進に貢献できる多様な人材を多分野に輩出したいと考えています。総合大学としての強みを生かし、医療系人材のみならず、創薬系の人材育成においても貢献していきます。

<薬学部4年制新学科の名称、定員等>

学科名	学位	修業年限	入学定員	開設年度
創薬科学科	薬科学	4年	60名	2015年(予定)

<カリキュラム、特色>

「創薬科学科(仮称)」では1年次に物理、化学、生物を基盤とする基礎的科目を学びます。2年次以降は、創薬科学に関する専門的な講義科目や実習科目を学びます。3年次後期より研究室に配属して、希望の進路や興味に合わせたそれぞれの専門分野で卒業研究に取り組みます。

2、養成する人材像

薬学部は、薬学を基盤として人の健康にかかわる自然科学を学び、基礎薬学から臨床薬学までの専門知識と研究力を修得します。医薬品等を通じて人の生命や健康にかかわるという使命感や倫理観を持ち、人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の具体的育成目的は下記の通りです。

**創薬科学科 (仮称)**

創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成することを目的としています。

**薬学科 (参考)**

医薬品についての高度な専門知識、実務能力、医療人としての素養を有し、①地域薬局や病院内で医療チームの一員として先導的な役割を果たす薬剤師、②研究マインドを持ち薬剤師として医療薬学分野の発展に貢献できる人材を養成することを目的としています。

3、設置場所 (アクセス)

〒525 - 8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1  
立命館大学 びわこ・くさつキャンパス



駅名	交通手段	所要時間	備考
京阪 中書島駅	直行便バス	約35分	平日 中書島発15便 大学発14便 (土日祝は運行しません。)
JR 大津駅	直行便バス	約25分	平日16往復 (土日祝は運行しません。)
JR 大阪駅	JR	約50分	
JR 京都駅	JR	約20分	
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄 (京都駅経由)	約65分	
JR 三ノ宮駅	JR	約75分	
南草津駅	近江鉄道バス	約15分	「立命館大学行き」または「立命館大学経由」「飛鳥グリーンヒル行き」

#### 4、他大学薬学部4年制学科について

薬学部4年制学科を設置している私立大学13校の初年度学納金は以下の通りです。立命館大学の初年度学納金は1,890,000円を予定しています。

【私立大学薬学部4年制課程の学生納付金 単位：円】

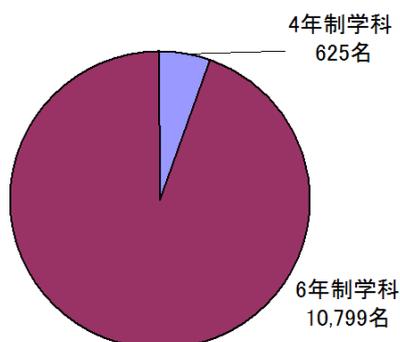
	入学金	授業料他	初年度合計
東北薬科大学薬学部生命薬科学科	350,000	1,430,000	1,780,000
城西大学薬学部薬科学科	500,000	2,021,000	2,521,000
城西大学薬学部薬医療栄養学科	400,000	1,866,000	2,266,000
千葉科学大学薬学部生命薬科学科	300,000	1,450,000	1,750,000
北里大学薬学部生命創薬科学科	400,000	1,650,000	2,050,000
慶応義塾大学薬学部薬科学科	200,000	1,840,000	2,040,000
東京理科大学薬学部生命創薬科学科	300,000	1,645,000	1,945,000
星薬科大学薬学部創薬科学科	400,000	1,630,000	2,030,000
明治薬科大学薬学部生命創薬科学科	400,000	1,600,000	2,000,000
日本薬科大学薬学部医療ビジネス薬科学科	300,000	1,200,000	1,500,000
大阪薬科大学薬学部薬科学科	400,000	1,800,000	2,200,000
近畿大学薬学部創薬科学科	250,000	1,365,000	1,615,000
武庫川女子大学薬学部健康生命薬科学科	350,000	1,453,000	1,803,000
九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科	300,000	1,496,000	1,796,000
立命館大学薬学部創薬科学科(仮称)	300,000	1,590,000 (2年目以降は 1,750,000)	1,890,000

#### 5、他大学薬学部4年制学科について

私立大学でみると、6年制学科の入学定員は10,799名に対し4年制学科の入学定員はわずか625名となっています。また、西日本において薬学部4年制学科を設置しているのは4校のみであり、入学定員では東日本の495名に対し西日本はわずか130名に過ぎません。東西で大きな偏りがあるため、関西に拠点をおく本学としては、創薬系人材の育成に貢献していきたいと考えています。

【平成25年度 私立大学薬学部4年制学科、6年制学科の入学定員】

【薬学部に4年制学科を設置している私立大学】



大学名	大学区分	学科名	入学定員(名)
東北薬科大学	私立	生命薬科学科	40
城西大学	私立	薬科学科	50
日本薬科大学	私立	医療ビジネス薬科学科	90
東京理科大学	私立	生命創薬科学科	100
千葉科学大学	私立	生命薬科学科	40
北里大学	私立	生命創薬科学科	35
慶応義塾大学	私立	薬科学科	60
星薬科大学	私立	創薬科学科	20
明治薬科大学	私立	生命創薬科学科	60
大阪薬科大学	私立	薬科学科	30
近畿大学	私立	創薬科学科	30
武庫川女子大学	私立	健康生命薬科学科	40
九州保健福祉大学	私立	動物生命薬科学科	30

【参考：国公立大学の薬学部4年制学科設置状況】

大学区分	大学名	学科名	入学定員(名)
国立	北海道大学	薬科学科	50
国立	東北大学	創薬学科	60
国立	千葉大学	薬科学科	40
国立	東京大学	薬科学科	72
国立	富山大学	創薬科学科	50
国立	金沢大学	創薬科学類	40
公立	静岡県立大学	薬科学科	40
公立	名古屋市立大学	生命薬科学科	40
公立	岐阜薬科大学	薬科学科	40

大学区分	大学名	学科名	入学定員(名)
国立	京都大学	薬科学科	50
国立	大阪大学	薬科学科	55
国立	岡山大学	創薬科学科	40
国立	広島大学	薬科学科	22
国立	徳島大学	創製薬科学科	40
国立	九州大学	創薬科学科	49
国立	長崎大学	薬科学科	40
国立	熊本大学	創薬・生命薬科学科	35

以上

アンケート調査表

※このアンケートは文部科学省への設置申請に活かしていく予定です。その他の目的で取得した情報を第三者に提供することはありません。

**Q1. 性別**

- ① 男子      ② 女子

**Q2. あなたの考えている進路についてお答えください。**

- ① 大学進学(文系) ② 大学進学(理系) ③ 専門学校進学 ④ 就職 ⑤ その他(            )

**Q3 以降は Q2 で「②大学進学(理系)」と回答した方のみご回答ください。****Q3. 進路として以下のどの領域を検討していますか？**

- ① 理工系 ② 情報系 ③ 生命科学系 ④ 医歯薬看護系 ⑤ その他(            )

**Q4. 立命館大学薬学部が構想している「創薬科学科 (仮称)」について、どのような印象を持ちましたか？以下の質問に対して、当てはまる項目をお選びください。**

Q4-1 輩出する人材は、これからの社会において需要が高い。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

Q4-2.将来性がある。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

Q4-3.卒業後の進路がイメージし易い。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

Q4-4.就職に有利である。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

**Q5. 立命館大学薬学部「創薬科学科 (仮称)」に合格すれば進学を希望しますか？**

- ① 進学を希望する ② 進学先の候補として考える ③ 希望しない ④ わからない

以上

ご協力ありがとうございました。

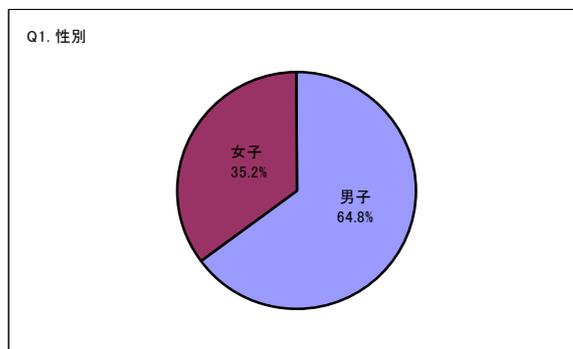
<資料10. 一般高校生を対象としたアンケートの集計結果>

## 一般高等学校の平成27年3月卒業予定学生に対するアンケート結果 (回答数35校 5253)

立命館大学薬学部4年制創薬科学科(仮称)設置に関するアンケート

### Q1. 性別

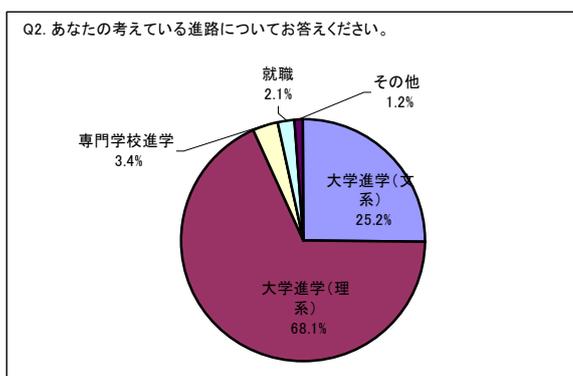
回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
男子	3403	64.8%
女子	1850	35.2%
合計	5253	100.0%



### Q2. あなたの考えている進路についてお答えください。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
大学進学(文系)	1328	25.2%
大学進学(理系)	3592	68.1%
専門学校進学	182	3.4%
就職	110	2.1%
その他	64	1.2%
合計 ※	5276	100.0%

※無回答8

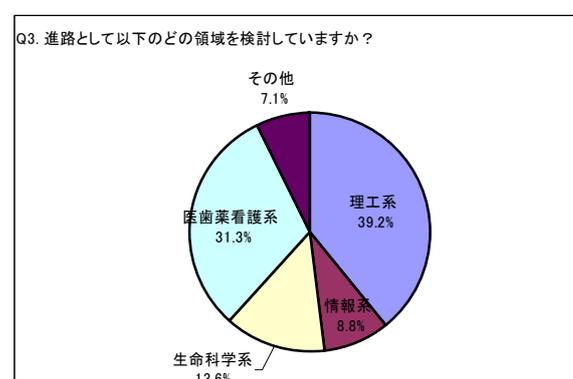


### Q3以降はQ2で「大学進学(理系)」と回答した方のみ回答

### Q3. 進路として以下のどの領域を検討していますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
理工系	1423	39.2%
情報系	320	8.8%
生命科学系	495	13.6%
医歯薬看護系	1137	31.3%
その他	259	7.1%
合計 ※	3634	100.0%

※複数回答あり、無回答44

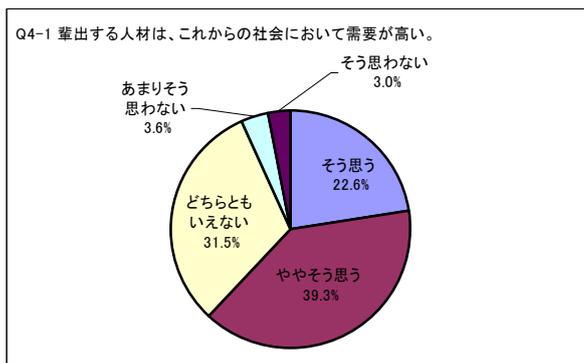


Q4. 立命館大学薬学部が構想している「創薬科学科(仮称)」について、どのような印象を持ちましたか？

Q4-1 輩出する人材は、これからの社会において需要が高い。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	808	22.6%
ややそう思う	1404	39.3%
どちらとも いえない	1127	31.5%
あまりそう 思わない	129	3.6%
そう 思わない	106	3.0%
合計 ※	3574	100.0%

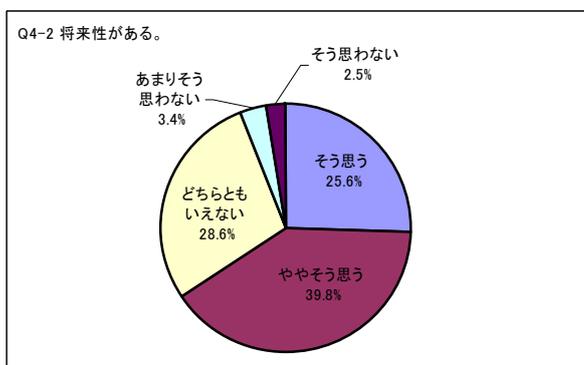
※無回答18



Q4-2 将来性がある。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	917	25.6%
ややそう思う	1426	39.8%
どちらとも いえない	1024	28.6%
あまりそう 思わない	122	3.4%
そう 思わない	91	2.5%
合計 ※	3580	100.0%

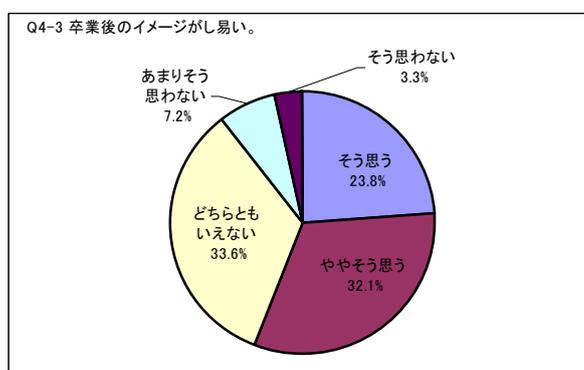
※無回答12



Q4-3 卒業後のイメージがし易い。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	851	23.8%
ややそう思う	1151	32.1%
どちらとも いえない	1204	33.6%
あまりそう 思わない	258	7.2%
そう 思わない	118	3.3%
合計 ※	3582	100.0%

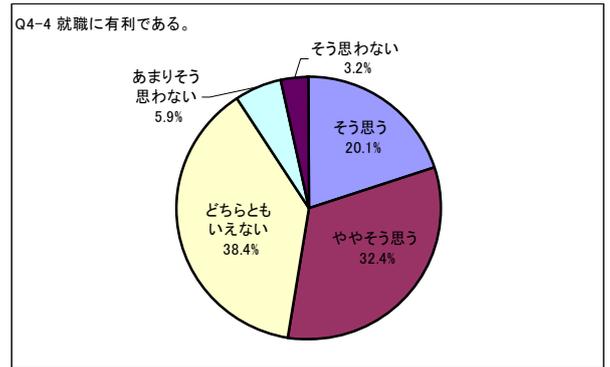
※複数回答あり、無回答11



Q4-4 就職に有利である。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	718	20.1%
ややそう思う	1160	32.4%
どちらとも いえない	1376	38.4%
あまりそう 思わない	211	5.9%
そう 思わない	115	3.2%
合計 ※	3580	100.0%

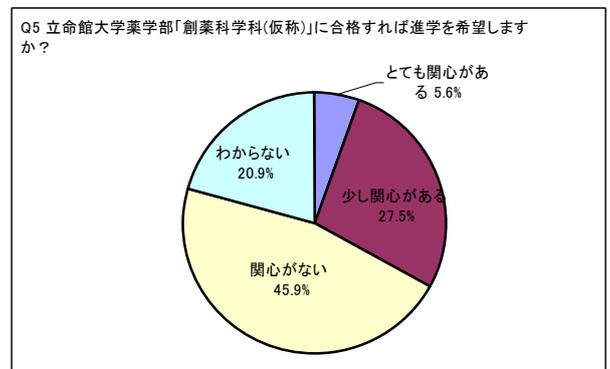
※無回答12



Q5 立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」に合格すれば進学を希望しますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
進学を希望する	202	5.6%
進学先の候補として考える	985	27.5%
希望しない	1645	45.9%
わからない	748	20.9%
合計 ※	3580	100.0%

※無回答12



<資料 11. 2013(平成 25)年度 薬系大学入学定員一覧>

	大学名		6年制学科	4年制学科
			入学定員	入学定員
1	北海道大学	国立	30	50
2	東北大学	国立	20	60
3	千葉大学	国立	40	40
4	東京大学	国立	8	72
5	富山大学	国立	55	50
6	金沢大学	国立	35	40
7	静岡県立大学	公立	80	40
8	名古屋市立大学	公立	60	40
9	岐阜薬科大学	公立	80	40
10	京都大学	国立	30	50
11	大阪大学	国立	25	55
12	岡山大学	国立	40	40
13	広島大学	国立	38	22
14	徳島大学	国立	40	40
15	九州大学	国立	30	49
16	長崎大学	国立	40	40
17	熊本大学	国立	55	35
18	北海道医療大学	私立	160	
19	北海道薬科大学	私立	210	
20	青森大学	私立	90	
21	岩手医科大学	私立	160	
22	東北薬科大学	私立	300	40
23	奥羽大学	私立	140	
24	いわき明星大学	私立	90	
25	国際医療福祉大学	私立	180	
26	高崎健康福祉大学	私立	90	
27	城西大学	私立	250	50
28	日本薬科大学	私立	260	90
29	東邦大学	私立	220	
30	日本大学	私立	240	
31	東京理科大学	私立	100	100
32	千葉科学大学	私立	120	40
33	城西国際大学	私立	130	
34	帝京平成大学	私立	240	
35	北里大学	私立	250	35
36	慶応義塾大学	私立	150	60
37	昭和大学	私立	200	
38	星薬科大学	私立	260	20
39	東京薬科大学	私立	420	
40	明治薬科大学	私立	300	60
41	武蔵野大学	私立	145	
42	昭和薬科大学	私立	240	
43	帝京大学	私立	320	

	大学名		6年制学科	4年制学科
			入学定員	入学定員
44	横浜薬科大学	私立	360	
45	新潟薬科大学	私立	180	
46	北陸大学	私立	306	
47	名城大学	私立	250	
48	金城学院大学	私立	150	
49	愛知学院大学	私立	145	
50	鈴鹿医療科学大学	私立	100	
51	立命館大学	私立	100	
52	京都薬科大学	私立	360	
53	同志社女子大学	私立	120	
54	大阪薬科大学	私立	270	30 (6年制と一括募集)
55	近畿大学	私立	150	30
56	摂南大学	私立	220	
57	大阪大谷大学	私立	140	
58	神戸学院大学	私立	250	
59	神戸薬科大学	私立	270	
60	兵庫医療大学	私立	150	
61	武庫川女子大学	私立	210	40
62	姫路独協大学	私立	100	
63	就実大学	私立	120	
64	安田女子大学	私立	120	
65	福山大学	私立	150	
66	広島国際大学	私立	160	
67	徳島文理大学	私立	180	
68	徳島文理大学香川	私立	90	
69	松山大学	私立	100	
70	第一薬科大学	私立	173	
71	福岡大学	私立	230	
72	長崎国際大学	私立	120	
73	崇城大学	私立	120	
74	九州保健福祉大学	私立	140	30

＜資料12. 2013(平成25)年度立命館大学出身都道府県別志願者数・合格者数・在籍者数＞

都道府県		志願者数	合格者数	在籍者数
北海道・東北	北海道	605	219	786
	青森	81	26	31
	岩手	83	31	61
	宮城	329	127	153
	秋田	80	29	30
	山形	90	19	43
	福島	176	52	73
	小計	1,444	503	1,177
関東	茨城	382	119	160
	栃木	284	88	134
	群馬	305	111	162
	埼玉	434	122	175
	千葉	433	147	198
	東京	1,162	358	360
	神奈川	653	194	208
	小計	3,653	1,139	1,397
甲信越	新潟	471	165	159
	山梨	199	44	69
	長野	934	320	331
	小計	1,604	529	559
北陸	富山	1,347	519	313
	石川	1,425	547	374
	福井	1,199	384	347
	小計	3,971	1,450	1,034

都道府県		志願者数	合格者数	在籍者数
東海	岐阜	2,378	919	634
	静岡	2,374	838	706
	愛知	7,860	2,899	1,954
	三重	2,631	842	678
	小計	15,243	5,498	3,972
	近畿	滋賀	5,638	1,645
京都		7,051	1,993	5,955
大阪		15,140	4,743	5,520
兵庫		6,861	2,177	2,233
奈良		2,855	933	1,002
和歌山		1,122	398	363
小計	38,667	11,889	17,657	
中国	鳥取	557	195	127
	島根	344	135	79
	岡山	1,425	469	453
	広島	3,717	1,261	948
	山口	1,414	397	377
	小計	7,457	2,457	1,984
四国	徳島	451	195	205
	香川	1,209	407	361
	愛媛	1,106	411	359
	高知	667	206	203
小計	3,433	1,219	1,128	

都道府県		志願者数	合格者数	在籍者数
九州	福岡	3,603	1,228	1,100
	佐賀	453	148	177
	長崎	395	146	147
	熊本	695	222	200
	大分	419	132	172
	宮崎	258	80	109
	鹿児島	523	180	163
	沖縄	202	60	79
	小計	6,548	2,196	2,147
	その他	617	167	1,225
総計	82,637	27,047	32,280	

【近畿圏内・近畿圏外比率】

	志願者数	合格者数	在籍者数
近畿圏内人数	38,667	11,889	17,657
(比率)	46.8%	44.0%	54.7%
近畿圏外人数	43,353	14,991	13,398
(比率)	52.5%	55.4%	41.5%
その他	617	167	1,225
(比率)	0.7%	0.6%	3.8%

※都道府県は出身高等学校等の所在地を基に集計

※その他は高卒認定・大検・海外など

※在籍者数は、2013年5月現在の全学部数

<資料13. 私立大学薬学部4年制課程の学生納付金>

	入学金	授業料他	初年度合計
東北薬科大学薬学部生命薬科学科	350,000	1,430,000	1,780,000
城西大学薬学部薬科学科	500,000	2,021,000	2,521,000
城西大学薬学部薬医療栄養学科	400,000	1,866,000	2,266,000
千葉科学大学薬学部生命薬科学科	300,000	1,450,000	1,750,000
北里大学薬学部生命創薬科学科	400,000	1,650,000	2,050,000
慶応義塾大学薬学部薬科学科	200,000	1,840,000	2,040,000
東京理科大学薬学部生命創薬科学科	300,000	1,645,000	1,945,000
星薬科大学薬学部創薬科学科	400,000	1,630,000	2,030,000
明治薬科大学薬学部生命創薬科学科	400,000	1,600,000	2,000,000
日本薬科大学薬学部医療ビジネス薬科学科	300,000	1,200,000	1,500,000
大阪薬科大学薬学部薬科学科	400,000	1,800,000	2,200,000
近畿大学薬学部創薬科学科	250,000	1,365,000	1,615,000
武庫川女子大学薬学部健康生命薬科学科	350,000	1,453,000	1,803,000
九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科	300,000	1,496,000	1,796,000
立命館大学薬学部創薬科学科	300,000	1,590,000 (2年目以降は 1,750,000)	1,890,000

(単位：円)

<資料14. 製薬企業を対象としたアンケート>

立命館大学薬学部創薬科学科(仮称)の設置について (構想案)

※予定であり変更の可能性があります。

1、設置の理念および概要

明治以来の日本の薬学教育は、「医療現場で活躍する薬剤師」と「薬を生み出す創薬研究者」というふたつの人材育成目標を掲げながらひとつの教育システムとして発展してきました。しかしながら21世紀を迎えて、臨床における診断技術や治療法・予防法が日々高度化してきている中、より高度な薬剤師の育成が求められるようになり、こうしたニーズを受けて2006(平成18)年4月に学校教育法、薬剤師法が改正され、薬の専門家である薬剤師を養成する薬学教育の6年制学士課程と、薬学基礎系として従来型の4年制学士課程の2つの薬学教育課程がスタートしました。

2006(平成18)年4月の新課程のスタートにあたって、医療人としての薬剤師の質的向上とその地位の向上を目指した6年制薬学教育課程が着実に成果をあげている一方で、全国の私立薬学部・薬科大学が一斉に6年制課程に舵をきったことから4年制と6年制の学生定員に大きな偏りが生まれ、「創薬人材の育成」というもうひとつの重要な役割を果たすことが困難になってきています。

このたびの本学薬学部の新学科設置は、「医療薬学」と「創薬科学」の2つの薬学教育システムをバランスよく機能させ、医療の発展と国民の健康増進に貢献できる多様な人材を多分野に輩出することを目的としています。2015(平成27)年度より「創薬科学科(仮称)」を設置し、「薬学科(6年制)」との二学科体制として新たに展開することで、総合大学としての強みを生かし、医療系人材のみならず、創薬系の人材育成においても貢献していきたいと考えています。

<薬学部4年制新学科の名称、定員等>

学科名	学位	修業年限	入学定員	開設年度
創薬科学科	薬科学	4年	60名	2015年(予定)

<カリキュラム、特色>

「創薬科学科(仮称)」はまず、低回生で物理、化学、生物を基盤とする基礎薬学を学びます。そのうえで、2年次以降は、創薬科学に関する専門的な必修科目、選択科目を配置し、人材育成目標と進路に基づいた系統的な履修を行います。3年次後期より卒業研究室に配属させ、先端科学や医療に関連した選択科目を学びながら、それぞれの専門分野で研究します。

創薬研究者志望の科目選択の目安として、A. 創薬研究者(化学系)、B. 創薬研究者(生物系)の履修モデルを設定します。また、薬学・医学の知識を基盤として臨床開発・医薬品情報担当者を志望する場合の科目選択の目安として、C. 臨床開発・医薬品情報担当者の履修モデルを設定します。

2、養成する人材像

薬学部は、薬学を基盤として人の健康にかかわる自然科学を学び、基礎薬学から臨床

薬学までの専門知識と研究力を修得します。医薬品等を通じて人の生命や健康にかかわるといふ使命感や倫理観を持ち、人類の健康と幸福に貢献し、グローバルに活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の具体的育成目的は下記の通りです。

### 創薬科学科（仮称）

創薬の高度な専門知識と研究力を有し、医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を養成することを目的としています。

### 薬学科（参考）

医薬品についての高度な専門知識、実務能力、医療人としての素養を有し、①地域薬局や病院内で医療チームの一員として先導的な役割を果たす薬剤師、②研究マインドを持ち薬剤師として医療薬学分野の発展に貢献できる人材を養成することを目的としています。

## 3、設置場所（アクセス）

〒525 - 8577 滋賀県草津市野路東1丁目1-1

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス



出発駅	乗り換え	所要時間	備考
京阪 中書島駅	直行便バス	約30分	平日 中書島発15便 大学発14便（土日祝は運行しません）
JR 大津駅	直行便バス	約25分	平日16往復（土日祝は運行しません）
JR 大阪駅	JR	47分	
JR 京都駅	JR	17分	
JR・近鉄 奈良駅	JR・近鉄	約60分	（京都駅経由）
JR 三ノ宮駅	JR	約70分	
	近江鉄道バス	約10分	「立命館大学行き」または「立命館大学経由（熱島グリーンヒル行き）」

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス

## 4、学生納付金（他大学既設学部）

薬学部4年制学科を設置している私立大学13校の初年度学納金は以下の通りです。立命館大学の初年度学納金は1,700,000～1,900,000円程度を予定しています。

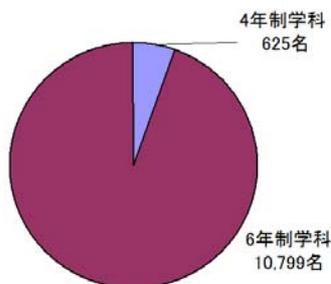
<私立大学薬学部4年制課程の学生納付金 単位：円>

	入学金	授業料他	初年度合計
東北薬科大学薬学部生命薬科学科	350,000	1,430,000	1,780,000
城西大学薬学部薬科学科	500,000	2,021,000	2,521,000
城西大学薬学部薬医療栄養学科	400,000	1,866,000	2,266,000
千葉科学大学薬学部生命薬科学科	300,000	1,450,000	1,750,000
北里大学薬学部生命創薬科学科	400,000	1,650,000	2,050,000
慶応義塾大学薬学部薬科学科	200,000	1,840,000	2,040,000
東京理科大学薬学部生命創薬科学科	300,000	1,645,000	1,945,000
星薬科大学薬学部創薬科学科	400,000	1,630,000	2,030,000
明治薬科大学薬学部生命創薬科学科	400,000	1,600,000	2,000,000
日本薬科大学薬学部医療ビジネス薬科学科	300,000	1,200,000	1,500,000
大阪薬科大学薬学部薬科学科	400,000	1,800,000	2,200,000
近畿大学薬学部創薬科学科	250,000	1,365,000	1,615,000
武庫川女子大学薬学部健康生命薬科学科	350,000	1,453,000	1,803,000
九州保健福祉大学薬学部動物生命薬科学科	300,000	1,496,000	1,796,000
立命館大学薬学部創薬科学科(仮称)	初年度合計 1,700,000～1,900,000円程度		

## 5、他大学薬学部4年制学科の設置状況

私立大学でみると、6年制学科の入学定員は10,799名に対し4年制学科の入学定員はわずか625名となっています。また、西日本において薬学部4年制学科を設置しているのは4校のみであり、入学定員では東日本の495名に対し西日本はわずか130名に過ぎません。東西で大きな偏りがあるため、関西に拠点をおく本学としては、創薬系人材の育成に貢献していきたいと考えています。

<平成25年度 私立大学薬学部4年制学科、6年制学科の入学定員>



<薬学部に4年制学科を設置している私立大学>

大学名	大学区分	学科名	入学定員(名)
東北薬科大学	私立	生命薬科学科	40
城西大学	私立	薬科学科	50
日本薬科大学	私立	医療ビジネス薬科学科	90
東京理科大学	私立	生命創薬科学科	100
千葉科学大学	私立	生命薬科学科	40
北里大学	私立	生命創薬科学科	35
慶応義塾大学	私立	薬科学科	60
星薬科大学	私立	創薬科学科	20
明治薬科大学	私立	生命創薬科学科	60
大阪薬科大学	私立	薬科学科	30
近畿大学	私立	創薬科学科	30
武庫川女子大学	私立	健康生命薬学科	40
九州保健福祉大学	私立	動物生命薬科学科	30

(参考：国公立大学の薬学部4年制学科設置状況)

大学名	大学区分	学科名	入学定員(名)
北海道大学	国立	薬科学科	50
東北大学	国立	創薬学科	60
千葉大学	国立	薬科学科	40
東京大学	国立	薬科学科	72
富山大学	国立	創薬科学科	50
金沢大学	国立	創薬科学類	40
静岡県立大学	公立	薬科学科	40
名古屋市立大学	公立	生命薬科学科	40
岐阜薬科大学	公立	薬科学科	40
京都大学	国立	薬科学科	50
大阪大学	国立	薬科学科	55
岡山大学	国立	創薬科学科	40
広島大学	国立	薬科学科	22
徳島大学	国立	創製薬科学科	40
九州大学	国立	創薬科学科	49
長崎大学	国立	薬科学科	40
熊本大学	国立	創薬・生命薬科学科	35

以上

アンケート調査表

**Q1.** 御社において、薬学部 4 年制学科を卒業していることは強みになりますか？

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

**Q2.** (Q1 で①②を回答された方のみ) 薬学部 4 年制学科を卒業していることは、どの分野において強みになりますか？

- ① 研究 ② 開発 ③ 医薬情報担当者 ④ 学術 ⑤ その他 ( )

**Q3.** 薬学部 4 年制学科を卒業した人材は御社にとって必要ですか？

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

**Q4.** 御社において、薬学部 4 年制学科を卒業し修士以上の学位を取得していることは強みになりますか？

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

**Q5.** (Q4 で①②を回答された方のみ) 薬学部 4 年制学科を卒業し修士以上の学位を取得していることは、どの分野において強みになりますか？

- ① 研究 ② 開発 ③ 医薬情報担当者 ④ 学術 ⑤ その他 ( )

**Q6.** 薬学部 4 年制学科を卒業し修士以上の学位を取得した人材は御社にとって必要ですか？

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

**Q7.** 薬学部の 4 年制学科を卒業した人材が増えることは望ましいと思いますか？

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

**Q8.** 立命館大学薬学部が構想している「創薬科学科 (仮称)」について、どのような印象を持ちましたか？以下の質問に対して、当てはまる項目をお選びください。

Q8-1 輩出する人材 (卒業後) は、これからの社会において需要が高い。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

Q8-2. 将来性がある。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない

Q8-3. 卒業後の進路がイメージしやすい。

- ① そう思う ② ややそう思う ③ どちらともいえない ④ あまりそう思わない ⑤ そう思わない



<資料15. 製薬企業を対象としたアンケートの集計結果>

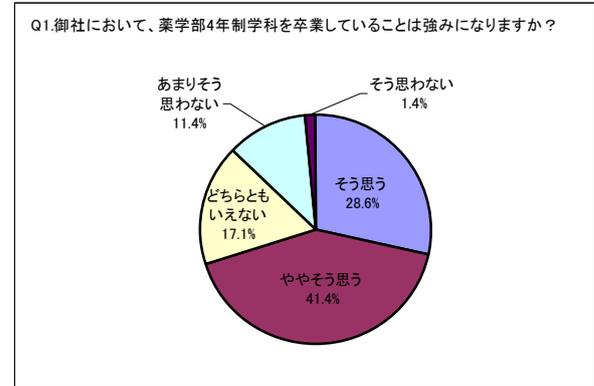
## 製薬企業に対するアンケート結果(回答数71)

立命館大学薬学部4年制創薬科学科(仮称)設置に関するアンケート

Q1.御社において、薬学部4年制学科を卒業していることは強みになりますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	20	28.6%
ややそう思う	29	41.4%
どちらとも いえない	12	17.1%
あまりそう 思わない	8	11.4%
そう 思わない	1	1.4%
合計 ※	70	100.0%

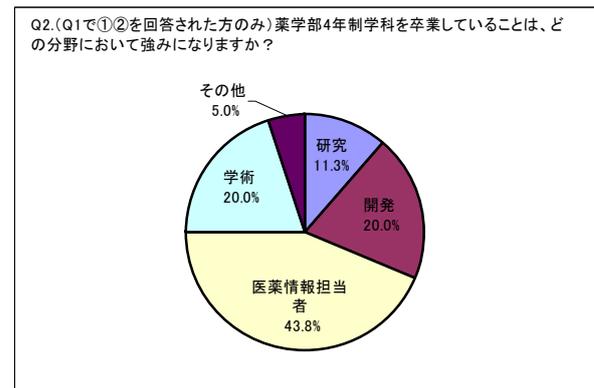
※無回答1



Q2.(Q1で①②を回答された方のみ)薬学部4年制学科を卒業していることは、どの分野において強みになりますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
研究	9	11.3%
開発	16	20.0%
医薬情報担当者	35	43.8%
学術	16	20.0%
その他	4	5.0%
合計 ※	80	100.0%

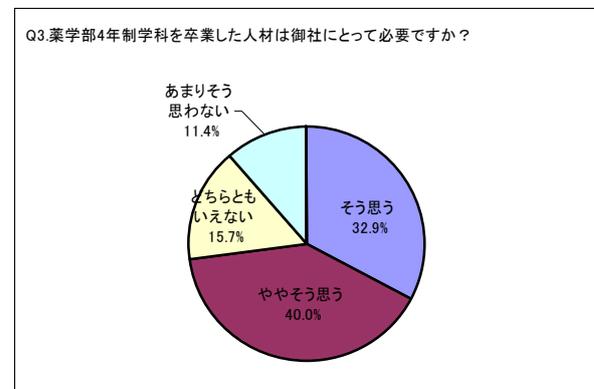
※複数回答あり



Q3.薬学部4年制学科を卒業した人材は御社にとって必要ですか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	23	32.9%
ややそう思う	28	40.0%
どちらとも いえない	11	15.7%
あまりそう 思わない	8	11.4%
そう 思わない	0	0.0%
合計 ※	70	100.0%

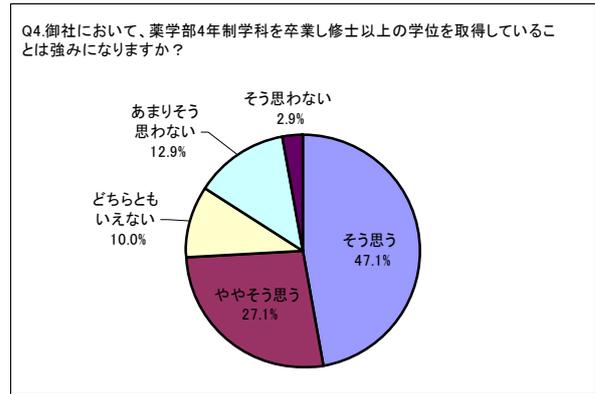
※無回答1



Q4.御社において、薬学部4年制学科を卒業し修士以上の学位を取得していることは強みになりますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	33	47.1%
ややそう思う	19	27.1%
どちらとも いえない	7	10.0%
あまりそう 思わない	9	12.9%
そう思わない	2	2.9%
合計 ※	70	100.0%

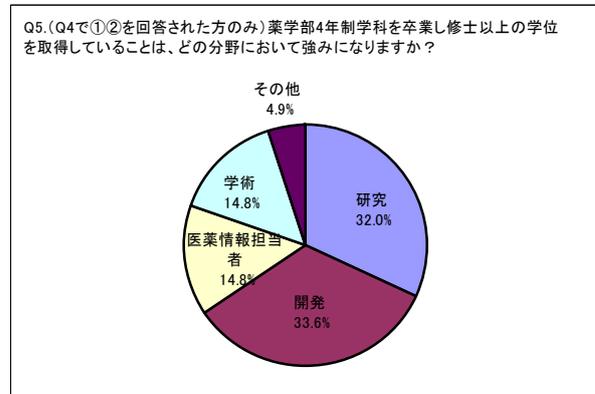
※無回答1



Q5.(Q4で①②を回答された方のみ)薬学部4年制学科を卒業し修士以上の学位を取得していることは、どの分野において強みになりますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
研究	39	32.0%
開発	41	33.6%
医薬情報担当者	18	14.8%
学術	18	14.8%
その他	6	4.9%
合計 ※	122	100.0%

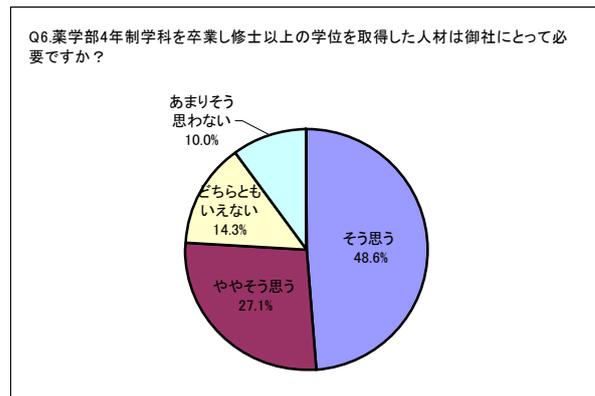
※複数回答あり



Q6.薬学部4年制学科を卒業し修士以上の学位を取得した人材は御社にとって必要ですか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	34	48.6%
ややそう思う	19	27.1%
どちらとも いえない	10	14.3%
あまりそう 思わない	7	10.0%
そう思わない	0	0.0%
合計 ※	70	100.0%

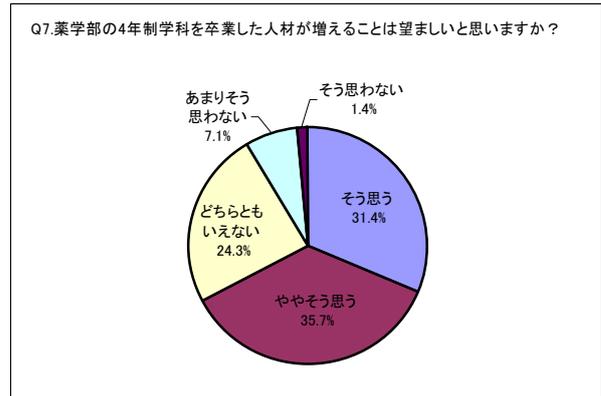
※無回答1



Q7.薬学部の4年制学科を卒業した人材が増えることは望ましいと思いますか？

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	22	31.4%
ややそう思う	25	35.7%
どちらとも いえない	17	24.3%
あまりそう 思わない	5	7.1%
そう 思わない	1	1.4%
合計 ※	70	100.0%

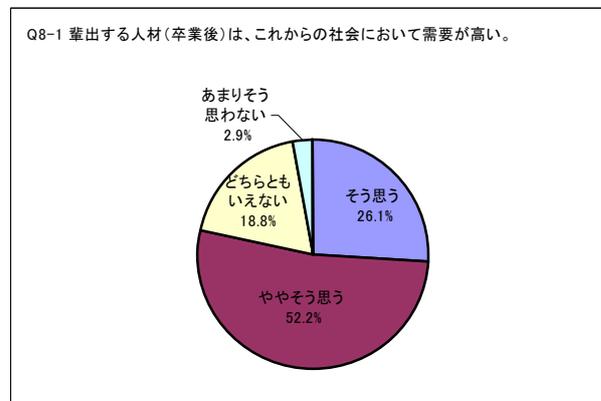
※無回答1



Q8.立命館大学薬学部が構想している「創薬科学科(仮称)」について、どのような印象を持ちましたか？  
Q8-1 輩出する人材(卒業後)は、これからの社会において需要が高い。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	18	26.1%
ややそう思う	36	52.2%
どちらとも いえない	13	18.8%
あまりそう 思わない	2	2.9%
そう 思わない	0	0.0%
合計 ※	69	100.0%

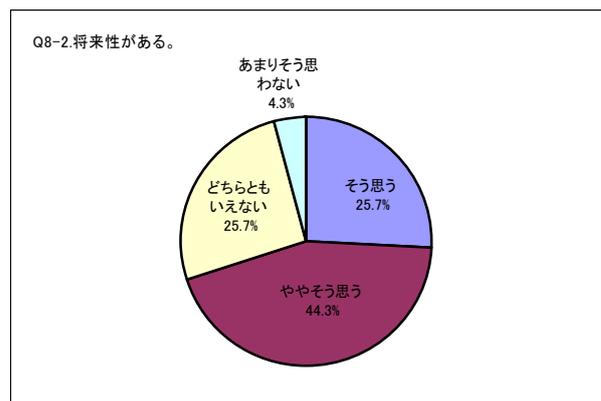
※無回答2



Q8-2.将来性がある。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	18	25.7%
ややそう思う	31	44.3%
どちらとも いえない	18	25.7%
あまりそう 思わない	3	4.3%
そう 思わない	0	0.0%
合計 ※	70	100.0%

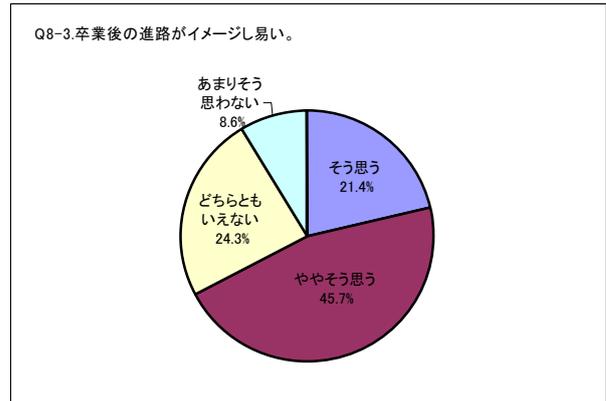
※無回答1



Q8-3.卒業後の進路がイメージしやすい。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	15	21.4%
ややそう思う	32	45.7%
どちらとも いえない	17	24.3%
あまりそう 思わない	6	8.6%
そう 思わない	0	0.0%
合計 ※	70	100.0%

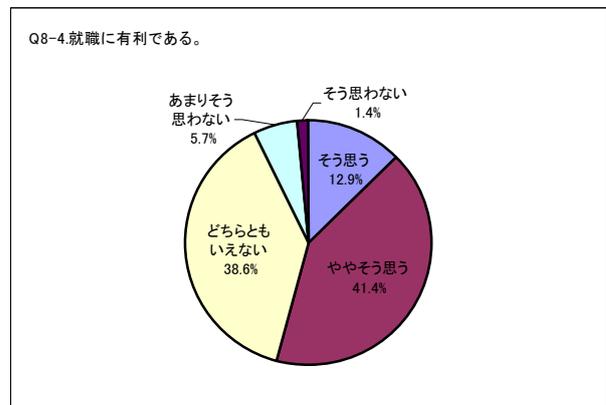
※無回答1



Q8-4.就職に有利である。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	9	12.9%
ややそう思う	29	41.4%
どちらとも いえない	27	38.6%
あまりそう 思わない	4	5.7%
そう 思わない	1	1.4%
合計 ※	70	100.0%

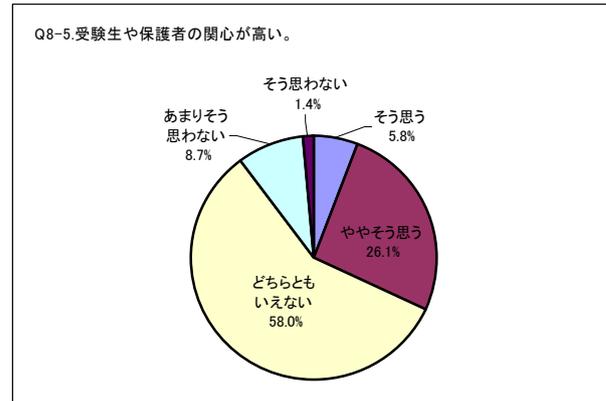
※無回答1



Q8-5.受験生や保護者の関心が高い。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	4	5.8%
ややそう思う	18	26.1%
どちらとも いえない	40	58.0%
あまりそう 思わない	6	8.7%
そう 思わない	1	1.4%
合計 ※	69	100.0%

※無回答2

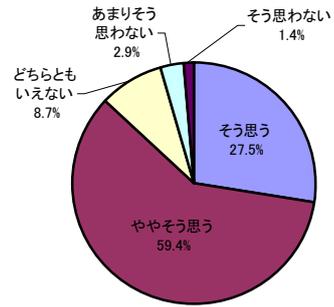


Q8-6.立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」の教育・研究に期待できる。

回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
そう思う	19	27.5%
ややそう思う	41	59.4%
どちらとも いえない	6	8.7%
あまりそう 思わない	2	2.9%
そう 思わない	1	1.4%
合計 ※	69	100.0%

※無回答2

Q8-6.立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」の教育・研究に期待できる。

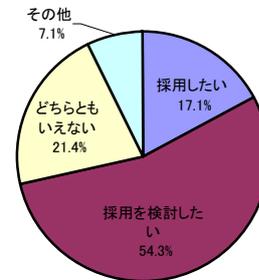


Q8-7.立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」の卒業生を採用したいですか？

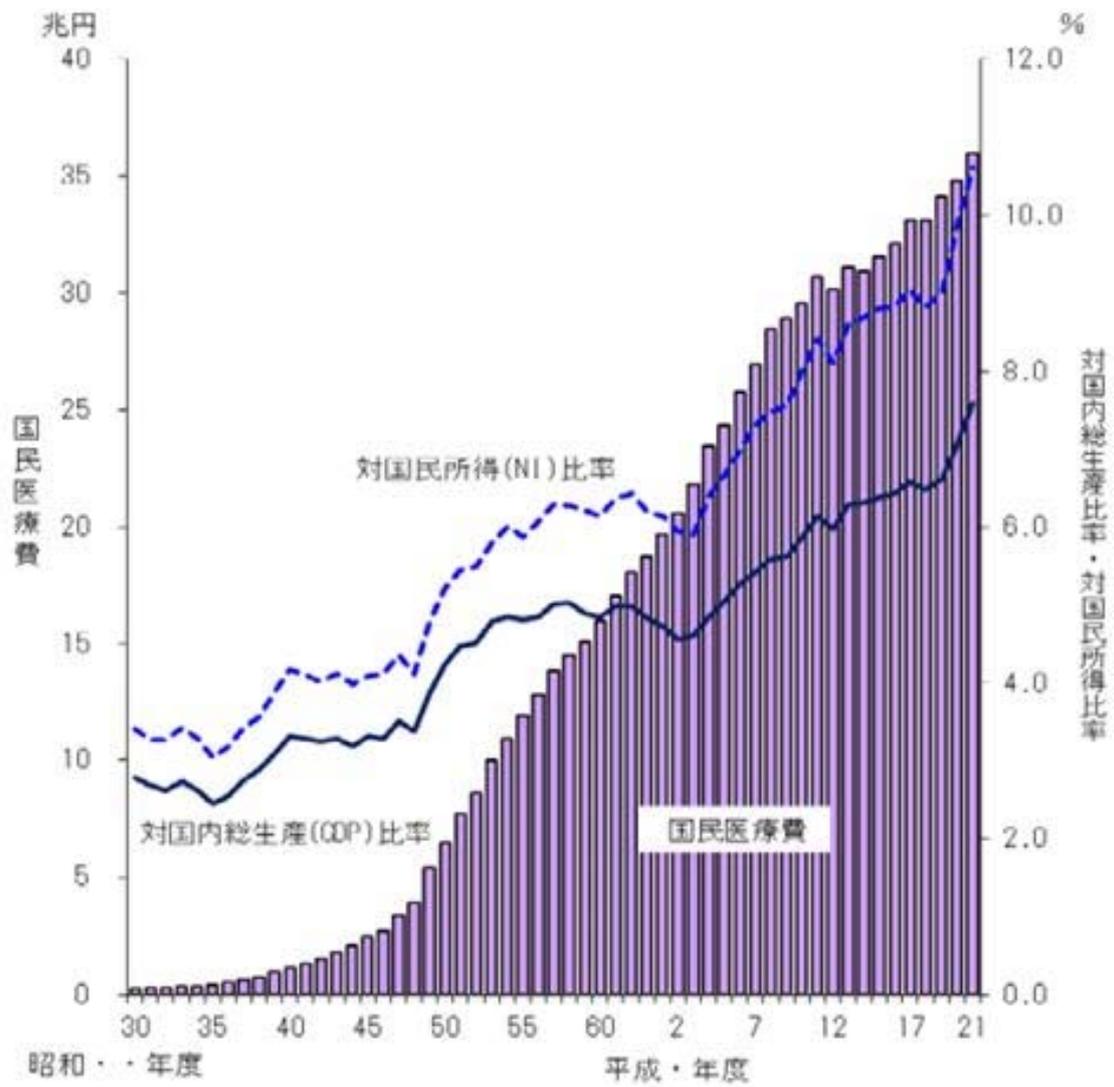
回答項目	回答数	割合 (回答数/ 全体回答 数)
採用したい	12	17.1%
採用を検討したい	38	54.3%
どちらとも いえない	15	21.4%
その他	5	7.1%
合計 ※	70	100.0%

※無回答1

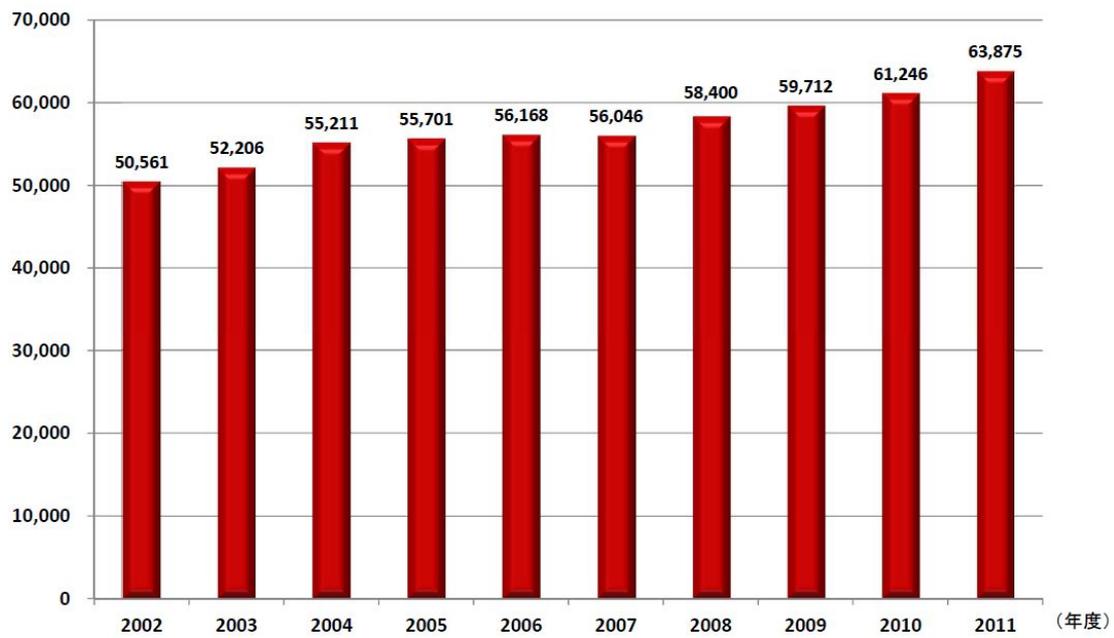
Q8-7.立命館大学薬学部「創薬科学科(仮称)」の卒業生を採用したいですか？



<資料 16. 国民医療費の年次推移（厚生労働省ホームページ）>



<資料 17. 医薬情報担当者数の推移（医薬品産業ビジョン 2013（厚生労働省））>  
(名)



出所:公益財団法人 MR認定センター  
「2012年版 MR白書 -MRの実態および教育研修の変動-」  
(2012年9月)をもとに、厚生労働省作成

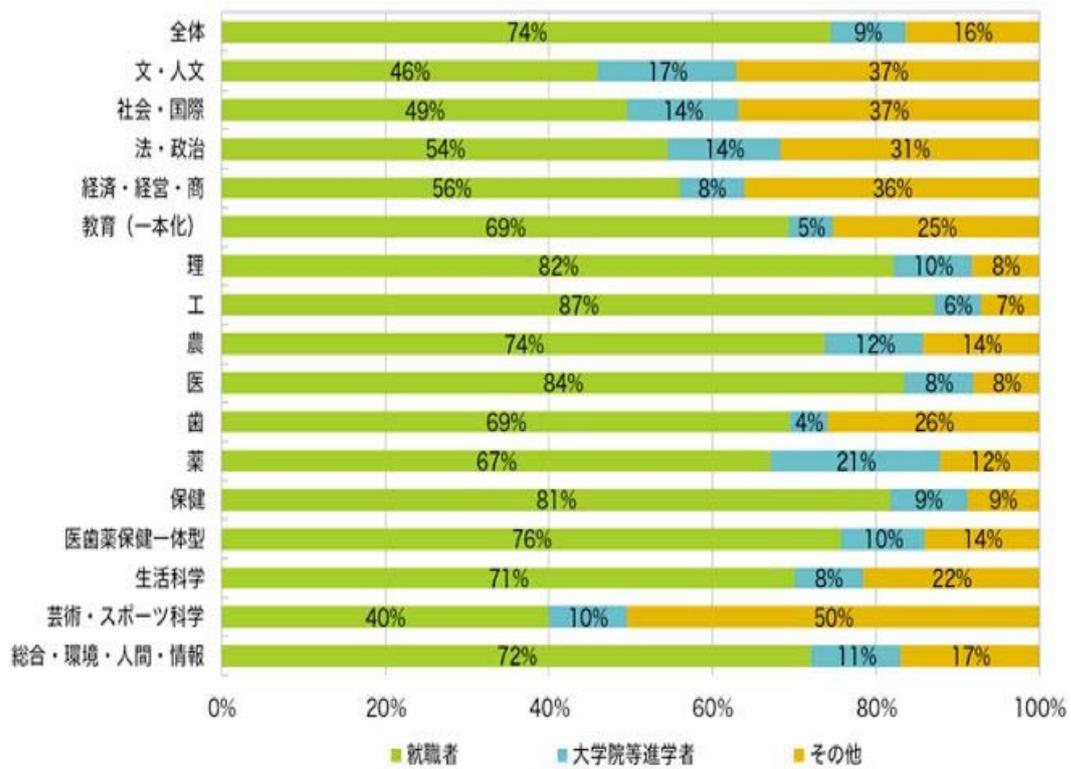
<資料 18. 2013(平成 25)年 3 月 国公立薬系 4 年制課程修了者進路の調査結果 (薬学教育協議会調べ) >

	国立大学		公立大学		私立大学	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
薬局	0	0.0	0	0.0	6	1.6
医薬品販売業	2	0.4	0	0.0	8	2.1
病院・診療所	0	0.0	0	0.0	1	0.3
試験・研究機関	1	0.2	0	0.0	0	0.0
大学	0	0.0	0	0.0	0	0.0
行政	1	0.2	0	0.0	8	2.1
医薬品関連企業	9	1.8	1	0.8	45	11.7
その他企業	7	1.4	1	0.8	34	8.9
教職 (中学・高校)	0	0.0	0	0.0	3	0.8
研究生	1	0.2	0	0.0	0	0.0
進学	454	92.8	113	95.8	248	64.6
就職せず	6	1.2	2	1.7	11	2.9
未定	5	1.0	1	0.8	14	3.6
その他	3	0.6	0	0.0	6	1.6
合計	489	100	118	100	384	100

<資料 19. 2013(平成 25)年 3 月 国公立薬系大学院修士修了者進路の調査結果 (薬学教育協議会調べ) >

	国公立大学		私立大学	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
薬局	0	0.0	3	0.9
病院	4	0.5	5	1.5
製薬 (営業)	21	2.8	11	3.3
製薬 (研究・開発)	288	38.6	67	20.2
化学・食品等	112	15.0	46	13.9
官公庁	21	2.8	4	1.2
教育職	3	0.4	9	2.7
その他	58	7.8	80	24.0
進学	208	27.8	60	18.0
就職せず	32	4.3	47	14.3
合計	747	100	332	100

<資料 20. 大学院修士課程・博士課程（前期）・一貫課程（4年制）修了後の進路（系統別）  
（朝日新聞と河合塾の共同調査「ひらく 日本の大学」（2012(平成24)年度））>



<資料 21. 医療用医薬品メーカー売上げ TOP20 の本社・研究・生産機能 (IMS 医薬品市場統計・2012(平成 24)年売上高) >

1	武田薬品工業	本社 (大阪)・研究所・工場 (大阪)
2	アステラス製薬	本社 (東京)・研究所 (茨城・静岡) 工場 ((小会社) 茨城・静岡他)
3	第一三共	本社 (東京)・工場 (大阪/神奈川他 (第一三共プロファーマ))
4	田辺三菱製薬	本社 (大阪)・研究所 (大阪)・工場 (大阪)
5	中外製薬	本社 (東京)・工場 (栃木・東京・静岡)
6	MSD	本社 (東京)・工場 (埼玉)
7	ノバルティスファーマ	本社 (東京) 工場 (兵庫)
8	エーザイ	本社 (東京)・研究所 (茨城)・工場 (埼玉)
9	ファイザー	本社 (東京)・工場 (愛知・神奈川)
10	グラクソ・スミスクライン	本社 (東京)・工場 (栃木)
11	大塚製薬	本社 (東京)・研究所 (徳島、滋賀、兵庫)・工場 (徳島、他)
12	サノフィ	本社 (東京) 工場 (埼玉)
13	協和発酵キリン	本社 (東京)・研究所 (大阪、他) 工場 (大阪、三重、他)
14	アストラゼネカ	本社 (大阪) 工場 (滋賀)
15	大日本住友製薬	本社 (大阪)・研究所 (大阪)・工場 (大阪、三重、他)
16	塩野義製薬	本社 (大阪)・研究所 (大阪、北海道)・工場 (大阪、岩手)
17	バイエル薬品	本社 (大阪)・工場 (滋賀)
18	日本イーライリリー	本社 (兵庫)
19	小野薬品	本社 (大阪)・研究所 (大阪、福井他)・工場 (大阪、静岡)
20	アボットジャパン	本社 (東京)・工場 (千葉・福井)

- I. 1. 書類等の題名  
「学生の確保の見通し等を記載した書類」 9 ページ  
【資料2】2009(平成21)年度～2013(平成25)年度の私立大学薬学部4年制課程の入学定員、志願者、入学者数
2. 引用元  
「日本私立薬科大学協会だより」 一般社団法人日本私立薬科大学協会  
第73号、第75号、第77号、第79号、第81号
3. 説明  
上記資料から一部引用し、平成21年度～平成25年度の私立大学薬学部4年制課程の入学定員、志願者、入学者数の表を本学において作成した。
- II. 1. 書類等の題名  
「学生の確保の見通し等を記載した書類」 10 ページ  
【資料3】2013(平成25)年私立大一般入試学部別系統別志願状況
2. 引用元  
旺文社教育情報センターホームページ 2013年私立大学入試志願者動向分析  
「グラフ4 2013年私立大一般入試学部別系統別志願状況」  
<http://eic.obunsha.co.jp/analysis/201305/html/1>
- III. 1. 書類等の題名  
「学生の確保の見通し等を記載した書類」 11 ページ  
【資料4】2013(平成25)年度入試における私立大学薬学部6年制、4年制併設校における入学定員・志願者数・志願倍率
2. 引用元  
・「日本私立薬科大学協会だより」 一般社団法人日本私立薬科大学協会  
第81号  
・各大学ホームページ
3. 説明  
上記資料から一部引用および各大学のホームページを元に、平成25年度入試における私立大学薬学部6年制、4年制併設校の入学定員・志願者数・志願倍率の表を本学において作成した。
- IV. 1. 書類等の題名  
「学生の確保の見通し等を記載した書類」 36 ページから 37 ページ  
【資料11】2013(平成25)年度 薬系大学入学定員一覧
2. 引用元  
・「日本私立薬科大学協会だより」 一般社団法人日本私立薬科大学協会  
第81号  
・各大学ホームページ
3. 説明

上記資料から一部引用および各大学のホームページを元に、平成 25 年度薬系大学入学定員一覧を本学において作成した。

V. 1. 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」 39 ページ

【資料13】私立大学薬学部4年制課程の学生納付金

2. 引用元

- ・「日本私立薬科大学協会だより」 一般社団法人日本私立薬科大学協会 第 81 号
- ・各大学ホームページ

3. 説明

上記資料から一部引用および各大学のホームページを元に、私立大学薬学部 4 年制課程の学生納付金の表を本学において作成した。

VI. 1. 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」 50 ページ

【資料16】国民医療費の年次推移

2. 引用元

厚生労働省ホームページ 平成 21 年度国民医療費の概況  
結果の概要「図 1 国民医療費の年次推移」

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-iryohi/09/kekka1.html>

VII. 1. 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」 51 ページ

【資料17】医薬情報担当者数の推移

2. 引用元

厚生労働省ホームページ 「医薬品産業ビジョン 2013」資料編  
「54. MR 数の推移」グラフ

[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryohi/iryohi/shinkou/dl/vision\\_2013b.pdf](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryohi/iryohi/shinkou/dl/vision_2013b.pdf)

VIII. 1. 書類等の題名

「学生の確保の見通し等を記載した書類」 52 ページ

【資料18】2013(平成25)年3月 国公立薬系4年制課程修了者進路の調査結果

2. 引用元

「平成 25 年 3 月薬系大学卒業生・大学院修了者就職動向調査の集計報告」  
(平成 25 年 11 月) 一般社団法人薬学教育協議会

3. 説明

上記引用元中、国公立薬系 4 年制課程修了者進路の調査結果を本学において一部抜粋した。

- IX. 1. 書類等の題名  
「学生の確保の見通し等を記載した書類」 53 ページ  
【資料19】2013(平成25)年3月 国公立薬系大学院修士修了者進路の調査結果
2. 引用元  
「平成 25 年 3 月薬系大学卒業生・大学院修了者就職動向調査の集計報告」  
(平成 25 年 11 月) 一般社団法人薬学教育協議会
3. 説明  
上記引用元中、国公立薬系大学院修士修了者進路の調査結果を本学において一部抜粋した。
- X. 1. 書類等の題名  
「学生の確保の見通し等を記載した書類」 54 ページ  
【資料20】大学院修士課程・博士課程（前期）・一貫課程（4年制）修了後の進路（系統別）
2. 引用元  
朝日新聞デジタル 朝日新聞×河合塾 共同調査「ひらく 日本の大学」  
2012 年度調査結果報告  
「図表 2 大学院修士課程・博士課程（前期）・一貫課程（4 年制）修了後の進路（系統別）」  
<http://www.asahi.com/edu/hiraku/hiraku2012/data13/>
- XI. 1. 書類等の題名  
「学生の確保の見通し等を記載した書類」 55 ページ  
【資料21】医療用医薬品メーカー売上げTOP20 の本社・研究・生産機能
2. 引用元  
IMS 医薬品市場統計 2012（平成 24）年売上高  
[https://www.ims-japan.co.jp/japanese/topline/dl/top\\_line\\_12YEj\\_.pdf](https://www.ims-japan.co.jp/japanese/topline/dl/top_line_12YEj_.pdf)
3. 説明  
上記引用元中、「3）製薬企業上位 20 社」のランキング表に、本学において本社位置等を調査のうえ加筆した。

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	カワグチ キヨフミ 川口 清史 <平成23年1月>		博士 (経済 学)		立命館大学政策科学部教授 (平成6年4月)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等													
(薬学部創薬科学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
1	専	教授	キタムラ ヨシヒサ 北村 佳久 <平成27年4月>		薬学博士		薬理学C ゲノム創薬科学 分析化学実習A 薬理学実習 卒業研究A 卒業研究B	3後 4前 1後 3前 3後 4通		2 2 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1	京都薬科大学 薬学部 准教授 (平成19.4)	5日
2	専	教授	スズキ ケンジ 鈴木 健二 <平成27年4月>		医学博士		創薬研究概論※ 公衆衛生学※ 環境衛生学 衛生化学 医薬品開発論 分析化学実習A 衛生化学実習 卒業研究A 卒業研究B	1後 2前 3前 2後 4前 1後 3後 3後 4通		0.9 0.7 2 2 2 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成20.4)	5日
3	専	教授	タカダ タツユキ 高田 達之 <平成27年4月>		農学博士		創薬研究概論※ 分子生物学 再生医療学 生化学・分子生物学実習 卒業研究A 卒業研究B	1後 2前 3後 3前 3後 4通		0.5 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成20.4)	5日
4	専	教授	トヨタ ヒデナオ 豊田 英尚 <平成27年4月>		博士 (薬学)		創薬科学基礎演習 分析化学A 機器分析化学 分析化学B 分析化学実習A 分析化学実習B 卒業研究A 卒業研究B	1前 1前 1後 2前 1後 1後 3後 4通		1 2 2 2 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成20.4)	5日
5	専	准教授	キタハラ リョウ 北原 亮 <平成27年4月>		博士 (理学)		情報処理演習※ 創薬科学基礎演習 物理化学B 構造生物学 物理化学実習A 物理化学実習B 卒業研究A 卒業研究B	1前 1前 1後 3後 2後 2後 3後 4通		0.3 1 2 2 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	立命館大学 薬学部 准教授 (平成20.4)	5日
6	専	准教授	コイケ チユウ 小池 千恵子 <平成27年4月>		博士 (薬学)		創薬科学基礎演習 放射化学※ 細胞生物学 分子神経科学 衛生化学実習 卒業研究A 卒業研究B	1前 2後 2前 3後 3後 3後 4通		0.7 2 2 2 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1	立命館大学 薬学部 准教授 (平成21.4)	5日
7	専	准教授	ドヒ トシフミ 土肥 寿文 <平成27年4月>		博士 (薬学)		創薬研究概論※ 有機化学C 医薬品製造学 合成化学 有機化学実習A 有機化学実習B 医薬品化学実習 卒業研究A 卒業研究B	1後 2前 3前 3後 2前 2前 3後 3後 4通		0.5 2 2 2 1 1 1 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1	立命館大学 薬学部 准教授 (平成26.4)	5日
8	専	助教	コノ ユウスケ 河野 裕允 <平成27年4月>		博士 (薬学)		物理化学実習A 薬剤学実習	2後 3後		1 1	1 1	立命館大学 薬学部 助教 (平成26.4)	5日
9	専	助教	コジマ アヤ 小嶋 絢 <平成27年4月>		博士 (薬学)		創薬科学基礎演習 生物統計学演習 分析化学実習A 分析化学実習B	1前 2前 1後 1後		1 1 1 1	1 1 1 1	立命館大学 薬学部 助教 (平成26.4)	5日
10	専	助教	ヒガキ ショウゴ 檜垣 彰吾 <平成27年4月>		博士 (獣医学)		生化学・分子生物学実習	3前		2	1	立命館大学 立命館グローバ ル・イノベーション ジョン研究機構 研究教員 助教 (平成25.10)	5日
11	兼任	教授	アガツマ ノブヒコ 我妻 伸彦 <平成28年4月>		学士 (経済学)		日本の経済【隔年】	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 経済学部 教授 (平成9.4)	
12	兼任	教授	アカホリ ジロウ 赤堀 次郎 <平成27年4月>		博士(数 理科学)		数学A(微分法) 数学B(積分法) 数学演習A	1前 1後 1前		2 2 1	1 1 1	立命館大学 理工学部 教授 (平成10.4)	
13	兼任	教授	アサノ シンジ 浅野 真司 <平成27年4月>		薬学博士		人体の構造と機能A 生化学A 生化学B 生化学・分子生物学実習	1後 1後 2前 3前		2 2 2 2	1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成20.4)	
14	兼任	教授	イケヤ コキノブ 池谷 幸信 <平成27年4月>		薬学博士		日本語表現法 漢方医療薬学※ 有機化学実習A 有機化学実習B 生薬・天然物化学実習	1前 4前 2前 2前 3前		2 0.9 1 1 1	1 1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成20.4)	
15	兼任	教授	イサカ タダオ 伊坂 忠夫 <平成27年4月>		博士 (工学)		スポーツ方法実習 I スポーツ方法実習 II	1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1	1 1	立命館大学 スポーツ健康科 学部 教授 (平成22.4)	
16	兼任	教授	イセ トンヒコ 伊勢 俊彦 <平成27年4月>		文学修士 ※		論理と思考	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 文学部 教授 (平成17.4)	
17	兼任	教授	イチカワ ノブヒロ 一川 暢宏 <平成29年4月>		博士 (薬学)		医薬品情報学	3後		2	1	立命館大学 薬学部 教授 (平成19.4)	

教 員 の 氏 名 等													
(薬学部創薬科学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
18	兼任	教授	イトウ マサヒロ 伊藤 将弘 <平成29年4月>		博士 (情報科学)		バイオインフォマティクス	3前		2	1	立命館大学 生命科学部 教授 (平成24.4)	
19	兼任	教授	イナダ ヤスヒロ 稲田 康宏 <平成28年4月>		博士 (理学)		放射化学※	2後		0.7	1	立命館大学 生命科学部 教授 (平成21.4)	
20	兼任	教授	イナヅ テツヤ 稲津 哲也 <平成27年4月>		医学博士		海外フィールドスタディ 海外フィールドスタディ 単位互換科目 単位互換科目 単位互換科目 単位互換科目 生物学 公衆衛生学※ 免疫学 病態学B 免疫医薬品学 免疫学・組織学実習 微生物学実習	1・2・3・4後 1・2・3・4後 1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4 1前 2前 2後 3前 4前 3後 3後		2 4 1 2 4 2 1.3 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成21.4)	
21	兼任	教授 (学部長)	イマムラ ノブタカ 今村 信孝 <平成28年4月>		理学博士		APU交流科目 APU交流科目 生体分子解析法 天然物化学 生薬・天然物化学実習	2・3・4 2・3・4 3前 2後 3前		2 4 2 2 2	1 1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成20.4)	
22	兼任	教授	ウエダ タカヒロ 上田 高弘 <平成27年4月>		芸術学修 士※		美と芸術の論理	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 文学部 教授 (平成18.4)	
23	兼任	教授	エンドウ ヤスコ 遠藤 保子 (マツダ ヤスコ) (松田 保子) <平成27年4月>		博士 (社会学)		スポーツの歴史と発展	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 産業社会学部 教授 (平成9.4)	
24	兼任	教授	オオノ ヌタカ 大野 裕 <平成27年4月>		文学修 士※		日本語Ⅶ(アカデミック日本語a) 日本語Ⅶ(アカデミック日本語b) 日本語Ⅷ(キャリア日本語a) 日本語Ⅷ(キャリア日本語b) 科学技術日本語Ⅰ 科学技術日本語Ⅱ	2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 1・2・3・4前 1・2・3・4後		1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	立命館大学 理工学部 教授 (平成17.4)	
25	兼任	教授	オカダ ヌタカ 岡田 豊 <平成27年4月>		工学博士		日本の自然【隔年】	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 生命科学部 教授 (平成20.4)	
26	兼任	教授	オカノ トモノブ 岡野 友信 <平成29年4月>		医学博士		臨床薬剤学A	3後		2	1	立命館大学 薬学部 教授 (平成22.4)	
27	兼任	教授	オダ マサオミ 尾田 政臣 <平成27年4月>		工学博士		心理学入門	1・2・3・4後		2	1	立命館大学 文学部 教授 (平成9.4)	
28	兼任	教授	オダウチ タカシ 小田内 隆 <平成27年4月>		文学修 士※		ヨーロッパの歴史	1・2・3・4後		2	1	立命館大学 文学部 教授 (平成9.4)	
29	兼任	教授	カクニ タカシ 加國 尚志 <平成27年4月>		博士 (文学)		哲学と人間	1・2・3・4後		2	1	立命館大学 文学部 教授 (平成20.4)	
30	兼任	教授	カツラ トシヤ 桂 敏也 <平成29年4月>		博士 (薬学)		生物薬剤学 薬物動態学 薬剤学実習	3前 3後 3後		2 2 1	1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成25.4)	
31	兼任	教授	カトウ ミノル 加藤 稔 <平成27年4月>		工学博士		物理化学A 物理化学C 物理化学実習A 物理化学実習B	1前 2前 2後 2後		2 2 1 1	1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成20.4)	
32	兼任	教授	カナヤマ ツトム 金山 勉 <平成27年4月>		Ph. D. (Ma ss Communi cation) (米国)		海外スタディ 海外スタディ	1・2・3・4後 1・2・3・4後		2 4	1 1	立命館大学 産業社会学部 教授 (平成21.4)	
33	兼任	教授	カネマル ニウイチ 金丸 裕一 <平成27年4月>		文学修 士※		戦争の歴史と現在	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 経済学部 教授 (平成17.4)	
34	兼任	教授	カワカタ ヒロノリ 川方 裕則 <平成27年4月>		博士 (理学)		宇宙科学 地球科学	1・2・3・4前 1・2・3・4後		2 2	1 1	立命館大学 理工学部 教授 (平成24.4)	
35	兼任	教授	カワネ タクローウ 河音 琢郎 <平成27年4月>		博士 (経済学)		日本事情特殊講義	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 経済学部 教授 (平成23.4)	

教 員 の 氏 名 等													
(薬学部創薬科学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
36	兼任	教授	カワハラ ノリフミ 河原 典史 <平成28年4月>		文学修士 ※		言語・文化・社会BI(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BII(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BIII(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BIV(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BVI(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BVI(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BVII(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BVIII(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BIX(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BX(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BX I(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BX II(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BX III(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BX IV(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BX V(海外留学プログラム) 言語・文化・社会BX VI(海外留学プログラム)	2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	立命館大学 文学部 教授 (平成23.4)		
37	兼任	教授	キクチ タケン 菊地 武司 <平成28年4月>		理学博士		物理化学実習B	2後		1	1	立命館大学 生命科学部 教授 (平成20.4)	
38	兼任	教授	キツ ゲンコウ 吉 元洪 (吉 沅洪) <平成29年4月>		博士 (教育心 理学)		メンタルヘルス	3・4後		2	1	立命館大学 応用人間科学研 究科 教授 (平成24.4)	
39	兼任	教授	キミジマ アキヒコ 君島 東彦 <平成27年4月>		法学修士 ※		平和学入門 国際平和交流セミナー	1・2・3・4後 1・2・3・4後集中		2 2	1 1	立命館大学 国際関係学部 教授 (平成16.4)	
40	兼任	教授	キムラ トミノリ 木村 富紀 <平成28年4月>		医学博士		微生物学 病原微生物学 免疫学・組織学実習 微生物学実習	2後 3前 3後 3後		2 2 1 1	1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成19.4)	
41	兼任	教授	グレーヴェ グドRUN GRAEWE GUDRUN <平成27年4月>		文学修士		日本の文化【隔年】	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 経済学部 教授 (平成20.4)	
42	兼任	教授	コマツ ヒロシ 小松 浩 <平成27年4月>		博士 (法学)		日本国憲法	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 法学部 教授 (平成21.4)	
43	兼任	教授	サキヤマ マサキ 崎山 政毅 <平成27年4月>		農学修士		文化人類学入門	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 文学部 教授 (平成20.4)	
44	兼任	教授	サツサ ミツアキ 佐々 充昭 <平成29年4月>		博士 (哲学)		宗教と社会	3・4後		2	1	立命館大学 文学部 教授 (平成20.4)	
45	兼任	教授	シゲモリ タミヒロ 重森 臣広 <平成27年4月>		法学修士 ※		社会思想史	1・2・3・4後		2	1	立命館大学 政策科学部 教授 (平成14.4)	
46	兼任	教授	シマダ ノブタカ 島田 伸敬 <平成28年4月>		博士 (工学)		日本の科学技術【隔年】	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 情報理工学部 教授 (平成24.4)	
47	兼任	教授	ソウ ズイリン 曹 瑞林 <平成27年4月>		博士 (経済学)		国際平和交流セミナー	1・2・3・4後集中		2	1	立命館大学 国際教育推進機 構 教授 (平成22.4)	
48	兼任	教授	タカハシ ヒロユキ 高橋 博幸 <平成27年4月>		修士 (文学)		世界の言語と文化	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 経営学部 教授 (平成20.4)	
49	兼任	教授	タキモト カズナリ 瀧本 和成 <平成27年4月>		文学修士 ※		文学と社会	1・2・3・4後		2	1	立命館大学 文学部 教授 (平成14.4)	
50	兼任	教授	タグチ コウノク 田口 耕造 <平成27年4月>		博士 (工学)		留学生物理II	1・2・3・4後		2	1	立命館大学 理工学部 教授 (平成22.4)	
51	兼任	教授	タナカ ケン 田中 謙 <平成28年4月>		博士 (薬学)		生薬学 和漢薬論 生薬・天然物化学実習	2前 3後 3前		2 2 2	1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成26.4)	
52	兼任	教授	タナカ ニウジ 田中 祐二 <平成27年4月>		博士(経 営学)		現代の世界経済	1・2・3・4後		2	1	立命館大学 経済学部 教授 (平成10.4)	
53	兼任	教授	タニウラ ヒデオ 谷浦 秀夫 <平成28年4月>		医学博士		人体の構造と機能B 病態学A 生化学・分子生物学実習	2前 2後 3前		2 2 2	1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成21.4)	
54	兼任	教授	タミアキ ヒトン 民秋 均 <平成27年4月>		理学博士		有機化学A 有機化学D 有機化学実習A 有機化学実習B	1前 2後 2前 2前		2 2 1 1	1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成20.4)	
55	兼任	教授	チョン アヨン 鄭 雅英 <平成27年4月>		博士 (経済学)		国際平和交流セミナー	1・2・3・4後集中		2	1	立命館大学 経営学部 教授 (平成23.4)	



教 員 の 氏 名 等												
(薬学部創薬科学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
72	兼任	教授	ホリ マサハル 堀 雅晴 <平成27年4月>		法学修士 ※		現代日本の政治	1・2・3・4前	2	1	立命館大学 法学部 教授 (平成13.4)	
73	兼任	教授	ホンダ ミノル 本田 稔 <平成27年4月>		博士 (法学)		現代の人権	1・2・3・4前	2	1	立命館大学 法学部 教授 (平成15.4)	
74	兼任	教授	マエダ ヒロミツ 前田 大光 <平成27年4月>		博士 (理学)		有機化学B 有機分子解析法 有機化学実習A 有機化学実習B	1後 2前 2前	2 2 1 1	1 1 1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成26.4)	
75	兼任	教授	マツノ シュウジ 松野 周治 <平成27年4月>		経済学修 士※		日本の近現代と立命館	1・2後	2	1	立命館大学 経済学部 教授 (平成5.4)	
76	兼任	教授	ミウラ マサユキ 三浦 正行 <平成27年4月>		教育学修 士		現代人とヘルスケア	1・2・3・4後	2	1	立命館大学 スポーツ健康科 学部 教授 (平成22.4)	
77	兼任	教授	ミナミノ ヤスヨシ 南野 泰義 <平成27年4月>		法学修士 ※		現代の国際関係と日本	1・2・3・4後	2	1	立命館大学 国際関係学部 教授 (平成18.4)	
78	兼任	教授	ムラカミ ヒロシ 村上 弘 <平成27年4月>		博士(法 学)		市民と政治	1・2・3・4前	2	1	立命館大学 法学部 教授 (平成7.4)	
79	兼任	教授	ムン ゴヨンス 文 京洙 <平成27年4月>		博士 (地域政 策学)		東アジアと朝鮮半島	1・2・3・4後	2	1	立命館大学 国際関係学部 教授 (平成9.4)	
80	兼任	教授	モリヤ タカシ 守屋 貴司 <平成27年4月>		博士 (社会学)		企業と社会	1・2・3・4後	2	1	立命館大学 経営学部 教授 (平成18.4)	
81	兼任	教授	ヤマグチ アナム 山口 歩 <平成27年4月>		博士 (学術)		科学・技術と社会	1・2・3・4後	2	1	立命館大学 産業社会学部 教授 (平成18.4)	
82	兼任	教授	ヤマザキ ユウコウ 山崎 有恒 <平成27年4月>		文学修士 ※		新しい日本史像	1・2・3・4前	2	1	立命館大学 文学部 教授 (平成21.4)	
83	兼任	教授	ヤマシタ シュウジ 山下 秋二 <平成27年4月>		博士 (体育科 学)		スポーツと現代社会	1・2・3・4前	2	1	立命館大学 産業社会学部 教授 (平成20.4)	
84	兼任	教授	ヤマダ ヒトシ 山田 人士 <平成27年4月>		Master of Arts in Linguist ics (米国)		日本事情入門 I 日本事情入門 II	1・2・3・4前 1・2・3・4後	2 2	1 1	立命館大学 国際関係学部 教授 (平成11.4)	
85	兼任	教授	ヨコヤマ マサトシ 横山 政敏 <平成27年4月>		経済学修 士		経済と社会	1・2・3・4前	2	1	立命館大学 経済学部 教授 (平成4.4)	
86	兼任	教授	ワダ タカヒロ 和田 隆広 <平成27年4月>		博士 (工学)		留学生数学II	1・2・3・4後	2	1	立命館大学 情報理工学部 教授 (平成24.4)	
87	兼任	准教授	アキハ タケン 秋葉 武 <平成27年4月>		修士※ (経済学)		社会と福祉	1・2・3・4後	2	1	立命館大学 産業社会学部 准教授 (平成15.4)	
88	兼任	准教授	(イシカワ リョウコ) 石川 涼子 (ノダマ リョウコ) (児玉 涼子) <平成28年4月>		博士 (政治学)		英語UBC・JP作文 カナダ研究(海外留学プログラム) 異文化間コミュニケーション(海外留学プログラム) 環太平洋研究(海外留学プログラム)	2・3・4前集中 2・3・4前 2・3・4前 2・3・4前	2 4 4 4	1 1 1 1	立命館大学 国際教育推進機 構 准教授 (平成25.4)	
89	兼任	准教授	イノウエ ミツユキ 井上 充幸 <平成27年4月>		博士 (文学)		中国の国家と社会	1・2・3・4前	2	1	立命館大学 文学部 准教授 (平成23.4)	
90	兼任	准教授	オガワ マナコ 小川 真和子 (タイラ マナコ) (平 真和子) <平成27年4月>		博士 (アメリ カ研究)		アメリカの歴史	1・2・3・4前	2	1	立命館大学 文学部 准教授 (平成24.4)	
91	兼任	准教授	オダ ミサコ 小田 美佐子 <平成27年4月>		博士 (法学)		現代社会と法	1・2・3・4後	2	1	立命館大学 法学部 准教授 (平成16.4)	
92	兼任	准教授	カクモト ミキオ 角本 幹夫 <平成30年4月>		博士 (薬学)		薬物治療学D 医療薬学	4前 4前	2 2	1 1	立命館大学 薬学部 准教授 (平成22.4)	
93	兼任	准教授	カメイ ダイスケ 亀井 大輔 <平成27年4月>		博士 (文学)		人間性と倫理	1・2・3・4前	2	1	立命館大学 文学部 准教授 (平成25.4)	
94	兼任	准教授	(クワナ メグミ) 桑名 恵 (ミヤシタ メグミ) (宮下 恵) <平成27年4月>		博士 (人間科 学)		地域参加学習入門 シチズンシップ・スタディーズ I シチズンシップ・スタディーズ II 現代社会のフィールドワーク ソーシャル・コラボレーション演習	1・2・3・4前 1・2・3・4通年 2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	立命館大学 共通教育推進機 構 准教授 (平成25.4)	

教 員 の 氏 名 等													
(薬学部創薬科学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	当 次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
95	兼任	准教授	ゴトウ カズシゲ 後藤 一成 <平成27年4月>		博士 (体育科学)		スポーツのサイエンス	1・2・3・4後		2	1	立命館大学 スポーツ健康科学部 准教授 (平成22.4)	
96	兼任	准教授	コバヤシ マミ 小林 磨美 <平成27年4月>		博士 (経済学)		日本の経営【隔年】	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 経営学部 准教授 (平成25.4)	
97	兼任	准教授	サキヤマ ハルオ 崎山 治男 <平成27年4月>		博士 (社会学)		社会学入門	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 産業社会学部 准教授 (平成17.4)	
98	兼任	准教授	スエチカ コウタ 末近 浩太 <平成27年4月>		博士 (地域研究)		イスラーム世界の多様性	1・2・3・4後		2	1	立命館大学 国際関係学部 准教授 (平成18.4)	
99	兼任	准教授	ハヤシ ヨシノリ 林 芳紀 <平成27年4月>		博士 (文学)		科学技術と倫理	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 文学部 准教授 (平成24.4)	
100	兼任	准教授	フジタ タカシ 藤田 隆司 <平成27年4月>		博士 (薬学)		人体の構造と機能A 生物統計学演習 毒性学 薬理学実習 薬剤学実習	1後 2前 3後 3前 3後		2 1 2 1 1	1 1 1 1 1	立命館大学 薬学部 准教授 (平成22.4)	
101	兼任	准教授	マルヤマ サトミ 丸山 里美 <平成27年4月>		博士 (文学)		ジェンダー論	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 産業社会学部 准教授 (平成25.4)	
102	兼任	准教授	ヤマザキ フミノリ 山崎 文徳 <平成27年4月>		博士 (商学)		科学と技術の歴史	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 経営学部 准教授 (平成24.4)	
103	兼任	准教授	ヤマナカ ツカサ 山中 司 <平成27年4月>		博士 (政策・メディア)		英語P1 英語P2 英語P3 英語P4 英語S1 英語S2 英語S3 英語S4 教養ゼミナール 英語JP1 英語JP2	1前 1後 2前 2後 1前 1後 2前 2後 1・2・3・4前 3前 3後		1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	立命館大学 生命科学部 准教授 (平成25.4)	
104	兼任	准教授	ヨシモト テツオ 善本 哲夫 <平成27年4月>		修士 (商学)		現代の経営	1・2・3・4前		2	1	立命館大学 経営学部 准教授 (平成19.4)	
105	兼任	助教	ウエシマ サトシ 上島 智 <平成29年4月>		博士 (薬学)		薬剤学実習	3後		1	1	立命館大学 薬学部 助教 (平成26.4)	
106	兼任	助教	カワサキ タカシ 川崎 崇 <平成29年4月>		博士 (工学)		生薬・天然物化学実習	3前		1	1	立命館大学 薬学部 助教 (平成24.4)	
107	兼任	助教	フジモト カズシ 藤本 和士 <平成28年4月>		博士 (工学)		生物統計学演習 物理化学実習A 物理化学実習B	2前 2後 2後		1 1 1	1 1 1	立命館大学 薬学部 助教 (平成25.4)	
108	兼任	助教	ヤマダ ヨウイチ 山田 陽一 <平成28年4月>		博士 (薬学)		生物統計学演習 微生物学実習	2前 3後		1 1	1 1	立命館大学 薬学部 助教 (平成23.4)	
109	兼任	助教	ヨシダ ノリユキ 吉田 徳之 <平成29年4月>		博士 (理学)		免疫学・組織学実習 微生物学実習	3後 3後		1 1	1 1	立命館大学 薬学部 助教 (平成26.4)	
110	兼任	助教	サイトウ リョウ 齋藤 僚 <平成27年4月>		博士 (薬科学)		分析化学実習B 薬理学実習	1後 3前		1 1	1 1	立命館大学 薬学部 助教 (平成26.4)	
111	兼任	講師	アダチ シュウジ 安達 修二 <平成30年4月>		農学博士		食品工学	4前		2	1	京都大学大学院 農学研究科 教授 (平成15.4)	
112	兼任	講師	イワサキ ヒロキ 岩崎 宏樹 <平成28年4月>		薬学博士		ケミカルバイオロジー	2前		2	1	京都薬科大学 薬学部 助教 (平成23.4)	
113	兼任	講師	カワノ タカコ 河野 貴子 <平成29年4月>		博士 (バイオサイエンス)		衛生化学実習	3後		1	1	立命館大学 薬学部 助教 (平成22.4)	
114	兼任	講師	コミナミゴロウ 小南 悟郎 <平成29年4月>		薬学博士		日本薬局方概論	3前		2	1	一般社団法人 日本内分泌学会 事務局 (平成21.2)	
115	兼任	講師	サトウ テツオ 佐藤 哲大 <平成27年4月>		博士 (工学)		情報処理演習※	1前		0.7	1	奈良先端科学技術 大学院大学 情報科学研究科 助教 (平成19.4)	

教 員 の 氏 名 等												
(薬学部創薬科学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配 年	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大学等 の職務に従事する 週当たり平均日数
116	兼任	講師	タカタ マサキ 高田 定樹 <平成30年4月>		博士 (学術)		香粧品学	4前	2	1	大阪樟蔭女子大 学芸学部 教授 (平成25.4)	
117	兼任	講師	ツチヤ トモフサ 土屋 友房 <平成29年4月>		薬学博士		免疫学・組織学実習 微生物学実習	3後 3後	1 1	1 1	立命館大学 薬学部 教授 (平成23.4)	
118	兼任	講師	ツノヤマ ヌウイチ 角山 雄一 <平成28年4月>		博士 (人間・環 境学)		放射化学※	2後	0.7	1	京都大学 環境安全保健機 構放射線同位元 素総合センター 助教 (平成23.4)	
119	兼任	講師	ヒラヤマ ヨシノブ 平山 佳伸 <平成30年4月>		薬学博士		薬事法規・薬事制度 臨床試験概論	4前 4後	2 1	1 1	立命館大学 薬学部 特別招聘教授 (平成25.4)	
120	兼任	講師	フクイ テツヤ 福井 哲也 <平成29年4月>		薬学博士		衛生化学実習	3後	1	1	立命館大学 薬学部 客員教授 (平成25.4)	
121	兼任	講師	マツシマ アキヒサ 松島 哲久 <平成30年4月>		文学修士 ※		医療倫理	4前	2	1	大阪薬科大学 薬学部 教授 (平成18.4)	
122	兼任	講師	ミタニ カズオ 三谷 和男 <平成30年4月>		医学博士		漢方医療薬学※	4前	1.1	1	三谷ファミリ ー クリニック 院長 (平成19.11)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校は、収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	4人	人	人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	2人	1人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	2人	1人	人	人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	2人	3人	5人	人	人	人	10人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。